

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書 (16)

- 畑地帯総合整備事業(担い手育成型)手久津久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

崩り遺跡 I

第2分冊 中世遺構・図版編

2018年1月

喜界町教育委員会

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書 (16)

－畑地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

崩り遺跡 I

第2分冊 中世遺構・図版編

2018年1月

喜界町教育委員会

第2分冊 目次

第2分冊

第三章 調査の方法と成果

報告書抄録…………… 221

第4節 発見された中世の遺構・遺物……………	1
(1) 掘立柱建物跡 (SB) ……………	6
(2) 土坑墓……………	36
(3) 土坑 (SK) ……………	38
(4) 焼土跡……………	42
(5) 溝状遺構 (SD) ……………	44
(6) 畝状遺構……………	45
(7) 石列……………	47
(8) 製鉄関連遺構……………	48
(9) 遺構内・包含層からの出土遺物……………	50

第四章 自然科学分析

第1節 崩り遺跡製鉄関連遺物について……………	83
第2節 崩り遺跡出土ガラス玉の調査……………	86
第3節 崩り遺跡の平成23～24年度調査で採取 された脊椎動物遺体出土の動物遺体……………	87
第4節 崩り遺跡出土の植物遺体分析……………	122
第5節 崩り遺跡出土炭化物の放射性炭素年代 測定 (AMS法) 及び樹種同定……………	133
(1) 土坑墓1号……………	133
(2) 焼土跡05号, 掘立柱建物跡6号P16 (P606) ……………	137
(3) フローレーション出土炭化物の放射性 炭素年代測定……………	141

第五章 基礎資料

ピット内出土遺物一覧……………	147
包含層出土遺物一覧……………	152
1/200 詳細遺構配置図……………	153

第六章 まとめ…………… 163 |

第1節 縄文時代の遺構・遺物……………	163
第2節 中世の遺構・遺物……………	175
第3節 総括……………	181
写真図版……………	185

第2分冊挿図目次

第148図	基本剛立略図	1	第191図	SB38実測図	32
第149図	崩り遺跡調査区略図	1	第192図	SB39実測図	33
第150図	崩り遺跡調査区全体図	2	第193図	SB40実測図	34
第151図	崩り遺跡北側詳細図	3	第194図	SB41実測図	35
第152図	崩り遺跡中央部詳細図	4	第195図	土坑墓位置図	36
第153図	崩り遺跡南側詳細図	5	第196図	土坑墓1号実測図	36
第154図	SB01実測図	6	第197図	土坑墓2号実測図	37
第155図	SB02実測図	7	第198図	SK17実測図	38
第156図	SB03実測図	8	第199図	SK18実測図	39
第157図	SB04実測図	9	第200図	SK19実測図	39
第158図	SB05実測図	10	第201図	SK20実測図	39
第159図	SB06実測図	11	第202図	SK21実測図	39
第160図	SB07実測図	12	第203図	SK22実測図	39
第161図	SB08実測図	13	第204図	SK23実測図	39
第162図	SB09実測図	13	第205図	SK24実測図	40
第163図	SB10実測図	14	第206図	SK25実測図	40
第164図	SB11実測図	15	第207図	SK26実測図	40
第165図	SB12実測図	16	第208図	SK27実測図	40
第166図	SB13実測図	16	第209図	SK28実測図	40
第167図	SB14実測図	16	第210図	SK29実測図	40
第168図	SB15実測図	16	第211図	SK30実測図	41
第169図	SB16実測図	17	第212図	SK31実測図	41
第170図	SB17実測図	17	第213図	焼土跡01号実測図	42
第171図	SB18実測図	18	第214図	焼土跡02号実測図	42
第172図	SB19実測図	19	第215図	焼土跡03号実測図	42
第173図	SB20実測図	19	第216図	焼土跡04号実測図	43
第174図	SB21実測図	20	第217図	焼土跡05号実測図	43
第175図	SB22実測図	21	第218図	焼土跡06号実測図	43
第176図	SB23実測図	22	第219図	焼土跡07号実測図	43
第177図	SB24実測図	22	第220図	焼土跡08号実測図	43
第178図	SB25実測図	23	第221図	焼土跡09号実測図	43
第179図	SB26実測図	24	第222図	SD16号実測図	44
第180図	SB27実測図	24	第223図	畝状遺構1号～17号実測図	45
第181図	SB28実測図	25	第224図	畝状遺構18号～35号実測図	46
第182図	SB29実測図	26	第225図	石列1号実測図	47
第183図	SB30実測図	26	第226図	SK32(製鉄関連遺構)実測図	48
第184図	SB31実測図	27	第227図	SD17(製鉄関連遺構)実測図	49
第185図	SB32実測図	28	第228図	SB03出土遺物	50
第186図	SB33実測図	28	第229図	SB06出土遺物	50
第187図	SB34実測図	29	第230図	SB07出土遺物	50
第188図	SB35実測図	30	第231図	SB10出土遺物	50
第189図	SB36実測図	30	第232図	SB13出土遺物	51
第190図	SB37実測図	31	第233図	SB18出土遺物	51
			第234図	SB19出土遺物	51
			第235図	SB21出土遺物	52
			第236図	SB22出土遺物	52

第237図	SB25出土遺物	53	第278図	崩り遺跡平成23～24年度調査において ピックアップによって採集された魚類遺体の組 成 (NISP比)	103
第238図	SB26出土遺物	53	第279図	崩り遺跡平成23～24年度調査において ピックアップによって採集された魚類遺体の組 成 (MNI比)	103
第239図	SB27出土遺物	53	第280図	崩り遺跡平成23～24年度調査において 水洗選別によって採集された魚類遺体の組成 (NISP比)	117
第240図	SB28出土遺物	53	第281図	崩り遺跡平成23～24年度調査において 水洗選別によって採集された魚類遺体の組成 (MNI比)	117
第241図	SB38出土遺物	53	第282図	暦年校正結果	139
第242図	SB39出土遺物	54	第283図	詳細遺構配置図全体図	153
第243図	SB40出土遺物	54	第284図	詳細遺構配置図 (1)	154
第244図	土坑墓1号出土遺物	55	第285図	詳細遺構配置図 (2)	155
第245図	土坑墓2号出土遺物	55	第286図	詳細遺構配置図 (3)	156
第246図	SK18出土遺物	56	第287図	詳細遺構配置図 (4)	157
第247図	SK20出土遺物	56	第288図	詳細遺構配置図 (5)	158
第248図	SK25出土遺物	57	第289図	詳細遺構配置図 (6)	159
第249図	石列1号出土遺物	58	第290図	詳細遺構配置図 (7)	160
第250図	埴土跡01号出土遺物	58	第291図	詳細遺構配置図 (8)	161
第251図	SD17 (製鉄関連遺構) 出土遺物 (1)	59	第292図	詳細遺構配置図 (9)	162
第252図	SD17 (製鉄関連遺構) 出土遺物 (2)	60	第293図	平面・底面形状の重複状況	172
第253図	ビット内出土遺物 (1)	61	第294図	土器の出土傾向による遺構の色分け (遺跡南側)	173
第254図	ビット内出土遺物 (2)	62	第295図	掘立柱建物跡主軸方向 (北側)	175
第255図	ビット内出土遺物 (3)	63	第296図	崩り遺跡北側遺構詳細図	175
第256図	ビット内出土遺物 (4)	64	第297図	崩り遺跡中央部遺構詳細図	176
第257図	Ⅲ層出土遺物 (1)	65	第298図	掘立柱建物跡主軸方向 (中央部)	177
第258図	Ⅲ層出土遺物 (2)	66	第299図	掘立柱建物跡主軸方向 (南側)	177
第259図	Ⅳ層出土遺物	67	第300図	SB床面積 (中央部範囲1)	177
第260図	Ⅴ層出土遺物 (1)	68	第301図	SB床面積 (中央部範囲2)	177
第261図	Ⅴ層出土遺物 (2)	69	第302図	SB床面積 (南側)	177
第262図	Ⅴ層出土遺物 (3)	70	第303図	崩り遺跡南側遺構詳細図	178
第263図	Ⅴ層出土遺物 (1)	72	第304図	中世主要遺物	180
第264図	Ⅴ層出土遺物 (2)	73	第305図	白磁地区別内訳	180
第265図	Ⅴ層出土遺物 (3)	74	第306図	青磁地区別内訳	180
第266図	Ⅴ層出土遺物 (4)	75	第307図	カムィヤキ地区別内訳	180
第267図	炉壁863	83	第308図	喜界島阿仁地区に見られる屋敷構造	181
第268図	流動滓	84			
第269図	出滓孔付近の流動滓	84			
第270図	出滓孔付近の流動滓 (断面)	84			
第271図	空洞・発泡痕跡のある流動滓	84			
第272図	中・南九州の古代・中世製鉄炉	85			
第273図	崩り遺跡製鉄炉の復元略図	85			
第274図	崩り遺跡M-3区Ⅲ-a層出土ガラス玉	86			
第275図	蛍光X線スペクトル	86			
第276図	崩り遺跡平成23～24年度調査において ピックアップによって採集された脊椎動物遺体 の組成 (NISP比)	103			
第277図	崩り遺跡平成23～24年度調査において ピックアップによって採集された脊椎動物遺体 の組成 (MNI比)	103			

表目次

第112表	SB01計測表	6	第155表	焼土跡一覧	42
第113表	SB02計測表	7	第156表	SD16観察表	44
第114表	SB03計測表	8	第157表	石列1号観察表	47
第115表	SB04計測表	9	第158表	SK32(製鉄関連遺構)一覧	48
第116表	SB05計測表	10	第159表	SD17(製鉄関連遺構)観察表	49
第117表	SB06計測表	11	第160表	崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(1)	76
第118表	SB07計測表	12	第161表	崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(2)	77
第119表	SB08計測表	13	第162表	崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(3)	78
第120表	SB09計測表	13	第163表	崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(4)	79
第121表	SB10計測表	14	第164表	崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(5)	80
第122表	SB11計測表	15	第165表	崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(6)	81
第123表	SB12計測表	16	第166表	蛍光X線分析法の測定条件	86
第124表	SB13計測表	16	第167表	蛍光X線分析結果	86
第125表	SB14計測表	16	第168表	崩り遺跡平成23～24年度調査において 採集された脊椎動物遺体の種名一覧	91
第126表	SB15計測表	17	第169表	崩り遺跡平成23～24年度調査においてビック アップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(1)	92
第127表	SB16計測表	17	第170表	崩り遺跡平成23～24年度調査においてビック アップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(2)	93
第128表	SB17計測表	17	第171表	崩り遺跡平成23～24年度調査においてビック アップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(3)	94
第129表	SB18計測表	18	第172表	崩り遺跡平成23～24年度調査においてビック アップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(4)	95
第130表	SB19計測表	19	第173表	崩り遺跡平成23～24年度調査においてビック アップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(5)	96
第131表	SB20計測表	21	第174表	崩り遺跡平成23～24年度調査においてビック アップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(6)	97
第132表	SB21計測表	21	第175表	崩り遺跡平成23～24年度調査においてビック アップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(7)	98
第133表	SB22計測表	21	第176表	崩り遺跡平成23～24年度調査においてビック アップによって採集された脊椎動物遺体の集計結果(1)	99
第134表	SB23計測表	22	第177表	崩り遺跡平成23～24年度調査においてビック アップによって採集された脊椎動物遺体の集計結果(2)	100
第135表	SB24計測表	22	第178表	崩り遺跡平成23～24年度調査においてビック アップによって採集された脊椎動物遺体の集計結果(3)	101
第136表	SB25計測表	23	第179表	崩り遺跡平成23～24年度調査においてビック アップによって採集された脊椎動物遺体の組成	102
第137表	SB26計測表	25	第180表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗 選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(1)	104
第138表	SB27計測表	25	第181表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗 選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(2)	105
第139表	SB28計測表	25	第182表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗 選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(3)	106
第140表	SB29計測表	26	第183表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗 選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(4)	107
第141表	SB30計測表	26			
第142表	SB31計測表	27			
第143表	SB32計測表	29			
第144表	SB33計測表	29			
第145表	SB34計測表	29			
第146表	SB35計測表	31			
第147表	SB36計測表	31			
第148表	SB37計測表	31			
第149表	SB38計測表	32			
第150表	SB39計測表	33			
第151表	SB40計測表	34			
第152表	SB41計測表	35			
第153表	土坑竈出土遺物一覧	37			
第154表	SK中世一覧	38			

第184表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(5)……	108	第221表	中世(11C～12C)?ピット・包含層分析結果……	128
第185表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(6)……	109	第222表	ピット(13～15C?)出土の植物遺体……	129
第186表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(7)……	110	第223表	土坑出土の植物遺体……	129
第187表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(8)……	111	第224表	焼土(15C末～17C初)分析結果……	129
第188表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の集計結果(1)……	112	第225表	畝・溝出土の植物遺体……	129
第189表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の集計結果(2)……	113	第226表	中世などその他のサンプルのまとめ……	130
第190表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の集計結果(3)……	114	第227表	オオムギのサイズ……	130
第191表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の集計結果(4)……	115	第228表	コムギのサイズ……	130
第192表	崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の組成……	116	第229表	放射性炭素年代測定結果(土坑墓1号)……	134
第193表	SH04出土の植物遺体……	124	第230表	暦年較正結果(土坑墓1号)……	134
第194表	SH05出土の植物遺体……	124	第231表	放射性炭素年代測定および樹種同定結果(焼土跡05号・P0606)……	138
第195表	SH09出土の植物遺体……	124	第232表	暦年較正結果(焼土跡05号・P0606)……	138
第196表	SH10出土の植物遺体……	124	第233表	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)(フローテーション)……	142
第197表	SH11出土の植物遺体……	125	第234表	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代cal BP)(フローテーション)……	143
第198表	SH12出土の植物遺体……	125	第235表	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代cal BC/AD)(フローテーション)……	143
第199表	SH13出土の植物遺体……	125	第236表	ピット内出土遺物(1)……	147
第200表	SH14出土の植物遺体……	125	第237表	ピット内出土遺物(2)……	147
第201表	SH15出土の植物遺体……	125	第238表	ピット内出土遺物(3)……	148
第202表	SH17出土の植物遺体……	125	第239表	ピット内出土遺物(4)……	148
第203表	SH18出土の植物遺体……	125	第240表	ピット内出土遺物(5)……	149
第204表	SH21出土の植物遺体……	126	第241表	ピット内出土遺物(6)……	149
第205表	SH22出土の植物遺体……	126	第242表	ピット内出土遺物(7)……	150
第206表	SH24出土の植物遺体……	126	第243表	ピット内出土遺物(8)……	150
第207表	SH27出土の植物遺体……	126	第244表	ピット内出土遺物(9)……	151
第208表	SK01出土の植物遺体……	126	第245表	包含層(III層～V層)出土遺物(1)……	152
第209表	SK03出土の植物遺体……	126	第246表	包含層(III層～V層)出土遺物(2)……	152
第210表	SK04出土の植物遺体……	126	第247表	包含層(VI層・VII層)出土遺物(1)……	152
第211表	SK06出土の植物遺体……	126	第248表	包含層(VI層・VII層)出土遺物(2)……	152
第212表	SK09出土の植物遺体……	127	第249表	遺構内出土土器の共存状況一覧(遺構内層別)……	164
第213表	その他包含層出土の植物遺体……	127	第250表	遺構内共存土器から見る土器出土傾向型……	165
第214表	植物遺体の検出されなかったサンプル……	127	第251表	石器類の利用石材一覧……	168
第215表	縄文後期(まとめ)……	127	第252表	土器出土傾向別に見た整穴状遺構出土土器の構成比率……	170
第216表	ピット出土の植物遺体……	128			
第217表	土坑墓1号出土の植物遺体……	128			
第218表	土坑墓2号出土の植物遺体……	128			
第219表	土坑出土の植物遺体……	128			
第220表	焼土など(11～12C)分析結果……	128			

図版目次

図版1	185	図版7	191
崩り遺跡空中写真 (遠景)		土坑墓1号 (手前)・2号 (奥)	
図版2	186	土坑墓2号副葬品出土状況	
崩り遺跡空中写真 (南側)		土坑墓1号副葬品出土状況	
土層断面 (中央部A-A')		竹中正巳氏指導風景	
土層断面 (中央部B-B')		SD17 (製鉄関連遺構) 鉄滓出土状況	
土層断面 (北側E-E')		SD17 (製鉄関連遺構) 盛土保存前状況	
土層断面清掃作業風景		図版8	192
図版3	187	製鉄関連遺構空中写真 (SD17・SK32)	
崩り遺跡南側竪穴状遺構集中箇所空中写真		SK32 (製鉄関連遺構) 鉄滓出土状況	
SH01石器出土状況		製鉄関連遺構調査風景	
SH01ベルト残完掘状況		村上恭通氏・大澤正己氏による製鉄関連遺構実見風景	
SH04・SH27検出状況		平成23年度発掘調査作業員	
SH04 (左)・SH27 (右) 完掘状況		図版9	193
図版4	188	SH01出土遺物	
SH05焼土断面確認状況		SH02出土遺物	
SH05完掘状況		SH03出土遺物 (1)	
SH08 (右)・SH09 (左) ベルト残完掘状況		図版10	194
SH10完掘状況		SH03出土遺物 (2)	
SH11・SH12調査風景		SH04出土遺物 (1)	
SH11土器出土状況		図版11	195
SH11 (手前) SH12 (奥) 完掘状況		SH04出土遺物 (2)	
図版5	189	SH05出土遺物 (1)	
SH13検出状況		図版12	196
SH13遺物残完掘状況		SH05出土遺物 (2)	
SH16~SH21完掘状況		図版13	197
SH24 (右)・SH25 (左) 焼土面確認状況		SH05出土遺物 (3)	
竪穴状遺構調査風景		SH06出土遺物	
竪穴状遺構集中箇所遠景		SH07出土遺物	
SK10 焼土面確認状況		SH06・07出土遺物	
SK14断面確認状況		図版14	198
図版6	190	SH08出土遺物	
崩り遺跡空中写真 (中央部)		SH08・09出土遺物	
SB31完掘状況		SH10出土遺物	
畝状遺構遠景		SH11出土遺物	
焼土跡01半裁断面確認状況		図版15	199
焼土跡04半裁断面確認状況		SH12出土遺物	

図版16	200	SK06出土遺物	
SH13出土石器			
SH13出土遺物			
図版17	201	図版27	211
SH14出土遺物		SK07出土遺物	
SH15出土遺物		SK07出土石器	
図版18	202	SK12出土遺物	
SH16出土遺物		SK14出土遺物	
SH17出土遺物		SK16出土遺物	
図版19	203	SD06出土遺物	
SH18出土遺物		SD01出土遺物	
図版20	204	図版28	212
SH18出土石器		SB出土遺物	
SH19出土石器		図版29	213
図版21	205	土坑墓1号・2号出土遺物	
SH19出土遺物		土坑墓2号出土遺物	
図版22	206	SK18出土遺物	
SH21出土遺物		SK20出土遺物	
SH16～21出土遺物		図版30	214
図版23	207	製鉄関連遺構 (SD17) 出土がら	
SH22出土遺物		製鉄関連遺構 (SD17) 出土遺物 (1)	
SH23出土遺物		図版31	215
図版24	208	製鉄関連遺構 (SD17) 出土鉄滓	
SH24出土遺物		製鉄関連遺構 (SD17) 出土遺物 (2)	
SH25出土遺物		ビット出土遺物 (1)	
SH25出土石器		図版32	216
SH26出土遺物		ビット出土遺物 (2)	
SH一括出土遺物		図版33	217
SK01出土遺物		Ⅲ層出土遺物	
図版25	209	図版34	218
SK02出土遺物		Ⅳ層出土遺物	
SK03出土遺物		Ⅵ層出土遺物 (1)	
SK03出土石器		図版35	219
図版26	210	Ⅶ層出土遺物 (2)	
SK04出土遺物		Ⅶ層出土遺物 (1)	
SK05出土遺物		図版36	220
		Ⅶ層出土遺物 (2)	
		Ⅶ層出土石器	

第三章 調査の方法と成果

第4節 発見された中世の遺構・遺物

確認された中世と考えられる遺構は、掘立柱建物跡 41 基、土坑墓 2 基、土坑 15 基、溝状遺構 1 基、竪状遺構 35 条、焼土跡 9 基、石列 1 基、製鉄関連遺構（土坑 1 基、溝状遺構 1 基）である。遺構は、おおおよそ調査区全体で検出した。

調査区の範囲内の堆積状況には差が見られるが、中世の遺物が出土するのはⅢ層とⅣ層であった。Ⅳ層については、凹地に堆積しており、また、堅くしまっておりこの層は整地された可能性がある。遺構の検出は、遺跡北側（第 151 図）では、ほとんどの遺構がⅢ層を掘り下げた後のⅤ層直上であった。遺跡中央部（第 152 図）については、表土（Ⅰ層）除去後のⅣ層やⅤ層上面での検出であった。遺跡南側（第 153 図）については、表土（Ⅰ層）除去後の地山面（Ⅷ層）での検出であった。

これらの遺構からは、白磁 17 点や青磁 10 点、滑石混入土器が 88 点、滑石製石鉢が 40 点（2,173g）、滑石二次加工品が 16 点（602g）、輪の羽口 16 点、銅製品 1 点（6g）鉄製品 16 点（59g）、鉄滓 200 点（3,048g）、貝製品 1 点などが出土した。

掘立柱建物跡や土坑墓、土坑、溝状遺構、竪状遺構、ピットから採取した土壌サンプルをフローテーションによって処理を行った結果、オオムギやコムギ、イネ、アワなどの炭化種子が検出された（第Ⅳ章第 4 節参照）。また、これらの炭化種子のうち、調査区中央部に位置する土坑墓 1 号と土坑墓 2 号（O-15 区）、遺跡北側に位置する P0980（V-28 区）、P1074（U-27 区）、P1201（V-28 区）から検出したものを用いて年

代測定を行った。土坑墓 1 号の測定値は、¹⁴C 年代（yrBP）830±20 で、土坑墓 2 号は 2 点行い 820±20 と 850±20 であった。また、P0980 は 600±20 で、P1074 は 560±20、P1201 は 610±20 の値を得た（第Ⅳ章第 5 節（3）参照）。

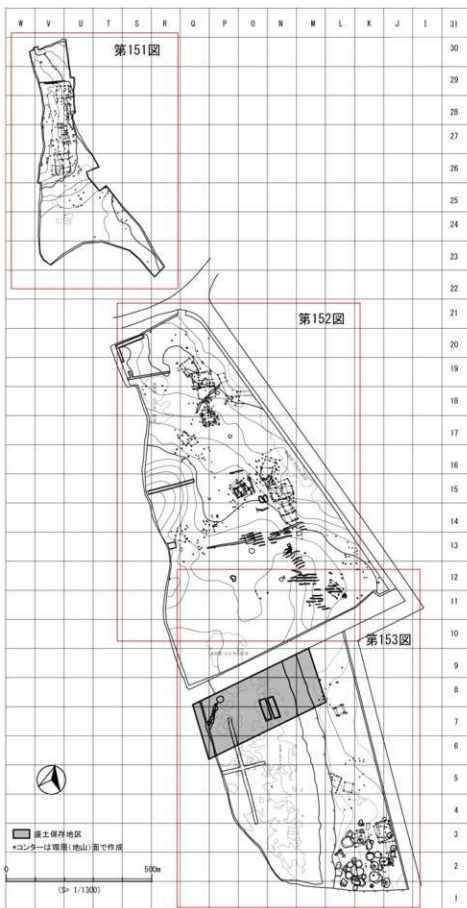
このほか、土坑墓 1 号（O-15 区）の 4 号人骨、焼土跡 05 号（V-31 区）、掘立柱建物跡 6 号 P16（P0606）（Q-19 区）より採取した炭化物を用い、放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。土坑墓 1 号の 4 号人骨は、放射性年代が ¹⁴C 年代（yrBP）910±20 の値と樹種はスイカズラ属と同定された。焼土跡 05 号は 340±20 の値と樹種は広葉樹、掘立柱建物跡 06 号 P16（P0606）は 990±20 の値と樹種はマツ属複雑管束亜属と同定された（第Ⅳ章第 5 節（1）（2）参照）。

Ⅰ層	表土
Ⅱ層	近世
Ⅲ層	中世（14～15C）
Ⅳ層	中世（11～12C）
Ⅴ層	Ⅳ～Ⅵ層の漸移層
Ⅵ層	縄文（後～晩期）
Ⅶ層	縄文（後～晩期）
Ⅷ層	マージン（地山）
Ⅸ層	基盤岩

第 148 図 基本層位略図



第 149 図 崩り遺跡調査区略図



第150図 崩り遺跡調査区全体図



第 151 図 崩り遺跡北側詳細図



第 152 図 崩り遺跡中央部詳細図



第 153 図 崩り遺跡南側詳細図

(1) 掘立柱建物跡 (SB)

中世と考えられる掘立柱建物跡 (以下「SB」) は、遺跡北側で4棟 (SB01～SB04)、中央部～南側で37棟 (SB05～SB41) 検出された。北側に位置するSB01～SB04は、柱穴内からは時代を特定できる遺物は出土していないが、検出面が同じピットから草花文を施した外反する龍泉窯系青磁等が出土することや周囲のピットの年代測定結果などから、14世紀後半～15世紀前半の遺構と想定される。検出面は、III層直下に堆積する層 (SB01・SB03・SB04がV層の上面、SB02は地山面) での検出であった。

中央部から南側に広がる37棟 (SB05～SB41) は、掘立柱建物内の柱穴や周りのピットから白磁玉縁椀や滑石製石鍋、カミヤヤキA群などが主に出土することから11世紀後半～12世紀の遺構と想定される。検出面は、SB31がV層を掘り下げた後のV層上面での検出であったが、その他のSBはすべてI層 (表土) 直下の層 (SB5はV層上面、SB06・07・13がVI層上面、SB08～11がVII層上面、SB12・14～17・30・

32～40がVIII山面、SB18～29・41がIV層上面) であった。

なお、実測図のピット番号は、SBごとにP1からふついでいる。その番号の下にあるカッコ付き番号は、調査前に付けた遺跡全体での通しピット番号である。

以下、SBの詳細を述べることとする。

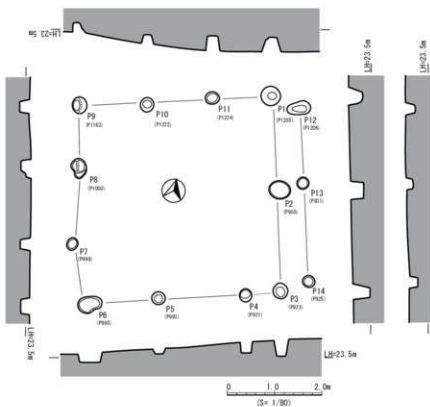
掘立柱建物跡1号 (SB01) (第154図・第112表)

検出状況: U・V-29・30区で検出した、3×3間の建物跡である。東側に柱穴が並んでおり、底になる可能性が高い。他のSBや遺構との重複は見られず、単独で検出された。柱穴の大きさの平均は、直径約0.35mで深さは約0.25mである。

出土遺物: P5から石器1点。ウシの骨1点が出土した。

掘立柱建物跡2号 (SB02) (第155図・第113表)

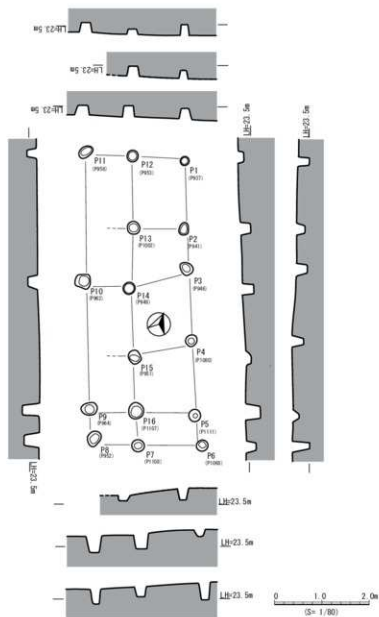
検出状況: U・V-28区で検出した、5×2間の建物跡である。他のSBや遺構との重複は見られず、単独で検出された。柱穴の大きさの平均は、直径約0.25mで深さは約0.25mである。



第154図 SB01実測図

第112表 SB01計測表

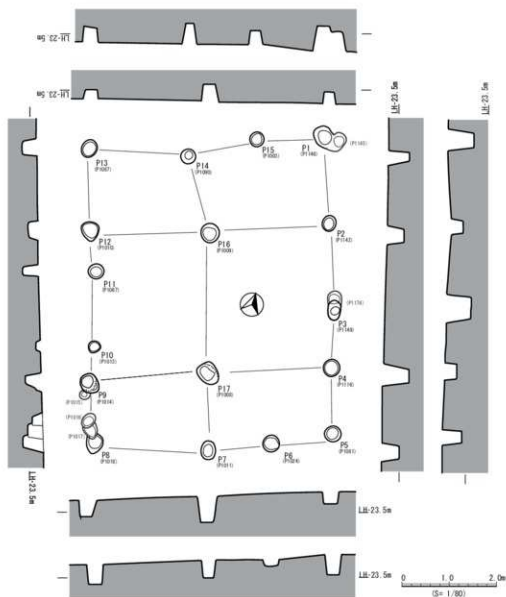
並行1	寸法	並行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考 方角: N 17° W 面積: 17.6㎡	遺物 P5: 石器(1) P8: ウシ(1)
P1-P9	418	平均	139.3	P1-P3	418	平均	209		
P3-P6	414	平均	138	P6-P9	426	平均	142		
				P12-P14	366	平均	183		
P1-P11	128	P3-P4	76	P1-P2	200	P6-P7	130		
P11-P10	140	P4-P5	186	P2-P3	218	P7-P8	166		
P10-P9	150	P5-P6	152	P12-P13	158	P8-P9	130		
				P13-P14	208				



第 155 図 SB02 実測図

第113表 SB02計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物	
P1-P11	212	平均	106	P1-P6	602	平均	120.4	方角: N 24° W 面積: 13.2m ²	P7: ベラ科(1)	
P6-P8	232	平均	116	P8-P11	608	平均	202.6		P10: オオムギ(1), ブダイ科(2), ニゼダイ科(1)	
P2-P13	108	平均	108	P12-P7	614	平均	122.8		P13: チョウセンサザエ(1), ヤコウガイ(2)	
P3-P10	224	平均	112						P14: マガキガイ(1)	
P4-P15	126	平均	126							
P5-P9	224	平均	112							
P1-P12	112	P6-P7	136	P1-P2	146	P8-P9	62			
P12-P11	100	P7-P8	96	P2-P3	82	P9-P10	272			
				P3-P4	154	P10-P11	274			
				P4-P5	158					
				P5-P6	62					
P2-P13	108	P4-P15	126	P12-P13	152					
P3-P14	128	P5-P16	126	P13-P14	128					
P14-P10	96	P16-P9	98	P14-P15	148					
				P15-P16	114					
				P16-P7	72					



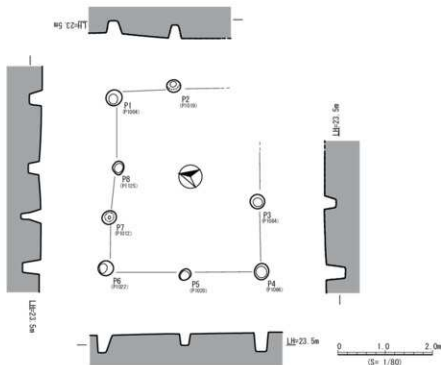
第 156 図 SB03 実測図

第 114 表 SB03 計測表

変行 1	寸法	変行 2	寸法	桁行 1	寸法	桁行 2	寸法	備考	遺物
P1-P13	504	平均	168	P1-P5	626	平均	156.5	方角: N 21° W 面積: 32m ²	P1: 巻貝(1), マハタ型(1), ハタ科(1)
P5-P8	508	平均	169.3	P8-P13	620	平均	124		P3: 滑石混入土器(1), タカラガイ(1), ソデボラ科(1), 二枚貝(2)
P2-P16	254	平均	168.7	P14-P7	628	平均	209.3		P4: ヤコウガイ(2)
P4-P9	516	平均	172						P7: タイ型(1)
P1-P15	142	P5-P6	132	P1-P2	184	P8-P9	128		P11: 石器(1), タカラガイ(2), ホソスジナミガイ(1)
P15-P14	148	P6-P7	134	P2-P3	186	P9-P10	76		P12: 石器(1)
P14-P13	214	P7-P8	242	P3-P4	122	P10-P11	158		P13: タカラガイ(1), 巻貝(1), 二枚貝(4)
				P4-P5	138	P11-P12	90		P14: 巻貝(3), 二枚貝(2), ウシ/ウマ(1)
						P12-P13	174		P15: フエフキダイ科(1)
P2-P16	252	P4-P17	284	P14-P16	172				P17: ヤコウガイ(1), マガキガイ(1), 二枚貝(1)
P16-P12	254	P17-P9	254	P16-P17	296				
				P17-P7	164				

出土遺物: チョウセンサザエヤコウガイ, マガキガイなどの貝類 4 点, ベラ科やブダイ科などの魚骨 4 点が出土した。また, P10 から採取した土壌サンプルをフローテーションによって処理を行った結果, オオムギの炭化種子 1 点が検出さ

れた。



第157図 SB04実測図

第115表 SB04計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P2	132	平均	132	P1-P6	362	平均	120.6	方角: N 79° E 面積: 12.3mf	P3: ウシ(1)
P4-P6	338	平均	169	P3-P4	148	平均	148		P4: ヤコウガイ(1)
P1-P2	132	P4-P5	164	P1-P8	146	P3-P4	148		P6: ヤコウガイ(1)
		P5-P6	174	P8-P7	106				
				P7-P6	110				

掘立柱建物跡3号 (SB03) (第156図・第114表)

検出状況: U・V-27区で検出した、5×3間の建物跡である。SB04と重複している。柱穴は、最大のもので直径約0.5m、深さ約0.55mあるが、平均では直径約0.25mで深さは約0.30mである。

出土遺物: タカラガイやヤコウガイなどの貝類が24点、ウシ/ウマの獣骨1点、ハタ科など魚骨が3点出土している。また、滑石混入土器1点と石器2点が出土し、そのうち石器1点を実測した。

掘立柱建物跡4号 (SB04) (第157図・第115表)

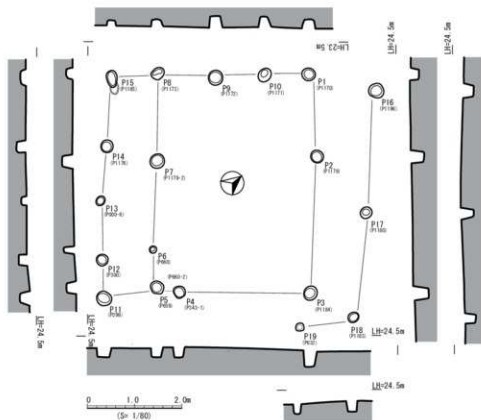
検出状況: V-27区で検出した、3×2間の建物跡である。SB03と重複している。柱穴の大きさの平均値は、直径約0.3mで深さは約0.3mである。なお、南東の角の柱穴は検出できなかった。

出土遺物: ヤコウガイが2点とウシの骨1点が出土した。

掘立柱建物跡5号 (SB05) (第158図・第116表)

検出状況: Q-19区で検出した、4×4間の建物跡である。東側に柱穴が並んでおり、底になる可能性が高い。他のSBや遺構との重複は見られず、単独で検出された。柱穴の大きさの平均値は、直径約0.3mで深さは約0.25mである。

出土遺物: 白磁1点や土器6点、ヤコウガイ1点などが出土した。



第158図 SB05実測図

第116表 SB05計測表

奥行1	寸法	奥行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P15	420	平均	105	P1-P3	464	平均	232	方角: N 53° W 面積: 20.3㎡	P3: ヤコウガイ(1) P5: 土器(3), 粘土塊(1) P16: 白磁(1), 土器(3), 粘土塊(1)
P3-P11	440	平均	146.6	P5-P8	457	平均	152.3		
P18-P19	114	平均	114	P11-P15	465	平均	116.2		
				P16-P18	482	平均	241.5		
P1-P10	94	P3-P4	278	P1-P2	174	P5-P6	81		
P10-P9	104	P4-P5	48	P2-P3	290	P6-P7	188		
P9-P8	124	P5-P11	114			P7-P8	188		
P8-P15	98								
		P18-P19	114	P11-P12	82	P16-P17	258		
				P12-P13	124	P17-P18	225		
				P13-P14	114				
				P14-P15	145				

掘立柱建物跡6号 (SB06) (第159図・第117表)

検出状況: Q-19 区で検出した, 8×6 間の建物跡であるが, 東西で柱数が異なる。SB07 と重複しており, P2 (P381-2) と P4 (P293) は, それぞれ SB07 の P15 (P381-1) と P14 (P346) に切られていることから, SB06 は SB07 よりも古い (古 SB06 < SB07 筋)。

柱穴の大きさや深さは様々であり, 大きいものは直径約 0.5m で深いものは 0.6m を測る。平均では直径約 0.35m で深さは約 0.3m である。

出土遺物: 白磁焼V類 1 点のほか, 滑石製石鍋 4 点, 土器 6 点, 土師器 1 点, 鈿澤 1 点, ヤコウガイなどの貝類が 9 点出土した。そのうち白磁焼V類 1 点と滑石製石鍋を 1 点実測した。

P16 (P606) から採取した炭化物を用い放射性年代測定及

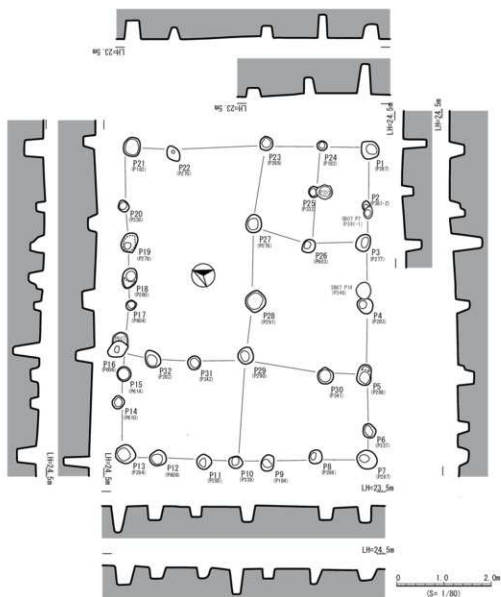
び断層同定を行った。放射性炭素年代が¹⁴C年代 (±BP) 990±30 の値と樹種はマツ属複雑管東亜属に同定された (第IV章 5 節 (2) 参照)。

掘立柱建物跡7号 (SB07) (第160図・第118表)

検出状況: Q-18 区で検出した, 4×4 間の建物跡である。SB06 と重複しており, SB06 で記述したとおり柱穴の切り合い関係から SB07 は SB06 より新しい (古 SB06 < SB07 筋)。

柱穴の大きさや深さはそれぞれであるが, 平均すると直径約 0.25m で深さは約 0.3m である。西側のビットは他の区に比べ浅い。

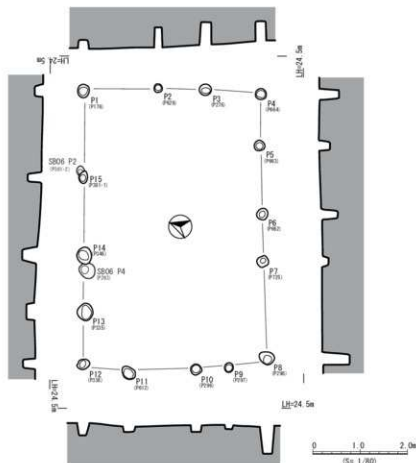
出土遺物: 兼久式土器 1 点や滑石製二次加工品 1 点, イモガイなどの貝類が 2 点出土し, そのうち兼久式土器 1 点を実測した。



第 159 図 SB06 実測図

第117表 SB06計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物	
P1-P21	515	平均	128.8	P1-P7	657	平均	109.5	方角: N 86° E 面積: 33.7㎡	P3: 白磁椀Ⅳ類(1), 鉄滓(1)	
P7-P13	515	平均	85.8	P13-P21	661	平均	82.6		P6: 滑石製石鍋(1)	
P3-P27	250	平均	125	P24-P26	210	平均	105		P7: 土器(1)	
P5-P16	533	平均	106.6	P23-P10	685	平均	171.2		P12: 巻貝(1)	
P1-P24	110	P7-P8	110	P1-P2	120	P13-P14	112		P13: 滑石製石鍋(1), 粘土塊(1), シャコガイ(1)	
P24-P23	115	P8-P9	100	P2-P3	80	P14-P15	63		P14: 石器(1), ヤコウガイ(1)	
P23-P22	200	P9-P10	65	P3-P4	132	P15-P16	53		P15: 滑石製石鍋(1), ヤコウガイ(3)	
P22-P21	90	P10-P11	70	P4-P5	155	P16-P17	98		P17: 滑石製石鍋(1)	
		P11-P12	100	P5-P6	110	P17-P18	61		P18: ヤコウガイ(1), チョウセンサザエ(1)	
		P12-P13	70	P6-P7	60	P18-P19	64		P19-P20	86
						P20-P21	124		P21: 土器(2)	
P3-P26	125	P5-P30	85	P24-P25	100	P10-P29	225		P25: シャコガイ(1)	
P26-P27	125	P30-P29	175	P25-P26	110	P29-P28	120	P26: 土器(1), 土師器(1)		
		P29-P31	105			P28-P27	165	P28: 土器(2)		
		P31-P32	90			P27-P23	175			
		P32-P16	78							



第160図 SB07実測図

第118表 SB07計測表

変行1	寸法	変行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P4	376	平均	125.3	P1-P12	580	平均	145	方角:N 70° E 面積:22.3㎡	P4:兼久式土器(1), 巻貝(1) P6:イモガイ(1) P14:カムイヤキ(1), 滑石二次加工品(1)
P8-P12	395	平均	98.7	P4-P8	562	平均	140.5		
P1-P2	158	P8-P9	84	P1-P15	184	P4-P5	110		
P2-P3	102	P9-P10	70	P15-P14	165	P5-P6	144		
P3-P4	116	P10-P11	143	P14-P13	121	P6-P7	98		
		P11-P12	98	P13-P12	110	P7-P8	210		

掘立柱建物跡8号 (SB08) (第161図・第119表)

検出状況:P-Q-17-18区で検出した, 3×2間の建物跡である。SB09・SB10・SB11と重複しており, P4 (P57) はSB11のP9 (P58) を切っていることから, SB08はSB11よりも新しい(古SB11<SB08新)。

また, P5 (P91) 及びP6 (P633) は, それぞれSB10のP3 (P72) とP4 (P106) を切っていることから, SB08はSB10よりも新しい。(古SB10<SB08新)。

柱穴は, 一番大きいもので直径約0.45m, 一番深いもので約0.7mを測るが, 平均すると直径約0.3m, 深さ約0.35mである。北側の柱穴は比較的浅い。

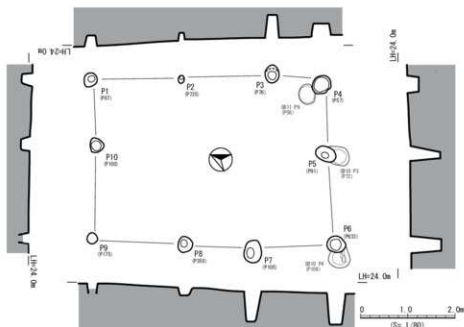
出土遺物: 土器4点や鉄釘1点, イモガイなどの貝類が4点出土した。

掘立柱建物跡9号 (SB09) (第162図・第120表)

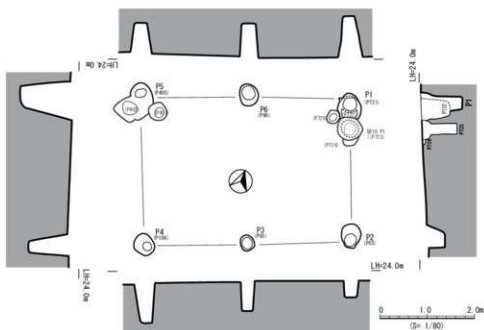
検出状況:P-Q-17-18区で検出した, 2×1間の建物跡である。SB08・SB10・SB11と重複しており, P1 (P721) は, SB10のP1 (P723) に切られていることから, SB09はSB10よりも古い(古SB09<SB10新)。

柱穴の大きさの平均は, 直径約0.45mで深さは約0.8mである。

出土遺物: カムイヤキ1点のほか, 土器が5点, チョウセンサザエヤコヨガイなどの貝類10点出土した。



第161図 SB08実測図



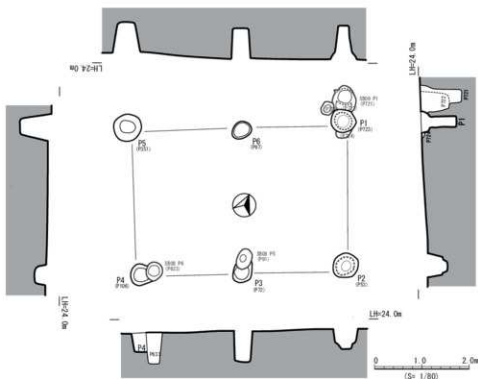
第162図 SB09実測図

第119表 SB08計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P9	340	平均	170	P1-P4	487	平均	182.3	方角: N 24° W 面積: 17.5m ²	P7: 土器(1), 鉄滓(1), イモガイ(1), タカラガイ(2), マルスダレガイ(1) P9: 土器(3)
P4-P6	340	平均	170	P6-P9	517	平均	172.3		
P1-P10	142	P4-P5	150	P1-P2	190	P6-P7	193		
P10-P9	198	P5-P6	190	P2-P3	192	P7-P8	142		
				P3-P4	105	P8-P9	182		

第120表 SB09計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P2	288	平均	288	P1-P5	447	平均	223.5	方角: N 65° E 面積: 13.4m ²	P1: チョウセンサザエ(2), 巻貝(1) P3: カムイヤキ(1), 粘土塊(1), チョウセンサザエ(1), シラクモガイ(1), ウミナナ(1) P4: 土器(2), タカラガイ(1), チョウセンサザエ(1), ヤコウガイ(1) P5: 土器(3)
P4-P5	325	平均	325	P2-P4	430	平均	215		
P1-P2	288	P4-P5	325	P1-P6	218	P2-P3	218		
				P6-P5	229	P3-P4	212		



第 163 図 SB10 実測図

第 121 表 SB10 計測表

歩行1	寸法	歩行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P2	305	平均	305	P1-P5	456	平均	228	方角:N 62° E 面積:13.5㎡	P1:土器(3) P2:土器(1) P4:滑石二次加工品(1)
P4-P5	315	平均	315	P2-P4	435	平均	217.5		
P1-P2	305	P4-P5	315	P1-P6	215	P2-P3	222		
				P6-P5	241	P3-P4	213		

掘立柱建物跡 10号 (SB10) (第163図・第121表)

検出状況: P-Q-17・18区で検出した、2×1間の建物跡である。SB08・SB09・SB11と重複しており、SB08とSB09で記述したとおり、柱穴の切り合い関係からSB10はSB08より古く、SB9より新しい(古SB09<SB10<SB08新)。

柱穴の大きさの平均は、直径約0.5mで深さは約0.7mである。

出土遺物: 土器4点と滑石二次加工品1点が出土した。このうち滑石二次加工品を実測した。

掘立柱建物跡 11号 (SB11) (第164図・第122表)

検出状況: P-Q-17・18区で検出した、2×2間の建物跡である。SB08・SB09・SB10と重複しており、SB08で記述したとおり、柱穴の切り合い関係からSB11はSB08より古い。(古SB11<SB10新)。

柱穴の大きさの平均は、直径約0.4mで深さは約0.5mである。

出土遺物: 土器21点とヤコウガイやタカラガイなどの貝類が9点、ブダイ科の魚骨が1点出土した。

掘立柱建物跡 12号 (SB12) (第165図・第123表)

検出状況: P-19区で検出した、2×1間の建物跡である。他のSBや遺構との重複は見られず、単独で検出された。柱穴の大きさの平均は、直径約0.2mで深さは約0.25mである。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

掘立柱建物跡 13号 (SB13) (第166図・第124表)

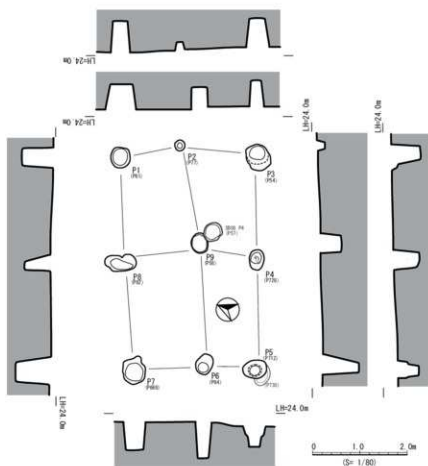
検出状況: P-18区で検出した、1×1間の4本柱建物跡である。SK23と重複している。柱穴の大きさの平均は、直径約0.3mで深さは約0.3mである。南西の角にあたる柱穴は検出できなかった。

出土遺物: 土器1点と石器1点、貝類1点が出土し、このうち石器1点を実測した。

掘立柱建物跡 14号 (SB14) (第167図・第125表)

検出状況: O-P-18区で検出した、1×1間の4本柱建物跡である。他のSBや遺構との重複は見られず、単独で検出された。柱穴の大きさの平均は、直径約0.3mで深さは約0.25mである。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。



第164図 SB11実測図

第122表 SB11計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P3	294	平均	147	P1-P7	457	平均	228.5	方角:N 67° E 面積:13.1㎡	P1:土器(1)
P5-P7	257	平均	128.5	P3-P5	460	平均	230		P2:土器(1), プダイ科(1)
P8-P4	300	平均	150	P2-P6	475	平均	237.5		P4:土器(1)
P1-P2	129	P5-P6	110	P1-P8	229	P3-P4	223		P5:ヤコウガイ(1), 二枚貝(1)
P2-P3	165	P6-P7	147	P8-P7	228	P4-P5	237		P6:土器(12), 黏土塊(2), タカラガイ(2)
P8-P9	176			P2-P9	212				マルスダレガイ(1), 巻貝(2),
P9-P4	124			P9-P6	263				二枚貝(2)
									P7:土器(5)
									P9:土器(1)

掘立柱建物跡15号 (SB15) (第168図・第126表)

検出状況: O・P-18区で検出した。1×1間の4本柱建物跡である。他のSBや遺構との重複は見られず、単独で検出された。柱穴の大きさの平均は、直径約0.3mで深さは約0.15mである。柱穴はいずれも浅く、耕作などによって削平された可能性がある。南東の角にあたる柱穴は検出できなかった。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

出土遺物: 土器2点の劫、ヤコウガイなどの貝類が4点出土した。

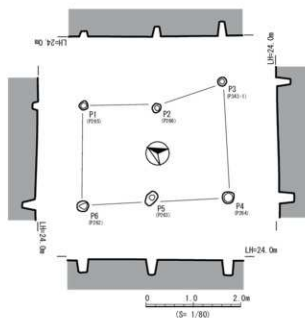
掘立柱建物跡17号 (SB17) (第170図・第128表)

検出状況: Q-17区で検出した。1×1間の4本柱建物跡である。SB16と重複している。柱穴の大きさの平均は、直径約0.35mで深さは約0.3mである。

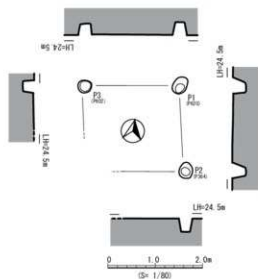
出土遺物: 遺物は出土しなかった。

掘立柱建物跡16号 (SB16) (第169図・第127表)

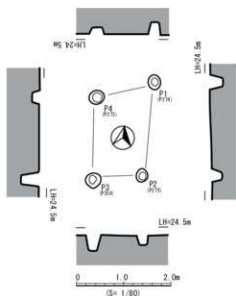
検出状況: Q-17区で検出した。2×1間の建物跡である。SB17と重複している。柱穴の大きさの平均は、直径約0.4mで深さは約0.4mである。



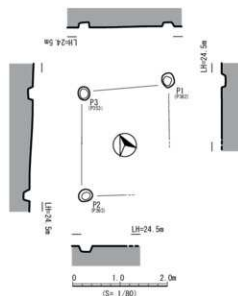
第165図 SB12実測図



第166図 SB13実測図



第167図 SB14実測図



第168図 SB15実測図

第123表 SB12計測表

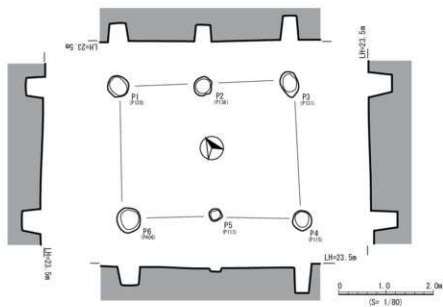
変行1	寸法	変行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P6	214	平均	214	P1-P3	304	平均	152	方角:N 35° W 面積:6.2㎡	-
P3-P4	246	平均	246	P4-P6	308	平均	154		
P1-P6	214	P3-P4	246	P1-P2	156	P4-P5	162		
				P2-P3	148	P5-P6	146		

第124表 SB13計測表

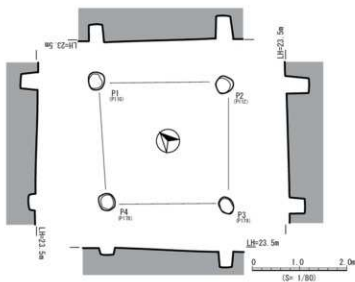
変行1	寸法	変行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P3	200	平均	200	P1-P2	176			方角:N 80° E 面積:3.6㎡	P1:石器(1) P3:土器(1)、イガレイシ(1)
P1-P3	200			P1-P2	176				

第125表 SB14計測表

変行1	寸法	変行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P4	128	平均	128	P1-P2	200	平均	200	方角:N 6° W 面積:2.1㎡	-
P2-P3	106	平均	106	P3-P4	176	平均	176		
P1-P4	128	P2-P3	106	P1-P2	200	P3-P4	176		



第169図 SB16実測図



第170図 SB17実測図

第126表 SB15計測表

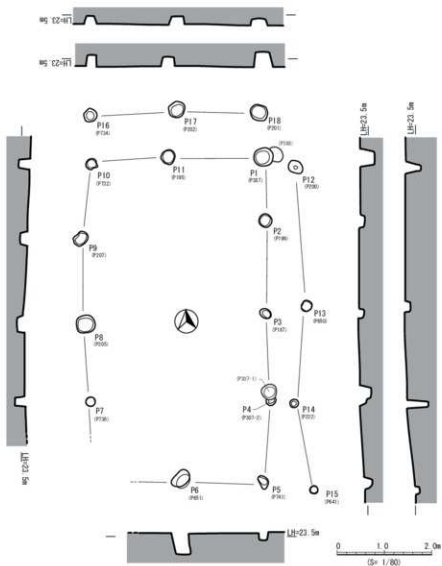
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P3	178	平均	178	P2-P3	217	平均	217	方角:N 21° E 面積:4.1㎡	-
P1-P3	178			P2-P3	217				

第127表 SB16計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P6	287	平均	287	P1-P3	363	平均	181.5	方角:N 61° W 面積:10.2㎡	P3:土器(2) P6:サヤガタイモ(1), マダライモ(1), ヤ コウガイ(1), レイシダマシ(1)
P3-P4	291	平均	291	P4-P6	365	平均	182.5		
P1-P6	287	P3-P4	291	P1-P2	178	P4-P5	184		
				P2-P3	185	P5-P6	181		

第128表 SB17計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P4	258	平均	258	P1-P2	270	平均	270	方角:N 44° W 面積:6.9㎡	-
P2-P3	254	平均	254	P3-P4	255	平均	255		
P1-P4	258	P2-P3	254	P1-P2	270	P3-P4	255		



第 171 図 SB18 実測図

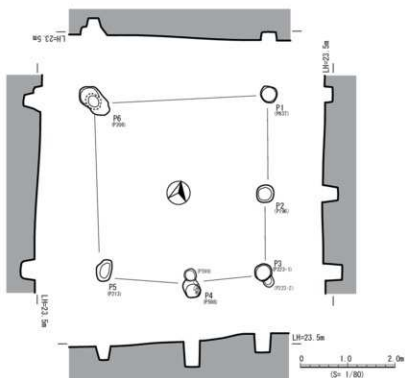
第129表 SB18計測表

変行1	寸法	変行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P10	364	平均	182	P1-P5	686	平均	171.5	方角: N 3° E 面積: 25.7㎡	P2: 二枚貝(1)
P5-P6	170	平均	170	P7-P10	507	平均	169		P6: 鉄滓(1)
P18-P16	360	平均	180	P12-P15	690	平均	230		P8: シロイガイレイシ(1), ハナビラダカラ(1)
P1-P11	199	P5-P6	170	P1-P2	135	P7-P8	163		
P11-P10	165			P2-P3	196	P8-P9	183		
				P3-P4	185	P9-P10	161		
				P4-P5	170				
P18-P17	174			P12-P13	294				
P17-P16	186			P13-P14	209				
				P14-P15	187				

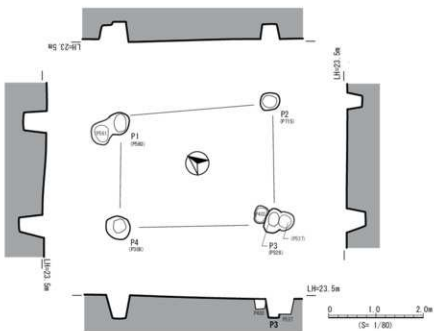
掘立柱建物跡 18号 (SB18) (第171図・第129表)

検出状況: N・O-16区で検出した、4×2間の建物跡である。東側と北側に柱穴が並んでおり、庇になる可能性がある。SB19・SB20と重複している。柱穴の大きさや深さはそれぞれであり、最大のもので直径0.4m、最深のもので0.45mを測る。平均では、直径約0.3mで深さ約0.3mである。P6は斜めに掘り込まれている。

出土遺物: 土器3点や布目瓦土器1点、鉄滓1点のほか、ヤコウガイなどの貝類が9点、フェエキダイ科やウツボ科などの魚骨が5点出土した。また、P10から採取した土壌サンプルをフローテーションによって処理を行った結果、コムギが1点検出された。これらのうち、布目瓦土器1点を実測した。



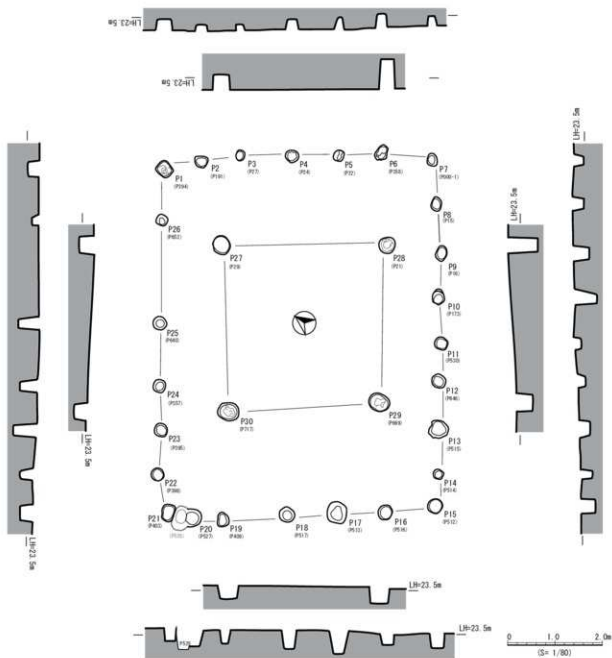
第 172 図 SB19 実測図



第 173 図 SB20 実測図

第130表 SB19計測表

渠行1	寸法	渠行2	寸法	折行1	寸法	折行2	寸法	備考	遺物
P1-P6	372	平均	372	P1-P3	376	平均	188	方角: N 11° W 面積: 13.8㎡	P1: 粘土塊(1), クロダイ属(1), タイ型(1)
P3-P5	347	平均	173.5	P5-P6	358	平均	358		P3: 土器(1), 粘土塊(5), 鉄滓(1), ヤコウガイ(1)
P1-P6	372	P3-P4	156	P1-P2	210	P5-P6	358		P4: 土器(1), 石器(3), 石製品(1), ヤナギシボリ(1)
		P4-P5	191	P2-P3	166				P5: 白磁(1), 土器(3), ヤコウガイ(1)
									P6: 鉄滓(3), 粘土塊(5), キヌボラ(1), タイ型(1), ペラ粒(1)



第 174 図 SB21 実測図

掘立柱建物跡 19 号 (SB19) (第 172 図・第 130 表)

検出状況: N・O-16 区で検出した。2×2 間の建物跡である。SB18・SB20 と重複している。柱穴の大きさはそれぞれであるが、一番大きなものは長軸約 0.75m×短軸 0.4m を測り、また、一番深いものは約 0.55m である。平均すると直径約 0.35m で、深さは約 0.3m である。北側及び西側の柱穴は検出できなかった。

出土遺物: 白磁 1 点や土器 5 点、石器 3 点、石製品 1 点、鉄滓 4 点、ヤコウガイなどの貝類 4 点、クログイ属などの魚骨 4 点が出土した。このうち白磁 1 点、石器 1 点、石製品 1 点を実測した。

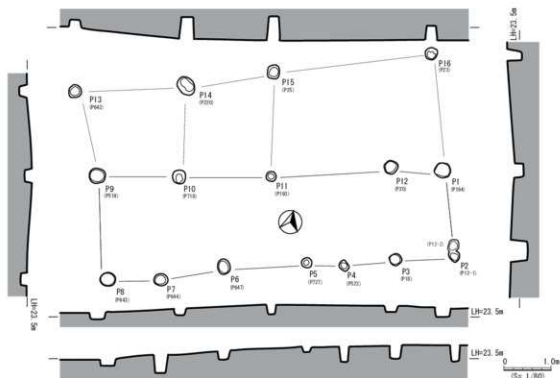
掘立柱建物跡 20 号 (SB20) (第 173 図・第 131 表)

検出状況: N・O-15 区で検出した。1×1 間の 4 本柱建物跡である。SB18・SB19・SB21 と重複している。柱穴の大きさの平均は、直径約 0.45m で深さは約 0.4m である。

出土遺物: 土器 2 点や滑石混入土器 3 点、輪の羽口 1 点、鉄滓 1 点、ヤコウガイなどの貝類 7 点、アオブダイ属などの魚骨 2 点が出土した。

掘立柱建物跡 21 号 (SB21) (第 174 図・第 132 表)

検出状況: N-15 区で検出した。1×1 間の建物の周囲に 26 本の柱穴が掘立柱建物跡である。前記遺跡で検出された掘立柱建物の中では最大の面積を持つ。SB20・SB22 と重複している。



第175図 SB22実測図

第131表 SB20計測表

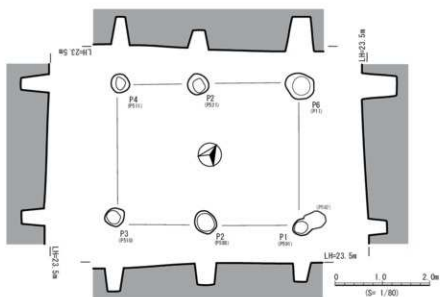
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P4	219	平均	219	P1-P2	320	平均	320	方角: N 41° W 面積: 7.3m ²	P1: 襦の羽口(1), 粘土塊(1), タカラガイ(1), ムラサキウズ(2), ヤコウガイ(1) P2: フェフキダイ科(1) P3: 土器(1), 鉄滓(1), ウツボ科(1) P4: 土器(1), 滑石混入土器(3), ペニエガイ(1), ヤコウガイ(1), リュウキュウマスオ(1), アオブダイ属(1)
P2-P3	250	平均	250	P3-P4	328	平均	328		
P1-P4	219	P2-P3	250	P1-P2	320	P3-P4	328		

第132表 SB21計測表

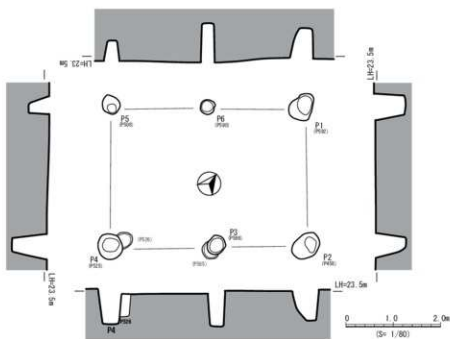
梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P7	572	平均	95.3	P1-P21	731	平均	121.8	方角: N 53° E 面積: 44.1m ²	P11: カムイヤキ(1) P12: 土器(14), チョウセンサザエ(1) P13: 土器(1), メイチダイ属(1) P17: 土器(1), 鉄製品(刀子?) (1), ヤコウガイ(1) P18: チョウセンサザエ(1), フェフキダイ科(1) P20: 土器(4), 襦の羽口(1), ヤコウガイ(1) P24: ヤコウガイ(1), タイ型(1) P27: 石器(1) P28: 滑石二次加工品(1), 石器(1) P30: 土器(1), ヤコウガイ(1), ブダイ属(1), モンガラコハキ科(1)
P15-P21	571	平均	95.1	P7-P15	731	平均	91.3		
P27-P28	351	平均	351	P27-P30	354	平均	354		
P29-P30	319	平均	319	P28-P29	332	平均	332		
P1-P2	85	P15-P16	107	P1-P26	110	P7-P8	95		
P2-P3	76	P16-P17	104	P26-P25	216	P8-P9	104		
P3-P4	112	P17-P18	104	P25-P24	133	P9-P10	98		
P4-P5	102	P18-P19	140	P24-P23	93	P10-P11	96		
P5-P6	88	P19-P20	64	P23-P22	96	P11-P12	78		
P6-P7	109	P20-P21	52	P22-P21	83	P12-P13	98		
						P13-P14	96		
						P14-P15	66		

第133表 SB22計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P2-P16	429	平均	214.5	P1-P9	739	平均	184.7	方角: N 72° E 面積: 31.6m ²	P3: 滑石二次加工品(1) P4: 石器(1) P5: 石器(1), マハタ型(1) P10: ハリセンボン科(1) P13: 土器(1), 襦の羽口(1), 礎(1), クロダイ属(1)
P8-P13	405	平均	202.5	P2-P8	740	平均	123.3		
				P16-P13	759	平均	253		
P2-P1	185	P8-P9	221	P1-P12	112	P2-P3	126		
P1-P16	244	P9-P13	184	P12-P11	256	P3-P4	109		
				P11-P10	195	P4-P5	80		
				P10-P9	176	P5-P6	175		
						P6-P7	138		
						P7-P8	112		
				P16-P15	335				
				P15-P14	186				
				P14-P13	238				



第 176 図 SB23 実測図



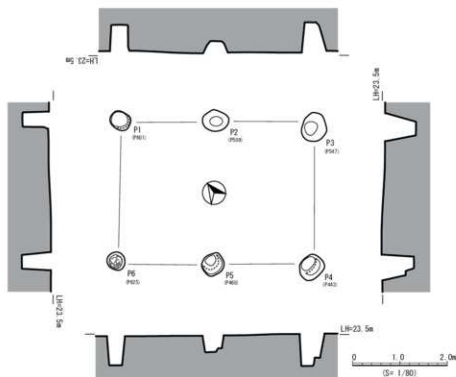
第 177 図 SB24 実測図

第134表 SB23計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P6	300	平均	300	P1-P3	397	平均	198.5	方角: N 56° E 面積: 11.9m ²	P2: 滑石混入土器(1), 滑石(1), P4: 土器(23), 石器(2)
P3-P4	283	平均	283	P4-P6	384	平均	192		P5: 土器(1), 鉄製品(1), ヤコウガイ(1)
P1-P6	300	P3-P4	283	P1-P2	202	P4-P5	166		P6: 滑石混入土器(1), 礫(3), 巻貝(1)
				P2-P3	195	P5-P6	218		

第135表 SB24計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P2	300	平均	300	P1-P5	411	平均	205.5	方角: N 52° E 面積: 12.3m ²	P2: 土器(1), 鉄滓(1), ハタ科(1)
P4-P5	289	平均	289	P2-P4	427	平均	213.5		
P1-P2	300	P4-P5	289	P1-P6	209	P2-P3	201		
				P6-P5	202	P3-P4	226		



第178図 SB25実測図

第136表 SB25計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P6	302	平均	302	P1-P3	408	平均	204	方角:N 56° W 面積:12㎡	P3:土器(1), フェエキダイ科(1)
P3-P4	286	平均	286	P4-P6	406	平均	203		P4:土師器(1), 滑石製石鏡(1), イモガイ(1), チョウセンサザエ(1), ハタ科(1)
P1-P6	302	P3-P4	286	P1-P2	206	P4-P5	205		
				P2-P3	202	P5-P6	201		

中央4本の柱穴の大きさは、直径約0.4mで深さは約0.4mである。周りの26本の柱穴の大きさや深さはそれぞれであるが、平均では直径約0.3m、深さ約0.3mである。

出土遺物:カムイヤキ1点や土器21点、輪の羽口1点、刀子の可能性のある鉄製品1点、滑石製石鏡1点、石器2点、貝類6点、ブダイなどの魚骨5点が出土した。これらのうち、カムイヤキ、輪の羽口、鉄製品、滑石二次加工品、石器をそれぞれ1点ずつ実測した。

掘立柱建物跡22号 (SB22) (第175図・第133表)

検出状況:N-15区で検出した、6×2間の建物跡である。SB21と重複している。柱穴の大きさの平均値、直径約0.35mで深さは約0.3mである。

出土遺物:土器1点や輪の羽口1点、滑石二次加工品1点、石器2点、クロダイ属などの魚骨3点が出土した。そのうち、輪の羽口1点、滑石二次加工品1点、石器1点を実測した。

掘立柱建物跡23号 (SB23) (第176図・第134表)

検出状況:N-14区で検出した、2×1間の建物跡である。SB24及びSB41と重複している。柱穴の大きさの平均は、直径約

0.4mで深さは約0.5mである。

出土遺物:土器24点や滑石混入土器1点、鉄製品1点、石器2点、滑石1点、ヤコウガイが1点出土した。

掘立柱建物跡24号 (SB24) (第177図・第135表)

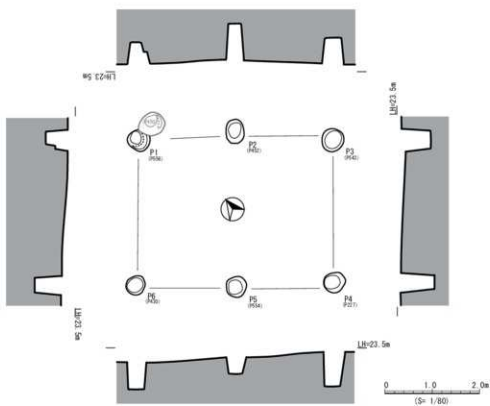
検出状況:N-14区で検出した、2×1間の建物跡である。SB23と重複している。柱穴の大きさはそれぞれであるが、一番大きなものは長軸約0.6m×短軸0.5mを測り、また、一番深いものは約0.8mである。平均では、直径約0.4mで、深さは約0.6mである。

出土遺物:土器1点や鉄滓1点、ハタ科の魚骨1点が出土した。

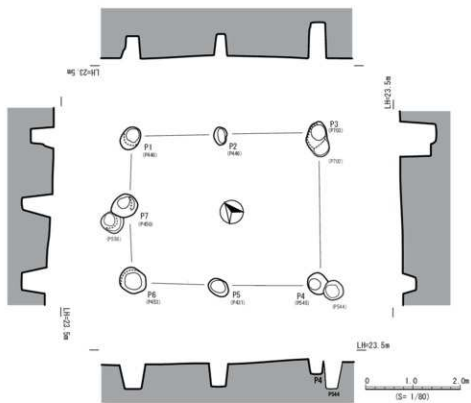
掘立柱建物跡25号 (SB25) (第178図・第136表)

検出状況:O-P-15区で検出した、2×1間の建物跡である。SB26～SB29と重複している。柱穴の大きさの平均は、直径約0.4mで深さは約0.5mである。

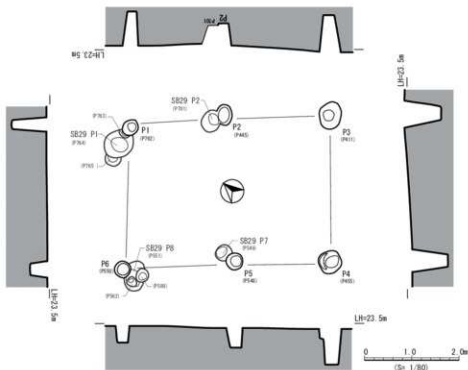
出土遺物:土器1点や土師器1点、滑石製石鏡1点、イモガイなどの貝類2点、ハタ科などの魚骨2点が出土した。このうち、滑石製石鏡1点を実測した。



第 179 图 SB26 实测图



第 180 图 SB27 实测图



第181図 SB28実測図

第137表 SB26計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P6	314	平均	314	P1-P3	419	平均	209.5	方角: N 16° W 面積: 13.5m ²	P1: 滑石二次加工品(1), 鉄滓(3), チョウセンサザエ(1), ヤコウガイ(1), オオムギ(1), プダイ科浮遊菌(3) P2: 土器(1) P3: 土器(2) P4: 鉄滓(1), 粘土塊(3), ハリセンボン科(1) P6: ウン(1)
P3-P4	301	平均	301	P4-P6	419	平均	209.5		
P1-P6	314			P1-P2	213	P4-P5	207		
		P3-P4	301	P2-P3	206	P5-P6	212		

第138表 SB27計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P6	315	平均	157.5	P1-P3	393	平均	196.5	方角: N 53° W 面積: 12.6m ²	P4: 滑石製石鍋(1) P5: 土器(5), 滑石二次加工品(1), 滑石(1), 粘土塊(3), イモガイ(1) P7: 土器(1), 鉄滓(1), 滑石(2), チョウセンサザエ(1)
P3-P4	323	平均	323	P4-P6	385	平均	192.5		
P1-P7	144			P1-P2	186	P4-P5	204		
P7-P6	171			P2-P3	207	P5-P6	181		

第139表 SB28計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P6	302	平均	302	P1-P3	416	平均	208	方角: N 44° W 面積: 13.1m ²	P2: 白磁(1), カミイヤキ(1) P3: 土器(4), 貝(2) P4: 白磁(1), 滑石(2), 鉄滓(1) P6: 滑石混入土器(1), 粘土塊(2)
P3-P4	311	平均	311	P4-P6	442	平均	221		
P1-P6	302			P1-P2	196	P4-P5	202		
		P3-P4	311	P2-P3	220	P5-P6	240		

掘立柱建物跡26号 (SB26) (第179図・第137表)

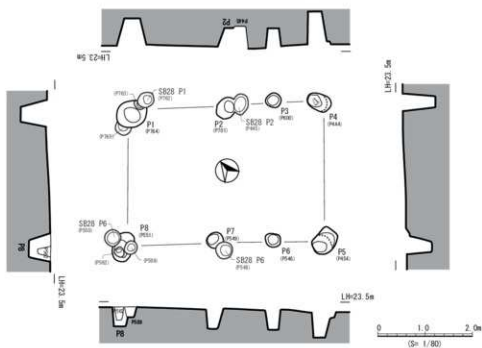
検出状況: O-P-15区で検出した, 2×1間の建物跡である。SB25・SB27~SB29と重複している。柱穴の大きさの平均は, 直径約0.45mで深さは約0.6mである。

出土遺物: 土器3点や滑石二次加工品1点, 鉄滓4点, ヤコウガイなどの貝類2点, ウシヤハリセンボン科の骨5点が出土した。また, P1から採取した土壌サンプルをフローテーションによって処理を行った結果, オオムギの炭化種子1点が検出された。これらの出土遺物のうち, 滑石二次加工品1点を実測した。

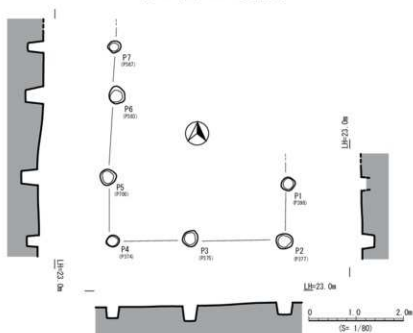
掘立柱建物跡27号 (SB27) (第180図・第138表)

検出状況: O-P-15区で検出した, 2×2間の建物跡である。SB25・SB26・SB28・SB29と重複している。柱穴の大きさの平均は, 直径約0.45mで深さは約0.6mである。

出土遺物: 土器6点や滑石製石鍋1点, 滑石二次加工品1点, 滑石3点, 鉄滓1点, チョウセンサザエなどの貝類2点が出土した。このうち, 滑石製石鍋1点を実測した。



第 182 図 SB29 実測図



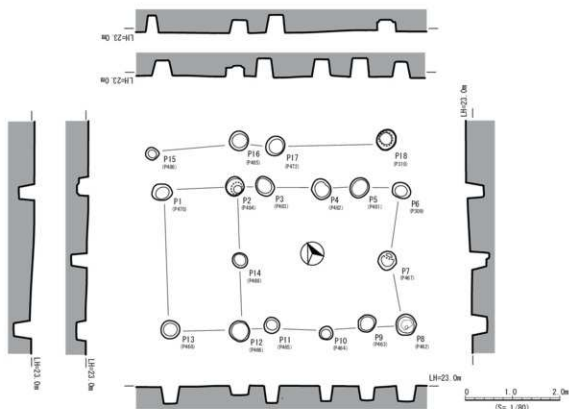
第 183 図 SB30 実測図

第140表 SB29計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P8	282	平均	282	P1-P4	387	平均	129.6	方角: N 53° W 面積: 11.6㎡	P1: 滑石製石罎(1), 石器(1)
P4-P5	311	平均	311	P5-P8	417	平均	139		P2: 巻貝(1)
P1-P8	282	P4-P5	311	P1-P2	207	P5-P6	98		P4: カムイヤキ(1), 土器(2), 鉄滓(1)
				P2-P3	95	P6-P7	128		P8: 土器(1), 滑石混入土器(1), ウミギク料(1), フェフキダイ料(1)
				P3-P4	87	P7-P8	191		

第141表 SB30計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P8	282	平均	282	P1-P2	121	平均	121	方角: N 2° W	P2: 滑石混入土器(2)
P4-P5	311	平均	311	P4-P7	412	平均	137.3		P5: イモガイ(1), オオスミウスカワ(3), カシハシ類(1), シマイボバラ(1), ノメカワニナ(1), マダライモ(1)
P1-P8	282	P4-P5	311	P1-P2	121	P4-P5	136		P6: ホソズジナミガイ(1)
				P2-P3	200	P5-P6	172		
				P3-P4	165	P6-P7	104		



第184図 SB31実測図

第142表 SB31計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P13	290	平均	290	P1-P6	508	平均	101.6	方角:N 66° W 面積:14.6㎡	P1:滑石製石鏡(1)
P6-P8	291	平均	145.5	P8-P13	506	平均	101.2		P2:土器(1)
P2-P14	149	平均	151	P15-P18	499	平均	166.3		P4:鉄滓(1)
P1-P13	290	P6-P7	148	P1-P2	160	P8-P9	84		P5:土器(1)
		P7-P8	143	P2-P3	59	P9-P10	90		P6:白磁(1)
				P3-P4	120	P10-P11	116		P8:滑石製石鏡(1)
				P4-P5	80	P11-P12	68		P11:滑石製石鏡(1)
				P5-P6	89	P12-P13	148		P12:土器(1)
P2-P14	149			P15-P16	189				P13:土器(1)
P14-P12	150			P16-P17	80				P16:フエキダイ科(1)
				P17-P18	230				

掘立柱建物跡28号 (SB28) (第181図・第139表)

検出状況：O・P-15区で検出した、2×1間の建物跡である。

SB25～SB27・SB29と重複しており、P1 (P762)、P5 (P548)、P6 (P550) は、それぞれSB29のP1 (P764)、P7 (P549)、P8 (P764) を切っていることから、SB28はSB29よりも新しい(古SB29<SB28新)。

柱穴の大きさの平均は、直径約0.4mで深さは約0.6mである。

出土遺物：白磁2点やカムイヤキ1点、土器4点、滑石混入土器1点、鉄滓1点、貝類2点が出土した。これらのうち、白磁1点とカムイヤキ1点を実測した。

掘立柱建物跡29号 (SB29) (第182図・第140表)

検出状況：O・P-15区で検出した、3×1間の建物跡である。

SB25～SB28と重複しており、SB28で記述したとおり、柱穴の切り合い関係からSB29はSB28より古い。(古SB29<

SB28新)。

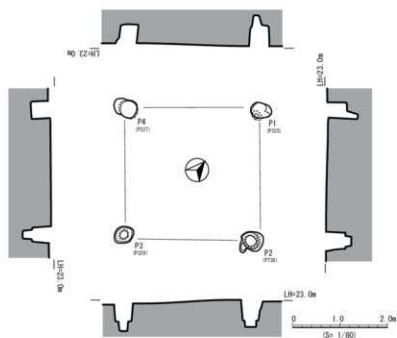
柱穴の大きさはそれぞれであるが、一番大きなものは直径約0.6mをいかり、また、一番深のもののは約0.7mある。平均では、直径約0.4m、深さ約0.5mである。

出土遺物：カムイヤキ1点や土器3点、滑石混入土器1点、滑石製石鏡1点、鉄滓1点、石器1点、ウミギク科などの貝類2点、フエキダイ科の魚骨1点が出土した。

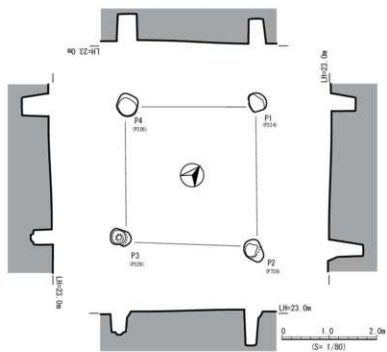
掘立柱建物跡30号 (SB30) (第183図・第141表)

検出状況：Q・R-13区で検出した建物跡である。北側及び北東側のビットが検出できなかったため、規模や柱の数などの詳細は不明である。他のSBや遺構との重複は見られず、単独で検出された。柱穴の大きさの平均は、直径約0.3mで深さは約0.3mである。

出土遺物：滑石混入土器2点とイモガイなどの貝類が9点出土した。



第 185 図 SB32 実測図



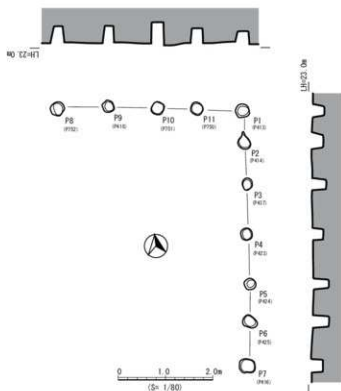
第 186 図 SB33 実測図

掘立柱建物跡 31 号 (SB31) (第 184 図・第 142 表)

検出状況: L・11・12 区で検出した、5×2 間の建物跡である。北東側に柱穴が並んでおり、底になる可能性がある。検出は IV 層を掘り下げた後の V 層上面であり、IV 層上面で検出している掘立柱建物跡 (SB18～29) よりも古い建物と考えられる。他の SB や遺構との重複は見られず、単独で検出された。柱穴の大きさの平均は、直径約 0.4m で深さは約 0.3m である。
出土遺物: 白磁 1 点や土器 4 点、滑石製石鍋 3 点、銅滓 1 点、フエフキダイ科の魚骨 1 点が出土した。

掘立柱建物跡 32 号 (SB32) (第 185 図・第 143 表)

検出状況: L・7 区で検出した、1×1 間の 4 本柱建物跡である。SB33 と重複している。柱穴の大きさの平均は、直径約 0.4m で深さは約 0.5m であり、西側の柱穴以外の 3 基は 2 段堀になっている。
出土遺物: 遺物は出土しなかった。



第187図 SB34 実測図

第143表 SB32計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P2	264	平均	264	P1-P4	270	平均	270	方角: N 42° W 面積: 7.5㎡	-
P3-P4	265	平均	265	P2-P3	270	平均	270		
P1-P2	264	P3-P4	265	P1-P4	270	P2-P3	270		

第144表 SB33計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P4	282	平均	282	P1-P2	311	平均	311	方角: N 33° W 面積: 8.1㎡	-
P2-P3	282	平均	282	P3-P4	282	平均	282		
P1-P4	282	P2-P3	282	P1-P2	311	P3-P4	282		

第145表 SB34計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P8	392	平均	98	P1-P7	538	平均	89.6	方角: N 6° E	P3: 土器(8) P7: ハリセンボン科(1)
P1-P11	98			P1-P2	65				
P11-P10	86			P2-P3	91				
P10-P9	102			P3-P4	104				
P9-P8	108			P4-P5	103				
				P5-P6	81				
				P6-P7	94				

掘立柱建物跡33号 (SB33) (第186図・第144表)

検出状況: L-7区で検出した, 1×1間の4本柱建物跡である。

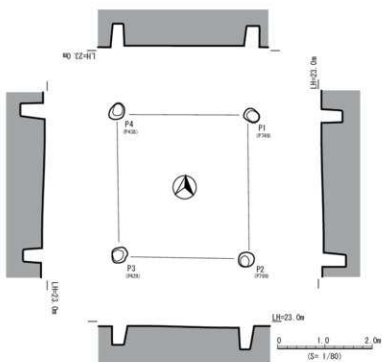
SB32と重複している。柱穴の大きさの平均は, 直径約0.4mで深さは約0.55mである。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

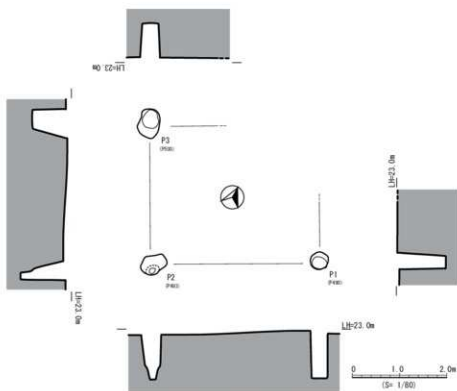
掘立柱建物跡34号 (SB34) (第187図・第145表)

検出状況: L-5区で検出した建物跡である。西側部分が図の段差で削られ消滅しているが, 残存部から6×4間の建物跡と推定される。他のSBや遺構との重複は見られず, 単独で検出された。柱穴の大きさの平均は, 直径約0.3mで深さは約0.3mである。

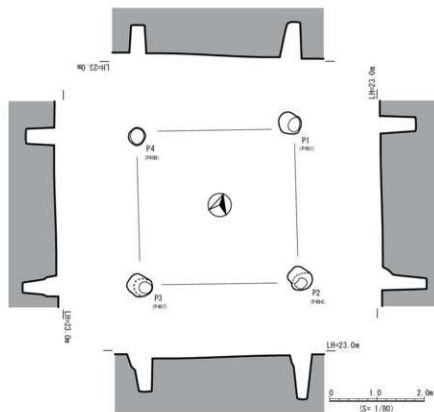
出土遺物: 土器が8点とハリセンボン科の魚骨1点が出土した。



第 188 图 SB35 实测图



第 189 图 SB36 实测图



第190図 SB37実測図

第146表 SB35計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P4	287	平均	287	P1-P2	307	平均	307	方角: N 4° W 面積: 8.6㎡	P2: 滑石(1) P4: 土器(2)
P2-P3	269	平均	269	P3-P4	309	平均	309		
P1-P4	287	P2-P3	269	P1-P2	307	P3-P4	309		

第147表 SB36計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P2-P3	320	平均	320	P1-P2	349	平均	349	方角: N 58° E 面積: 11.1㎡	P1: 土器(7), 土師器(2) P3: 土器(17)
P2-P3	320			P1-P2	349				

第148表 SB37計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P4	335	平均	335	P1-P2	336	平均	336	方角: N 21° W 面積: 11.2㎡	P1: 土器(20), 土師器(1), 鉄滓(1), 粘土塊(1) P2: 土器(13), 土師器(1), 石器(1) P3: 土器(10), 土師器(1) P4: 土器(13), 粘土塊(2)
P2-P3	331	平均	331	P3-P4	321	平均	321		
P1-P4	335	P2-P3	331	P1-P2	336	P3-P4	321		

掘立柱建物跡 35号 (SB35) (第188図・第146表)

検出状況: L-5区で検出した、1×1間の4本柱建物跡である。他のSBや遺構との重複は見られず、単独で検出された。柱穴の大きさの平均は、直径約0.3mで深さは約0.4mである。
出土遺物: 土器2点と滑石1点が出土した。

掘立柱建物跡 36号 (SB36) (第189図・第147表)

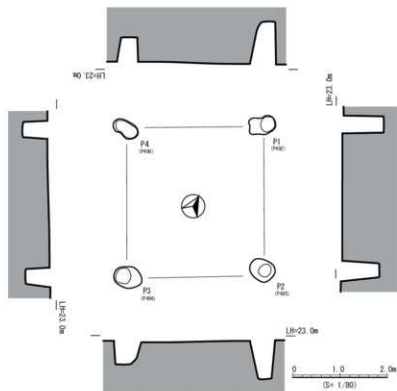
検出状況: K-3区で検出した、1×1間の4本柱建物跡である。SB37・SB38と重複している。柱穴の大きさの平均は、直径約0.4mで深さは約0.8mである。北東側のピットは検出でき

なかった。

出土遺物: 土器24点と土師器2点が出土した。

掘立柱建物跡 37号 (SB37) (第190図・第148表)

検出状況: K-3区で検出した、1×1間の4本柱建物跡である。SB36・SB38と重複している。柱穴の大きさの平均は、直径約0.5mで深さは約0.7mである。
出土遺物: 土器56点や土師器3点、石器1点、鈎羊1点が出土した。



第191図 SB38 実測図

第149表 SB38計測表

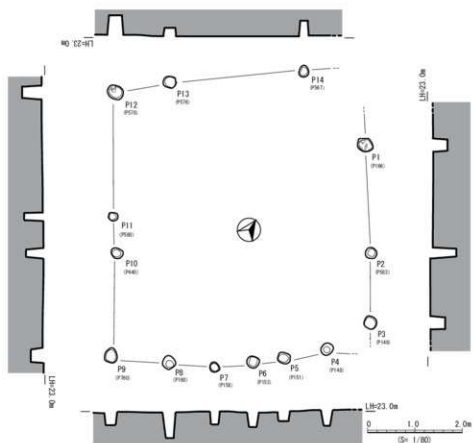
掘行1	寸法	掘行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P4	296	平均	296	P1-P2	309	平均	309	方角: N 30° W 面積: 9.3㎡	P1: 白磁(1), カムイヤキ(1), 土器(20), 石器(1) P2: カムイヤキ(1), 土器(9) P3: 白磁(1), 土器(5), 土師器(3), 滑石製石鍋(1) P4: カムイヤキ(1), 土器(26), 土師器(2)
P2-P3	303	平均	303	P3-P4	311	平均	311		
P1-P4	296	P2-P3	303	P1-P2	309	P3-P4	311		

掘立柱建物跡 38号 (SB38) (第191図・第149表)

検出状況: K-3区で検出した, 1×1間の4本柱建物跡である。

SB36・SB37と重複している。柱穴の大きさの平均は、直径約0.5mで深さは約0.6mである。

出土遺物: 白磁2点やカムイヤキ3点, 土器60点, 土師器5点, 滑石製石鍋1点, 石器1点が出土した。このうち、白磁2点, カムイヤキ2点, 土器1点, 土師器1点, 滑石製石鍋1点, 石器1点を実測した。



第192図 SB39実測図

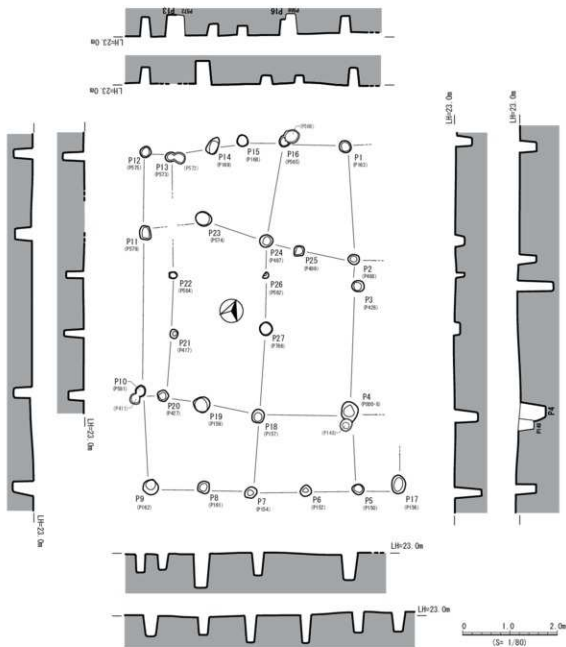
第150表 SB39計測表

進行1	寸法	進行2	寸法	折行1	寸法	折行2	寸法	備考	遺物
P14-P12	403	平均	201.5	P1-P3	375	平均	187.5	方角: N 34° W 面積: 32㎡(推定)	P2: 土器(3)
P4-P9	461	平均	92.2	P9-P12	559	平均	186.3		P3: 土器(5), 輪の羽口(1)
P14-P13	284	P4-P5	93	P1-P2	225	P9-P10	216		P4: 土器(3), 滑石二次加工品(1), 粘土塊(2)
P13-P12	119	P5-P6	65	P2-P3	150	P10-P11	80		P10: 土器(5), 滑石製石鏡(1), 滑石(2)
		P6-P7	83			P11-P12	263		P11: 滑石(1)
		P7-P8	94						P12: カムイヤキ(1), 石器(2)
		P8-P9	126						

掘立柱建物跡39号 (SB39) (第192図・第150表)

検出状況: J-K-3区で検出した、6×4間の建物跡である。SB40と重複している。柱穴の大きさの平均は、直径約0.25mで深さは約0.4mである。北側及び東側の角にあたる柱穴は検出できなかった。

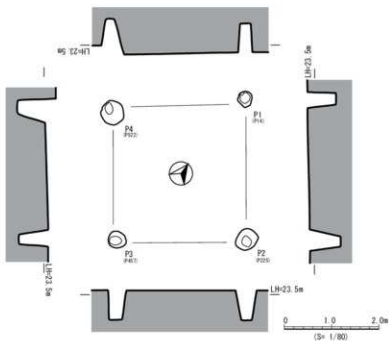
出土遺物: カムイヤキ1点や土器16点、滑石製石鏡1点、滑石3点、輪の羽口1点、石器2点が出土した。このうち、カムイヤキ、土器、滑石製石鏡、石器をそれぞれ1点ずつ実測した。



第 193 図 SB40実測図

第151表 SB40計測表

梁行1	寸法	梁行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P12	429	平均	85.8	P1-P5	727	平均	181.7	方角: N 23° W 面積: 38.9m ²	P1: 土器 (9)
P5-P9	441	平均	110.2	P9-P12	705	平均	235		P3: 土器 (7)
P2-P11	457	平均	114.2	P16-P7	744	平均	148.8	P8: 土器 (1), 粘土塊 (2) P9: 土器 (8), 鉄滓 (2)	P10: 石器 (2)
P4-P10	447	平均	111.8	P20-P13	508	平均	169.3		P12: 土器 (9)
P1-P16	130	P5-P6	112	P1-P2	239	P9-P10	199	P11: 土器 (7)	P14: 土器 (1)
P16-P15	89	P6-P7	117	P2-P3	60	P10-P11	335		P17: 土器 (2), 竈の羽口 (1), 粘土塊 (4)
P15-P14	62	P7-P8	100	P3-P4	264	P11-P12	171	P18: 土器 (3), 粘土塊 (1) P20: 土器 (6), 滑石二次加工品 (2), 滑石 (1)	P21: 土器 (2)
P14-P13	94	P8-P9	112	P4-P5	164				
P13-P12	54								
P2-P25	118	P4-P18	193	P16-P24	212	P20-21	135		
P25-P24	70	P18-P19	123	P24-P26	71	P21-P22	124		
P24-P23	148	P19-P20	83	P26-P27	115	P22-P13	249		
P23-P11	121	P20-P10	48	P27-P18	186				
				P18-P7	160				
P17-P5	85								



第194図 SB41 実測図

第152表 SB41計測表

東行1	寸法	東行2	寸法	桁行1	寸法	桁行2	寸法	備考	遺物
P1-P4	305	平均	305	P1-P4	289	平均	289	方角:N 54° E 面積:8.5㎡	-
P2-P3	278	平均	278	P3-P4	280	平均	280		
P1-P4	305	P2-P3	278	P1-P4	289	P3-P4	280		

掘立柱建物跡40号 (SB40) (第198図・第151表)

検出状況: J-K-3区で検出した、4×3間の建物跡である。南側に柱が多い、柱穴の大きさの平均は、直径約0.25mで深さは約0.4mである。SB39と重複している。

出土遺物: 土器55点や輪の羽口1点、滑石二次加工品2点、滑石1点、鉄滓2点が出土した。このうち輪の羽口1点と滑石二次加工品2点を実測した。

掘立柱建物跡41号 (SB42) (第194図・第152表)

検出状況: N-14区で検出した、1×1間の建物跡である。柱穴の大きさの平均は、直径約0.45mで深さは約0.6mである。SB23と重複している。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

(2) 土坑墓

中世と考えられる土坑墓は、遺跡中央部 (O-15) で2基並んで検出された (土坑墓1号・2号) (第195図)。いずれの土坑墓も、焼骨・炭化物の塊とカマイヤキが検出された。遺構から滑石が出土することや、炭化物の放射性炭素年代測定の結果から11世紀後半～12世紀の遺構と想定される。検出面は、表土(1層)を取り除いた後のIV層上面である。以下、個別の詳細を記述する。

土坑墓1号 (第196図・第153表)

形状と規模:長軸2.33m×短軸1.08m×深さ0.09mで、長方形を呈する。

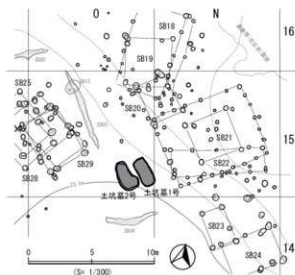
検出状況:遺跡内南側から1体(1号人骨)、北側から3体(2号～4号人骨)の合計4体の人骨を検出した。

1号人骨は焼骨と土葬骨が混在している状態で、カマイヤキ(カマイヤキb)の内部からみつつかっている。カマイヤキbの東側にはもう1個体のカマイヤキ(カマイヤキa)が床に置かれた状態で検出された。カマイヤキaの中からは、骨は出土していない。カマイヤキbは納骨器として利用され、カマイヤキaは副葬品として置かれたと考えられる。

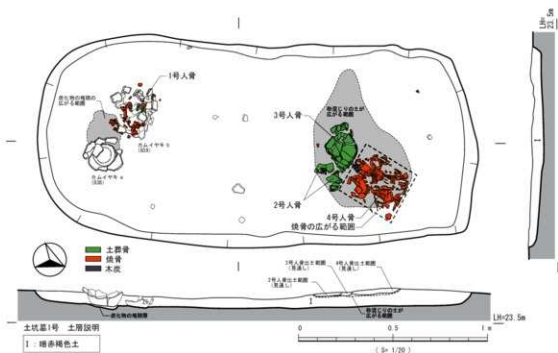
2号人骨～4号人骨の検出は、1層上面に広がる砂混じりの土の上からであり、1号人骨と時期差があると考えられる。2号人骨は焼けてない頭蓋であるが、左右の上顎骨と左側頭骨、蝶形骨が残るだけである。3号人骨は焼けていない頭蓋である。4号人骨は、焼骨と木炭が入り混じっており、方形碗状で検出されていることから木箱などに入られていた可能性がある。

出土遺物:上記カマイヤキ2個体の他、カマイヤキ32点、土器4点、滑石混入土器19点、滑石3点、鉄製品1点、チョウセンサザエなどの貝類17点が出土した。このうち、カマイヤキ2点を実測した。

自然遺物は、ニザダイなど魚骨やへび類などの獣骨が23点出土し、土壌サンプルから、イネ1片とオオムギ1片、ムギ類5片が出土した。このうち、ムギ類の炭化種子片を用いて年代測定を行い、 ^{14}C 年代 (yrBP) 830 ± 20 の値を得た(第IV章5節(3)参照)。また、4号人骨より採取した炭化物を用い、放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。放射性炭素年代が ^{14}C 年代 (yrBP) 910 ± 20 の値と樹種はスイカズラ属と同定された(第IV章5節(1)参照)。



第195図 土坑墓位置図



第196図 土坑墓1号実測図

土坑墓2号 (第197図・第153表)

形状と規模:長軸2.43m×短軸1.43m×深さ0.15mで、たまご型に近い長方形を呈する。

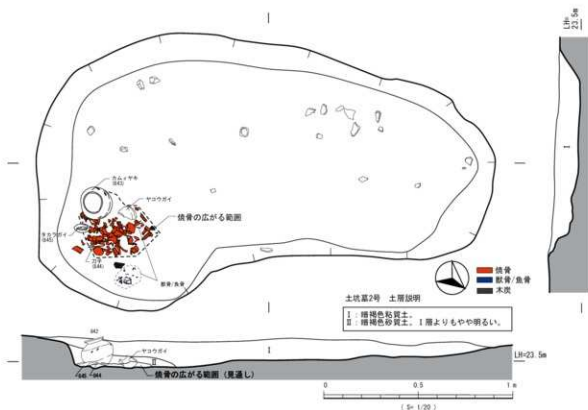
検出状況:遺構内南側から焼骨塊とともにカムイヤキ、刀子、タカラガイ、ヤコウガイを検出した。焼骨塊には木炭が混在していた。タカラガイとヤコウガイは状態が悪く触れると崩れてゆく状況であったが、加工痕などは見られなかった。また、焼骨塊の東側脇に魚骨と考えられる細い骨が散在していたが、状態が非常に悪く、同定は不可能であった。

出土遺物:上記カムイヤキや刀子、タカラガイ、ヤコウガイの他、カムイヤキ2点、土器7点、滑石混入土器8点、滑石1点、滑石製品石鍋1点、チョウセンサザエヤマガキガイなどの貝類が8点出土した。このうち、カムイヤキ、土器、滑石混入土器、滑石製石鍋、刀子、タカラガイをそれぞれ1点ずつ実測した。

また、ウツボ科やブダイ科などの獣骨が5点出土し、土壌サンプルから、オオムギ3点、コムギ2点、ムギ類1片などが出土した。このうち、オオムギとムギ類の炭化種子を用いて年代測定を行い、¹⁴C年代 (yrBP) 820±20 と 850±20 の値を得た (第IV章5節 (3) 参照)。

第153表 土坑出土遺物一覧

遺構名	遺物	数量		
土坑墓1号	カムイヤキ	34		
	土器	4		
	滑石混入土器	19		
	滑石	3		
	鉄製品	1		
	縄	21		
	貝	アカイガレイシ イモガイ科 キマダライガレイシ チョウセンサザエ ハナマルユキ タカラガイ ホリスズイナミガイ	3 2 1 3 5 1 1	
	獣骨	コウイカ ダツ科 イノシシ? ニゾガイ ヘビ類	1 3 1 17 1	
	炭化種子	イネ オオムギ ムギ類	1 1 5	
	粘土塊		6	
	土坑墓2号	カムイヤキ	3	
		土器	7	
		滑石混入土器	8	
		滑石製石鍋	1	
		滑石	1	
		鉄製品	刀子	1
		粘土塊		11
		縄		36
		貝	アツキガイ科 タカラガイ チョウセンサザエ マコキガイ ムラクモタカラ ヤコウガイ	2 1 2 1 1 3
		獣骨	フエフキダイ科 カエル/鳥類? ウツボ アオブダイ属	1 1 1 1
		炭化種子	オオムギ コムギ コムギ? ムギ類 粟果皮?	3 2 1 1 2



第197図 土坑墓2号実測図

(3) 土坑

中世の土坑（以下「SK」）は、15基検出した（第154表）。遺構は遺跡全体で検出されているが、掘立柱建物跡の周辺で検出される傾向が見られた。

遺跡北側で検出したSK27（V-27区）は、Ⅲ-g層掘り下げ後のⅢ-d層上面での検出であり、14世紀～15世紀頃の遺構と想定している。その他の13基は、遺跡中央部と南側に位置し、表土（1層）除去後の層の上面（SH17～24がⅥ層で、SH25・26・28～31がⅦ層（地山））での検出である。埋土が周辺ピットと同じであることや出土遺物から11世紀後半～12世紀の遺構と想定している。表土直下で検出した土坑は比較的浅く、耕作などで削平を受けた可能性も考えられる。

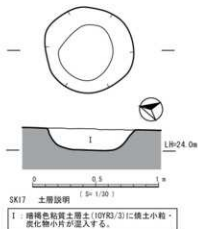
出土した遺物は、白磁1点、カムイヤキ3点、土器18点、布目瓦痕土器1点、滑石混入土器38点、滑石製石鍋7点、滑石二次加工品4点、ヤコウガイなどの貝類38点などである。なお、各遺構の遺物は遺構内一括で取り上げられた。

以下、SKの詳細を述べることとする。

土坑17号（SK17）（第198図）

検出状況：Q-18区で検出した。直径約0.68m×深さ0.17mで、平面形内円形を呈する。

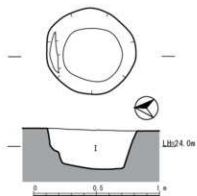
出土遺物：土器3点やイモガイ科などの貝類が17点、フエフキダイ科の魚骨が1点出土した。



第198図 SK17 実測図

第154表 SK(中世)一覧

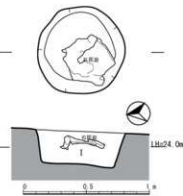
遺構名	出土区	検出面	平面形状	短軸(m)	長軸(m)	深さ(m)	出土遺物
SK17	Q-18	Ⅵ層	円形	0.68	0.68	0.17	土器(3)、粘土塊(51)、礫(91)、フエフキダイ科(1)、貝類(17) (貝類内訳:アカイレイシ(1)、イトカケハナリ(1)、イモガイ科(1)、キクザル類(1)、シマベッコウガイ(1)、シラスナガイ(1)、ツタノハガイ科(2)、ハナマルユキ(4)、ホソジイナミガイ(1)、ヤクシマダカラ(1)、ヤコウガイ(1)、リュウキュウツノマタ(1)、リュウキュウマスオ(1))
SK18	Q-18	Ⅵ層	円形	0.68	0.71	0.3	白磁(1)、カムイヤキ(2)、土器(3)、滑石製石鍋(5)、滑石二次加工品(1)、石器(2)、粘土塊(8)、礫(6)、貝類(7) (貝類内訳:アラヌメ(1)、キクザル類(1)、ツタノハガイ科(1)、ホソジイナミガイ(1)、ムラサキウズ(1)、ヤコウガイ(1)、リュウテン科(1))
SK19	Q-18	Ⅵ層	円形	0.69	0.7	0.26	粘土塊(1)、チョウセンサザエ(1)
SK20	P-18	Ⅵ層	円形	0.62	0.65	0.19	カムイヤキ(2)、布目瓦痕土器(1)、滑石混入土器(37)、滑石製石鍋(2)、滑石二次加工品(3)、滑石(1)、石器(3)、粘土塊(8)、礫(1)、貝類(2) (貝類内訳:タカラガイ(1)、ヤコウガイ(1))
SK21	Q-18	Ⅵ層	円形	0.48	0.55	0.11	土器(1)、滑石混入土器(1)、粘土塊(8)、ヤコウガイ(1)
SK22	Q-18	Ⅵ層	円形	0.49	0.52	0.18	粘土塊(26)、貝類(2) (貝類内訳:キイロタカラ(1)、ホソジイナミガイ(1))
SK23	P-18	Ⅵ層	円形	0.59	0.62	0.15	土器(2)、粘土塊(1)
SK24	P-18	Ⅵ層	円形	0.64	0.64	0.14	土器(4)
SK25	P-18	Ⅶ層	円形	0.47	0.51	0.17	土器(5)、石器(2)、粘土塊(1)、礫(21)、貝類(2) (貝類内訳:チョウセンサザエ(1)、ヤコウガイ(1))
SK26	P-14	Ⅶ層	長方形	0.57	0.94	0.16	礫(2)
SK27	V-27	Ⅲ-d層	楕円形	0.75 (推定)	1.18	1.11	礫(1)、貝類(2) (貝類内訳:ヤコウガイ(1)、リュウキュウヒバリ(1))
SK28	K-3	Ⅶ層	円形	0.8	0.86	0.26	出土遺物なし
SK29	L-3	Ⅶ層	方形	0.61	0.72	0.5	出土遺物なし
SK30	M-13-14	Ⅶ層	長方形	1.48	1.73	0.43	出土遺物なし
SK31	K-3	Ⅶ層	円形	1.24	1.33	0.21	出土遺物なし



SK18 土層説明 (5: 1/30)

I : 暗褐色粘質土層土(10YR2/4)に焼土小粒・炭化物小片が混入する。

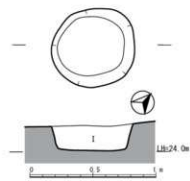
第199図 SK18 実測図



SK19 土層説明 (5: 1/30)

I : 暗褐色粘質土層土(10YR3/3)に焼土小粒・炭化物小片が混入する。

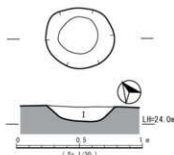
第200図 SK19 実測図



SK20 土層説明 (5: 1/30)

I : 暗褐色粘質土層土(10YR3/3)に焼土小粒・炭化物小片が混入する。

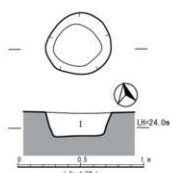
第201図 SK20 実測図



SK21 土層説明 (5: 1/30)

I : 暗褐色粘質土層土(10YR3/3)に焼土小粒・炭化物小片が混入する。

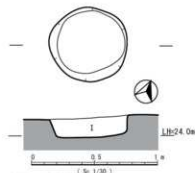
第202図 SK21 実測図



SK22 土層説明 (5: 1/30)

I : 暗褐色粘質土層土(10YR3/3)に焼土小粒・炭化物小片が混入する。

第203図 SK22 実測図



SK23 土層説明 (5: 1/30)

I : 暗褐色粘質土層土(10YR3/3)に焼土小粒・炭化物小片が混入する。

第204図 SK23 実測図

土坑 18号 (SK18) (第199図)

検出状況: Q-18区で検出した。短軸0.68m×長軸0.71m×深さ0.3mで、平面形状は円形を呈する。北側は2段掘りになっている。他の遺構と重複は見られず、単独で検出した。

出土遺物: 白磁1点、カマイヤキ2点、土器3点、滑石製石鍋5点(433g)、滑石二次加工品1点(84g)、石器2点、ヤコウガイなどの貝類7点が出土した。このうち、滑石製石鍋2点と滑石製二次加工品1点を実測した。

土坑 19号 (SK19) (第200図)

検出状況: Q-18区で検出した。短軸0.69m×長軸0.7m×深さ0.26mで、平面形状は円形を呈する。他の遺構と重複は見られず、単独で検出した。

出土遺物: チョウセンサザエガ1点出土した。

土坑 20号 (SK20) (第201図)

検出状況: P-18区で検出した。短軸0.62m×長軸0.65m×深さ0.19mで、平面形状は円形を呈する。他の遺構と重複は見

られず、単独で検出した。

出土遺物: カマイヤキA群2点や布目瓦土器1点、滑石混入土器37点、滑石製石鍋2点(307g)、滑石二次加工品3点(111g)、未加工の滑石1点(1g)、石器3点、ヤコウガイなどの貝類2点などが出土した。このうち、カマイヤキ1点、滑石混入土器1点、滑石製石鍋1点、滑石二次加工品1点、石器1点を実測した。

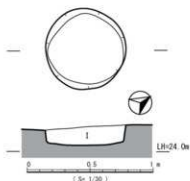
土坑 21号 (SK21) (第202図)

検出状況: Q-18区で検出した。短軸0.48m×長軸0.55m×深さ0.11mで、平面形状は円形を呈する。他の遺構と重複は見られず、単独で検出した。

出土遺物: 土器1点、滑石混入土器1点、ヤコウガイ1点が出土した。

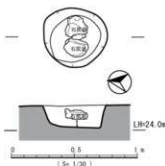
土坑 22号 (SK22) (第203図)

検出状況: Q-18区で検出した。短軸0.48m×長軸0.52m×深さ0.18mで、平面形状は円形を呈する。他の遺構と重複は



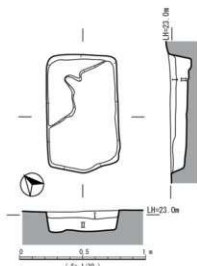
SK24 土層説明
I : 暗褐色粘質土層土 (10YR3/3) に鉄土小粒・炭化物小片が混入する。

第 205 図 SK24 実測図



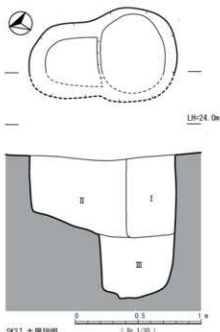
SK25 土層説明
I : 暗褐色粘質土層土 (10YR3/3) に鉄土小粒・炭化物小片が混入する。

第 206 図 SK25 実測図



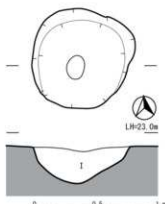
SK26 土層説明
I : 暗褐色粘質土 (10YR3/3) に鉄土小粒と明褐色粘土色粘質土 (7.5YR5/6)
II : 明褐色粘質土 (7.5YR5/6) に暗褐色粘質土 (10YR3/3) がブロック状態で混入する。I層とII層の境は明確ではない。

第 207 図 SK26 実測図



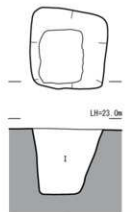
SK27 土層説明 (S=1/30)
I : 暗褐色粘質土に明褐色粘質土がブロック状に混入する。
II : 暗褐色粘質土に明褐色粘質土がブロック状に混入する。
I層に比べて、明褐色土の混入の割合は少く分層明確。
III : 暗褐色粘質土。

第 208 図 SK27 実測図



SK28 土層説明
I : 暗褐色土に高褐色粘質土がブロック状に混入。

第 209 図 SK28 実測図



SK29 土層説明
I : 埋土不明

第 210 図 SK29 実測図

見られず、単独で検出した。

出土遺物 : キイロタカラなどの貝類が2点出土した。

土坑 23 号 (SK23) (第 204 図)

検出状況 : P-18 区で検出した。短軸 0.59m×長軸 0.62m×深さ 0.15m で、平面形状は円形を呈する。他の遺構と重複は見られず、単独で検出した。

出土遺物 : 土器 2 点が出土した。

土坑 24 号 (SK24) (第 205 図)

検出状況 : P-18 区で検出した。直径約 0.64m×深さ 0.14m で、平面形状は円形を呈する。他の遺構と重複は見られず、単独

で検出した。

出土遺物 : 土器 4 点が出土した。

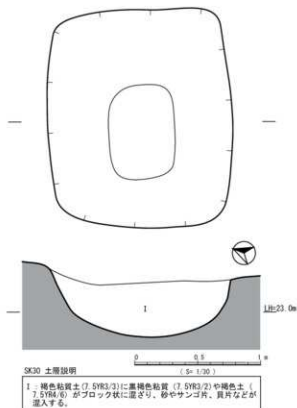
土坑 25 号 (SK25) (第 206 図)

検出状況 : P-18 区で検出した。短軸 0.47m×長軸 0.51m×深さ 0.17m で、平面形状は円形を呈する。他の遺構と重複は見られず、単独で検出した。

出土遺物 : 土器 5 点、石器 2 点、チョウセンサザエなどの貝類が 2 点出土した。

土坑 26 号 (SK26) (第 207 図)

検出状況 : P-14 区で検出した。短軸 0.57m×長軸 0.94m×



第 211 図 SK30 実測図

深さ 0.16m で、平面形状は長方形を呈する。北側にわずかに段差があり、2 段掘りになっている。他の遺構と重複は見られず、単独で検出した。

出土遺物: 縄が 2 点出土したが、他の遺物は出土しなかった。

土坑 27 号 (SK27) (第 208 図)

検出状況: V-27 区で検出した。短軸 0.75m (推定) × 長軸 1.18m × 深さ 1.11m で、平面形状は楕円形に近い形状を呈する。2 段掘りになっており、堆積状況から、一度土坑南側 (III 層) を掘ったのち、II 層の堆積する北側を掘り、再度 I 層の堆積する南側を掘ったという複数回にわたる利用が想定される。

他の遺構と重複は見られず、単独で検出した。

出土遺物: ヤコウガイなどの貝類が 2 点出土した。

土坑 28 号 (SK28) (第 209 図)

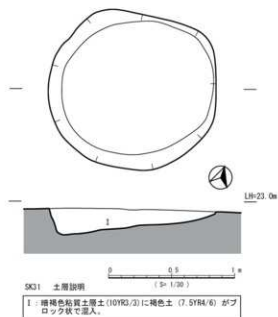
検出状況: K-3 区で検出した。短軸 0.8m × 長軸 0.86m × 深さ 0.26m で、平面形状は円形を呈する。SH14 を切っている。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

土坑 29 号 (SK29) (第 210 図)

検出状況: L-3 区で検出した。短軸 0.61m × 長軸 0.72m × 深さ 0.5m で、平面形状は方形を呈する。SK09 を切っている。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。



第 212 図 SK31 実測図

土坑 30 号 (SK30) (第 211 図)

検出状況: M-13-14 区で検出した。短軸 1.48m × 長軸 1.73m × 深さ 0.43m で、平面形状は長方形を呈する。他の遺構と重複は見られず、単独で検出した。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

土坑 31 号 (SK31) (第 212 図)

検出状況: Q-3 区で検出した。短軸 1.24m × 長軸 1.33m × 深さ 0.21m で、平面形状は円形を呈する。床面は傾斜しており、東から西に向かって深くなっている。遺構は SH07 を切っている。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

(4) 焼土跡

中世と考えられる焼土跡は、9基検出した(第155表)。位置的には、遺跡北側で3基、中央部で4基、南側で2基である。検出面については、遺跡中央部に位置する焼土跡09号(M-13区)がIV層を掘り下げた後のV層での検出であった以外は、すべて表土(1層)除去後の層の上面(焼土跡01号~03号・07号がⅦ層(地山)で、04号がⅢc層、05号がⅢe層、08号がⅢj層)での検出であった。

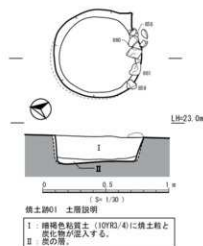
いずれの焼土跡からも時代を特定できる遺物が出土していないが、周囲の遺構や検出面などから、北側に位置する焼土跡3基(焼土跡03・04・08号)が14世紀~15世紀、中央部及び南側に位置する焼土跡(焼土跡01・02・05~07・09)が11世紀末~12世紀を想定している。

なお、焼土跡01号~03号・07号・09号から採取した土壌サンプルを用いフローテーション処理を行ったが、同定可能な炭化種子等は検出されなかった。

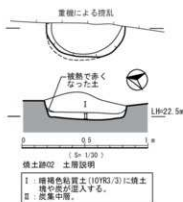
以下、焼土跡の詳細を述べることとする。

焼土跡01号(第213図)

検出状況: K-3区で検出した。直径約0.7m×深さ0.2mで、平面形状は円形を呈する。底面には炭の堆積層(Ⅱ層)が見られ、遺構側面は被熱で赤色化している。



第213図 焼土跡01実測図



第214図 焼土跡02実測図



第215図 焼土跡03実測図

遺構検出時に石器が並んで出土した。石器は、付近に検出されている縄文時代の堅穴状遺構から出土するものと同様のものであり、縄文時代の石器を何らかの目的で再利用した可能性がある。

出土遺物: 石器4点と礫4点が出土した。このうち石器4点を実測した。

焼土跡02号(第214図)

検出状況: K-3区で検出した。短軸0.26m(残存部)×長軸0.63m×深さ0.21mで、平面形状は円形を呈する。遺構の半分が重機により掘削されている。底面には炭の堆積層(Ⅱ層)が見られるが、その上面に被熱で赤色化した土が一部覆いかぶさっている。被熱した壁面に崩れて堆積した可能性が高いが、炭を充填した後火を使った作業を行った可能性も考えられる。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

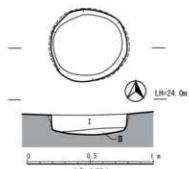
焼土跡03号(第215図)

検出状況: S-20区で検出した。短軸0.46m×長軸0.52m×深さ0.1mで、平面形状は円形を呈する。底面には、炭の堆積層(Ⅱ層)と黒褐色粘質土(Ⅲ層)の堆積が見られ、側面は被熱を受け赤色化している。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

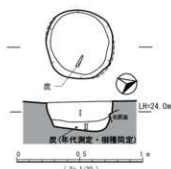
第155表 焼土跡一覧

遺構名	出土区	検出面	平面形状	短軸(m)	長軸(m)	深さ(m)	出土遺物
焼土跡01	K-3	Ⅶ層	円形	0.7	0.7	0.2	石器(4)、礫(4)
焼土跡02	K-3	Ⅶ層	円形	(0.26)	0.63	0.21	遺物なし
焼土跡03	S-20	Ⅶ層	円形	0.46	0.52	0.1	遺物なし
焼土跡04	V-31	Ⅲ-c層	円形	0.58	0.6	0.15	ヤコウガイ(2)、礫(1)
焼土跡05	V-31	Ⅲ-e層	円形	0.53	0.54	0.24	遺物なし
焼土跡06	M-11	V層	不定形	0.5	0.7	0.1	焼土塊(45)、礫(1)
焼土跡07	Q-20	Ⅶ層	楕円形	0.18	0.28	0.46	遺物なし
焼土跡08	U-30	Ⅲ-j層	不定形	0.46	0.14	0.02	遺物なし
焼土跡09	M-13	IV層	不定形	0.27	0.43	0.03	遺物なし



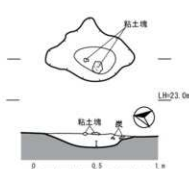
焼土跡04 土層説明
 I : 暗褐色粘質土に砂や1cm程度の焼土粒、炭、サンゴや石灰岩の粒が混入する。
 II : 炭の堆積層。

第216図 焼土跡04 実測図



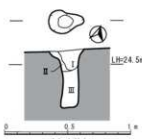
焼土跡05 土層説明
 I : 暗褐色粘質土に砂や1cm程度の焼土粒、炭、サンゴや石灰岩の粒が混入する。
 II : 焼土と炭の堆積層。

第217図 焼土跡05 実測図



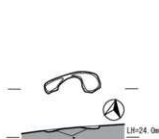
焼土跡06 土層説明
 I : 暗褐色土に焼土(小粒~1cm)と炭化物が多く混入する。

第218図 焼土跡06 実測図



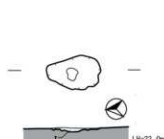
焼土跡07 土層説明
 I : 赤褐色化した焼土(2.5Y4/6)と炭の堆積層。
 II : 炭の堆積層。
 III : 暗赤褐色粘質土(5Y3/6)に焼土小粒や炭が混入。

第219図 焼土跡07 実測図



焼土跡08 土層説明
 I : 暗褐色粘質土(10YR3/2)に炭が混入する。

第220図 焼土跡08 実測図



焼土跡09 土層説明
 I : 焼熱した赤褐色土。

第221図 焼土跡09 実測図

焼土跡04号(第216図)

検出状況: V-31区で検出した。短軸0.58m×長軸0.6m×深さ0.15mで、平面形状は円形を呈する。底面には炭の堆積層(II層)が見られ、側面は被熱を受け赤色化している。

出土遺物: ヤコウガイが2点と礎1点が出土した。

焼土跡05号(第217図)

検出状況: V-31区で検出した。短軸0.53m×長軸0.54m×深さ0.24mで、平面形状は円形を呈する。底面には炭の堆積層(II層)が見られ、その層から採取した炭化物を用いた放射性年代測定と樹種同定を行った。放射性炭素年代が ^{14}C 年代(yrBP)340±20の値と樹種は広葉樹であるが種類の特定はできなかった(第IV章5節(2)参照)。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

焼土跡06号(第218図)

検出状況: M-11区で検出した。短軸0.5m×長軸0.7m×深さ0.1mで、平面形状は不定形である。明確な被熱面は確認できなかったが、遺構内には焼土塊や炭化物が混在しており、焼土跡として取り扱った。検出はIV層を掘り下げたV層であり、隣接するSB31と同じ検出面である。

出土遺物: 焼土塊45点と礎が1点出土した。

焼土跡07号(第219図)

検出状況: Q-20区で検出した。短軸0.18m×長軸0.28m×深さ0.46mで、平面形状はたまご型に近い楕円形を呈する。遺構内には赤色化した土の層と炭の層が確認された。大きさや断面形状から柱穴であった可能性もある。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

焼土跡08号(第220図)

検出状況: U-30区で検出した。短軸0.46m×長軸0.14m×深さ0.02mで、平面形状は不定形である。地形的に高くなっている場所に位置し、表土直下でみついていることから、遺構上部のほとんどが耕作などで削平され、底面の一部分だけが検出されたものと考えられる。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

焼土跡09号(第221図)

検出状況: M-13区で検出した。短軸0.27m×長軸0.43m×深さ0.03mで、平面形状は不定形である。地形的に高くなっている場所に位置し、表土直下でみついていることから、遺構上部のほとんどが耕作などで削平され、底面の一部分だけが検出されたものと考えられる。

出土遺物: 遺物は出土しなかった。

(5) 溝状遺構

中世と考えられる溝状遺構（以下「SD」）は、遺跡中央部に1条検出した（第156表）。以下、溝状遺構の詳細を述べることとする。

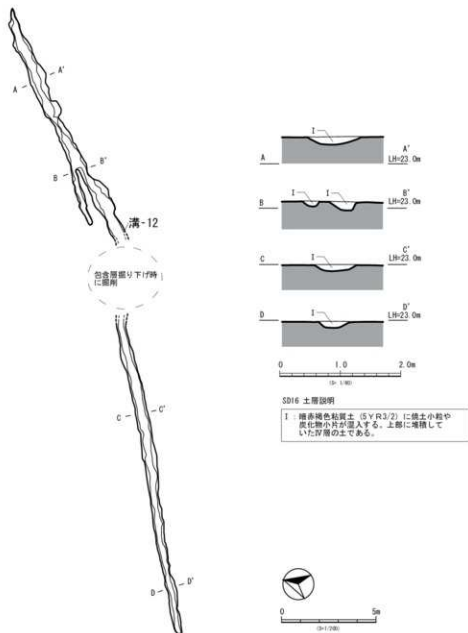
溝状遺構 16号 (SD16) (第222図)

検出状況：M～Q-13・14区で検出した。長さ約34.4m×最大幅約1.0m×最深0.15mで、東西方向に延びている。検出は、IV層を掘り下げた後のV層である。時期を特定できる遺物は出土していないが、同じ層で検出されている遺構に、

SB31と焼土跡06号がある。

なお、平面実測図は1/200で示してあるが、断面については1/60で示している。

出土遺物：遺物は出土しなかった。



第222図 SD16実測図

第156表 SD16観察表

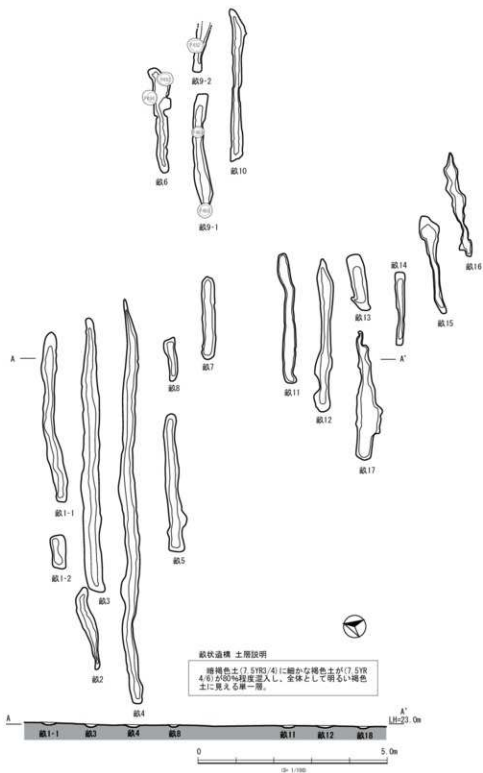
遺構名	出土区	検出面	最大幅(m)	長さ(m)	最大深度(m)	出土遺物
SD16	K-3	V層	1.0	33.4	0.15	遺物なし

(6) 畝状遺構

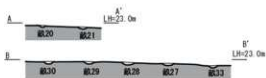
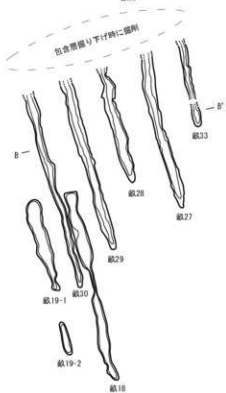
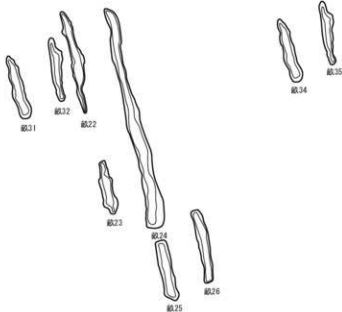
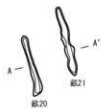
畝状遺構（以下「畝」）は、遺跡中央部特等端（L～O-11～14区）にまとまって35条検出した。軸方向から2つのグループに分けられる（畝1-1号～17号（第223図）と畝18号～35号（第224図））が、いずれのグループも長さ5.0m前後、深さ0.05～0.08mのものが多く、東西方向を軸に等間隔で並

んでいる。

検出面は、V層を掘り下げたVI層上面である。時代を特定できる遺物は出土していないが、V層で検出した中世と想定している遺構（SB31・焼土跡06・SD16）よりも古いと考えられる。なお、畝6号と畝9-1号・畝9-2号は中世のピット5基（P482～P484・P468・P469）に切られている。

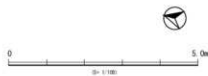


第223図 畝状遺構1号～17号実測図

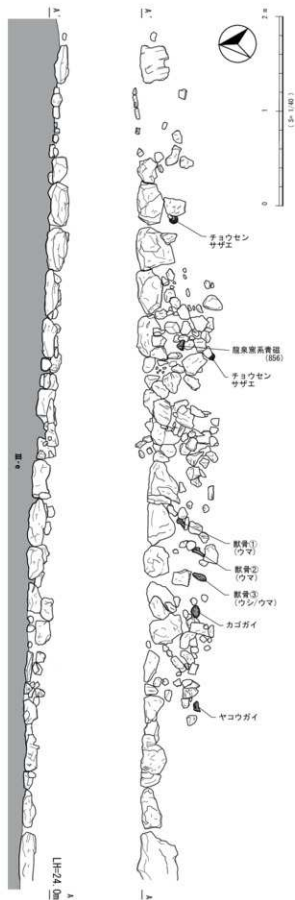


畝状遺構 土層説明

暗褐色土(7.5YR3/4)に細かな褐色土が(7.5YR4.6)が5%程度混入し、全体として明るい褐色土に見える単一層。



第 224 図 畝状遺構 18 号～ 35 号実測図



第225図 石列1号実測図

(7) 石列1号 (第225図・第157表)

遺跡北側 (V-30区) から石灰岩を列状に並べた遺構を1基検出した。検出は、表土(1層)除去後のIII-e層である。掘り込みは確認できなかったため、III-e層堆積後、あるいは堆積している段階で石列を組んだものと考えられる。検出した場所の地形は、西から東に向かって緩やかに上っている場所で、石列の軸も東西方向であった。

石列は、北側は面が揃っている状態で検出したが、南側の面や、標高の少し高くなっている東側部分は残りが悪く、耕作などにより消滅している可能性がある。残存部では長さ9.0m×最大幅0.9mを測る。

検出面や石列内部から龍泉窯系青磁などが出土するため、遺構の時期は中世(14～15世紀)の頃と想定している。石列はこの1基を検出したのみであり、土止めなどの可能性も考えられ、検出状況からはその用途を特定することが難しい。

出土遺物は、龍泉窯系青磁3点、ウマ、ウシ/ウマなどの獣骨3点、チョウセンサザエ2点、ヤコウガイ1点、カゴガイ1点、礎4点である。このうち龍泉窯系青磁2点を実測した。

第157表 石列1号観察表

遺構名	出土区	検出面
石組み1号	V-30	III-e層
最大幅(m)	長さ(m)	高さ(m)
0.9	9.0	0.24(残存部)
出土遺物		
龍泉窯系青磁(3)、獣骨(3)、チョウセンサザエ(2)、ヤコウガイ(1)、カゴガイ(1)、礎(4)		

(8) 製鉄関連遺構

製鉄関連遺構は、遺跡南側（P-7・8区）で検出した土坑 32号（SK32）と溝状遺構 17号（SD17）である。互いに隣接する遺構で、表土を除去した後のA層（地山）で検出した。

遺構検出時より鉄滓が多く見られ、これまで傾り遺跡で検出していた溝状遺構や土坑との違いが見られた。特に SD17 については遺構北側に微細な焼土ブロックを含む赤色化した土の堆積が見られ、鉄滓が集中している状況であった。遺構内から出土している鉄滓が炉内残留滓と炉外流出滓であることや、炉外流出滓の流動痕跡から製鉄操業初期から操業終盤まで一連の鉄滓があること、また、炉壁や鉄塊など製鉄関連遺物も出土していることなどから、製鉄関連遺構として扱うこととした（第IV章第1節参照）。

出土遺物のほとんどが鉄滓であったが、SD17 から一括で取り上げをした遺物に滑石二次加工品があることや周囲で見ついている遺構の時期から、これらを 11 世紀末～12 世紀頃の遺構と想定した。この時期の製鉄に関する遺構は当時南

西諸島では見つかっておらず、今後の喜界島の歴史的评价等にも大きく影響していく重要な遺構であると判断され、周囲 879 m を町保有地として盛土保存することになった。取り上げを保留していた遺物についても記録を取った後、原位置のまま埋め戻した。

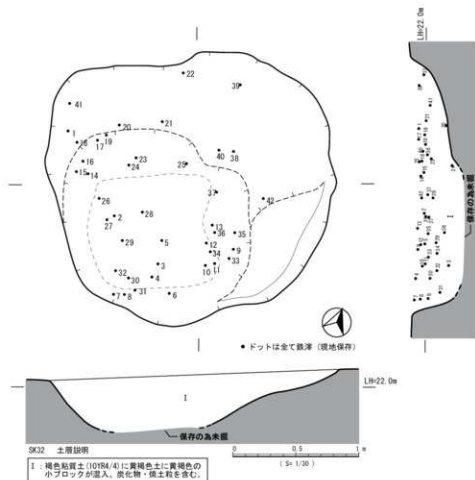
以下、各遺構の詳細を述べる。

土坑 32号（SK32）（第226図・第158表）

検出状況：短軸 2.18m×長軸 2.33m×深さ 0.4m（推定）の円形をした土坑である。北側から南側に向け傾斜し、深くなっている。遺構内からは少なくとも 42 点ほどの鉄滓を検出し記録を取ったが、遺物の取り上げ及び遺構の完備までは行わずに埋め戻している。

溝状遺構 17号（SD17）（第227図・第159表）

検出状況：長さ 9.0m×最大幅 1.8m×最大深度 0.35m を測り、南北方向に軸を持つ溝状遺構である。南側は検出できなかった。



第 226 図 SK32（製鉄関連遺構）実測図

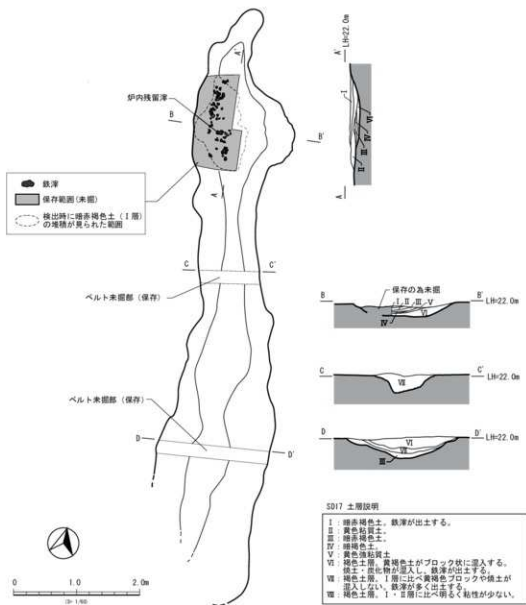
第158表 SK32（製鉄関連遺構）一覧

遺構名	出土区	検出面	平面形状	短軸(m)	長軸(m)	深さ(m)	出土遺物
SK32	P-8	Ⅷ層	円形	2.18	2.33	0.4(推定)	鉄滓(現地保存分約40点)

北側に暗赤褐色土（I層）の堆積があり、鉄滓が集中して検出された。当初は排滓土坑の可能性を考慮調査を進めたが、明瞭な掘り込みは見られずSD17の一部として扱うこととした。I層の下層は黄褐色土と暗赤褐色土の互層が見られ、鉄滓の出土状況などから周囲にあった炉や被熱した土が流れ込んで堆積した可能性が考えられる。南側の被熱が見られなかった範囲は、先行して調査を行った際に鉄滓が散在して出土した。

保存が決定した時点では完掘に近い状況であったが、遺物の取り上げと遺情掘り下げを保留していたI層の堆積する周囲。また、断面確認用のベルト2か所を埋め戻している。

出土遺物：鉄滓約221点（うち、現地保存約60点）、鉄塊2点、炉壁9点、須惠器1点、土器1点、滑石二次加工品1点、ヤコウガイ1点などが出土した。これらのうち、鉄滓14点、鉄塊2点、炉壁3点、滑石二次加工品を1点実測した。



第227図 SD17（製鉄関連遺構）実測図

第159表 SD17（製鉄関連遺構）観察表

遺構名	出土区	検出面	最大幅(m)	長さ(m)	最大深度(m)	出土遺物
SD17	P-7	Ⅷ層	1.8	9.0	0.35	I層：鉄滓(現地保存分約60点) VI層：鉄滓(33点 438g)、鉄塊(2点 24g) VII層：鉄滓(1点 45g) 一括：鉄滓(117)、炉壁(9)、滑石二次加工品(1)、須惠器(1)、土器(1)、ヤコウガイ(1)、礎(11)

(9) 遺構内・包含層出土遺物

ここでは、中世の遺構出土遺物と包含層出土遺物をまとめて紹介する。中世の遺構からは遺物が2,672点出土し、そのうち図化したものは119点である。包含層からは15,859点出土し、192点を図化した。以下、図化した遺物について遺構ごとに記述する。遺物観察表は末尾の第160～165表に一括して掲載することとする。

なお、遺構内出土遺物については各遺構に記載している集計表を、包含層出土遺物一覧については第V章基礎資料の第245～248表を参照されたい。

掘立柱建物跡内出土遺物

SB03 (第228図, 第160表)

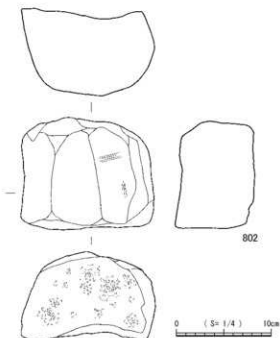
802は台石である。被熱を受け破砕したものと見られる。

SB06 (第229図, 第160表)

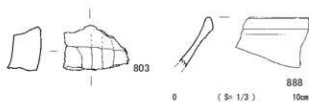
803は滑石製石鏃である。粒子の荒い滑石を使用している。888は白磁陶V型の口縁部である。

SB07 (第230図, 第160表)

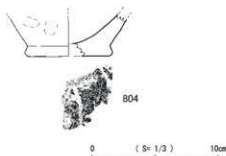
804は兼久式土器の底部である。底面に圧痕が残る。胎土はヤヤ泥質で、有色鉱物などを混和材に含む。



第228図 SB03 出土遺物



第229図 SB06 出土遺物



第230図 SB07 出土遺物



第231図 SB10 出土遺物

SB09 (第231図, 第160表)

805は滑石二次加工品である。胴部を利用した棒状加工品の一部である。楔切り技法で割り取った痕跡が認められる。

SB13 (第232図, 第160表)

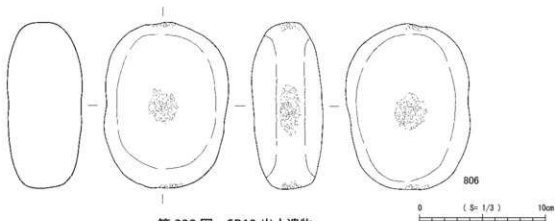
806は磨崖石である。完形品である。各側面中央部分をよく使用しており凹んでいる。

SB18 (第233図, 第160表)

807は布目圧痕土器である。砂質で混和材に金色の雲母を含む。

SB19 (第234図, 第160表)

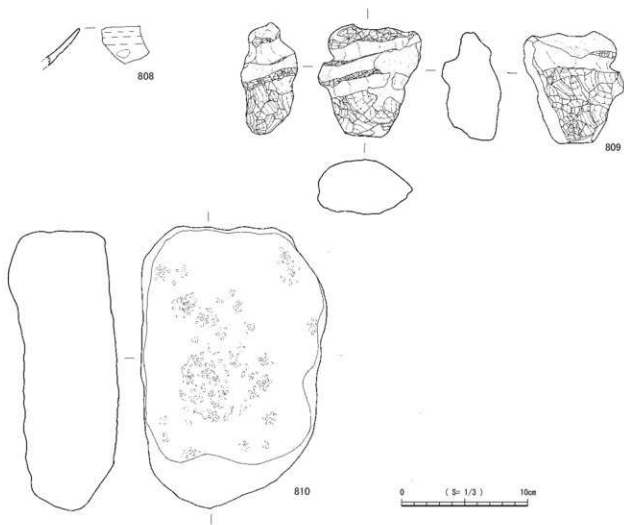
808は白磁皿である。ヤヤ内湾気味の口縁形状で、内面に圈線を施す。809は石製品である。破損した台石を転用したものと考えられる。溝状の凹みが2カ所あり、紐づれ痕などが確認できないが、重りなどに使用する目的で製作したものと考えられる。810は台石である。破損後も敲打されており、繰り返し使用していることがうかがえる。



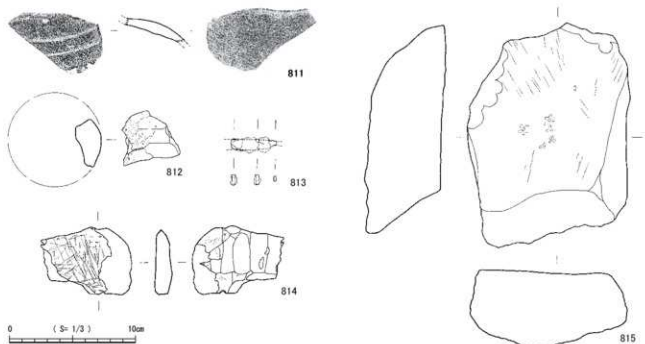
第 232 図 SB13 出土遺物



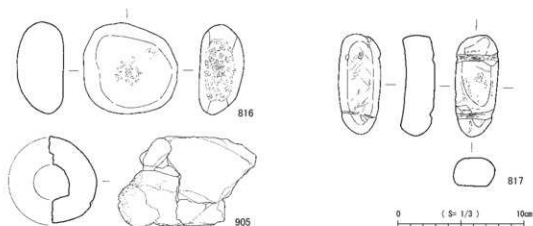
第 233 図 SB18 出土遺物



第 234 図 SB19 出土遺物



第 235 図 SB21 出土遺物



第 236 図 SB22 出土遺物

SB21 (第 235 図, 第 160 表)

811 はカムイヤキである。壺の肩部である。内外面ともやや増成しており、調整は不明瞭である。812 は輪の羽口である。外面部は一部崩壊し、気泡が表面に見られる。813 は鉄製品である。小型の刀子状の製品であると思われるが、工具類の可能性もある。814 は滑石製石鏝である。内面には使用痕が顕著に見られる。割り通りの痕跡は見られず、自然破損したものと考えられる。815 は台石である。

SB22 (第 236 図, 第 160 表)

816 は磨礫石である。図上左右側面に敲打痕が多く見られる。817 は滑石製石鏝の胴部を利用した二次加工品である。上部と下部に抉りを入れている。下部は裏側まで抉りが入っている。905 は輪の羽口である。

SB 25 (第 237 図, 第 160 表)

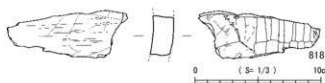
818 は滑石製石鏝である。貫通穿孔が 1 か所見られる。

SB 26 (第 238 図, 第 160 表)

819 は滑石二次加工品である。バレン状の製品であると見られる。

SB 27 (第 239 図, 第 160 表)

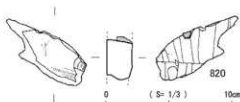
820 は滑石製石鏝である。貫通穿孔が 3 か所見られ、1 か所には鉄片が残存している。



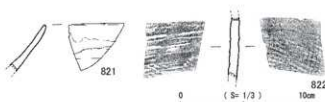
第 237 図 SB25 出土遺物



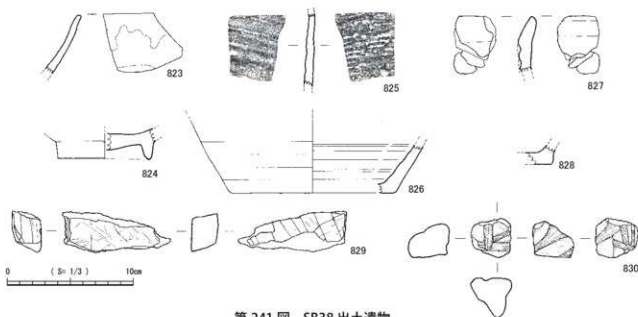
第 238 図 SB26 出土遺物



第 239 図 SB27 出土遺物



第 240 図 SB28 出土遺物



第 241 図 SB38 出土遺物

SB 28 (第 240 図, 第 160 表)

821 は白磁皿である。口縁部は軸だけが見られ、体部外面は臍胎である。822 はカムイヤキである。

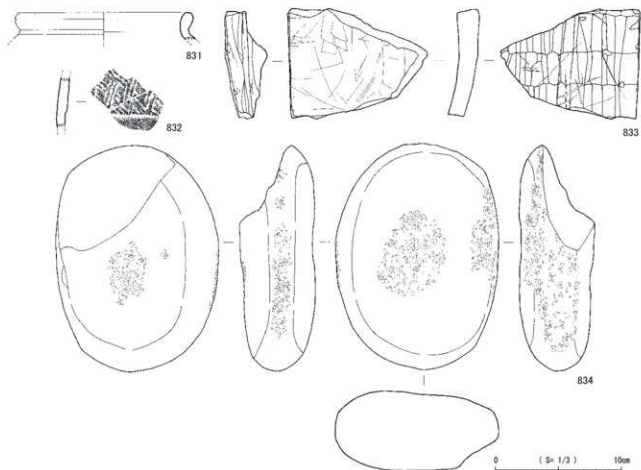
SB 38 (第 241 図, 第 160 表)

823・824 は白磁碗である。太宰府分類白磁碗V類に相当する。接合はしないが、軸色や胎土の雰囲気から同一個体である可能性が高い。825・826 はカムイヤキである。いずれも接合しないが、焼成状況や胎土が類似しており、同一個体片である可能性が高い。827 は内面が破損し、不明瞭であるが、土師器甕型土器であると見られる。828 は土器の底部片であ

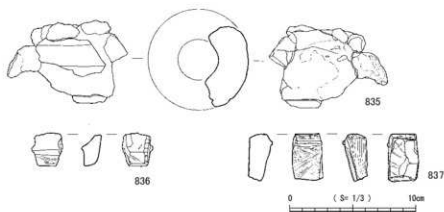
る。底面土ややねんでいる。829 は滑石製石鍋である。側面には擦り切り後破断している部分が見られる。破断面も黒色化していることから、割り取った後も火の近くに置かれていたことが考えられる。830 は有溝砥石である。三角形を呈しており、各面に溝が見られる。

SB 39 (第 242 図, 第 160 表)

831 はカムイヤキである。口径の広い壺もしくは鉢の口縁部である。832 は縄文土器である。鉤歯文が施されており、文様を施文している部分は肥厚している。本報告土器IV-c類(第三章2節(2)参照。以降、土器分類については同じ。)



第 242 図 SB39 出土遺物



第 243 図 SB40 出土遺物

に相当する。833 は滑石製石鐸である。側面に擦り切り後、破断した痕跡が見られる。破断後に火の近くに置かれていたようで、黒く変色している。834 は磨礫石である。

SB 40 (第 243 図, 第 160 表)

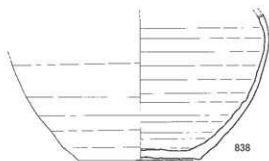
835 は輪の羽口である。外面の一部は被熱し、変色している。836・837 は滑石製石鐸の縦耳部分を切り取ったものである。

土坑墓

土坑墓1号 (第244図 第160表)

副葬品

838・839 はカムイヤキである。838 は壺の胴部下半～底部まで残存している。外面は丁寧にナデられており、非常に薄く丁寧に作られている。839 は底部が約 1/4 残存している。838 よりも厚く、外面に平行状叩き・内面に格子目状当て具が残り、ナデが徹底されていない。器壁は底面の厚さより、胴部の厚さの方が薄い。



土坑墓2号 (第245図 第160・161表)

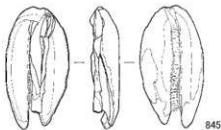
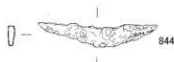
840 は土器の底部である。底面は充填しておらず、中空状になっている。胎土は砂質であるが、焼成良好である。841 は滑石混入土器である。842 は滑石製石鏝の口縁部である。

副葬品

843 はカムイヤキ壺である。口径 11cm×底径 9cm×器高 16cm を測る完形品である。口縁部は丸みを帯びた形状である。外面面に平行状叩き痕が残り、ナデは徹底されていない。焼成時の熱でやや暗く変色した部分が見られる。844 は刀子である。完形品で半月状を呈している。845 はタカラガイである。貝の種類はムラクモダカラと見られる。特に人為的な加工痕は見られぬ。



第244図 土坑墓1号出土遺物



第245図 土坑墓2号出土遺物

0 (S= 1/3) 10cm

土坑

SK18 (第246図, 第161表)

846~848は滑石製石鏝である。846は貫通穿孔が1か所、未貫通穿孔が1か所見られる。847は底部である。848は胴部片を再加工したものである。破断面は全面削られ平滑である。貫通穿孔1か所有り。

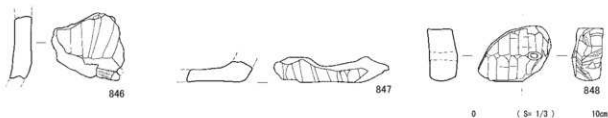
SK20 (第247図, 第161表)

849はカムイヤキである。外面には平行状叩き痕が残る。焼成良好で堅緻である。850~852は滑石製品である。850は底部である。底面に貫通穿孔がある。851は小型の製品である。

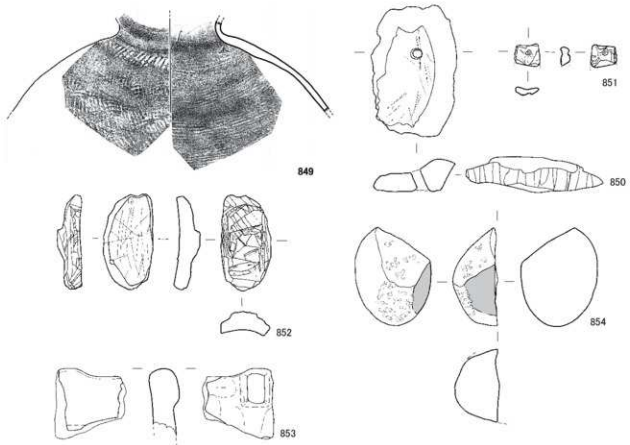
852は底部部分を削りだしてバレン状製品を製作しようとしている加工途中品である。突起部を削りだす途中で加工が止まっている。853は滑石混入土器である。縦耳の石鏝を模倣したものである。縦耳部分がもり上がっており、口縁部はギザ波状になっている。滑石の粉末が多く入っており、質感は石鏝に近い。854は磨礫石である。特に先端部に敲打が集中している。

SK25 (第248図, 第161表)

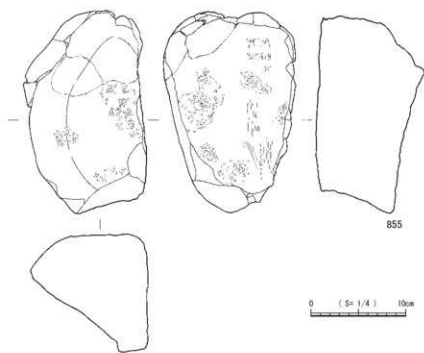
855は台石である。敲打痕が全面に見られる。



第246図 SK18 出土遺物



第247図 SK20 出土遺物



第 248 図 SK25 出土遺物

石列

石列1号 (第249図, 第161表)

856・857は龍泉窯系青磁である。856は無文外反筒である。軸は薄くかめいる。ややくすんだ色をしており、二次的に被熱した可能性もある。857は底部である。見込みは輪状に軸刺ぎされており、高台内部は露胎である。

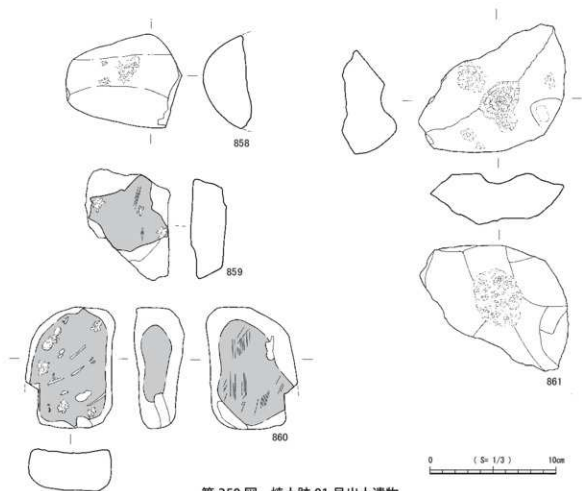


第249図 石列1号出土遺物

焼土跡

焼土跡01号 (第250図, 第161表)

858～861は磨敲石である。860は玉玉完形品で、表面は擦痕が見られるが、裏面は凸凹が多く見られ、使用する面によって敲くこと・磨ることの用途を使い分けられていることが伺える。861は石器が破損した後も敲打具として使用されており、破断面に敲痕が残る。



第250図 焼土跡01号出土遺物

製鉄関連遺構

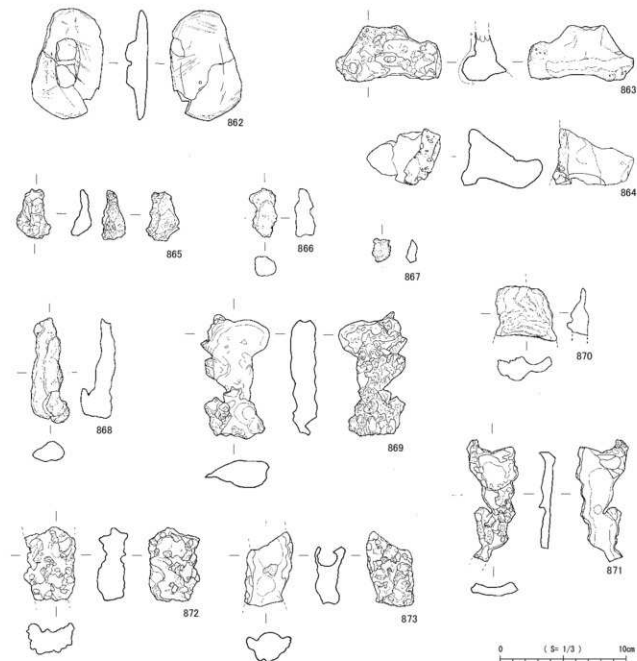
SD17 (第251・252図, 第161表)

SD17の出土遺物は滑石製品1点(862)を除くと、すべて製鉄関連遺物である。862はバレン状に加工した滑石製品である。突起部には横位の貫通穿孔が1カ所みられる。

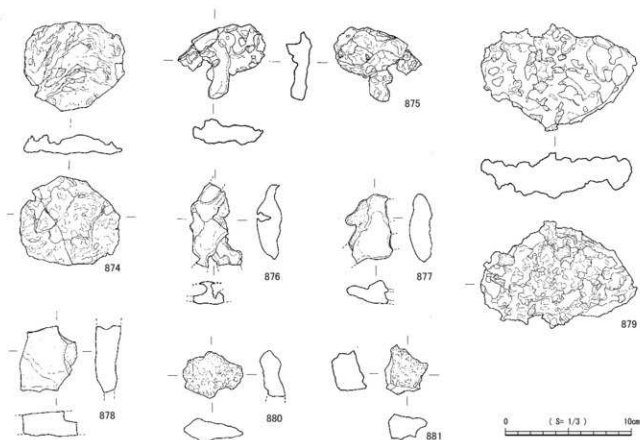
製鉄関連遺物には炉壁(863~865)、鉄滓(866・867)、鉄滓(868~880)がある。鉄滓はすべて製鉄滓であり、が外流出滓(868~878)と炉内残留滓(879・880)とに分けられる。

炉壁(863~865)

863は築炉時の地面に最初に置かれた粘土塊であり、炉壁最下段に当たる。内面は熔損し、浸食されており、また鉄滓が熔着し、大小の球状滓が付着している。外面は風化し、本来の表面を失っている。底面には鉄滓との接触痕が認められ、炉内側から鉄滓がしみ出した痕跡とみられる。864も炉内の鉄滓付着面を残し、外面は本来の表面を失っている。外面が黄褐色。炉内に近い内側は灰色を呈している。865も鉄滓が熔着する炉壁片である。



第251図 SD17(製鉄関連遺構)出土遺物(1)



第252図 SD17(製鉄関連遺構)出土遺物(2)

鉄塊 (866・867)

鉄塊は前面を赤錆に覆われており、強い磁性をもつ。866は棒状の鉄塊であり、表面がなめらかであり、微小な粒状の突起をもつ。867は板状の小型鉄塊である。それぞれ20g、4gを測るが、鉄分が溶脱して球状よりも軽い可能性がある。

炉外流出滓 (868～878)

製鉄滓のうち、炉外に流出した流動滓は総計2,837gを測り、その形状・表面の特徴や色調で分類が可能である。868・869はその他の流動滓が赤褐色を呈するのに対し、灰色を呈しており、流動性に乏しい。870・874は表面に流れ痕を残す流動滓であり、とくに870は流出した際の先端部に当たる。870～873は平面形が長条形で、底部が湾曲しており、筋状に流出した鉄滓である。とくに872・873は両側縁が立ち上がっ

ており、製鉄炉の出滓孔近くで冷却されて固まった鉄滓である。875～877は複数の瘤が認められ、小型鉄滓が融着したようにも見えるが、高温のため内部で発泡して表面が瘤状を呈したものである。878は厚く、断口が緻密である。

炉内残留滓 (879～881)

炉内残留滓879は表面に炉壁の小片を噛み込んでおり、炉底凹点が著しく、炉料に鉄滓が垂下した痕跡を残している。880は炉底残留滓の小片であり、表面や断口には鉄塊の嵌入が認められる。881はSD17出土遺物ではなくSD17付近に堆積していたII層から出土しており、880と同様の特徴をもつものである。参考資料として提示しておく。

以上の製鉄関連遺物については第IV章(1)においてさらに詳しく説明することとする。

ビット内出土遺物 (第253~256図, 第161・162表)

882~886は龍泉窯系青磁である。882~884は口縁部である。882・883は無文反碗で、882は軸が薄く、883はやや厚めに軸が効いている。884は全体的に変色しており、器表面に気泡が見られることから二次的に被熱しているものと見られる。885は片彫り連弁文碗の底部である。軸は薄く高台の一部までやや雑にかけられている。886は無文反碗の底部であるとみられる。中央部に印花文がある。軸は薄く均一にかわり、貫入が入る。高台外面は軸割ぎされ、内面は露胎である。

887~891は白磁である。887は碗IV類の口縁部である。890は碗IV類の底部である。889は口唇部に欠損しているが、口縁部に近い部分で、碗V類と見られる。外器面には縦縞目文、内面に1条墨線が施されている。891も碗V類の底部で細かい貫入がみられ、高台外面まで施軸される。

892~895はカムイヤキである。895の胴部上半部は叩き・当て具痕が明確に残っている。

896・897は滑石混入土器である。896は外器面にヘラ状工

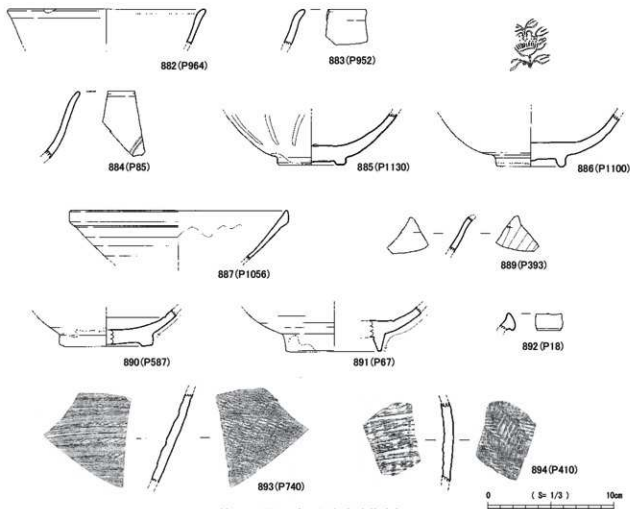
具で加工した痕跡が見られ、石鏝を模倣したものと考えられる。

898~902は滑石製石鍋である。899は縦耳の下部部分である。幅広の縦耳である。901・902は底部である。901は破損後に一部転用しようとしたようで、中央部分に磨痕がみられる。また、貫通穿孔が3か所見られ、内1か所に鉄片が残存している。902はやや粗質の滑石を使用しているため、多孔質である。

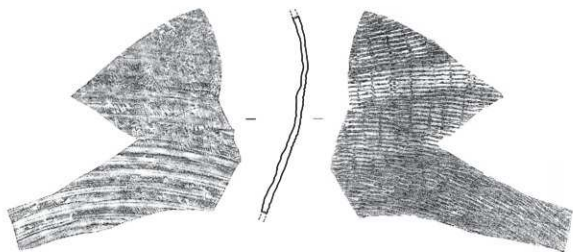
903・904は滑石製品である。903は中央部に挟りが入り、錘状に加工されている。904はT字型に加工されている。中央部に貫通穿孔があり、下側は破損している。

906は輪の羽口である。羽口の先端部で、表面はガラス質化している。

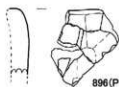
907~910は金属製品である。907・908は断面四角形をした鉄製品である。907は釘状もしくはかすがい状の製品と考えられる。909は鎌状の鉄製品である。基部に近い方は袋状になっている。910は薄い板状の銅製品である。



第253図 ビット出土遺物(1)



895 (P566)



896 (P347)



897 (P80)



898 (P331)



899 (P68)



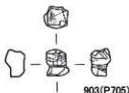
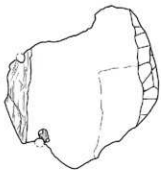
900 (P617)



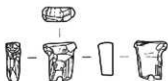
901 (P744)



902 (P289)



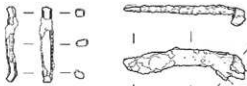
903 (P705)



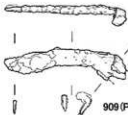
904 (P340)



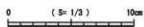
906 (P657)



907 (P331)



909 (P1056)

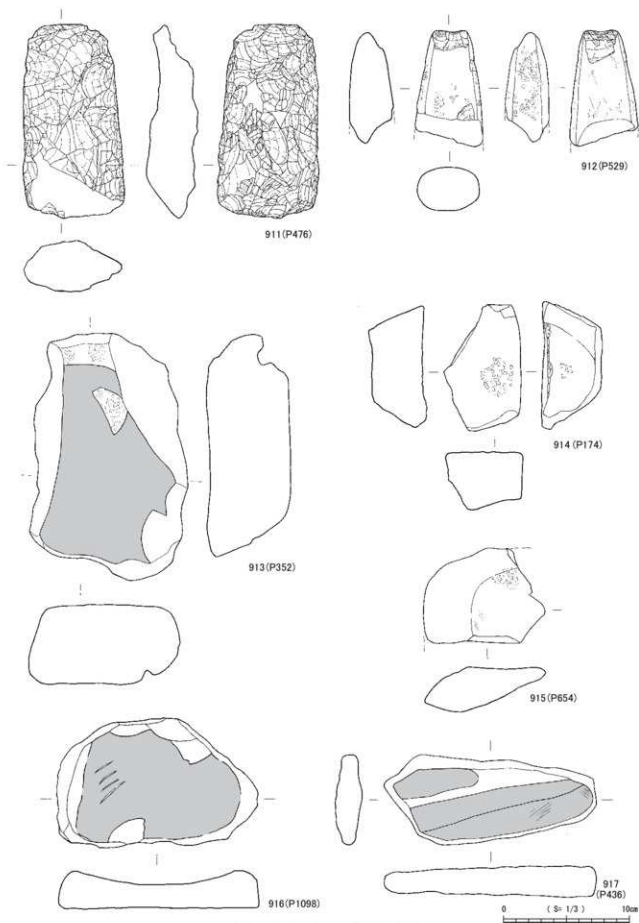


908 (P331)

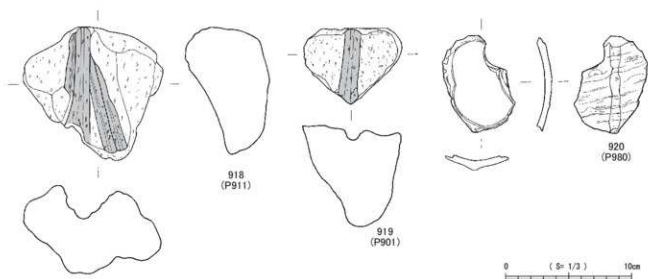


910 (P938)

第 254 図 ビット出土遺物 (2)



第 255 図 ビット出土遺物(3)



第256図 ビット出土遺物(4)

911～917は石器である。911・912は石斧である。911は緑色岩を使用した大型の磨製石斧であったと見られる。全面剥離されている。912は石斧の基部分である。端部は先細りしている。側面には敲打痕が見られ、打具としても使用されていたようである。913は台石である。やや軟質な砂岩を使用しており、断面部に多孔状になっている部分が見られる。

914・915は磨製石である。914は石器が破損した後も打具として使用されており、破断面側面に敲打痕が見られる。

916は石皿である。使い込まれており、中央部が平んでいる。目の細かい砂岩を使用している。側面には敲打痕が見られる。

917は台石などの大型石器が破損後に転用したものだと考えられる。側面には部分的に敲打痕が見られる。918・919は軽石に対して棒状の何かを当て、擦った痕跡が残っているものである。幅は0.8～1.0cmで918では何回も擦られ、重複している痕跡が伺える。

920はヤコウガイを使用した貝製品の加工途中のものである。内面には切り取り途中の痕跡が残る。

包含層出土遺物

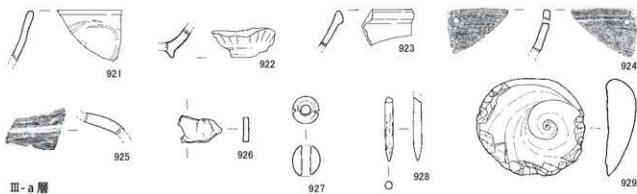
Ⅲ層出土遺物 (第 257・258 図, 第 162・163 表)

Ⅲ-a 層出土遺物 (921~929)

921~923 は龍泉窯系青磁である。921 は直口気味の口縁で、外器面に草花文が施される。軸は厚くかかっている。922 は外面に輪連弁文、内面に双魚文の貼付文が施されている。923 は玉縁椀である。924・925 はカムイヤキである。924 は貫通穿孔が1か所ある。926 は板状の鉄製品である。927 はガラス玉である。表面が風化し、白色化している。928 は細粒砂岩を石材とする棒状の石製品である。片側の先端は破損しているが、もう一方の先端は細くなり、鉛筆のような形状をしている。全体に断面が観察できる。929 はヤコウガイの蓋を利用した螺蓋製鉄打具である。

Ⅲ-b 層出土遺物 (930~936)

930 は連弁文のある青磁碗である。蓮江窯の可能性ある。931~934 は龍泉窯系青磁である。931・932 は無文外反碗である。931 の軸は薄い。932 は玉縁状の口縁部を持つ。933 は坏である。口折れの口縁部である。外器面に無紋連弁文が施されているが、表面に気泡が見られ、二次的に被熱している。934 は盤である。幅広の沈線文が施される。935 は掲輪陶器である。936 は板状の鉄製品である。



Ⅲ-a 層



Ⅲ-b 層

第 257 図 Ⅲ層出土遺物(1)

Ⅲ-d 層出土遺物 (937~940)

937・938 は龍泉窯系青磁である。937 は連弁文碗である。938 は無文外反碗である。軸は薄く施されている。939 はピロースクタイプ白磁碗である。940 は掲輪陶器である。

Ⅲ-e-d一括取り上り遺物 (941~943)

941・942 は無文外反する龍泉窯系青磁碗である。941 の軸は薄く施されている。942 の器壁はやや厚めで軸も厚く施されている。943 は白磁のピロースクタイプ碗Ⅲ類である。

Ⅲ-g 層出土遺物 (944・945)

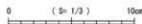
944・945 は白磁である。944 は内湾するもので、945 はピロースク碗Ⅲ類である。

Ⅲ-j 層出土遺物 (946~949)

946~948 は龍泉窯系青磁である。946・947 は無文外反碗で、軸は薄く施されている。948 は底部である。軸は薄く、高台内面まで施軸されている。

Ⅲ-k 層出土遺物 (950~956)

950~952 は龍泉窯系青磁である。950 は無文外反碗で、器壁は厚めで軸も厚くかかっており、少しぼつりとした印象を受ける。951 は全体的に軸が厚めで、高台の作りもやや甘い。高台内面は蛇目状に軸刺ぎされている。952 は盤である。

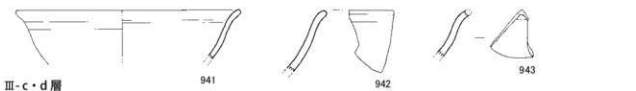


953はカムイヤキA群の口縁部である。954は縄文土器である。胎土は肥質で、口縁付近に横立と縦立に刻目貼付突帯を施す。外面には繩歯状の細丸線文も施され、本報告土器V'b'類に相当する。

955は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は4面あり、合計5条の溝がある。956は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。両平坦面中央部は浅く凹んでおり、側面にも敲打痕が観察される。



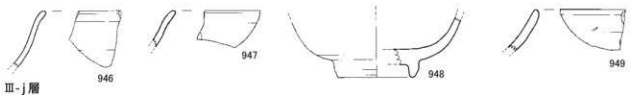
III-d層



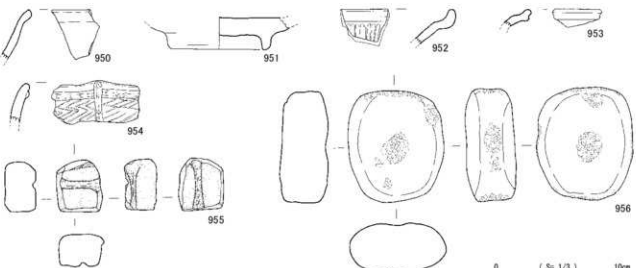
III-c・d層



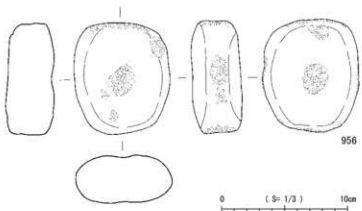
III-g層



III-j層



III-k層



第258図 III層出土遺物(2)

IV層出土遺物 (第259図, 第163表)

IV-a 層出土遺物 (957~966)

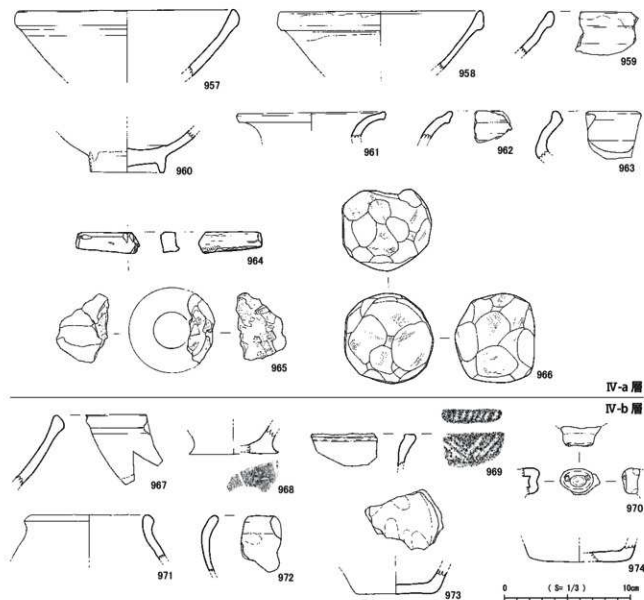
957~959は白磁碗IV類の口縁部である。958は胴部の大部分が剥胎である。959は口縁部付近に軸だげが見られる。960は白磁碗V類の底部である。961~963はカムイヤキA群の口縁部である。964は滑石二次加工品である。滑石の口縁付近を切り取って加工している。965は轆の羽口である。外面部は一部剥解し、気泡が表面に見られる。

966は粗粒砂岩を石材とする石製品である。球形に加工されているが、用途は不明である。

IV-b 層出土遺物 (967~974)

967は白磁碗IV類の口縁部である。968は兼久式土器底部

である。底部外面には木炭痕が残る。胎土は泥質である。969はIIb類土器である。口唇部に刻み目、外面に凹線で文様を施している。970はVIII類に分類した砂質土器である。円柱状の突起に未貫通の凹みを2点施し文様としている。突起の内面は中空である。口縁部などの装飾部と考えられる。971・972はVIII類に分類した泥質土器の口縁部である。残存部に文様は見られない。971は口縁部をわずかに肥厚させている壺型の土器である。972の外面にはオサエによる調整が観察できる。973・974は泥質土器の平底底部である。973は内面にオサエによる調整が観察でき、底径が6.4cmに復元できる。974の底径は8.2cmに復元できる。



第259図 IV層出土遺物

VI層出土遺物 (第260~262図, 第163・164表)

VI-a層出土遺物 (975~986)

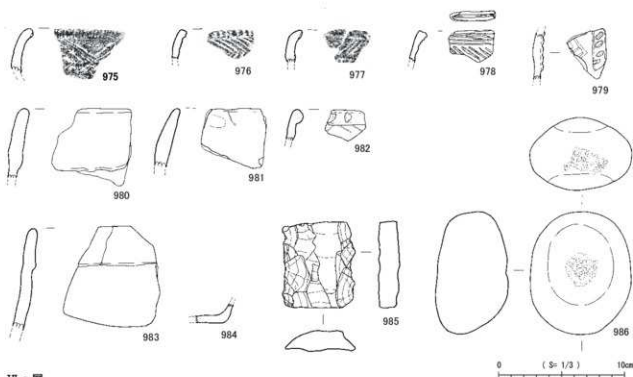
975~977はI類土器である。975は胎土に金色の雲母が混入する。978はII-b類土器である。口唇及び口縁外面には沈線による文様が施されている。胎土に金色の雲母が混入し、器壁は薄くしっとりとしている。979はV-b類土器の胴部である。縦位に刻目貼付突帯があり、沈線による鋸歯状の文様がわずかにみられる。980はVII-a類土器である。981はVIII類に分類した泥質土器口縁部である。器壁は厚く、また、残存部には文様は見られない。982はV-b'類土器である。983はVII-a'類土器である。内面にオサエによる器面調整が見られる。984は泥質土器の平底底部である。

985は粗粒砂岩を石材とするスクレイパー状の石器である。両端を打製により加工し、刃部のような形状を持つ。986は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。

VI-b層出土遺物 (987~1039)

987~993はI類土器である。987は縦位の耳が取り付けられていた痕跡が残る。988~992は胎土に金色の雲母が混入する。993は口唇を肥厚させ、口縁部断面形状としてはII類に近い形を呈する。口唇は波状にし、口縁外側に1条の細い突帯を貼り付けその下部に沈線による文様を施している。I類に分類したが、他のI類より器壁は厚い。994・995はII-b類土器である。994は口唇部に細かな刻目を施し、内面に口唇に沿った1条の凹線、外面に凹線による文様を施してい

る。波状口縁である。985は太い刻目目と外面に細沈線による文様が施されている。996はIV-d類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。997はIV-e類土器である。波状口縁で、器壁は厚い。998・999はV-a'類土器である。口縁下部に横位に刻目突帯を施している。1000はV-b類土器である。口縁に沿って1条の刻目目貼付突帯を施し、その下部に鋸歯状の文様を細沈線で施している。1001~1011はV-b'類土器である。刻目目や連点を施した突帯を横・縦位に貼り付け、沈線による文様を施している。1008~1010は波状口縁である。1012はVI-a'類土器である。肥厚させた口縁下部に細い貼り付け突帯を1条横位に施し、細沈線による文様を施している。1013はVIII類に分類した砂質土器である。口縁の断面形状は舌状で、外面に細沈線を組み合わせて籠目のような文様を施している。1014~1018はVIII類に分類した泥質土器である。1014は口縁をわずかに肥厚させた壺型土器と考えられる。残存部に文様は見られない。1015は口唇に沿って張り付けた突帯の痕がわずかに見られる壺型の土器である。外面にはオサエによる器面調整が観察できる。V-a'類に近いが口唇部が舌状であることから今回はVIII類に分類した。1016~1017は残存部には文様は見られない土器で、1016は口唇部が少し内側に飛び出した形状を持つ。1017は横位の取っ手が張り付けられている。1018は口縁部を断面形状が方形に近い形に肥厚させ、方形の工具で施文している。内面にはナデとケズリ、外面にはオサエとナデによる調整が観察できる。1019は



VI-a層

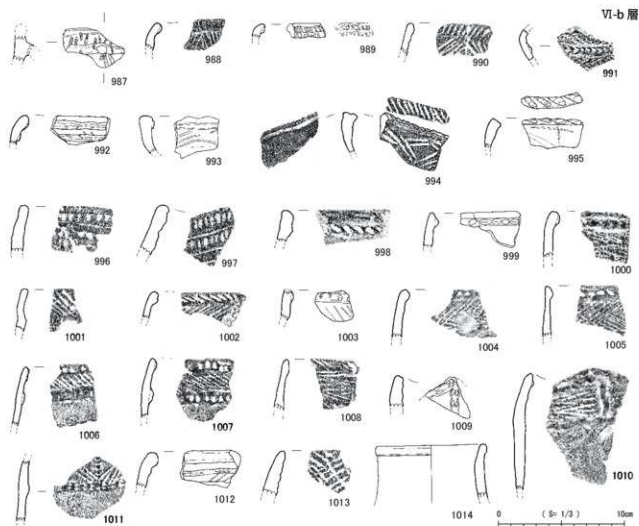
第260図 VI層出土遺物(1)

砂質土器の裝飾部と考えられる部分である。粘土をアーチ状にし、連点を施した薄粘土を中央部に網目に貼り付けている。1020は砂質土器の耳の部分と考えられる。沈線による文様が施されている。

1021~1024は砂質土器底部である。1021・1022は平底で1023・1024は尖底である。1025~1031は泥質土器底部である。1025~1030は平底である。1027の底径は7.4cm, 1028が7.6cm, 1029が5.8cmに復元できる。1031は尖底である。

1032は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は3面あり、合計3条の溝がある。1033は斑岩系の石を石材とする石皿である。図面中央部から右側にかけて帯状の敲打痕が見られる。1034は中粒砂岩を石材とする砥石である。1035は緑色岩を石材とする石斧の刃部である。刃部には剥離が見られる。1036は粗粒砂岩を石材とする磨敲石である。1037は斑状玄武岩を石材とする棒状の石製品である。表面には細か

な敲打痕や剥離が観察される。片側は欠損しており全体形状や用途は不明である。1038はチャートを石材とする石核である。1039は泥岩を石材とした石製品である。平面形状は逆三角形を呈し、厚さは1.1cmである。上部には貫通した穴が1つ穿たれているが、穴の半分より上は欠損している。紐ずれ等は確認できないが、形状から裝飾品の可能性はある。



第 261 図 VI層出土遺物(2)



IV-b 層

第 262 圖 VI層出土遺物(3)

0 (S= 1/3) 10cm

Ⅶ層出土遺物 (第263～266図, 第164・165表)

Ⅶa層出土遺物 (1040～1107)

1040～1045はⅠ類土器である。いずれも幅の細い突帯とその下部に細沈線による文様が施されている。突帯の施文は、1042・1043は叉状工具による細かな連点。その他のものは細かな沈線文を施している。1041・1043・1045は胎土に金色の雲母が混入する。1046～1048はⅡa類土器である。口唇部に施されている刻み目は幅広く、波を打ったような形状となっている。1048の外面には貝殻条痕が残る。1049はⅡb類土器である。内面には口縁に沿って1条の凹線文が施され、外面にも凹線による施文が施されている。胎土には金色の雲母が混入し、器壁は薄くしっかりしている。1050はⅡc類土器である。波状口縁を持つ土器の装飾部と考えられる。波状口縁の突帯部を肥厚させ、帯状の粘土を縦立や横立に貼り付け押引文を施している。1051～1053はⅣd類土器である。1052・1053の胎土には金色の雲母が混入する。1054～1056はⅤb類土器である。1054は口縁に沿って貼付突帯を施し、その下部に細沈線による施文が見られる。1055・1056は貼付突帯を縦立と横立に施し、刻み目に近い連点や沈線により文様を施している。1057～1062はⅤa'類土器である。いずれも口縁直下に1条の貼付突帯が施されている。1058～1060は突帯に連点が施されている。1061はやや幅の広い突帯に叉状の連点が施されている。1062の突帯は細細く施文はされていない。1063～1077はⅤb'類土器である。1063・1064は波状口縁を持つ。他のⅤb'には突帯は幅が狭く器壁は薄い。1078は細沈線による鋸歯状の文様を持つ砂質土器である。1079・1080はⅧ類に分類した砂質土器である。1079は口縁付近が「く」の字に外反し内面、外面、口唇部に沈線による文様が施されている。器壁は厚い。口唇部の形状や文様構成はⅣc類とも考えられるが、外反する器形や器壁の厚さ、内面の施文などからⅧ類に分類した。1080は口唇部に大きめの連点が施され、外面には沈線文が施されている。口縁の断面形状は丸形に近く沈線文も規則性がないことからⅣc類とは区別し、Ⅷ類とした。1081～1083はⅧ類に分類した泥質土器である。1081は口唇部を断面三角形に肥厚させ、Ⅱ類的な形状を示すが、文様は見られない。器形の土器である。1082・1083は口縁部を断面形状が方形に近い形に肥厚させ、方形の工具で施文している。1082は壺と考えられ、横に取り付けられた耳の痕跡がのこる。1084～1092は泥質土器の平底底部である。1089の底径は8.8cm, 1090は6.8cm, 1091は6.3cm, 1092は9.0cmである。1093・1094は砂質土器の尖底底部である。

1095～1097は貫通した穴を持つ石製品である。いずれの穴も明確な加工痕は見られず、自然の穴を利用したものか、加工したものなのかの判断ができなかった。外面には磨痕が見られる。1095は球形に近い形を呈し、中央部の穴の直径は約

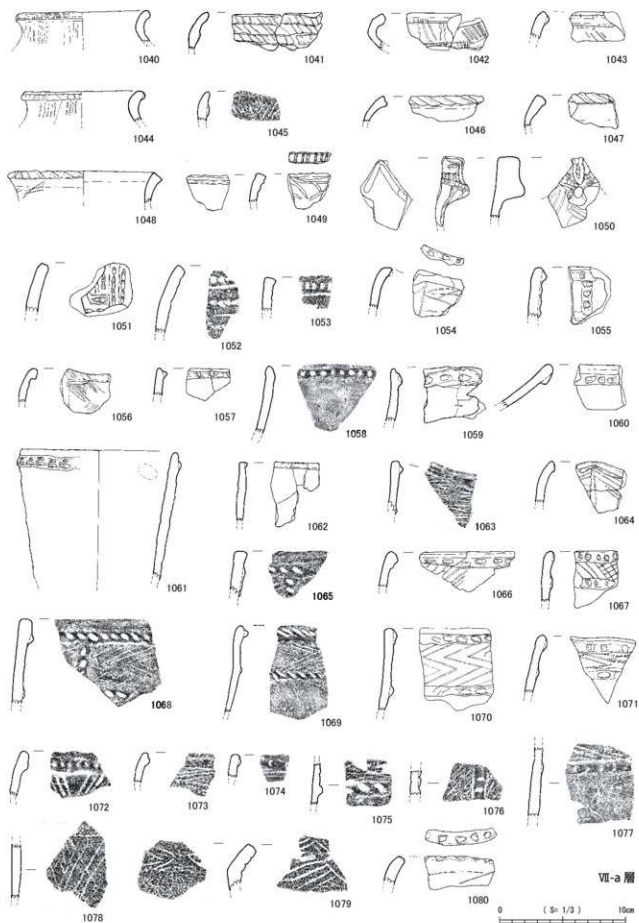
1.5cmである。製品の用途は不明である。1096の石材はホルンフェルスで、全体が丸みを帯びた形であるが不定形である。中央付近の穴は小さく直径0.5cmである。1097の石材は泥岩で、ひし形状を呈し、中央付近の穴の直径は1.0cmである。厚さは1.1cmである。1096・1097に紐ずれ等の痕跡は見られないが、形状から装飾品の可能性がある。1098は泥岩を石材とする棒状の石製品である。片側の先端は細くなり、鉛筆のような形状をしている。1099は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は2面あり、合計2条の溝がある。1100は斑状玄武岩を石材とする磨製石斧である。刃部の一部には剥離が見られる。胴部及び側面には細かな敲打痕が観察され、敲石として2次利用をされていた可能性がある。1101は中粒砂岩を石材とした凹石である。1か所のみ凹みが見られるが、側面には敲打痕が観察できる。1102は中粒砂岩を石材とした磨砥石である。両平坦部中央部には凹みが見られる。1103～1105は台石である。1103・1104の石材は中粒砂岩である。1105の石材は粗粒砂岩で、中央部付近に盃状の凹みが2つある。1106・1107は石皿である。石材は、1106が粗粒砂岩で、1107が中粒砂岩である。1107は大部分が欠損しているが、側面にも皿状の凹みが観察できる。

Ⅶb層出土遺物 (1108～1112)

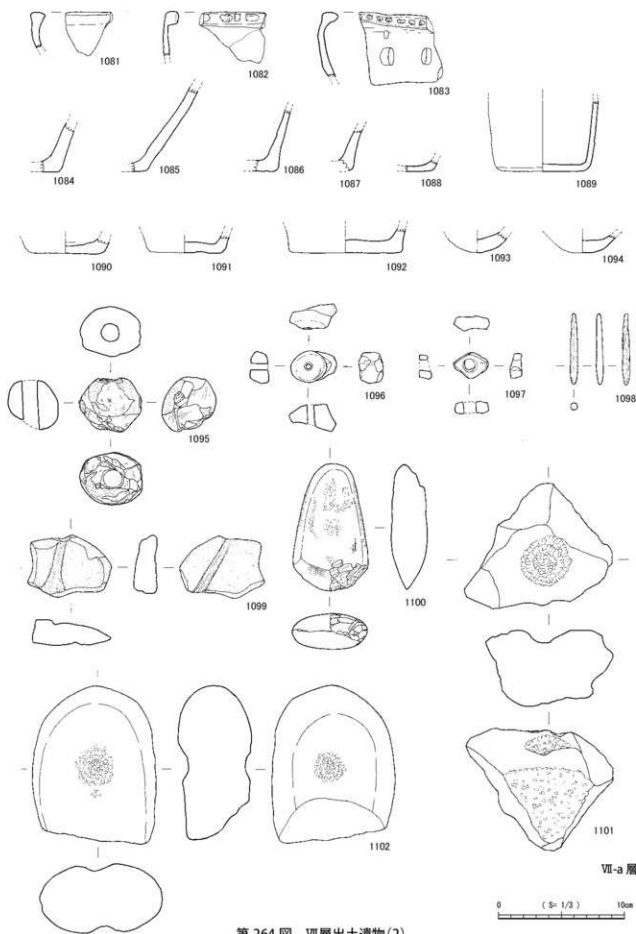
1108はⅤa'類土器である。口唇に沿って、幅の細い突帯を張り付けている。1109～1110は泥質土器の平底底部である。

1111は頁岩製の磨製石鏃である。基部がわずかに欠けているが、ほぼ完形である。二等辺三角形の形状を呈し、中央部に貫通した2つの穴があいている。厚さは0.2cmである。

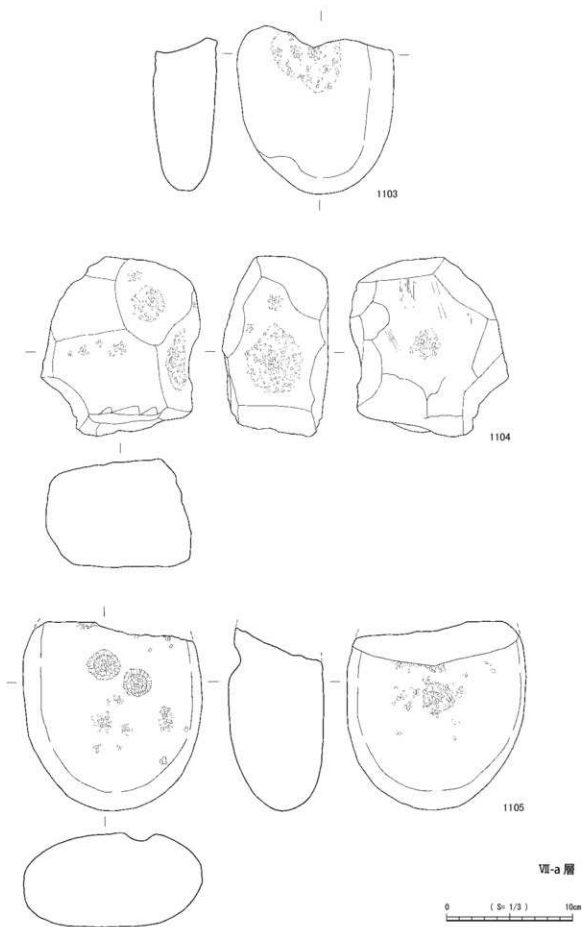
1112は粗粒砂岩製の磨砥石である。



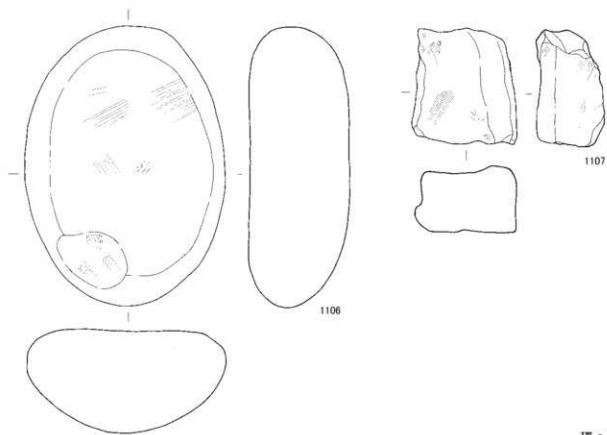
第 263 图 VII 層出土遺物(1)



第 264 図 VII層出土遺物(2)

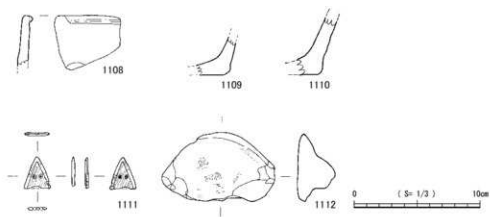


第 265 図 VII層出土遺物(3)



VII-a層

VII-b層



第 266 図 VII層出土遺物(4)

第160表 崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(1)

掲載 番号	報告書 遺構名	出土 区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値(cm)			文様・造型			色調			重量 (g)	備考	挿図No.
								口径 (最大径)	底径 (最大径)	器高 (最大径)	(外)	(内)	(外)	(内)	(外)	(内)			
802	SB03 (P12)	V-26	-	石器	台石	粗粒砂岩	-	(11.9)	(14.0)	(8.3)	-	-	-	-	-	-	2340	P1010	第228図
803	SB06 (P15)	Q-19	-	滑石製品	石鍋	滑石	胴	(3.5)	(5.3)	(2.2)	-	-	-	-	-	61	P0614	第229図	
804	SB07 (P04)	P-18	-	兼久式土器	-	砂質	底部	-	7.0	-	ナデ・オ サエ	ナデ	-	-	-	-	P0664	第230図	
805	SB10 (P04)	Q-17	-	滑石二次加工品	-	滑石	-	(2.3)	(1.6)	(1.3)	-	-	-	-	-	8	P0106	第231図	
806	SB13 (P01)	P-18	-	石器	磨盤石	花崗岩	-	(13.0)	(9.7)	(6.0)	-	-	-	-	-	1232	P0620	第232図	
807	SB18 (P10)	O-16	-	布目瓦土器	-	砂質	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	P0732	第233図	
808	SB19 (P05)	Q-15	-	白磁	皿	皿類	口縁	-	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	P0213	第234図	
809	SB19 (P04)	O-15	-	石製品	不明	閃緑岩	-	(8.9)	(7.9)	(4.8)	-	-	-	-	-	348	P0598		
810	SB19 (P04)	O-15	-	石器	台石	中粒砂岩	-	(21.3)	(13.6)	(7.5)	-	-	-	-	-	3570	P0598		
811	SB21 (P11)	N-15	-	カムイヤキ	壺?	A群	胴	-	-	-	-	-	-	灰オ リーブ	灰オ リーブ	-	P0530	第235図	
812	SB21 (P20)	Q-15	-	轆の羽口	-	-	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	P0527		
813	SB21 (P17)	O-15	-	鉄製品	刀子?	-	-	(0.8)	(3.6)	(0.3)	-	-	-	-	-	3	P0513		
814	SB21 (P28)	N-15	-	滑石製品	石鍋	滑石	-	(5.4)	(7.0)	(0.9)	-	-	-	-	-	69	P0021	第236図	
815	SB21 (P27)	N-15	-	石器	石皿	粗粒砂岩	-	(16.3)	(12.5)	(6.0)	-	-	-	-	-	1192	P0029		
816	SB22 (P05)	N-15	-	石器	磨盤石	粗粒砂岩	-	(7.4)	(7.2)	(3.7)	-	-	-	-	-	322	P0727		
817	SB22 (P03)	N-15	-	滑石二次加工品	-	滑石	-	(3.3)	(8.0)	(2.6)	-	-	-	-	-	123	P0018	第236図	
818	SB25 (P04)	P-15	-	滑石製品	石鍋	滑石	胴	(3.2)	(9.6)	(1.1)	-	-	-	-	-	88	P0443	第237図	
819	SB26 (P01)	P-15	-	滑石二次加工品	バレン状	滑石	-	(4.4)	(2.1)	(2.0)	-	-	-	-	-	16	P0556	第238図	
820	SB27 (P04)	O-15	-	滑石製品	石鍋	滑石	胴	(5.2)	(6.4)	(2.0)	-	-	-	-	-	61	P0545	第239図	
821	SB28 (P02)	O-15	-	白磁	皿	-	口縁	-	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	P0445	第240図	
822	SB28 (P02)	O-15	-	カムイヤキ	壺・壺	A群	胴	-	-	-	タタキ 平行	タタキ 平行	オリブ	オリブ	-	-	P0445		
823	SB38 (P03)	K-3	-	白磁	椀	V類	口縁	-	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	P0496	第241図	
824	SB38 (P01)	K-3	-	白磁	椀	V類	底	-	7.3	-	-	-	-	灰白	灰白	-	P0492		
825	SB38 (P01)	K-3	-	カムイヤキ	-	A群	胴	-	-	-	平行	平行	にふい 黄	にふい 黄	-	-	P0492		
826	SB38 (P04)	K-3	-	カムイヤキ	壺?	-	底	-	13.2	-	-	-	-	にふい 黄	にふい 黄	-	-		P0498
827	SB38 (P04)	K-3	-	土師器	壺	-	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		P0498
828	SB38 (P04)	K-3	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		P0498
829	SB38 (P03)	K-3	-	滑石製品	石鍋	滑石	胴	(3.2)	(8.6)	(2.1)	-	-	-	-	-	71	P0496		
830	SB38 (P01)	K-3	-	石器	有溝砥石	中粒砂岩	-	(3.0)	(3.3)	(3.3)	-	-	-	-	-	29	3面に計8条の 溝。P0492		
831	SB39 (P12)	K-3	-	カムイヤキ	壺?	A群	口縁	7.0	-	-	-	-	-	灰	灰	-	P0578	第242図	
832	SB39 (P13)	K-3	-	砂質土器	深鉢	IV-b類	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		P0576
833	SB39 (P04)	J-3	-	滑石製品	石鍋	滑石	-	(8.7)	(11.0)	(1.7)	-	-	-	-	-	247	P0148		
834	SB39 (P12)	K-3	-	石器	磨盤石	中粒砂岩	-	(17.8)	(12.8)	(6.7)	-	-	-	-	-	2375	P0578		
835	SB40 (P17)	J-2	-	轆の羽口	-	-	-	4.0	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	P0156	第243図
836	SB40 (P20)	K-3	-	滑石二次加工品	-	-	-	(2.3)	(2.5)	(1.5)	-	-	-	-	-	12	P0427		
837	SB40 (P20)	K-3	-	滑石二次加工品	-	-	-	(3.5)	(2.2)	(1.9)	-	-	-	-	-	28	P0427		
838	土坑墓 1号	O-15	I	カムイヤキ	壺?	A群	胴・底	-	9.6	-	ナデ	ナデ	灰オ リーブ	灰オ リーブ	-	-	-	カムイヤキa	第244図
839	土坑墓 1号	O-15	I	カムイヤキ	壺?	A群	-	16.0	-	平行	平行・ 縁目	オリブ 灰	オリブ 灰	-	-	-	-	カムイヤキb	
840	土坑墓 2号	O-15	I	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	第245図
841	土坑墓 2号	O-15	I	滑石混入土器	鍋?	-	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
842	土坑墓 2号	O-15	I	滑石製品	石鍋	滑石	口縁	(1.2)	(3.2)	(2.6)	-	-	-	-	-	20	補修孔1点		

第161表 崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(2)

発掘 番号	報告書 遺構名	出土 区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	寸法値(cm)			文様・装飾		色目		重量 (g)	備考	探洞No.
								口径 (最大)	底径 (最大)	高さ (最大)	(外)	(内)	(外)	(内)			
843	土坑墓 2号	O-15	I	カムイヤキ	壺?	A群	完形	(11.0)	(9.0)	(16.0)		タテキ・ ナテ	青灰	青灰	-	-	
844	土坑墓 2号	O-15	I	鉄製品	刀子	-	-	(2.0)	(9.5)	(0.5)	-	-	-	-	14	-	第245区
845	土坑墓 2号	O-15	I	貝	-	タカラガイ	-	(9.6)	(4.9)	(2.2)	-	-	-	-	27	-	
846	SK18	Q-18	-	滑石製品	石鏡	滑石	胴	(5.3)	(5.7)	(1.5)	-	-	-	-	61	-	
847	SK18	Q-18	-	滑石製品	石鏡	滑石	口縁	(2.0)	(9.1)	(1.6)	-	-	-	-	107	-	第246区
848	SK18	Q-18	-	滑石二次加工品	-	-	-	(4.1)	(5.0)	(2.2)	-	-	-	-	84	-	
849	SK20	P-18	-	カムイヤキ	壺	A群	肩	-	-	-	-	-	緑灰	緑灰	-	-	
850	SK20	P-18	-	滑石製品	石鏡	滑石	底	(2.8)	(6.7)	(1.5)	-	-	-	-	182	-	
851	SK20	P-18	-	滑石二次加工品	-	滑石	-	(1.8)	(2.0)	(0.8)	-	-	-	-	4	-	第247区
852	SK20	P-18	-	滑石二次加工品	-	滑石	-	(7.4)	(4.0)	(1.1)	-	-	-	-	67	-	パレン状未成品
853	SK20	P-18	-	滑石遺入土器	石鏡横紋	-	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
854	SK20	P-18	-	石器	敲石	粗粒砂岩	-	(3.3)	(7.8)	(6.0)	-	-	-	-	194	-	
855	SK25	Q-19	-	石器	石皿	粗粒砂岩	-	(21.0)	(12.3)	(12.5)	-	-	-	-	3790	-	第248区
856	石列1	V-29	石列内	龍泉系青磁	碗	IV類	口縁	17.6	-	-	-	-	朝オリ ブ灰	朝オリ ブ灰	-	-	第249区
857	石列1	V-29	石列内	龍泉系青磁	碗	V類	底	7.2	-	-	-	-	朝オリ ブ灰	朝オリ ブ灰	-	-	
858	焼土跡01	K-3	I	石器	敲石	粗粒砂岩	-	(9.1)	(7.4)	(3.5)	-	-	-	-	274	-	
859	焼土跡01	K-3	I	石器	石皿?	中粒砂岩	-	(8.5)	(6.6)	(2.7)	-	-	-	-	207	-	
860	焼土跡01	K-3	横出面	石器	磨敲石	中粒砂岩	-	(9.5)	(6.8)	(4.0)	-	-	-	-	359	-	第250区
861	焼土跡01	K-3	横出面	石器	敲石	粗粒砂岩	-	11.5	10.0	4.2	-	-	-	-	499	-	
862	SD17	P-7	-	滑石二次加工品	パレン状	滑石	-	(8.7)	(5.0)	(1.8)	-	-	-	-	74	-	
863	SD17	P-7	-	伊壁	-	下部	(4.4)	(8.2)	(3.5)	-	-	-	-	82	-		
864	SD17	P-7	-	伊壁	-	下部	(4.7)	(5.9)	(6.4)	-	-	-	-	70	-		
865	SD17	P-7	-	伊壁	-	-	(3.8)	(2.7)	(1.8)	-	-	-	-	10	-		
866	SD17	P-7	VI	鉄塊	-	-	(3.8)	(2.0)	(1.5)	-	-	-	-	20	-		
867	SD17	P-7	VI	鉄塊	-	-	(1.9)	(1.5)	(0.8)	-	-	-	-	4	-		
868	SD17	P-7	VI	鉄塊	伊外流出層	-	(8.3)	(3.0)	(1.6)	-	-	-	-	55	-	第251区	
869	SD17	P-7	-	鉄塊	伊外流出層	-	(9.2)	(5.4)	(2.0)	-	-	-	-	126	-		
870	SD17	P-7	VI	鉄塊	伊外流出層	-	(4.2)	(5.0)	(1.9)	-	-	-	-	41	-		
871	SD17	P-7	-	鉄塊	伊外流出層	-	(9.7)	(4.2)	(1.6)	-	-	-	-	46	-		
872	SD17	P-7	-	鉄塊	伊外流出層	-	(5.7)	(4.0)	(2.3)	-	-	-	-	65	-		
873	SD17	P-7	VII	鉄塊	伊外流出層	-	口縁	(6.0)	(3.6)	(2.4)	-	-	-	-	45	-	
874	SD17	P-7	-	鉄塊	伊外流出層	-	(8.0)	(7.1)	(1.8)	-	-	-	-	80	-		
875	SD17	P-7	-	鉄塊	伊外流出層	-	(6.0)	(6.8)	(2.0)	-	-	-	-	64	-		
876	SD17	P-7	VI	鉄塊	伊外流出層	-	(6.6)	(4.1)	(2.0)	-	-	-	-	48	-		
877	SD17	P-7	VI	鉄塊	伊外流出層	-	(5.4)	(3.7)	(1.8)	-	-	-	-	47	-		
878	SD17	P-7	VI	鉄塊	伊外流出層	-	(5.2)	(4.5)	(2.0)	-	-	-	-	36	-	第252区	
879	SD17	P-7	-	鉄塊	伊内残層	-	(12.7)	(8.5)	(3.6)	-	-	-	-	806	-		
880	SD17	P-7	VII	鉄塊	伊内残層	-	(3.4)	(4.0)	(2.4)	-	-	-	-	51	-		
881	一括	R-15	II	鉄塊	伊内残層	-	(3.7)	(4.7)	(1.7)	-	-	-	-	40	-		
882	P0864	V-27	一括	龍泉系青磁	碗	IV類	口縁	15.6	-	-	-	-	オリ ブ灰	オリ ブ灰	-	-	
883	P0892	V-27	一括	龍泉系青磁	碗	IV類	底	-	-	-	-	-	オリ ブ灰	オリ ブ灰	-	-	
884	P0085	P-18	一括	龍泉系青磁	碗	IV類	口縁	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	二次被熱	第253区
885	P1130	U-24	一括	龍泉系青磁	碗	II類	底	5.6	-	無縁溝	-	オリ ブ灰	オリ ブ灰	-	-	-	
886	P1100	V-27	一括	龍泉系青磁	碗	IV類	底	-	-	-	-	オリ ブ灰	オリ ブ灰	-	-	-	
887	P1056	T-24	一括	白磁	碗	IV類	口縁	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	-	
888	SB06 (P3)	Q-19	一括	白磁	碗	IV類	口縁	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	P0277	第229区
889	P0393	K-12	一括	白磁	碗	V類	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
890	P0587	Q-18	一括	白磁	碗	IV-Ia類	底	(7.4)	-	-	-	-	灰白	灰白	-	-	
891	P0067	K-12	一括	白磁	碗	V類	底	7.6	-	-	-	-	灰白	灰白	-	-	第253区
892	P0102	P-18	一括	カムイヤキ	壺?	A群	口縁	-	-	-	-	-	暗青灰	暗青灰	-	-	
893	P0740	K-6	一括	カムイヤキ	壺?	A群	胴	-	-	-	-	-	青灰	青灰	-	-	
894	P0410	O-15	一括	カムイヤキ	壺?	A群	胴	-	-	-	緑杉	平行	暗赤	暗赤	-	-	

第162表 崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(3)

掲載 番号	報告書 遺構名	出土 区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	寸法値(cm)			文様・装飾			色澤	重量 (g)	備考	採掘No.	
								口径 (最大値)	底径 (最大値)	器高 (最大値)	(外)	(内)	(外)					(内)
895	P0666	J-4	一括	カマイヤキ	壺?	A群	胴	-	-	-	平行・ 肩状	平行	にぶい 赤褐色	青灰	-	-	第254図	
896	P0347	P-19	一括	滑石器土器	-	-	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	石鍋横做?		
897	P0080	P-17	一括	滑石器土器	鍋	-	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	石鍋横做		
898	P0331	Q-19	一括	滑石製品	石鍋	滑石	口縁	-	-	-	-	-	-	-	20	補修孔1点		
899	P0068	L-12	一括	滑石製品	石鍋	滑石	-	(4.0)	(8.0)	(3.0)	-	-	-	-	-	99		-
900	P0617	Q-19	一括	滑石製品	石鍋	滑石	胴	(3.2)	(8.2)	(2.2)	-	-	-	-	-	64		-
901	P0744	K-5	一括	滑石製品	石鍋	滑石	底	(12.8)	(12.1)	(1.8)	-	-	-	-	-	154		-
902	P0289	Q-19	一括	滑石製品	石鍋	滑石	底	(3.0)	(7.0)	(1.1)	-	-	-	-	-	34		底部補修孔1点
903	P0705	Q-18	一括	滑石二次加工品	-	滑石	-	(1.9)	(1.2)	(1.2)	-	-	-	-	-	2		-
904	P0340	Q-19	一括	滑石二次加工品	-	滑石	-	(3.0)	(2.7)	(1.1)	-	-	-	-	-	13		-
905	SB22 (P13)	N-15	一括	籠の羽口	-	-	-	7.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	P0642	第256図
906	P0657	P-13	一括	籠の羽口	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	
907	P0331	Q-19	一括	鉄製品	釘?	-	-	(8.0)	(1.0)	(0.7)	-	-	-	-	-	7	-	
908	P0331	Q-19	一括	鉄製品	-	-	-	(2.7)	(2.7)	(0.5)	-	-	-	-	-	3	釘?かすがい?	
909	P1056	T-24	一括	鉄製品	鏡状	-	-	(2.4)	(9.6)	(0.4)	-	-	-	-	-	15	-	
910	P0938	U-27	一括	銅製品	金具?	-	-	(2.5)	(2.0)	(0.1)	-	-	-	-	-	6	-	
911	P0478	L-12	一括	石器	石斧	緑色岩	-	(15.1)	(8.0)	(4.0)	-	-	-	-	-	677	-	
912	P0529	Q-13	一括	石器	磨製石斧	綠色片岩	-	(9.2)	(5.4)	(3.5)	-	-	-	-	-	210	刃部欠損。	
913	P0352	Q-18	一括	石器	石皿	中粒砂岩	-	(19.3)	(12.1)	(6.4)	-	-	-	-	-	2120	-	
914	P0174	J-2	一括	石器	磨製石	燧石	-	(9.9)	(6.0)	(4.3)	-	-	-	-	-	363	3面に敲打痕	
915	P0654	-	一括	石器	石皿	中粒砂岩	-	(7.4)	(9.5)	(3.5)	-	-	-	-	-	261	-	
916	P1098	V-27	一括	石器	石皿	中粒砂岩	-	(15.8)	(10.2)	(2.9)	-	-	-	-	-	584	-	
917	P0436	K-5	一括	石器	砥石	中粒砂岩	-	(1.6)	(7.0)	(2.4)	-	-	-	-	-	362	-	
918	P0911	U-28	一括	石器	有溝砥石	軽石	-	(10.4)	(11.0)	(7.2)	-	-	-	-	-	88	1面に計5条の溝	
919	P0901	U-28	一括	石器	有溝砥石	軽石	-	(5.9)	(7.8)	(8.0)	-	-	-	-	-	70	1条の溝	
920	P0980	V-28	一括	貝製品	未製品	ヤコウガイ	-	(7.7)	(5.0)	(0.4)	-	-	-	-	-	33	-	
921	一括	L-13	Ⅲ-a	龍泉系青磁	椀	V類	口縁	-	-	-	草花 文 縁蓮 弁	-	オリブ 灰	オリブ 灰	-	-	第255図	
922	一括	V-26	Ⅲ-a	龍泉系青磁	椀	Ⅲ類	底	-	-	-	-	-	オリブ 灰	オリブ 灰	-	-		
923	一括	U-30	Ⅲ-a	白磁	椀	IV類	口縁	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	-		
924	一括	K-11	Ⅲ-a	カマイヤキ	椀	A群	口縁	-	-	-	-	-	青灰	青灰	-	-		
925	一括	V-26	Ⅲ-a	カマイヤキ	壺?	B群	肩	-	-	-	ナデ	平行	青灰	青灰	-	-		
926	一括	R-14	Ⅲ-a	鉄製品	鉄片	-	-	(2.1)	(3.4)	(0.5)	-	-	-	-	-	9		-
927	一括	M-3	Ⅲ-a	ガラス玉	-	-	-	(2.1)	(2.1)	(2.5)	-	-	-	-	-	-		
928	一括	K-4	Ⅲ-a	石製品	練状砂岩	-	-	(5.1)	(1.1)	(1.1)	-	-	-	-	-	3		-
929	一括	-	Ⅲ-a	貝製品	磨製短行貝	ヤコウガイ	蓋	(4.6)	(8.5)	(2.3)	-	-	-	-	-	187		-
930	一括	V-29	Ⅲ-c	青磁	椀	IV類	口縁	-	-	-	無縁蓮 弁文	-	緑灰	緑灰	-	蓮江窯?		
931	一括	V-29	Ⅲ-c	龍泉系青磁	椀	IV類	口縁	-	-	-	-	-	オリブ 灰	オリブ 灰	-	-		
932	一括	V-29	Ⅲ-c	龍泉系青磁	椀	IV類	口縁	-	-	-	-	-	オリブ 灰	オリブ 灰	-	-		
933	一括	V-29	Ⅲ-c	龍泉系青磁	皿	IV類	口縁	-	-	-	無縁蓮 弁	-	灰白	灰白	-	-		
934	一括	V-29	Ⅲ-c	龍泉系青磁	盤	V類	口縁	-	-	-	-	-	オリブ 灰	オリブ 灰	-	-		
935	一括	V-29	Ⅲ-c	褐輪陶器	壺	-	口縁	-	-	-	-	-	黄褐色	黄褐色	-	-		
936	一括	V-29	Ⅲ-c	鉄製品	-	-	-	(3.3)	(2.6)	(0.4)	-	-	-	-	-	11	板状	
937	一括	U-27	Ⅲ-d	龍泉系青磁	椀	Ⅱ類	口縁	-	-	-	縁蓮 弁	-	-	-	-	-		
938	一括	V-29	Ⅲ-d	龍泉系青磁	椀	IV類	口縁	-	-	-	-	-	緑灰	緑灰	-	-		
939	一括	V-29	Ⅲ-d	白磁	椀	ビロースク	口縁	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	-		
940	一括	V-29	Ⅲ-d	褐輪陶器	壺?	-	底	-	-	-	-	-	ナデ	-	-	-		
941	一括	V-28	Ⅲ-c-d	龍泉系青磁	椀	IV類	口縁	16.7	-	-	-	-	明オリ ブ灰	明オリ ブ灰	-	二次補修		
942	一括	V-28	Ⅲ-c-d	龍泉系青磁	-	IV類	口縁	-	-	-	-	-	明オリ ブ灰	明オリ ブ灰	-	-		
943	一括	V-28	Ⅲ-c-d	白磁	椀	ビロースク	胴	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	-		
944	一括	V-26	Ⅲ-g	白磁	小皿	-	口縁	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	-		
945	一括	V-26	Ⅲ-g	白磁	椀	ビロースク	口縁	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	-		
946	一括	V-29	Ⅲ-j	龍泉系青磁	椀	IV類	口縁	-	-	-	-	-	明オリ ブ灰	明オリ ブ灰	-	二次補修		

第163表 崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(4)

掲載 番号	報告書 遺構名	出土 区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	寸法(cm)			文様・遺算		色別			重量 (g)	備考	採因No.
								口径 (最大径)	底径 (最大径)	器高 (最大径)	(外)	(内)	(外)	(内)	(内)			
947	一括	V-26	Ⅲ-j	龍泉窯系青磁	碗	Ⅳ類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	オリブ 灰	-	-	
948	一括	V-29	Ⅲ-j	龍泉窯系青磁	碗	V類	底	6.0	-	-	-	-	-	-	オリブ 灰	-	-	
949	一括	V-27	Ⅲ-j	白磁	碗・皿	-	口縁	-	-	-	-	-	-	淡黄	淡黄	-	-	
950	一括	M-12	Ⅲ-k	龍泉窯系青磁	碗	Ⅳ'類	口縁	-	-	-	-	-	-	灰オ リーブ	灰オ リーブ	-	-	
951	一括	N-11	Ⅲ-k	龍泉窯系青磁	碗	V類	底	8.2	-	-	-	-	-	オリブ 灰	オリブ 灰	-	-	
952	一括	L-12	Ⅲ-k	龍泉窯系青磁	盤	V類	口縁	-	-	-	-	-	-	オリブ 灰	オリブ 灰	-	-	
953	一括	M-12	Ⅲ-k	カムイヤキ	壺?	A群	口縁	-	-	-	-	-	-	青灰	青灰	-	-	
954	一括	-	Ⅲ-k	泥質土器	深鉢	V-b'	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
955	一括	K-12	Ⅲ-k	石器	有溝砥石	中粒砂岩	-	(4.1)	(3.5)	(2.5)	-	-	-	-	-	58	4面に計5条の溝	
956	一括	N-12	Ⅲ-k	石器	磨蝕石	粗粒砂岩	-	(8.8)	(7.7)	(3.8)	-	-	-	-	-	-	-	
957	一括	M-12	Ⅳ-a	白磁	碗	Ⅳ類	口縁	17.7	-	-	-	-	-	淡黄	淡黄	-	-	
958	一括	P-14	Ⅳ-a	白磁	碗	Ⅳ類	口縁	-	-	-	-	-	-	淡黄	淡黄	-	-	
959	一括	N-13	Ⅳ-a	白磁	碗	Ⅳ類	口縁	-	-	-	-	-	-	淡黄	淡黄	-	-	
960	一括	N-13	Ⅳ-a	白磁	碗	V類	底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
961	一括	N-13	Ⅳ-a	カムイヤキ	壺?	A群	口縁	11.8	-	-	-	-	-	オリブ 灰	オリブ 灰	-	-	
962	一括	M-12	Ⅳ-a	カムイヤキ	壺?	A群	口縁	-	-	-	-	-	-	暗青灰	暗青灰	-	-	
963	一括	M-13	Ⅳ-a	カムイヤキ	壺?	A群	口縁	-	-	-	-	-	-	オリブ 灰	オリブ 灰	-	-	
964	一括	O-15	Ⅳ-a	滑石二次加工品	-	-	-	(1.2)	(1.5)	(1.2)	-	-	-	-	-	19	-	
965	一括	O-15	Ⅳ-a	罐の頸口	-	-	-	6.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
966	一括	N-15	Ⅳ-a	石器	不明	粗粒砂岩	-	(7.0)	(7.0)	(6.4)	-	-	-	-	-	470	-	
967	一括	N-16	Ⅳ-b	白磁	碗	Ⅳ類	口縁	-	-	-	-	-	-	灰白	灰白	-	-	
968	一括	-	Ⅳ-b	兼久式土器	-	泥質	底	7.2	-	-	-	-	-	-	-	-	木葉痕	
969	一括	-	Ⅳ-b	砂質土器	深鉢?	Ⅱ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
970	一括	-	Ⅳ-b	砂質土器	-	Ⅱ	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
971	一括	-	Ⅳ-b	泥質土器	壺?	Ⅱ'	口縁	9.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
972	一括	-	Ⅳ-b	泥質土器	壺?	Ⅱ'	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
973	一括	-	Ⅳ-b	泥質土器	-	-	平底	6.4	-	-	-	オサエ	-	-	-	-	-	
974	一括	-	Ⅳ-b	泥質土器	-	-	平底	8.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
975	一括	S-23	Ⅵ-a	砂質土器	壺?	I	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母	
976	一括	S-26	Ⅵ-a	砂質土器	壺?	I	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
977	一括	-	Ⅵ-a	砂質土器	-	I	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
978	一括	R-20	Ⅵ-a	砂質土器	深鉢	Ⅱ-b類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母	
979	一括	-	Ⅵ-a	砂質土器	壺?	V-b類	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
980	一括	S-23	Ⅵ-a	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
981	一括	S-23	Ⅵ-a	泥質土器	鉢?	Ⅱ'	口縁	-	-	-	-	ナデ	-	-	-	-	-	
982	一括	T-24	Ⅵ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
983	一括	T-24	Ⅵ-a	泥質土器	壺	Ⅱ-a'類	口縁	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	-	-	-	
984	一括	V-27	Ⅵ-a	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
985	一括	R-19	Ⅵ-a	石器	スクレイパー	粗粒砂岩	-	(6.8)	(5.7)	(2.1)	-	-	-	-	-	83	-	
986	一括	T-24	Ⅵ-a	石器	磨蝕石	粗粒砂岩	-	(9.7)	(8.0)	(5.7)	-	-	-	-	-	616	-	
987	一括	N-12	Ⅵ-b	砂質土器	壺?	I類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
988	一括	P-18	Ⅵ-b	砂質土器	壺?	I類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母	
989	一括	T-24	Ⅵ-b	砂質土器	壺?	I類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
990	一括	T-24	Ⅵ-b	砂質土器	-	I類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母	
991	一括	R-20	Ⅵ-b	砂質土器	壺?	I類	頸部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母	
992	一括	-	Ⅵ-b	砂質土器	鉢・壺?	I類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母	
993	一括	T-24	Ⅵ-b	砂質土器	壺?	I?	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
994	一括	-	Ⅵ-b	砂質土器	深鉢	Ⅱ-b類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁	
995	一括	M-12	Ⅵ-b	砂質土器	壺?鉢?	Ⅱ-b類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
996	一括	N-15	Ⅵ-b	砂質土器	深鉢	Ⅳ-d類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母	
997	一括	S-20	Ⅵ-b	砂質土器	深鉢	Ⅳ-e類	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁	
998	一括	-	Ⅵ-b	泥質土器	鉢?	V-a'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
999	一括	-	Ⅵ-b	泥質土器	鉢	V-a'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1000	一括	N-11	Ⅵ-b	砂質土器	深鉢	V-b類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第164表 崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(5)

掲載番号	報告書遺構名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	寸法値(cm)			文様・埋製		色澤		重量(g)	備考	挿図No.
								口徑 (最大径)	底径 (最大径)	器高 (最大径)	(外)	(内)	(外)	(内)			
1001	一括	T-25	VI-b	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	第261図
1002	一括	S-23	VI-b	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	オサエ	-	-	-	-	-	
1003	一括	R-13	VI-b	泥質土器	深鉢	V-b'類	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1004	一括	N-11	VI-b	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1005	一括	N-12	VI-b	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1006	一括	N-12	VI-b	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1007	一括	N-12	VI-b	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1008	一括	M-12	VI-b	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁	
1009	一括	N-11	VI-b	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁	
1010	一括	N-13	VI-b	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁	
1011	一括	N-11	VI-b	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1012	一括	M-12	VI-b	泥質土器	深鉢	VI-a'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1013	一括	T-24	VI-b	砂質土器	深鉢	甗類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1014	一括	-	VI-b	泥質土器	壺?	甗'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1015	一括	U-25	VI-b	泥質土器	壺?	甗'類	頸部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1016	一括	M-12	VI-b	泥質土器	壺?	甗'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1017	一括	N-12	VI-b	泥質土器	-	甗'類	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	横位耳付	
1018	一括	M-12	VI-b	泥質土器	壺?	甗'類	口縁	-	-	-	オサエ・ナデ	ナデ・ケズリ	-	-	-	-	
1019	一括	S-20	VI-b	砂質土器	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	裝飾部?	
1020	一括	T-24	VI-b	砂質土器	不明	-	耳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1021	一括	M-11	VI-b	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1022	一括	T-24	VI-b	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1023	一括	N-12	VI-b	砂質土器	-	-	尖底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1024	一括	T-25	VI-b	砂質土器	-	-	尖底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1025	一括	R-13	VI-b	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1026	一括	P-15	VI-b	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1027	一括	N-13	VI-b	泥質土器	-	-	平底	-	7.4	-	-	-	-	-	-	-	
1028	一括	N-12	VI-b	泥質土器	-	-	平底	-	7.6	-	-	-	-	-	-	-	
1029	一括	N-13	VI-b	泥質土器	-	-	平底	-	5.8	-	-	-	-	-	-	-	
1030	一括	R-13	VI-b	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1031	一括	N-13	VI-b	泥質土器	-	-	尖底	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1032	一括	R-19	VI-b	石器	有溝砥石	中粒砂岩	-	(5.8)	(4.3)	(4.4)	-	-	-	-	60	3面に計3象の痕	
1033	一括	-	VI-b	石器	石皿	斑岩系	-	(12.3)	(9.8)	(3.6)	-	-	-	-	475	-	
1034	一括	-	VI-b	石器	磨石	中粒砂岩	-	(4.7)	(3.1)	(3.2)	-	-	-	-	67	-	
1035	一括	Q-19	VI-b	石器	磨製石斧	緑色岩	-	(5.5)	(9.7)	(2.6)	-	-	-	-	166	万部のみ残存	
1036	一括	N-12	VI-b	石器	磨製石	粗粒砂岩	-	(6.3)	(5.6)	(5.0)	-	-	-	-	204	-	
1037	一括	-	VI-b	石製品	棒状玄武岩	-	-	(9.5)	(3.1)	(2.1)	-	-	-	-	89	-	
1038	一括	R-19	VI-b	石器	石棒	チャート	-	(5.2)	(7.4)	(3.0)	-	-	-	-	166	-	
1039	一括	P18	VI-b	石製品	裝飾品?	泥岩	-	(3.5)	(3.8)	(1.1)	-	-	-	-	16	-	
1040	一括	P-18	VII-a	砂質土器	壺?	I類	口縁	10.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
1041	一括	N-11	VII-a	砂質土器	壺?	I類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	粘土に金雲母	
1042	一括	P-18	VII-a	砂質土器	壺?	I類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1043	一括	P-19	VII-a	砂質土器	壺?	I類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	粘土に金雲母	
1044	一括	N-12	VII-a	砂質土器	壺?	I類	口縁	9.8	-	-	-	-	-	-	-	粘土に金雲母	
1045	一括	Q-18	VII-a	砂質土器	壺?	I類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	粘土に金雲母	
1046	一括	M-12	VII-a	砂質土器	深鉢	II-a類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1047	一括	M-12	VII-a	砂質土器	深鉢	II-a類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1048	一括	N-12	VII-a	砂質土器	深鉢	II-a類	口縁	-	-	-	貝殻染	痕	-	-	-	第263図	
1049	一括	N-11	VII-a	砂質土器	深鉢	II-b類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	粘土に金雲母	
1050	一括	N-12	VII-a	砂質土器	深鉢	II-c類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1051	一括	Q-13	VII-a	砂質土器	深鉢	IV-d類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1052	一括	P-15	VII-a	砂質土器	深鉢	IV-d類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	粘土に金雲母	
1053	一括	P-15	VII-a	砂質土器	深鉢	IV-d類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	粘土に金雲母	
1054	一括	M-12	VII-a	砂質土器	深鉢	V-b類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1055	一括	M-12	VII-a	砂質土器	深鉢	V-b類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1056	一括	Q-19	VII-a	砂質土器	深鉢	V-b類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第165表 崩り遺跡出土遺物(中世・包含層)観察表(6)

掲載 番号	報告書 遺構番号	出土 区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	寸法値 (cm)			文様・消費		色別		重量 (g)	備考	採掘No.
								口径 (最大径)	底径 (最大径)	器高 (最大径)	(外)	(内)	(外)	(内)			
1057	一括	L-12	Ⅴ-a	泥質土器	鉢	V-a'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1058	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	浅鉢	V-a'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1059	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	浅鉢	V-a'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1060	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	浅鉢	V-a'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1061	一括	N-13	Ⅴ-a	泥質土器	鉢	V-a'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1062	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	鉢	V-a'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1063	一括	N-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁	
1064	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1065	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1066	一括	Q-18	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1067	一括	N-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1068	一括	O-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1069	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1070	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1071	一括	Q-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1072	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1073	一括	Q-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1074	一括	Q-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1075	一括	Q-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	胴	-	-	-	-	-	-	-	-		
1076	一括	Q-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	胴	-	-	-	-	-	-	-	-		
1077	一括	Q-13	Ⅴ-a	泥質土器	深鉢	V-b'類	胴	-	-	-	-	-	-	-	-		
1078	一括	P-15	Ⅴ-a	砂質土器	深鉢	細文様文兵衛	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金雲母	
1079	一括	O-13	Ⅴ-a	砂質土器	甕	甕類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1080	一括	P-18	Ⅴ-a	砂質土器	深鉢	甕類	口縁	-	-	-	ナデ	-	-	-	-		
1081	一括	N-12	Ⅴ-a	泥質土器	壺?	甕'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1082	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	壺?	甕'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1083	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	壺?	甕'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	耳の痕跡	
1084	一括	M-12	Ⅴ-a	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-		
1085	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-		
1086	一括	O-13	Ⅴ-a	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-		
1087	一括	Q-13	Ⅴ-a	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-		
1088	一括	Q-18	Ⅴ-a	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-		
1089	一括	N-12	Ⅴ-a	泥質土器	-	-	平底	-	-	8.8	-	-	-	-	-		
1090	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	-	-	平底	-	-	6.3	-	-	-	-	-		
1091	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-		
1092	一括	R-13	Ⅴ-a	泥質土器	-	-	平底	-	-	9.0	-	-	-	-	-		
1093	一括	P-18	Ⅴ-a	砂質土器	-	-	尖底	-	-	-	-	-	-	-	-		
1094	一括	M-12	Ⅴ-a	砂質土器	-	-	尖底	-	-	-	-	-	-	-	-		
1095	一括	Q-18	Ⅴ-a	石製品	不明	泥岩	-	(4.3)	(4.9)	(4.0)	-	-	-	-	86	裝飾品?	
1096	一括	R-13	Ⅴ-a	石製品	裝飾品?	ホルンブルス	-	(2.5)	(3.7)	(2.0)	-	-	-	-	18		
1097	一括	N-13	Ⅴ-a	石製品	裝飾品?	泥岩	-	(1.8)	(2.9)	(1.1)	-	-	-	-	4		
1098	一括	P-18	Ⅴ-a	石製品	神状石製品	泥岩	-	(5.6)	(0.6)	(0.6)	-	-	-	-	3		
1099	一括	R-13	Ⅴ-a	石器	有溝砥石	中粒砂岩	-	(4.8)	(6.6)	(1.8)	-	-	-	-	77	2面に計2条の溝	
1100	一括	R-13	Ⅴ-a	石器	磨製石斧	粗粒玄武岩	-	(10.1)	(6.0)	(2.8)	-	-	-	-	249		
1101	一括	P-18	Ⅴ-a	石器	凹石	中粒砂岩	-	(11.6)	(9.8)	(6.0)	-	-	-	-	589		
1102	一括	P-6	Ⅴ-a	石器	磨盤石	中粒砂岩	-	(12.6)	(9.7)	(5.8)	-	-	-	-	961		
1103	一括	L-12	Ⅴ-a	石器	台石	中粒砂岩	-	(13.2)	(12.4)	(5.0)	-	-	-	-	1003		
1104	一括	N-13	Ⅴ-a	石器	台石	中粒砂岩	-	(14.3)	(12.7)	(8.4)	-	-	-	-	1996		
1105	一括	R-18	Ⅴ-a	石器	台石	粗粒砂岩	-	(14.8)	(14.1)	(7.5)	-	-	-	-	2300	蓋状の凹みやつ	
1106	一括	Q-19	Ⅴ-a	石器	石皿	粗粒砂岩	-	(22.0)	(15.9)	(7.9)	-	-	-	-	4100		
1107	一括	P-18	Ⅴ-a	石器	石皿	中粒砂岩	-	(9.1)	(7.9)	(5.5)	-	-	-	-	562		
1108	一括	Q-13	Ⅴ-b	泥質土器	鉢?	V-a'類	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-		
1109	一括	Q-13	Ⅴ-b	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-		
1110	一括	Q-13	Ⅴ-b	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-		
1111	一括	R-13	Ⅴ-b	石器	磨製石礫	頁岩	-	(3.0)	(2.0)	(0.2)	-	-	-	-	1		
1112	一括	Q-13	Ⅴ-a'	石器	磨盤石	粗粒砂岩	-	(9.0)	(5.3)	(3.0)	-	-	-	-	122		

第IV章 自然科学分析

第1節 崩り遺跡の製鉄関連遺物について

村上 恭通 (愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター)

はじめに

崩り遺跡の溝状遺構SD17では、炉壁、鉄塊、鉄滓などの製鉄関連遺物が出土した。SD17の検出面を覆うI層、さらにその周辺に広がるIII層でもSD17と同量程度の製鉄関連遺物が出土しており、SD17の割平塚に多くの遺物が落ちたものと推測される。ここでは第III章(8)において紙数の都合で十分説明できなかった製鉄関連遺物について改めて詳述したい。

1. 炉壁

863 (第251・267図) は炉壁の最下段に当たる部分の破片であり、内面は前面に鉄滓が付着し、大小の球状塊が付着している。断面図に現れているように底部付近の内面は増損し、深くえぐれており、炉底付近で成長した鉄滓、鉄塊によって浸食されたことがわかる。底面はきれいに肌別れした面を残しており、当時の地表に密着した面である。また底面の炉内側には鉄滓との接触痕が認められる。炉内で水平方向に成長する鉄滓は、炉壁と地面の密着度が弱い場合、しばしばその接着部分に薄く板状に嵌入する。底面に付着した鉄滓の痕跡は炉壁の接着部分に嵌入した鉄滓の痕跡を示している。

炉壁内面の湾曲から炉内の直径は約24cmに復元されるため、操業前の炉内径はそれよりも小さかったであろう。ただし破片数が少ないために、平面形が円形であったのか楕円形であったのかは判断できない。

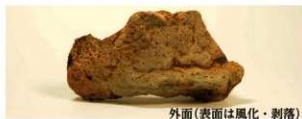
2. 製鉄滓—とくに流動滓について—

鉄滓はすべて製鉄滓であり、すでに述べたように炉外流出滓(868~878)と炉内残留滓(879・880)とに分けられ、点数の多い炉外流出滓は細分が可能である。

868, 869 (第268図) は色調が他の赤褐色系の鉄滓に比べて灰色がかった。炉外流出滓でありながら、流動の痕跡がない。このように粘り気の強い鉄滓は生成温度が低かったことを示しており、炉内が十分な温度に達する前か、あるいは炉壁の浸食が進んだために炉内温度が下降する操業後半に炉外に流出する鉄滓である。炉内が浸食される前であれば、炉内圧が高く、風も強いので鉄滓が自然に押し出される場合がある。これに対し、操業終盤の粘性が強い鉄滓は、炉内圧も低くなっているため、道具を使用して無理に掻き出される場合が多く、その跡掻き出しの道具痕が鉄滓の表面に残る。868はその表面に流出した流動滓と判断できる。869は868と比較すると、わずかに流動の痕跡を呈しており、やや時間を経た段階の流動滓とみられる。

その他の流動滓は赤褐色系を呈し、また表面は流動の痕跡を顕著に残すか、または流れ癖がなくなるほどに平滑となっている。とくに棒状、長条形を呈し、底の断面形が湾曲した870~873などの流出滓は、排滓孔から流出し、溝内を一定距離離れたことを示している。とくに872, 873 (第269図) は両側縁が高く立ち上がっており、製鉄炉の排滓孔近くで冷えて固まった鉄滓である。この2点の鉄滓の断面から排滓孔の直径が約4cmに復元できる。これらの棒状、長条形の流動滓を除くと、874のように流れ癖を残す板状の鉄滓があり、しばしば溝内を流れた鉄滓がその先で薄く広がったことを示している。

875~877はその内部に大きな気泡があるため、鉄滓の厚みに厚薄が生じ、割れている。気泡を含む流動滓は固化した資料以外にも多数みられる(第271図)。これらは鉄滓の温度が高いこと、さらには炉内温度が十分に上昇していたことを示している。



第267図 炉壁863

3. 製鉄炉の復元

炉内残留滓だけが発見される場合、鉄塊を噛み込んだ鉄滓が吸入されて、島内で鉄滓を割って鉄塊を取り出したという説明が可能であるため、島内での製鉄を証明することにはならない。しかしながら崩り遺跡では炉内残留滓のみならず、製鉄作業の初期段階以降、経時的に生成される炉外流出滓が発見されている。製鉄のすべての工程の鉄滓が揃っていることはこの地での製鉄を確かなものとした。

もとより浸食の進んだ炉壁は製鉄炉の存在を強く主張するものである。築炉時の炉内直径は小型であるが、副産物のみを限り、鉄とスラグが良好に分離されており、鉄の生成を疑う必要はない。

それでは崩り遺跡の製鉄炉のような形態、構造であったのだろうか？中世の九州本土における製鉄炉はかつては熊本県西原遺跡での発見に因んで「西原型」という名称が与えられていた。これは炉体を段の法面に掘り込み、その前面を粘土でふさぎ、炉頂部を粘土で積み上げる半地下式型製鉄炉の一種型とされてきた。しかし、西原遺跡以降、半地下式型製鉄炉と考えられる製鉄炉は九州において一例も発見されていない。「西原型」の再考を促す製鉄炉は熊本県荒尾市狐塚遺跡、大藤遺跡例であり、古くは弥生時代の製鉄炉と称された宮崎県延岡市祝子（ほうり）の遺跡例である（第272図）。これらの炉は平面形が方形・丸形を呈し、炉の後背から一本の管で風が送られる自立炉である。炉床および地下構造を掘り抜け、段の付近に炉が築かれるために半地下式型製鉄炉と類似した構造にみえる。熊本県、大分県、宮崎県といった九

州西海岸、東海岸で発見されている中世の製鉄炉は、むしろ「狐塚型」、「大藤型」と呼称すべき平面形あるいは隅丸方形の自立炉なのである。

崩り遺跡出土の底部付近の炉壁には内面に鉄滓の付着と浸食が認められた。半地下式型製鉄炉の炉頂に積み上げられた炉壁であれば、加熱帯に相当する部分であるため、その炉壁は軽微な被熱しかなく、鉄滓が付着したり、まして熔掛することはあり得ない。そもそもこの部位の炉壁は風化して遺跡に遺らないであろう。とするならば崩り遺跡の炉壁は自立炉の最下部に位置していたものである。復元される崩り遺跡の製鉄炉は、熊本の有明海沿岸地域や大分、宮崎の製鉄炉の中世自立炉に系譜をもつこと、しかしより小型であることが指摘できるのである（第273図）。

本報告文及び考察文の執筆にあたっては、品川愛（愛媛大学法文学部）・八木宏明（滋賀県立大学大学院）両氏の協力を頂いた。文末ながら深く感謝申し上げます。

<文献>

- 石川恒太郎 1959 『日本古代の海鉄の精錬遺蹟に関する究』角川書店
- 勢田廣行編 1992 『金山・樟葉鉄跡群調査報告書』熊本県荒尾市文化財調査報告書7、荒尾市教育委員会・九州リゾート株式会社
- 村上恭通 2007 『古代宮城成立過程と鉄器生産』青木書店



第268図 流動滓



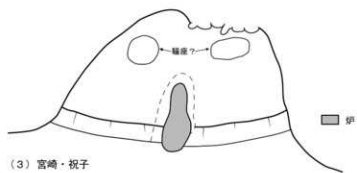
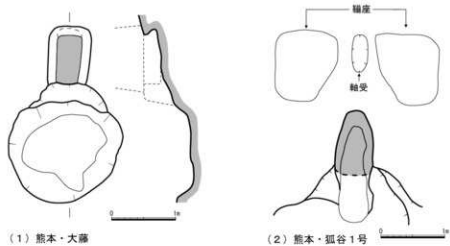
第269図 出滓孔付近の流動滓



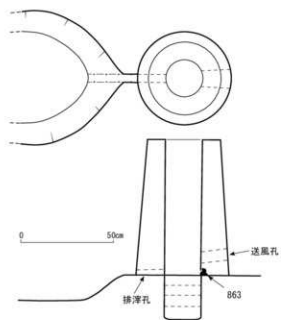
第270図 出滓孔付近の流動滓(断面)



第271図 空洞・発泡痕跡のある流動滓



第272図 中・南九州の古代・中世製鉄炉



第273図 崩り遺跡製鉄炉の復元略図

第2節 崩り遺跡出土ガラス玉の調査

田村 朋美 (奈良文化財研究所)

1. はじめに

崩り遺跡から出土したガラス玉について、観察および分析化学的手法により製作技法および基礎ガラスの種類、着色因子の調査をおこなった。以下、その結果について報告する。

2. 資料と方法

本調査の対象とした資料は、崩り遺跡 M-3 区Ⅲ-a 層から出土したガラス玉 1 点である。二片に割れており、表面は風化で白色化している。一方、破断面をみると内部に健全な部分が残存しており、本来の色調が濃青緑色であることがわかる (第 274 図上)。

本ガラス玉について、実体顕微鏡観察により製作技法の推定をおこなった。次に、破断面の本来の色調が残存している箇所について蛍光 X 線分析をおこなった。測定結果については、ガラス標準試料を用いて FP (Fundamental Parameters) 法によって規格化し、酸化物重量百分率で表示した。分析に用いた装置は、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 (EDAX 社製 EAGLE III) である。蛍光 X 線分析の測定条件を第 166 表に示す。

第 166 表 蛍光 X 線分析法の測定条件

測定条件項目	概要
X 線源	Mo 管球
X 線照射径 (μm)	φ112
管電圧 (kV)	20
電流 (μA)	100
測定時間 (秒)	300
試料室雰囲気	真空

3. 結果と考察

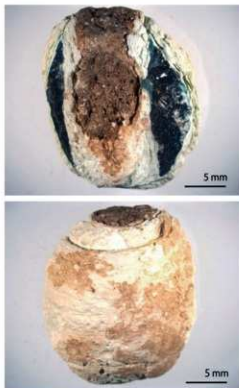
風化表面に孔と直方向にめぐる蝕傷が認められ、巻き付け法で製作されたと推察される (第 274 図下)。

蛍光 X 線分析の結果、SiO₂ を約 47.1%、K₂O を 11.1%、PbO を 39.2% 含有するカリ鉛ガラスであることが判明した (第 167 表・第 275 図)。喜界町では、城久遺跡群で同種のガラス玉が多く出土している。着色に関与する成分として CuO を 0.51% 含有しており、銅による着色である。カリ鉛ガラスは風化が著しい個体が多く、本来の色調がわかる資料は貴重な事例で

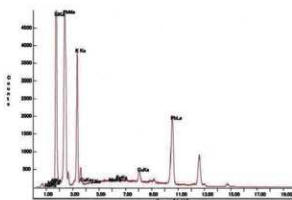
第 167 表 蛍光 X 線分析結果

資料名	色調	重量濃度 (wt%)										
		Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	K ₂ O	CuO	TiO	MnO	Fe ₂ O ₃	CuO	PbO
崩り遺跡 M-3 区 Ⅲ-a 層出土ガラス玉	濃青緑 透明	0.6	0.2	0.9	47.1	11.1	0.1	0.03	0.03	0.18	0.51	39.2

ある。なお、カリ鉛ガラスの産地に関しては、鉛同位体比分析による鉛原料の産地推定が有力な情報となるが、本調査では鉛同位体比分析を実施していないため、原料産地の特定には至っていない。今後の課題とした。



第 274 図 崩り遺跡 M-3 区Ⅲ-a 層出土ガラス玉



第 275 図 蛍光 X 線スペクトル

第3節 崩り遺跡の平成23～24年度調査で採集された脊椎動物遺体

極泉岳二（早稲田大学）

はじめに

崩り遺跡（鹿児島県喜界町）は喜界島南西部の海岸段丘上（標高23m前後）に位置する手久津久地区に広がる4つの遺跡のひとつで、縄文時代後～晩期と中世の複合遺跡である。本遺跡では平成23～24年度に実施された喜界町教育委員会による発掘調査（宮城ほか2013）において脊椎動物遺体（魚骨・獣骨など）が多数出土した。ここではその分析結果について報告し、その特徴について考察する。

1. 分析資料と分析方法

分析資料には(1)ピックアップ資料（発掘現場での目視確認と手で拾い上げによって採集されたもの）および(2)水洗選別資料（堆積物サンプルの水洗選別に伴う沈着物（ヘビークラクション：HF）から1mm目のフルイによって回収された資料）の2種類がある。

資料の年代は、縄文時代後～晩期のものと中世のものに分かれる。中世の資料には、11～12世紀、14～15世紀、および詳細な年代が不明のものがある。同定対象部位については、魚骨では主上顎骨、前上顎骨、歯骨、角骨、方骨、主髌蓋骨、椎骨の全資料およびその他同定可能な資料を同定用資料とした。魚類以外では部位の判定可能なものを同定用資料としたが、鳥類の四肢骨のうち骨幹の全周を残さない破片は同定対象外とした。同定方法は現生標本との比較を原則とした。比較標本には筆者の所蔵標本を使用した。哺乳類遺体の計測はDriesch (1976)の方法に準拠した。ウシ・ウマの体高推定は西中川ほか(1991)の方法に従った。

2. 分析結果

ピックアップ資料の同定結果の詳細・集計結果・組成を第169～179表に、水洗選別資料の同定結果の詳細・集計結果・組成を第180～192表にそれぞれ示した。NISPの算出に際しては、詳細な分類群・部位の特定が困難な骨片（第169～178表、第180～191表で数値<>を付して示したものは除外した）。

(1) 縄文後～晩期

全体的に骨の保存状態が悪く、溶解が進行し細片化しているため、詳細な分類群の特定が困難なものが多かった。

ピックアップ資料

ほとんどの資料が堅穴建物遺構（SH）と土坑（SK）から出土している（第169～178表）。遺構別の出土数（NISP）はSK07が76点と突出して多く、SK03も20点とやや多いが、他は10点未満（多くは5点以下）である。

脊椎動物全体の組成（第276～277図）では魚類が最も多く、同定標本数（NISP）比で約7割、最小個体数（MNI）比では

約8割を占める。哺乳類がこれに次ぎ、ウミガメ類も普通である。そのほかには鳥類がわずかに確認された。

魚類（第278・279図）ではブダイ科が最も多く、ハリセンボン科がこれに次ぐ。ニザダイ科、ハタ科、サメ類もやや多い。その他に、ベラ科、フエフィキダイ科、イヌズミ科、モンガラクラワギ科、フグ科が確認された。

ブダイ科の咽頭骨・前上顎骨・歯骨の多くはアオブダイ属だが、イロブダイ属も若干みられた。サメ類は歯と椎骨が得られている。SH14出土の歯はエナメル質のみが残存しており、歯冠形態は細身の三角形で鋸歯がみられないことから、メジロザメ科下顎歯の可能性が高い。SH17出土の歯は歯冠が大型の三角形で鋸歯が明瞭であることから、ホホジロザメ属の可能性が高い（図版1）。ベラ科の咽頭骨には「タキベラ型」、ベラ科A、ベラ科B（金子1996、極泉2006）がみられた。フグ科の顎骨（前上顎骨または歯骨）はいずれも溶解が進行しており、SK01出土資料は一部が崩壊して多数の針状破片に分解している。SH03とSH05からも同様の針状破片が採集されており、フグ科顎骨が分解したものと判断される。

ウミガメ類は下顎骨破片・指骨各1点のほか甲板破片が若干確認された。

鳥類は詳細な同定が困難な四肢骨骨幹が1点確認されたのみである。

哺乳類（第276・277図）ではイノシシが最も多く、クジラ類がこれに次ぐ。他にネズミ類とウシがわずかに確認されたが、前者は自然の遺体、後者は後世資料の混入と思われる。

イノシシは現生のリュウキュウイノシシと同様の小型個体である。全身の骨格が出土しており、部位組成に多くに偏りは認められない。出土数が少ないため、年齢構成や性は明確でない。

クジラ類はかなり大型の種と思われるものが多い。SH01・SH14の出土資料は加工品の可能性が高く、SH15・SK02の出土資料にもその可能性がある。また焼けた資料が多いのも特徴である。

水洗選別資料

資料の大半は魚骨であり、他にヘビ類、鳥類、ネズミ類、イノシシがわずかに確認された（第192表）。ヘビ類とネズミ類は自然の遺体と思われる。

魚類（第280・281図）ではブダイ科（咽頭骨・前上顎骨・歯骨はすべてアオブダイ属）が最も多く、ニザダイ科、ハタ科、ウツボ科、サメ類がこれに次ぐ。とくにブダイ科の咽頭骨・顎骨が溶解・分解して派生した遊離歯が多くのサンプルで検出された。サメ類はすべて歯で、多くはエナメル質のみが残存している状態であった。歯冠形態は三角形で鋸歯が明瞭なものや細身の剃刀状で鋸歯をもたないものなどがみられた。前者はメジロザメ科（またはホホジロザメ属?）、後者はアオザメ

属またはミズウニ科のものではないかと思われる。その他にクロダイ属、フエフキダイ科、ベラ科、アイゴ属、モンガラカワハギ科、ハコフグ科?、ハリセンボン科がわずかに確認された。

鳥類は詳細な同定が困難な小型鳥類の指骨 3点が確認されたのみである。

(2) 中世

ビックアップ資料

今回得られた中世資料には 11~12 世紀、14~15 世紀および詳細な年代が不明な中世資料がある。全般的に保存状態は良好である。出土数を年代別にみると(第 176~178 表)、11~12 世紀の資料は計 54 点で、このうち 42 点がビット (P) からの出土資料である。骨を出土したビットの数は 31 基と多いが、個々のビットからの出土数 (NISF) は 3 点以下と少ない。そのほか土壌 2 号出土が 2 点、他の 10 点は包含層出土(一括取り上げ資料)である。14~15 世紀の資料は計 20 点で、このうち石積み 1 出土が 3 点、その他は包含層出土(一括取り上げ資料)資料である。詳細時期不明の資料は 53 点で、このうち 42 点をビット出土資料が占めており(とくに P914 では 18 点とややまとまっている)、その他に包含層出土(一括取り上げ)資料が 10 点ある。

脊椎動物全体の組成(第 276・277 図)をみると、中世の合計では魚類が NISP 比・MNI 比ともに約 8 割と最も多く、哺乳類(おまじウシ・ウマ)がこれに次ぐ。そのほかウミガメがわずかに確認された。年代別の組成を NISP 比でみると(第 276 図)、11~12 世紀では 44 点中魚類が 43 点を占めており、他はウシが 1 点みられたのみである。14~15 世紀では、魚類 10 点、ウシ・ウマ(およびそれらのいづれかと思われるもの)が 8 点で、ウシ・ウマが増加するが、資料数が少ないため意味のある変化といえるかは判然としにくい。

魚類は、中世全体ではフエフキダイ科が最も多く、ブダイ科がこれに次ぎ、ハタ科、ベラ科、クロダイ属も普通である(第 278・279 図)。フエフキダイ科の前上顎骨にはメイチダイ属とフエフキダイ属(アマミフエフキに類するタイプ)がみられた。ブダイ科の咽頭骨・前上顎骨・歯骨はすべてアオブダイ属であった。ハタ科の前上顎骨・前脛蓋骨はすべてマハタに類するタイプである。そのほか、サメ類、ウツボ科、モンガラカワハギ科、ハリセンボン科がわずかに確認された。年代別の組成を NISP 比でみると(第 278 図)、11~12 世紀ではフエフキダイ科を最多として、ハタ科・クロダイ属もやや多く、ベラ科、ブダイ科がこれに次ぐ。14~15 世紀では資料数が少ないが、フエフキダイ科 6 点、ブダイ科 3 点、ハタ科 1 点が確認された。

哺乳類は、11~12 世紀ではネズミ類とウシ蹄骨が各 1 点みられたのみである(第 276 図)。ネズミは自然の遺体と思われる。14~15 世紀ではウシとウマが各 2 点およびそれらのいづれかと思われるもの 4 点が確認された。また、中世の資料

ではあるが詳細年代が不明のものとして、ウシ 5 点、ウシ・ウマのいづれかと思われるもの 7 点が確認されている。

ウシ・ウマの計測値(第 169~175 表「サイズ/計測」欄参照)から推定される体高は、ウシでは P430(11~12 世紀)の左踵骨(資料番号 31)が 105cm 程度、U-29 グリッド III 層(中世詳細不明)の右肋骨遠位端(資料番号 279)が約 115cm、ウマでは石列 1 号(14~15C)の左中足骨遠位端(資料番号 258)がおよそ 123cm 前後であった。

解体痕(第 169~175 表「備考」欄参照)としては上記のウシ肋骨(資料番号 279)にスパイラルフラクチャー、石列 1 号(14~15C)のウマ尺骨滑車切痕(資料番号 259)にカットマーク、U-29 グリッド III 層(中世詳細不明)のウシまたはウマの腰椎(資料番号 277)および石列 1 号(14~15C)のウシまたはウマの仙椎(資料番号 260)にもカットマークが確認された。

部位組成や年齢構成については資料数が少ないため明確でないが、ウシは歯 1 点と四肢骨 7 点(上腕骨・脛骨・踵骨・基節骨・末節骨)、ウマは四肢骨 2 点(尺骨・中足骨)、他にウシ・ウマのいづれかと思われる椎骨 4 点、肋骨 6 点が検出されている。また、ウシには臼歯が 1 点(資料番号 268)確認されている。

なお N-13 区 IVa 層(11~12 世紀)からはヒトの頭蓋骨破片(およびその可能性の強いもの)がまとまって採集されている。すべて強く焼けており火葬の可能性も考えられる。

水産動物資料

資料の大半は魚骨である(第 192 表)。ニザダイ科が最も多く(第 280 図)、ブダイ科の咽頭骨・歯骨が溶解・分解して派生した遊離歯も多くのサンプルで検出された。そのほかニダツ科、ウツボ科、モンガラカワハギ科、ハタ科、アイゴ属、ハコフグ科?、ハリセンボン科などが確認された。

魚類以外では、ヘビ類椎骨、詳細な同定が困難な鳥類指骨、ネズミ類下顎切歯およびイノシシ肋骨の可能性のある獣骨片が各 1 点確認されたのみである。ヘビ類とネズミ類は自然の遺体と思われる。

(3) 年代不明資料

上記以外に、年代不明のビックアップ資料としてサメ類の歯 3 点、ウシ 5 点(歯 1、四肢骨 4)、ウマの歯 1 点が得られている(第 176~178 表)。サメ類の歯のうち 1 点(資料番号 32、図版 1)は歯冠が大型(最大幅 35mm)の三角形で歯根が明瞭であることからホロジョザメ属と思われ、質感から化石の可能性も考えられる。ウシの中手骨と脛骨にはスパイラルフラクチャーが確認された。

3. 考察

(1) 縄文後〜晩期の脊椎動物遺体群の特徴

喜界島において縄文後〜晩期(貝塚時代前 4~5 期)の詳細

な脊椎動物遺体のデータが得られたのは今回が初例であり、これまで様相が不明であった喜界島の当該時期における動物資源利用の様相を知ることができ極めて重要である。

本遺跡の縄文後～晩期の脊椎動物遺体の特徴をまとめると、ビクアップ資料では魚類を主体として、イノシシも多く、ウミガメも普通である。水洗資料では魚骨が大半を占める。魚類はビクアップ資料・水洗資料ともにブダイ科が主体であり、ビクアップ資料ではハリセンボン科・ベラ科、水洗資料ではニザダイ科・ハタ科なども多く、出土魚類の大半をサンゴ礁やその周辺に生息する魚類が占める。これらの特徴から、本遺跡の縄文後～晩期における脊椎動物資源利用の構成は、サンゴ礁性の魚類を主対象とした沿岸漁労とイノシシ猟を主力としており、とくに前者が活発であったと推定される。イノシシは、これまで喜界島の遺跡では出土例がごく少なく、先山遺跡（7～10世紀、西中川1987）および和早地遺跡（14～15世紀、極泉2008）で少数が確認されていたのみであったが、今回縄文後～晩期のまとまった資料が確認された。これらのイノシシは現生リュウキュウイノシシと同様の小型個体であり、全身の骨格が出土していること、また島嶼規模において喜界島（面積56.93km²）と同等の沖縄県久米島（59.11km²）やより小規模な伊江島（22.78km²）の貝塚時代遺跡からイノシシ遺体が多数出土しており、いずれも自生の個体群と考えられることから、喜界島においても野生の個体群が自生していたと考えて差し支えないと思われる。

奄美群島においてこれまでに脊椎動物遺体を出土した縄文後～晩期の主要遺跡としては、喜界島に隣接する奄美大島の宇宿貝塚（大塚・西中川1979, 今井ほか1979）、宇宿小学校構内第1～第2文化層（名島2003）、長浜金久第II遺跡（松元・西中川1985, 四宮ほか1985）、奄美群島南部では徳之島のトマチン遺跡（極泉2013）、面縄第2貝塚（極泉2016）、沖永良部島の住吉貝塚（西中川2006, 極泉2006）・友留遺跡（極泉2009）などがある。

これらの遺跡のデータと今回の結果を比較すると、ビクアップ資料に関してはサンゴ礁性の魚類とイノシシを主体としてウミガメが加わる基本的特徴はおおむね共通している。これは奄美群島～沖縄諸島の貝塚時代前3期～後2期（縄文中期～古代）に普遍的にみられる特徴（極泉2002, 2011）でもある。水洗資料に示される小型魚類に関しては、奄美群島でこれまでにデータが得られているのはトマチン・面縄第2・住吉・友留の4遺跡のみだが、いずれもビクアップ資料と同様にサンゴ礁性の魚類が卓越しており、本遺跡も同様の特徴を示した。

ただし魚類組成を詳細にみると、他の遺跡では突出した優占種がみられず、さまざまな種類のサンゴ礁性魚類が混在する多様性の高い組成がみられる点が特徴となっているのに対して、本遺跡ではとくにビクアップ資料においてブダイ科とハリセンボン科が卓越している点が傾向が異なるように思われる。ただしこの点については、本遺跡では全体的に骨の保

存状態が悪く溶解・分解が進んでいる資料が多いことから、骨質が堅緻なブダイ科の咽頭骨・顎骨やハリセンボン科の顎骨がとくに保存されやすかったことが原因とも考えられる。

また、本遺跡ではクジラ類が多くみられた点も特徴である。クジラ類はかたがた大型のものが多く、加工品もみられたことから、骨製品の素材として着替した死体などから骨が採集されたのではないかと考えられる。住吉貝塚・友留遺跡などでは大型クジラ類を素材とした骨製品が出土しており、面縄第2貝塚でも加工痕のある大型クジラ類の骨が確認されていることから、本遺跡の資料もこれらの類別になるものと思われる。

(2) 中世の脊椎動物遺体群の特徴

今回得られた中世資料の年代は11～12世紀と14～15世紀と推定されている。とくに城久遺跡群の最盛期に相当する11～12世紀の資料が得られたことは、これまでデータのなかった当該時期の低位段丘域における生活の様相を示すものとして重要である。

本遺跡の中世全体の脊椎動物遺体の特徴をまとめると、ビクアップ資料では魚類を主体として、ウシ・ウマも普通である。水洗資料では魚骨が大半を占める。魚類はビクアップ資料ではエフェキダイ科、水洗資料ではニザダイ科が主体であり、ビクアップ資料ではブダイ科・ハタ科なども多く、出土魚類の大半をサンゴ礁やその周辺に生息する魚類が占める。これらの特徴から、本遺跡の中世における脊椎動物資源利用の構成は、サンゴ礁性の魚類を主とした魚類利用とウシ・ウマの利用を主力としたものであったと推定される。

これを縄文後～晩期と比較すると、中世においてもサンゴ礁性魚類が主体となる点は縄文後～晩期と同様だが、哺乳類はウシ・ウマが出現し、イノシシがほぼみられなくなる点で明確な変化がみられる。ウシ・ウマの出現は喜界島の他の中世遺跡や沖縄諸島のグスク時代以降の遺跡に広くみられる現象である。いっぽうイノシシについては、沖縄諸島ではグスク時代以降も出土数が多い（ただしブタの可能性のあるものが含まれるようになる）が、喜界島の他の中世遺跡では稀であり、本遺跡も同様の特徴を示した。

また魚類の内容にも大きな変化がみられ、縄文後～晩期ではブダイ科（およびビクアップ資料ではハリセンボン科）が主体だが、中世ではこれらが激減し、ビクアップ資料ではエフェキダイ科、水洗資料ではニザダイ科が増加する。こうした変化の原因については今のところ不明だが、優占種はいずれもサンゴ礁やその周辺の生息域であることから、沿岸環境に大きな変化があったとは考えにくいように思われる。なお縄文後～晩期では、すでに述べたとおり全体的に骨の保存状態が悪いことから、骨質が堅緻なブダイ科の咽頭骨・顎骨やハリセンボン科以外の骨が選択的に溶解・消失する傾向にあったのに対し、中世資料は全体的に保存良好であり、エフェキダイ科やニザダイ科のような比較的脆弱な骨も保存されやすかったことが組成変化の一因となっている可能性も考慮する必要

がある。

次に、中世資料の年代別の組成を NISP 比によってみると、11~12 世紀と 14~15 世紀のウマにおいてもサンゴ礁性魚類が主体となる点では共通している (第 176-177 表)。魚類の内容は、11~12 世紀ではフエキダイ科を最多として、ハタ科・ウグイシ科・ベラ科・ブダイ科などもやや多い (第 278 図)。14~15 世紀については資料数が少ないため特徴が不明確だが、フエキダイ科が多く、これにブダイ科・ハタ科といったサンゴ礁性魚類が加わる点で基本的には同傾向とみてよいと思われる。

喜界島における 11~12 世紀の魚骨資料としては、これまで城久遺跡群 (大ウフ遺跡 A~C 地区、10~12 世紀) で少数 (サメ類 6 点・ハリセンボ科 1 点) の出土が確認されていたのみであった (西中川 2013b)。これに対して本遺跡では比較的多くの魚骨が出土しており、これらの魚類が本遺跡の住民によって直接漁獲されたものか、他の漁獲集団から間接的に入手されたものかは不明だが、いずれにしても魚類が食料資源としてある程度の頻度で利用されていたと推定される。このことは当時の喜界島沿岸域に漁業を行う集団が存在していたことを示唆しており、この時期の動物資源利用の実態を推定するうえで重要である。

14~15 世紀には、本遺跡よりもさらに低位の段丘 (標高 13m) に位置し海岸に近接した和早地遺跡においてサンゴ礁性魚類を主とした多数の魚骨 (NISP ピックアップ資料 169 点、篩取資料 346 点; 合計 515 点) が出土していることから (桶泉 2008)、本遺跡の魚類がこうした漁獲集団から入手されたものである可能性も考えられる。

魚類以外については、11~12 世紀ではウシが 1 点みられたのみであるのに対して、14~15 世紀ではウシ・ウマが増加する。こうした変化はウシ・ウマの飼育 (およびこれらを利用した農耕) の普及を示しているようにも思えるが、資料数が少ないため確実ではない。ただし城久遺跡群の大ウフ遺跡・半田遺跡では 13~15 世紀にウシ・ウマの出土数の増加がみられることから (西中川 2013a・b・c)、本遺跡もこれと連動した傾向を示している可能性は強いと考えられる。

なお、本遺跡に隣接する中増遺跡 (13~15 世紀、桶泉 2015) ではウシ・ウマが多いのに対して魚類は少なく (NISP でウシ 44 点、ウマ 6 点、魚類 10 点)、本遺跡とは対照的な様相を示している。隣接した同時代遺跡の間でこうした差異が生じた原因については今後の課題だが、この時期の動物資源利用の様相は遺跡間の差異が大きく、多様かつ複雑なものであった可能性がある。

(3) ウシ・ウマの形質

今回得られたウシの推定体高は 105~115cm (N=2) である。これは大ウフ遺跡 (108~123cm)、半田遺跡 (111~125cm)、中増遺跡 (110~122cm) と同程度で、日本在来牛である口之島牛 (雄 122cm、雌 112cm、西中川ほか 1991) に相

当するサイズである。

今回得られたウマの推定体高は 123cm 前後 (N=1) である。これは中増遺跡 (120cm) とほぼ同様であり、大ウフ遺跡・半田遺跡 (ともに 116cm) よりわずかに大きいが、基本的には日本在来馬である年馴馬 (120cm、西中川ほか 1991) とほぼ同大で、日本在来の小型馬の系統に属するものとみてよいと考えられる。

謝辞

喜界町教育委員会の澄田直敏、野崎拓司、松原信之の各氏には、調査・分析に際して多大なるご助力とご教示を賜った。記して厚く御礼申し上げます。本報告の一部には科学研究費 (15K02990、代表: 桶泉岳二) を使用した。

参考文献

- 今井直彦・四宮明彦・鎌田昌彦 (1979) 「魚骨」『鹿児島県笠和町文化財調査報告書 宇宿貝塚』笠和町教育委員会, pp.97-98.
- 大塚潤一・西中川駿 (1979) 「獣骨」『鹿児島県笠和町文化財調査報告書 宇宿貝塚』笠和町教育委員会, pp.95-96.
- 金子浩昌 (1996) 「動物遺体 (軟体動物を除く)」『平式屋トウベル遺跡』沖縄県教育委員会, pp.168-295.
- 四宮明彦・鈴木志志・久保田裕一 (1985) 『長浜金久遺跡出土魚骨および甲殻類図解について』『長浜金久遺跡-新奄美空港建設に伴う埋蔵文化財報告書』鹿児島県教育委員会, pp.230-232.
- 桶泉岳二 (2002) 「脊椎動物遺体からみた奄美・沖縄の環境と生業」『先史琉球の生業と交易-奄美・沖縄の発掘調査から-』熊本大学文学部, pp. 47-66.
- 桶泉岳二 (2006) 「魚類遺体群からみた住吉貝塚の特徴と重要性」『住吉貝塚』知名町教育委員会, pp.115-131.
- 桶泉岳二 (2008) 「和早地遺跡の脊椎動物遺体群」『荒木貝塚和早地遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター, pp.43-56.
- 桶泉岳二 (2009) 「友留遺跡から出土した脊椎動物遺体群」『友留遺跡』知名町教育委員会, pp.83-106.
- 桶泉岳二 (2011) 「琉球先史時代人と動物資源利用-脊椎動物遺体を中心に-」『先史-歴史時代の琉球列島-ヒトと景観-』六一書房, pp.109-131.
- 桶泉岳二 (2013) 「トマチン遺跡出土の脊椎動物遺体」『徳之島トマチン遺跡の研究』鹿児島大学埋蔵文化財調査センター, pp.174-185.
- 桶泉岳二 (2015) 「中増遺跡の平成 23~24 年度調査で採集された脊椎動物遺体」『中増遺跡 1』喜界町教育委員会, pp.59-70.
- 桶泉岳二 (2016) 「面鏡貝塚から出土した脊椎動物遺体群の特徴と重要性」『面鏡貝塚総合報告書-平成 19~27 年度町内遺跡発掘調査等事業に係る発掘調査報告書』伊仙町教育委員会, pp.118-139.

名島弥生 (2003) 「宇宿小学校構内遺跡出土の動物遺存体について」*奄美考古* 5: 61-72.

西中川 駿 (1987) 「先山遺跡出土の自然遺物—とくに出土動物骨について—」『先山遺跡』喜界町教育委員会, pp.36-37.

西中川 駿 (2006) 「知名町住吉貝塚出土の動物遺体」『住吉貝塚』知名町教育委員会, pp.108-114.

西中川 駿 (2013a) 「喜界町大ウフ遺跡出土のウシ遺体」『城久遺跡群 大ウフ遺跡・半田遺跡』喜界町教育委員会, pp.173-178.

西中川 駿 (2013b) 「喜界町大ウフ遺跡(平成19年度, 21・22年度調査) 出土の動物遺体」『城久遺跡群 大ウフ遺跡・半田遺跡』喜界町教育委員会, pp.179-185.

西中川 駿 (2013c) 「喜界町半田遺跡出土の動物遺体」『城

久遺跡群 大ウフ遺跡・半田遺跡』喜界町教育委員会, pp.298-300.

西中川 駿 ほか (1991) 『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛, 馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B) 成果報告書.

松元光春・西中川駿 (1985) 「長浜金久遺跡出土の動物骨」『長浜金久遺跡—新奄美空港建設に伴う埋蔵文化財報告書』鹿児島県教育委員会, pp.223-229.

宮城良真・亀島慎吾・野崎拓司 (2013) 「喜界島崩り遺跡発掘調査速報」*奄美考古* 第7号, pp.70-74.

Driesch, A. (1976) *A Guide to the Measurements of Animal Bones from Archaeological Sites*. Peabody Museum Bulletin 1.

第168表 崩り遺跡平成23～24年度調査において採集された脊椎動物遺体の種名一覧

* 調査後～換骨のウシは中世資料の誤入と思われる。

和名	学名	調査後～換骨		中世	年代不明
		ビックアップ	水洗選別		
軟骨魚類 CHONDRICHTHYES					
メジロザメ科	属・種不明	Carcharhinidae	gen. et sp. Indet.	○?	○
ネズミザメ科	ホオジロザメ属	Lamnidae	<i>Carcharodon</i> sp.		○
サメ科	科不明	Lamniformes?	family indet.	○	○
硬骨魚類 OSTEOICHTHYES					
アナゴ科	属・種不明	Congridae	gen. et sp. Indet.	○	
クワガ科	属・種不明	Muraenidae	gen. et sp. Indet.	○	○
ダツ科	属・種不明	Belonidae	gen. et sp. Indet.	○	○
ハタ科	マハタ属	Serranidae	cf. <i>Epinephelus</i>	○	○
	属・種不明		gen. et sp. Indet.	○	○
フエダイ科	属・種不明	Lutjanidae	gen. et sp. Indet.		○
イヌズビ科	属・種不明	Kyphosidae	gen. et sp. Indet.	○	
タイ科	クロダイ属	Sparidae	<i>Acanthopagrus</i> sp.	○?	○
	イナダ属		<i>Gymnochranius</i> sp.		○
	ハマフエフキ型		<i>Lethrinus</i> cf. <i>L. nebulosus</i>		○
フエフキダイ科	フエフキダイ属	Lethrinidae	<i>Lethrinus</i> cf. <i>L. amoniamus</i>		○
	種不明		<i>Lethrinus</i> sp.	○	○
	属・種不明		gen. et sp. Indet.	○	○
	タキベラ型		cf. " <i>Bodianus perditio</i> "	○	
ベツ科	ベツ科A	Labridae	sp. A	○	
	ベツ科B		sp. B	○	○
	属・種不明		gen. et sp. Indet.	○	○
	イロフダイ属		<i>Balitoropteron</i> sp.	○	
フダイ科	アオブダイ属	Scorpaenidae	<i>Scorpaen</i> sp.	○	○
	属・種不明		gen. et sp. Indet.	○	○
	属・種不明		<i>Siganus</i> sp.	○	○
アイゴ科	アイゴ属	Siganidae	<i>Siganus</i> sp.	○	○
ニギハク科	属・種不明	Acanthrinidae	gen. et sp. Indet.	○	○
モンガラカワハダ科	属・種不明	Balistidae	gen. et sp. Indet.	○	○
ハコダテ科?	属・種不明	Ostraciidae	gen. et sp. Indet.	○	○
フダ科	属・種不明	Tetraodontidae	gen. et sp. Indet.	○	○
ハシヤシロ科	属・種不明	Diodontidae	gen. et sp. Indet.	○	○
爬虫類 REPTILIA					
ヘビ亜目	科不明	Serpentes	family indet.	○	○
ウミガメ科	属・種不明	Cheoniidae	gen. et sp. Indet.	○	○
鳥類 AVES					
目不明		Order indet.		○	○
哺乳類 MAMMALIA					
ネズミ科	ネズミ亜科	Muridae	Murinae	○	○
	属・種不明		gen. et sp. Indet.	○	○
イリスン科	イリスン	Suidae	<i>Sus scrofa</i>	○	○?
ウシ科	ウシ	Bovidae	<i>Bos taurus</i>	○*	○
ウマ科	ウマ	Equidae	<i>Equus ferus</i>		○
クジラ目	科不明	Cetacea (large)	family indet.	○	
ヒト科	ヒト	Hominidae	<i>Homo sapiens</i>		○

第170表 崩り遺跡平成23～24年度調査においてピックアップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(2)

*1 種名位置凡例。a:実存、b:産出確、c:骨粒、d:産出疑、e:骨粒、f-g:hは産出疑の骨粒のみ、f-g-hは産出疑と産出確、g-p-q:rは骨粒のみ産出

2 同一骨が割れて複数の破片になっていると考えられる場合は1とカウントした。()を付したものはNDPの算定対象外

時期	遺構名	層	区	フック 番号	資料 番号	種類	種別	数 個	サイズ/ 加飾	保存状態	備考
縄文後～晩期	S914	I	K-2	4		クラゲ類	不明	※		良好、わずかに焦(灰色)	加工品(管状製品?)の可能性大
縄文後～晩期	S914	II	K-2	8		クラゲ類	不明	※		焼/灰色	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	60	113	哺乳類(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	64	115	哺乳類(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	77	2a	哺乳類?	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	78	2b	哺乳類?	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	20		哺乳類?	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	35	109	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	46	119	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	47	111	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	48	112	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	65	116	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	66	117	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	67	118	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	69B	119	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	69	120	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S914	II	K-2	3		パピス	※				
縄文後～晩期	S914	II	K-2	8		パピス	※				
縄文後～晩期	S914	II	K-2	8		炭化物	※				
縄文後～晩期	S914	II	K-2	71	122	骨ではない					おそらく木村
縄文後～晩期	S915	L-1		57	199	アオブダイ属	フ咽歯骨	1	大		
縄文後～晩期	S915	上	L-1	197		フダイ科	歯上顎/歯骨	※		溶解進行	
縄文後～晩期	S915	L-1		195		クラゲ類	不明	※	1	焼	
縄文後～晩期	S915	L-1		42	198	哺乳類(同定不可)	大腸骨?				本融合
縄文後～晩期	S915	L-1		42	198	哺乳類(同定不可)	不明	※	(10)		
縄文後～晩期	S915	L-1		28	196	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S916-19-21	一括	K-V-2	69		アオブダイ属	上咽歯骨	※	1	溶解進行	
縄文後～晩期	S916-19-21	一括	K-V-2	68		フダイ科	歯上顎/歯骨	※	1	溶解進行	
縄文後～晩期	S916-20	K-V-2		137		哺乳類(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	四肢骨骨端部のみ
縄文後～晩期	S916-21	一括	K-V-2	136		フダイ科	歯上顎骨	併次発射器	R	1	良好
縄文後～晩期	S917	I	K-2	138		サメ類	歯		1		大型ニ角骨-産出層-一本のソコメ属か
縄文後～晩期	S917	K-2		139		骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S918	床底	K-2	150	140	サメ類	脛骨		1	大	溶解進行-観察後明確
縄文後～晩期	S918	I	K-2	143		ハシセンボ科	歯上顎/歯骨	エナメル部	1		エナメル部分のみ残存
縄文後～晩期	S918	I	K-2	144		ハシセンボ科	歯上顎/歯骨	エナメル部	1		エナメル部分のみ残存
縄文後～晩期	S918	I	K-2	144		イリシ	脛骨	(g)	1		
縄文後～晩期	S918	-		97	17	哺乳類/ウミガメ	不明	※	(1)	良好	イリシ/ウミガメ?
縄文後～晩期	S918	I	K-2	145		哺乳類(同定不可)	不明	※	(2)	焼	
縄文後～晩期	S918	I	K-2	6		骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S918	K-2		213	141	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S918	K-2		216	142	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S918?	K-2		46		骨/サンジロ属?			(1)		おそらくサンジロ属
縄文後～晩期	S920	I	L-2	19		ハシセンボ科	歯上顎/歯骨	エナメル部	1		エナメル部分のみ残存
縄文後～晩期	S921	L-2		105	134	アオブダイ属	歯上顎骨		R	1	大
縄文後～晩期	S921	L-2		140	129	鹿骨類(同定不可)	脛骨		1		
縄文後～晩期	S921	L-2		195	134	ネズミ科類	下顎骨		1		溶解進行
縄文後～晩期	S921	L-2		5		哺乳類(同定不可)	四肢骨	※b	(2)	焼(白色)	中型鹿類(イリシ/イヌ)
縄文後～晩期	S921	L-2		123		哺乳類(同定不可)	不明	※	(1)	保存良好	産出層のみ加工品
縄文後～晩期	S921	L-2		109	125	哺乳類(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S921	L-2		119	126	哺乳類(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	歯残存の可能性もある(きつめて不確定)
縄文後～晩期	S921	L-2		156	131	哺乳類(同定不可)	不明	※	(1)		
縄文後～晩期	S921	L-2		135		哺乳類(同定不可)	不明	※	(1)	焼	
縄文後～晩期	S921	L-2		5		骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S921	L-2		123	127	骨(同定不可)	不明	※	(1)		
縄文後～晩期	S921	L-2		126	128	骨(同定不可)	不明	※	(1)		
縄文後～晩期	S921	L-2		153	130	骨(同定不可)	不明	※	(1)		
縄文後～晩期	S921	L-2		174	132	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S921	L-2		185	241	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S921	L-2		194	342	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S921	L-2		190	343	骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	
縄文後～晩期	S921	L-2		187	133	骨ではない?					石灰質破片か
縄文後～晩期	S921	L-2		150	329	資料なし					骨質骨部
縄文後～晩期	S922-23	K-V-2		146		ハシセンボ科	歯上顎/歯骨	エナメル部	1		エナメル部分のみ残存
縄文後～晩期	S923	I	K-V-2	212		哺乳類(同定不可)	不明	※	(1)	焼	
縄文後～晩期	S923	I	K-V-2	213		哺乳類(同定不可)	不明	※	(1)	焼	
縄文後～晩期	S923	I	K-V-2	214		ハシセンボ科	歯上顎/歯骨	エナメル部	1		エナメル部分のみ残存-薄板に分解
縄文後～晩期	S925	K-V-2		194		骨(同定不可)	不明	※	(1)	溶解進行	哺乳類/ウミガメ?
縄文後～晩期	S926	K-V-1		41	215	骨(同定不可)	不明	※	(1)		
縄文後～晩期	S91	I	L-1	48	322	ハナダ	脛骨		1	大	良好
縄文後～晩期	S91	I		46	219	アオブダイ属	フ咽歯骨		1	大	

第172表 崩り遺跡平成23～24年度調査においてピックアップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(4)

*1 残存位置凡例。a=実存、b=送信、c=骨料、d=遺体、e=埋骨、f、g、hは未調査の骨種のみ、g、hは骨種未調査、g、hは骨種のみ未調査

*2 同一骨が複数の種に属していると考えられる場合は1とカウントした。< >を付したものはNSPの算定対象

時期	遺構名	層区	トポグラフィ	資料番号	種別	部位	残存位置*1	左右	数	サイズ	保存状態	備考
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加13	アオブダイ属	歯上顎骨	L	1	ごく小	良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加04	アオブダイ属	歯上顎骨	R	1	中	良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加09	アオブダイ属	歯上顎骨	R	1	やや小	良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加11	アオブダイ属	歯上顎骨	R	1	小	良好		
縄文後～前期	5K07	II	K-3-4	追加19	アオブダイ属	歯上顎骨	R	1	大	良好		歯骨1&2同一個体?
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加20	アオブダイ属	歯上顎骨	R	1	大	良好		
縄文後～前期	5K07	II	K-3-4	追加19	アオブダイ属	歯骨	L	1	大	良好		
縄文後～前期	5K07	II	K-3-4	追加19	アオブダイ属	歯骨	R	1	大	良好		歯骨1&2同一個体
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	アオブダイ属	上顎歯骨	L	1	大	良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	アオブダイ属	上顎歯骨	L	1	中	良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	アオブダイ属	歯上顎/歯骨	不明	?	大	良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加11	ブダイ科	方骨	L	1	大	良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	ブダイ科	方骨	L	1	大	良好		
縄文後～前期	5K07	II	K-3-4	追加10	ブダイ科	方骨	L	1	大	良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		344	ブダイ科	方骨	R	1	大	良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加07	ブダイ科	尾椎	1			溶解進行		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	ブダイ科	尾椎	5			良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加06	ブダイ科	尾椎	1			良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加07	ブダイ科	尾椎	1			溶解進行		
縄文後～前期	5K07	II	K-3-4	追加10	ブダイ科	尾椎	1			良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		追加17	ブダイ科	尾椎	1			良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	ニザダイ科	尾椎	2	大		良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加06	ニザダイ科	尾椎	3			良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加06	ニザダイ科	尾椎(可動型)	1			良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		追加17	ニザダイ科	尾椎(可動型)	1			良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	真骨鱗(保体)	尾椎	1			良好		フェウキダイ科?
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加06	真骨鱗(保体)	尾椎	1			良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加11	真骨鱗(保体)	尾椎	1			良好		
縄文後～前期	5K07	II	K-3-4	追加19	真骨鱗(保体)	尾椎	1			良好		ナツウ
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加06	真骨鱗(同定不可)	向骨	R	1		良好		フェウキダイ科?
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加20	真骨鱗(同定不可)	方骨	1			良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		追加17	真骨鱗(同定不可)	尾椎	1			良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	真骨鱗(同定不可)	尾椎	1	ごく小		良好		同定不可
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加06	真骨鱗(同定不可)	尾椎	1			良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加07	真骨鱗(同定不可)	尾椎	1			溶解進行		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加20	真骨鱗(同定不可)	尾椎	1			良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		追加14	真骨鱗(同定不可)	不明	?	?		良好		
縄文後～前期	5K07	II	K-3-4	201	真骨鱗(同定不可)	不明	?	(6)				
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	ウミガメ類	肋骨	?			種(灰色)		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	200	ウミガメ類	肋骨	?	2				
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	ウミガメ類	肋骨	?	1		良好、わずかに種(灰色)		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		53	ウミガメ類	肋骨	?	2		良好、わずかに種?		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		追加17	ウミガメ類	肋骨	?	1		良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	ウミガメ類	甲板	?	(1)		良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		53	ウミガメ類	甲板	?	(1)		良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		追加17	ウミガメ類	甲板	?	(1)		良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		203	ウミガメ類?	甲板?	?	(1)				
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加11	鳥類?	胸肋骨	不明	(1)		種		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		204	鳥類(同定不可)	四肢骨	m	1		種		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		追加17	ネズミ科	下顎	R	1		良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		追加17	イノシシ	下顎1	R	1		良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加06	イノシシ?	歯根	不明	?		良好		
縄文後～前期	5K07	K-3-4		203	イノシシ	歯根	不明	?				
縄文後～前期	5K07	K-3-4		追加17	イノシシ	肩甲骨	関節欠	R	1		良好	幼獣
縄文後～前期	5K07	K-3-4		追加17	イノシシ	上腕骨	m<イ>	L	1		良好	幼獣
縄文後～前期	5K07	K-3-4		345	イノシシ	上腕骨	m<イ>	R	1		良好	幼獣
縄文後～前期	5K07	K-3-4		追加20	イノシシ	尺骨	滑車切痕 m	L	1		種	幼獣
縄文後～前期	5K07	K-3-4		345	イノシシ	尺骨	滑車切痕下 部 m	R	1		良好	幼獣
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加11	イノシシ	肋骨	R	1		良好		
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加07	イノシシ	第2中足骨	p	L	1		種	
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加04	イノシシ	第5中足骨	w	L	1		良好	
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	哺乳類(同定不可)	椎骨	椎体	1		良好		やや小型、イヌ?
縄文後～前期	5K07	K-3-4		51	哺乳類(同定不可)	椎骨	椎弓	2		良好		やや小型、イヌ?
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	202	哺乳類(同定不可)	不明	?	(1)				加工品
縄文後～前期	5K07	K-3-4		344	骨(同定不可)	不明	?	<10>				
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加04	狸類	肩胛				溶解進行		貝ブロック
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加05	狸類	肩胛				溶解進行		貝ブロック
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加09	狸類	骨				種		タカラガイ?
縄文後～前期	5K07	I	K-3-4	追加11	狸類	骨				溶解進行		
縄文後～前期?	5D01	F1-Q-18		59	真骨鱗(同定不可)	不明	?	(1)		良好		
縄文後～前期	一括	II-B-12		292	ウシ	踵骨	R	1		良好		
縄文後～前期	一括	K-1-6		301	哺乳類(同定不可)	不明	?	(1)				H1検骨位置での可能性あり
縄文後～前期	一括	L-1-26		280	哺乳類(同定不可)	不明	?	(1)		良好		

第173表 崩り遺跡平成23～24年度調査においてピックアップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(5)

*1 残存位置: 骨片、a: 趾長、b: 骨幹、c: 遠位端、d: 結片、(a)-(d)は未定長の骨種のみ、(a)-(d)は骨種未定種、(a)-(d)は骨種のみ欠損

*2 同一骨が割れて複数の破片になっていると考えられる場合は1とカウントした。()を付したものはNSPの算定対象外

種別	遺構名	層	区	ドット番号	資料番号	種類	部位	残存位置*1	左	右	サイズ/計測	保存状態	備考
哺乳類	一期	K-12		300	骨(同定不可)	不明	骨	骨	(1)				
哺乳類	P11	N-11		331	高骨類(同定不可)	不明	骨	(1)					ハジセンゾノ科跡か
哺乳類	P77	P-17		321	ブダ科	尾椎				1		良好	
哺乳類	P197	N-6		332	ペラ科	前上肢骨		R	1		やや大	良好	
哺乳類	P206	O-16		333	タイ型	腕骨				1		良好	おそらくフエキダ科
哺乳類	P206	O-16		333	ペラ科	前上肢/歯骨				1		良好	
哺乳類	P226	N-14		312	サメ類	椎骨				1	中	良好	メジロザメ類(圓椎タイプ)
哺乳類	P227	P-15		27	ハジセンゾノ科	歯骨+角骨				1	中:エナメ L:幅17		
哺乳類	P307	N-15		334	ハタ科	腕骨				1		良好	
哺乳類	P308	N-15		320	アオブダイ属	歯骨		L	1		中	良好	
哺乳類	P340	Q-19		34	フジツボ?	腕骨	骨			(1)		焼(灰色)	
哺乳類	P357	N-15		222	タイ型	尾椎				1		良好	
哺乳類	P357	N-15		222	高骨類(同定不可)	椎骨	骨			1		良好	
哺乳類	P357	N-15		222	高骨類(同定不可)	不明	骨			(12)		良好	
哺乳類	P386	N-16		315	クロダイ属	歯骨		L	1		大		
哺乳類	P386	N-16		315	アオブダイ属	上顎歯骨		R	1		中		
哺乳類	P416	O-15		223	ハジセンゾノ科	鱗				(1)		良好	
哺乳類	P416	O-15		223	高骨類(同定不可)	不明	骨			(1)		良好	
哺乳類	P430	P-15		31	ウシ	踵骨	w	L	1		G139.0	良好	
哺乳類	P443	P-15		26	ハタ科	角骨		L	1		中		
哺乳類	P450	P-15		39	高骨類(同定不可)	鱗鱗				(1)		良好	
哺乳類	P458	-		25	ハタ科	腕骨				1	大: 椎体 幅30.5	良好	
哺乳類	P485	L-12		319	フエキダ科	角骨		R	1		中		
哺乳類	P515	N-15		224	メナダ属	前上肢骨		L	1			良好	
哺乳類	P517	O-15		56	フエキダ科	腕骨				1		良好	
哺乳類	P521	N-15		23	骨(同定不可)	不明	骨			(1)		焼(灰色)	
哺乳類	P523	N-15		335	高骨類(保留)	尾椎				1		良好	ペラ科か
哺乳類	P528	O-15		61	ウツボ科	椎骨				1	大	良好	
哺乳類	P541	O-15		336	哺乳類(同定不可)	不明	骨			(2)		焼	
哺乳類	P544	O-15		58	クロダイ属?	角骨		R	1			良好	
哺乳類	P544	O-15		58	高骨類(同定不可)	不明	骨			(2)		良好	
哺乳類	P544	O-15		58	ホシズ科	尺骨	w			1		良好	
哺乳類	P547	O-15		44	フエキダ科?	腕骨				1		良好	
哺乳類	P561	P-15		35	フエキダ科	前上肢骨	w	L	1			良好	
哺乳類	P561	P-15		35	高骨類(同定不可)	不明	骨			(1)		良好	
哺乳類	P566	J-4		67	骨(同定不可)	不明	骨			(1)		溶解進行	
哺乳類	P587	Q-18		36	巻貝		骨					焼(灰色)	
哺乳類	P609	Q-19		33	巻貝		骨					焼(灰色)	
哺乳類	P618	Q-19		28	哺乳類(同定不可)	四肢骨	m			(1)		良好、わずかに焼(灰色)	中型種類(イノシシ?)
哺乳類	P629	P-18		57	高骨類(同定不可)	尾椎				1		良好	フエキダ科?
哺乳類	P635	O-15		225	骨(同定不可)	不明	骨			(1)		良好	
哺乳類	P637	N-15		226	クロダイ属	主上肢骨		L	1		大	良好	
哺乳類	P637	N-15		226	タイ型	尾椎				1		良好	
哺乳類	P638	N-15		227	ハタ科	腕骨		L	1		中	良好	
哺乳類	P638	N-15		227	フエキダ科	口蓋骨		R	1		やや大	良好	
哺乳類	P638	N-15		227	フエキダ科	歯骨				post		良好	
哺乳類	P638	N-15		227	高骨類(同定不可)	鱗鱗				(1)		良好	
哺乳類	P639	N-15		228	フエキダ科	主上肢骨		L	1		大	良好	
哺乳類	P642	N-15		316	クロダイ属	角骨		R	1		やや大		
哺乳類	P642	N-15		316	高骨類(同定不可)	不明	骨			(1)			
哺乳類	P649	O-15		317	高骨類(同定不可)	鱗鱗				(1)			
哺乳類	P649	O-15		317	高骨類(同定不可)	不明	骨			数点			
哺乳類	P656	-		230	骨ではない								
哺乳類	P659	N-15		229	サメ類	椎骨				1		良好	
哺乳類	P715	N-15		231	フエキダ科	主上肢骨		R	1		大	良好	メナダ科か
哺乳類	P717	N-15		64	クロダイ属	方骨		L	1		大	良好	
哺乳類	P717	N-15		64	モンガラカワハダ科	腕骨				1		良好	
哺乳類	P717	N-15		64	高骨類(同定不可)	尾椎				1		良好	同定不可
哺乳類	P717	N-15		64	高骨類(同定不可)	不明	骨			(7)		良好	
哺乳類	P727	N-15		66	マハタ型	前上肢骨	ant	R	1		中	良好	
哺乳類	P727	N-15		66	高骨類(同定不可)	尾椎				1		ごく小	同定不可
哺乳類	P731	O-16		65	高骨類(同定不可)	不明	骨			(2)			
哺乳類	P732	O-16		62	フエキダ科	角骨		R	1		大	良好	
哺乳類	P732	O-16		62	フエキダ科	腕骨				1		大	良好
哺乳類	P732	O-16		62	高骨類(保留)	前腕骨		R	1			良好	おそらくフエキダ科
哺乳類	P742	L-6		337	骨(同定不可)	不明	骨			(1)		焼	魚骨か
哺乳類	P804	-	追加15	骨(同定不可)	不明	骨				(1)		溶解進行	
哺乳類	P900	U-28		232	ブダ科	尾椎				1	中	良好	
哺乳類	P909	U-28		233	フエキダ科	歯骨	骨			1		良好	
哺乳類	P909	U-28		233	フエキダ科	角骨		R	1		ごく大	良好	
哺乳類	P909	U-28		233	ペラ科	下顎歯骨				1	やや大	良好	

第174表 崩り遺跡平成23～24年度調査においてピックアップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(6)

*1 猪背位置凡例 w:尻骨, n:近位端, m:骨刺, d:遠位端, s:破片 (s)-(h)は未定名の骨刺のみ, (s)-(d)は骨刺未定名根拠, (s)-(d)は骨刺のみ欠損

*2 同一骨が附れて複数の破片になっていると考えられる場合は1とカウントした。<>を付したものはNISPの算定対象外。

時期	遺跡名	層区	トット番号	資料番号	種類	部位	残存位置*	左右	数	サイズ/計測	保存状態	備考
中世(14～15C)	F909	U-28	233		べつ科	前上顎骨		L	1	大	良好	
中世(14～15C)	F909	U-28	233		哺乳類(同定不可)	不明	h	R	1	<C>	良好	
中世(14～15C)	F914	U-28	234		マハタ型	前上顎骨		L	1	やや大	良好	
中世(14～15C)	F914	U-28	234		マハタ型	前歯骨		R	1	やや大	良好	
中世(14～15C)	F914	U-28	234		アオブダイ属	前上顎骨			1	ごく大	良好	
中世(14～15C)	F914	U-28	234		アオブダイ属	前上顎骨		R	1	ごく大	良好	
中世(14～15C)	F914	U-28	234		ブダイ科	尾椎			10		良好	
中世(14～15C)	F914	U-28	234		真骨魚(保留)	尾椎			4		良好	
中世(14～15C)	F914	U-28	234		真骨魚(同定不可)	鱗鱗			多数		良好	
中世(14～15C)	F914	U-28	234		真骨魚(同定不可)	不明	h		多数		良好	
中世(14～15C)	F919	U-28	235		ハタ科	角骨		L	1	やや大	良好	
中世(14～15C)	F949	U-27	236		真骨魚(同定不可)	鱗鱗			<C>		良好	
中世(14～15C)	F980	V-28	237		哺乳類?	尾椎?			1		良好	
中世(14～15C)	F991	V-28	238		アオブダイ属	歯骨		R	1	大	良好	
中世(14～15C)	F995	V-28	239		哺乳類(同定不可)	不明	h		<C>		良好	
中世(14～15C)	F1000	V-29	240		ウシ	下腿M1/2		L	1		良好	
中世(14～15C)	F1003	V-27	241		フエツキダイ科	歯骨		R	1	大	良好	おそらくフエツキダイ属、カットマーク
中世(14～15C)	F1011	V-26	242		タイ型	尾椎			1		良好	
中世(14～15C)	F1011	V-26	242		真骨魚(保留)	腹椎			1		良好	べつ科か?
中世(14～15C)	F1073	U-27	243		タイ型	尾椎			1		良好	
中世(14～15C)	F1073	U-27	243		真骨魚(同定不可)	鱗鱗			<C>		良好	
中世(14～15C)	F1076	U-76	245		真骨魚(同定不可)	不明	h		<C>		良好	
中世(14～15C)	F1076	U-26	244		哺乳類(同定不可)	四肢骨	m		1		良好	野生イノシシと大ウシノウマノブタ?
中世(14～15C)	F1077	U-26	246		フエツキダイ科	前上顎骨		R	1	大	良好	
中世(14～15C)	F1077	U-26	246		フエツキダイ科	角骨		R	1	大	良好	
中世(14～15C)	F1077	U-26	246		真骨魚(同定不可)	鱗鱗			<C>		良好	
中世(14～15C)	F1084	V-26	247		ウシ	基節骨	w		1		良好	
中世(14～15C)	F1090	V-26	248		ウシノウマ	肋骨	m		2		良好	
中世(14～15C)	F1092	V-26	249		フエツキダイ科	主上顎骨		L	1	中		
中世(14～15C)	F1092	V-26	249		哺乳類(同定不可)	不明	h		<C>		良好	
中世(14～15C)	F1097	V-27	250		真骨魚(同定不可)	鱗鱗			<C>		良好	
中世(14～15C)	F1108	V-27	251		べつ科	前歯骨		L	1	中	良好	
中世(14～15C)	F1108	V-27	251		骨(同定不可)	不明	h		<C>		良好	
中世(14～15C)	F1113	V-26	252		真骨魚(同定不可)	不明	h		<C>		良好	
中世(14～15C)	F1116	V-26	253		骨(同定不可)	不明	h		<C>		良好	
中世(14～15C)	F1145	V-27	254		真骨魚(同定不可)	不明	h		<C>		良好	
中世(14～15C)	F1146	V-27	255		マハタ型	前歯骨		L	1	やや大	良好	
中世(14～15C)	F1146	V-27	255		ハタ科	角骨		L	1	やや大	良好	
中世(14～15C)	F1196	S-20	256		骨ではない							植物
中世(14～15C)	F1203	U-28	257		ウシノウマ	肋骨	m		1			
中世(11～12C)	土坑墓2号	I	O-15	328	フエツキダイ科?	方骨		L	1			
中世(11～12C)	土坑墓2号	I	O-15	328	真骨魚(同定不可)	鱗鱗	h		<C>			
中世(11～12C)	土坑墓2号	I	O-15	302	真骨魚(同定不可)	鱗鱗			<C>		良好	
中世(11～12C)	土坑墓2号	I	O-15	328	真骨魚(同定不可)	不明	h		<C>			
中世(11～12C)	土坑墓2号	I	O-15	328	フェリス/鳥類?	四肢骨	m		1			ごく小型
三上15C～17C	風車墓2	g7	338		資料なし							
三上15C～17C	風車墓2	g7	339		資料なし							
中世	SK17	Q-18	37		フエツキダイ科	腹椎			1			焼(灰色)
中世?	SK25	Q-19	221		哺乳類(同定不可)	不明	h		<C>		良好	肋骨か
中世(14～15C)	石列1号	6層中	V-29	獣骨?	ウマ	尺骨	薄車切痕	R	1		良好	カットマーク
中世(14～15C)	石列1号	6層中	V-29	獣骨?	ウマ	中足骨	d	L	1	B43.5(44±)	良好	
中世(14～15C)	石列1号	6層中	V-29	獣骨?	ウシノウマ	仙椎			1		良好	カットマーク
中世(11～12C)	一括	IV-a	L-11	289	哺乳類(同定不可)	四肢骨	mh		<C>		焼	
中世(11～12C)	一括	IV-a	N-12	290	ヒツ	歯蓋骨?	h		1		焼	
中世(11～12C)	一括	IV-a	N-13	965	310	ヒツ	歯蓋骨?	h	1		焼	
中世(11～12C)	一括	IV-a	N-13	960	311	ヒツ	歯蓋骨?	h	1		焼	
中世(11～12C)	一括	IV-a	N-13	559	314	ヒツ	歯蓋骨?	h	1		焼	
中世(11～12C)	一括	IV-a	N-13	561	283	ヒツ	歯蓋骨?	h	1		焼	
中世(11～12C)	一括	IV-a	N-13	566	285	ヒツ	歯蓋骨?	h	1		焼	
中世(11～12C)	一括	IV-a	N-13	567	286	ヒツ	歯蓋骨?	h	1		焼	
中世(11～12C)	一括	IV-a	N-13	287		ヒツ	歯蓋骨?	h	1		焼	
中世(11～12C)	一括	IV-a	N-13	562	313	哺乳類(同定不可)	四肢骨	mh	<C>		焼	
中世(11～12C)	一括	IV-a	N-13	562	313	哺乳類(同定不可)	不明	h	<C>		焼3	
中世(11～12C)	一括	IV-a	N-13	563-2	294	哺乳類(同定不可)	不明	h	<C>		焼3	
中世(11～12C)	一括	IV-a	O-15	288	クロダイ属	前上顎骨		L	1	大	良好	
中世(11～12C)	一括	IV-a	O-15	288	べつ科	歯骨		L	1	大	良好	
中世(14～15C)	一括	III-a	V-27-28	262	ウシノウマ	四肢骨	mh		<C>			
中世(14～15C)	一括	III-b	V-29	263	骨ではない							貝
中世(14～15C)	一括	III-c	U-29	264	マハタ型	前上顎骨		R	1	やや小	良好	
中世(14～15C)	一括	III-c	U-29	264	ハツムツキ型	前上顎骨		L	1	やや小	良好	
中世(14～15C)	一括	III-c	U-29	264	アマミアエキ型	前上顎骨		L	1	大		
中世(14～15C)	一括	III-c	U-29	264	フエツキダイ属	上顎骨		L	1	中	良好	

第175表 崩り遺跡平成23～24年度調査においてピックアップによって採集された脊椎動物遺体の同定結果(7)

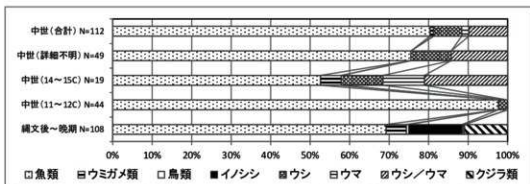
*1 残存位置凡例: *完成, ○近辺, △骨片, □骨端, ※骨片, (a)~(e)は米倉倉の骨端のみ, (a)~(e)は青砥米倉倉別荘, (a)~(e)は青砥のみ次集

*2 同一骨が異なる複数の種内に当てはると考えられる場合は1とカウントした。>を付したものはNSPの算定対象外。

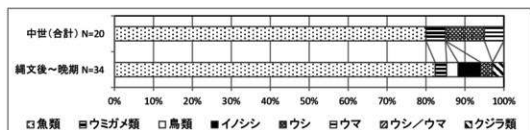
時期	遺構名	層	区	遺体 番号	資料 番号	種類	部位	残存位置*1	左右	数	サイズ/ 計測	保存状態	備考
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	U-29	264		フユネキダ科	肋骨	R	1	大			
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	U-29	264		フユネキダ科	腕椎	R	1	大	やや小	良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	U-29	264		アオバダイ属	歯骨	L	1	大			
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	U-29	264		ブダイ科	下顎歯骨		1	大			
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	U-29	264		ブダイ科	方骨	R	1	大			
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	V-29	268		ウシガメ類	肋骨板	p	1			良好	若
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	V-29	268		ウシ	基節骨	d	1			良好	若
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	V-29	265		哺乳類(同定不可)	四肢骨	m	<1			良好	野生イノシシより大-ウシ/ ウマ/ブタ?
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	V-29	265		骨(同定不可)	不明	f	<2			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	V-29-30	266		哺乳類(同定不可)	四肢骨	m	<2			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	V-29-30	267		骨ではない							植物
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	V-30	269		ウシ/ウマ	臼歯	f	1			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-c	V-30	269		ウシ/ウマ	四肢骨	m	<1			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-28	271		ウシ	末趾骨	1				良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-28	271		ウシ/ウマ	四肢骨	m	<1			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-28	271		哺乳類(同定不可)	不明	f	多数			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-29	270		フユネキダ科	上肢骨	L	1			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-29	270		ウシ/ウマ	四肢骨	m	<1			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-29	270		ウシ/ウマ	肋骨	m	1			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-29	270		哺乳類(同定不可)	不明	f	<1			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-26	274		哺乳類(同定不可)	四肢骨	m	<1			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-27	273		ウシ/ウマ	四肢骨	m	<1			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-27	273		ウシ/ウマ	肋骨	m	1			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-27	273		哺乳類(同定不可)	大腸骨?	n	1			良好	おそろくウシ若獣
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-27	273		哺乳類(同定不可)	四肢骨	m	<2			良好	
中世(14~15C)	一括	Ⅲ-d	V-27	272		哺乳類(同定不可)	四肢骨	m	<1			良好	
中世	一括	Ⅲ	T-20	307		骨(同定不可)	不明	f	<2			良好	
中世	一括	Ⅲ	V-27-28	276		哺乳類(同定不可)	不明	f	<1			良好	
中世	一括	Ⅲ-j		275		メゾゾサメ科	椎骨	1	やや大			良好	
中世	一括	Ⅲ-j		275		ウシ/ウマ	四肢骨	m	<2			良好	
中世	一括	Ⅲ-j		275		ウシ/ウマ	肋骨	m	1			良好	
中世	一括	Ⅲ-j		275		ウシ/ウマ	肋骨	m	1			良好	
中世	一括	Ⅲ-j		275		哺乳類(同定不可)	不明	f	多数			良好	
中世	一括	Ⅲ-j	U-29	277		ウシ/ウマ	腕椎	1				良好	カッターマーク
中世	一括	Ⅲ-j	U-29	277		ウシ/ウマ	腕椎	2				良好	カッターマーク
中世	一括	Ⅲ-j	U-29	279		ウシ	腰骨	d	R	1	B60.0	良好	スベイルム・フククチャー
中世	一括	Ⅲ-j	U-29	278		ウシ/ウマ	四肢骨	m	<1			良好	
中世	一括	Ⅲ-j	U-29	279		ウシ/ウマ	四肢骨	m	<1			良好	
中世	一括	Ⅲ-j	V-29	281		ウシ	上腕骨	d-> R	1			良好	
中世	一括	Ⅲ	V-29	282		哺乳類(同定不可)	不明	f	<1			良好	
中世	一括	Ⅳ-a	N-13	568	324	ヒト?	歯蓋骨	f	1			優	おそろく顔面部
中世	一括	Ⅳ-b	R-16	303		哺乳類(同定不可)	歯蓋骨?	f	1			優	ヒトの可能性あり
中世	一括	Ⅳ	U-27	306		哺乳類(同定不可)	不明	f	<1			良好	
中世	一括	Ⅳ	U-29	309		哺乳類(同定不可)	椎骨		複数			良好	
中世	一括	Ⅳ	U-29	308		骨(同定不可)	不明	f	<1			良好	
中世	一括	Ⅳ-a	Q-7	遺跡18		不明						崩解進行	貝殻?
中世	一括	Ⅳ-a	M-12	22		カニ類	ツメ		大型			良好	砂付着(ギンジュール化)、 インシ/イヌ?
不明	一括	Ⅳ-a	N-13	63		哺乳類(同定不可)	四肢骨	m	1			良好	黄泥のみ残存。剃刀状・鋭直 なし-アオサメ/メズウ?
不明	一括			295		サメ類	歯	1					
不明	一括			293		ハリセンボン科	歯		<1				
不明	一括			294		両骨類(同定不可)	棘棘	f	<1			良好	
不明	一括		V-30	296		ウシガメ類	不明	f	<1			良好	
不明	一括	表土	V-26	305		ウシ	手骨	p	L	1		良好	スベイルム・フククチャー
不明	一括	表土	V-26	304		ウシ	大腸骨	p	R	1		良好	
不明	一括	表土	V-26	304		ウシ	腰骨	d-> L	1			良好	スベイルム・フククチャー+イ ヌ?咬痕
不明	一括	Ⅲ		326		ウマ	下顎臼歯	L	1			良好	P3~M2の1/4くらい?
不明	一括	V	Q-14	291		ウシ/ウマ?	四肢骨	m	<1			優	
不明	一括	表土	V-26	305		ウシ/ウマ	四肢骨	m	<1			良好	
不明	一括	L-12-13		299		哺乳類(同定不可)	四肢骨	m	<1			優	
不明	一括	T-25		298		哺乳類(同定不可)	不明	f	<1			良好	
不明	一括			293		骨(同定不可)	不明	f	<1			良好	
不明	一括	V29-30		297		骨ではない							貝殻
不明	一括	N-6-7		32		メゾゾサメ属	歯		歯根欠損	1		良好	加工は認められず
不明	一括			24		サメ類	歯		歯根欠損	1		良好	アオサメ属?
不明	一括	N-4		43		ウシ	下顎臼歯	f	1			良好	
不明	一括	R-15		42		肩甲骨	f	R	1			良好	
不明	一括	N-4		43		ウシ/ウマ	四肢骨	m	<1			良好	
不明	一括	M-13		38		哺乳類/ウシガメ	不明	f	<1			優(灰色)	
不明	一括	N-6		40		哺乳類(同定不可)	四肢骨	m	<1			良好	ウシ/ウマ? (イノシシ?) 類
不明	一括	N-13		30		哺乳類(同定不可)	不明	f	<1			優(黒/灰色)	豚軟(イノシシ?)
不明	一括			41		哺乳類(同定不可)	不明	f	<1			良好	ウシ/ウマ?
不明	一括	L-12		29		哺乳類?	不明	f	<1			優(灰色)	

第179表 崩り遺跡平成23～24年度調査においてピックアップによって採集された脊椎動物遺体の組成

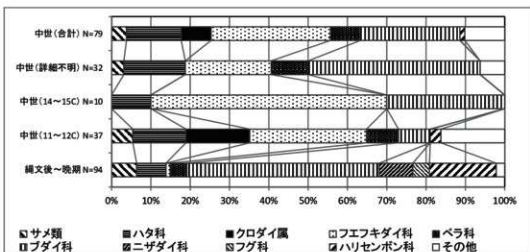
種別	NSP(同定種本数)					年代不明	MNS(最小個体数)		
	縄文後 ～晩期	中世					縄文後 ～晩期	中世	
		11～12C	14～15C	詳細不明	中世合計			11～12C	14～15C
スジロゾメ科	0	0	0	1	1	0	0	0	0
ホネシロゾメ属	0	0	0	0	0	1	0	0	0
サメ類	6	2	0	0	2	2	1	1	0
ウツボ科	0	1	0	0	1	0	0	1	0
マハタ類	1	1	1	3	5	0	1	1	1
ハタ科	3	3	0	2	5	0	-	-	-
ハタ類	3	1	0	0	1	0	-	-	-
フエダイ科	0	1	0	0	1	0	0	1	0
イスズミ科	1	0	0	0	0	0	1	0	0
クロダイ属	0	6	0	0	6	0	0	2	0
メチナダイ属	0	1	0	0	1	0	0	1	0
ハマアユビキ型	0	0	1	0	1	0	0	0	1
アマミノフキ型	0	0	1	0	1	0	0	0	1
フエフキダイ属	0	1	1	0	2	0	0	1	-
フエフキダイ科	1	9	3	7	19	0	1	-	-
タイ類	0	3	0	2	5	0	-	-	-
タキベラ型	2	0	0	0	0	0	1	0	0
ベラ科A	1	0	0	0	0	0	1	0	0
ベラ科B	1	0	0	2	2	0	1	0	0
ベラ科	0	3	0	1	4	0	0	1	0
イロブダイ属	2	0	0	0	0	0	1	0	0
アオブダイ属	22	2	2	3	7	0	8	1	1
ブダイ科	22	1	1	11	13	0	-	-	-
ニザダイ科	8	0	0	0	0	0	1	0	0
モンガラカワハギ科	1	1	0	0	1	0	1	1	0
フダ科	4	0	0	0	0	0	2	0	0
ハシセンボン科	16	1	0	0	1	*	8	1	0
真骨類(保留)	5	2	0	5	7	0	-	-	-
真骨類(同定不可)	9	4	0	0	4	0	-	-	-
ウミガメ類	8	0	1	0	1	0	1	0	1
カエルノ島類?	0	1	0	0	1	0	-	-	-
鳥類(同定不可)	1	0	0	0	0	0	1	0	0
ネズミ類科	1	0	0	0	0	0	1	-	-
ネズミ科	1	1	0	0	1	0	-	1	0
イノシシ	18	0	0	0	0	0	2	0	0
イノシシヤ	3	0	0	0	0	0	-	-	-
ウシ	1	1	2	5	8	5	1	1	1
ウマ	0	0	2	0	2	1	0	0	1
ウシ/ウマ	0	0	4	7	11	*	-	-	-
クジラ類	17	0	0	0	0	0	1	0	0
哺乳類(未同定)	1	0	0	0	0	0	-	-	-
哺乳類(同定不可)	5	0	1	2	3	1	-	-	-
哺乳類?(同定不可)	*	0	0	1	1	+	-	-	-
ヒト	0	8	0	1	9	0	0	0	0
合計	164	54	20	51	127	10	35	14	7



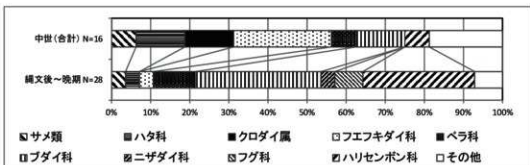
第276図 熊川遺跡平成23~24年度調査においてピックアップによって採集された脊椎動物遺体の組成 (NISP比)。ネズミ・ヒトを除く



第277図 熊川遺跡平成23~24年度調査においてピックアップによって採集された脊椎動物遺体の組成 (MNI比)。ネズミ・ヒトを除く。中世は11~12Cおよび14~15Cの各MNIの合計。



第278図 熊川遺跡平成23~24年度調査においてピックアップによって採集された魚類遺体の組成 (NISP比)。



第279図 熊川遺跡平成23~24年度調査においてピックアップによって採集された魚類遺体の組成 (MNI比)。中世は11~12Cおよび14~15Cの各MNIの合計。

第180表 崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(1)

時期	遺体名	試料番号	層	試	種類	部位	保存状態		計測	画像	備考
							左右	数			
縄文後～晩期	S9401	373	Ⅱ	J-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9401	373	Ⅱ	J-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9401	521	Ⅱ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					3)
縄文後～晩期	S9401	521	Ⅱ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)					1)
縄文後～晩期	S9401	521	Ⅱ	K-2	ニゾダイト	歯肉(遊離歯)					1)
縄文後～晩期	S9401	561	Ⅱ	J-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					2)
縄文後～晩期	S9403	749	I	Ⅱ	J-3	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9403	749	I	Ⅱ	J-3	ニゾダイト	歯				1)
縄文後～晩期	S9404	234	I	Ⅱ	K-2	タイ型	臼歯				6)
縄文後～晩期	S9404	234	I	Ⅱ	K-2	アオブダイト属	歯骨	R	1		1)
縄文後～晩期	S9404	234	I	Ⅱ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9404	234	I	Ⅱ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9404	234	I	Ⅱ	K-2	ニゾダイト	歯				1)
縄文後～晩期	S9404	379	I	Ⅱ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9404	379	I	Ⅱ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9404	379	I	Ⅱ	K-2	ニゾダイト	歯肉				1)
縄文後～晩期	S9404	200	I	Ⅱ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9404	208	I	Ⅱ	K-2	サメ類	歯				1)
縄文後～晩期	S9404	208	I	Ⅱ	K-2	タイ型	臼歯				3)
縄文後～晩期	S9404	208	I	Ⅱ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9404	208	I	Ⅱ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9404	208	I	Ⅱ	K-2	真骨類(同定不可)	歯				2)
縄文後～晩期	S9404	231	I	Ⅱ	K-2	タイ型	臼歯				6)
縄文後～晩期	S9404	231	I	Ⅱ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9404	231	I	Ⅱ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9404	231	I	Ⅱ	K-2	モンガラカワハギ科	鱗				1)
縄文後～晩期	S9404	231	I	Ⅱ	K-2	真骨類(同定不可)	歯				1)
縄文後～晩期	S9404	116	I	K-2	クダガキ	椎骨					1)
縄文後～晩期	S9404	116	I	K-2	タイ型	臼歯					2)
縄文後～晩期	S9404	116	I	K-2	アオブダイト属	下顎関節					1)
縄文後～晩期	S9404	116	I	K-2	アオブダイト属	前上顎/歯骨					2)
縄文後～晩期	S9404	116	I	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	116	I	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	116	I	K-2	真骨類(未同定)	腹椎					1)
縄文後～晩期	S9404	116	I	K-2	真骨類(保留)	椎骨					2)
縄文後～晩期	S9404	116	I	K-2	真骨類(同定不可)	歯					2)
縄文後～晩期	S9404	116	I	K-2	コウライガ?	歯?					1)
縄文後～晩期	S9404	1150	I-A	K-2	タイ型	臼歯					1)
縄文後～晩期	S9404	1150	I-A	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					2)
縄文後～晩期	S9404	1150	I-A	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	1151	Ⅱ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					2)
縄文後～晩期	S9404	1149	Ⅲ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	1019	Ⅳ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	198	Ⅱ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	213	Ⅱ	K-2	サメ類	歯					1)
縄文後～晩期	S9404	213	Ⅱ	K-2	タイ型	臼歯					6)
縄文後～晩期	S9404	213	Ⅱ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	213	Ⅱ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)					2)
縄文後～晩期	S9404	224	Ⅱ	K-2	サメ類	歯					1)
縄文後～晩期	S9404	224	Ⅱ	K-2	タイ型	臼歯					1)
縄文後～晩期	S9404	224	Ⅱ	K-2	タイ型	臼歯					6)
縄文後～晩期	S9404	224	Ⅱ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	224	Ⅱ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	224	Ⅱ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	224	Ⅱ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	224	Ⅱ	K-2	真骨類(同定不可)	歯					1)
縄文後～晩期	S9404	817	Ⅲ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	817	Ⅲ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	821	Ⅲ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					2)
縄文後～晩期	S9404	821	Ⅲ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)					1)
縄文後～晩期	S9404	821	Ⅲ	K-2	ニゾダイト	第1椎骨					1)
縄文後～晩期	S9404	922	Ⅲ	K-2	タイ型	臼歯					1)
縄文後～晩期	S9404	922	Ⅲ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9404	922	Ⅲ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)					2)
縄文後～晩期	S9404	922	Ⅲ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)					6)
縄文後～晩期	S9405	425	I	Ⅲ	K-2	タイ型	臼歯				6)
縄文後～晩期	S9405	425	I	Ⅲ	K-2	アオブダイト属	前上顎骨	R	1		1)
縄文後～晩期	S9405	425	I	Ⅲ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9405	425	I	Ⅲ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9405	826	I	Ⅲ	K-2	サメ類	歯				1)
縄文後～晩期	S9405	826	I	Ⅲ	K-2	ブダイト	下顎関節				2)
縄文後～晩期	S9405	826	I	Ⅲ	K-2	ブダイト	喉頭蓋(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9405	826	I	Ⅲ	K-2	ブダイト	歯肉(遊離歯)				6)
縄文後～晩期	S9405	826	I	Ⅲ	K-2	ニゾダイト	歯				1)
縄文後～晩期	S9405	826	I	Ⅲ	K-2	真骨類(同定不可)	椎骨				1)
縄文後～晩期	S9405	417	I	Ⅲ	K-2	タイ型	臼歯				6)

第181表 崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(2)

時期	遺体名	採計 番号	層	区	種属	保存		計数	備考
						位置*	左右		
縄文後～晩期	S805	417	I～II	K-2	フダイ科	下顎骨	♂	1	
縄文後～晩期	S805	417	I～II	K-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6a	
縄文後～晩期	S805	417	I～II	K-2	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S805	188	I～II	K-2	タイ型	臼歯		13	
縄文後～晩期	S805	188	I～II	K-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		13	
縄文後～晩期	S805	188	I～II	K-2	フダイ科	顎歯(遊離歯)		13	
縄文後～晩期	S805	188	I～II	K-2	真骨類(同定不可)	椎骨		3	
縄文後～晩期	S805	188	I～II	K-2	小型鳥類	末節骨		1	
縄文後～晩期	S805	888	I	K-2	ハヤ科	前上顎/歯骨	♂	1	焼
縄文後～晩期	S805	888	I	K-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6a	
縄文後～晩期	S805	888	I	K-2	フダイ科	前上顎/歯骨	♂	2	
縄文後～晩期	S805	888	I	K-2	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S805	888	I	K-2	真骨類	股骨		2	焼
縄文後～晩期	S805	888	I	K-2	真骨類(仮定)	椎骨		2	焼1
縄文後～晩期	S805	888	I	K-2	真骨類(同定不可)	椎骨		2	焼1
縄文後～晩期	S805	316	II	K-2	サメ類	歯		1	エナメル質のみ残存。三角形・歯面あり→メジロザメ科上顎歯?/ホホシロザメ?
縄文後～晩期	S805	316	II	K-2	ハヤ科	第1椎骨		1	小 焼
縄文後～晩期	S805	316	II	K-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6a	
縄文後～晩期	S805	316	II	K-2	フダイ科	前上顎/歯骨	♂	2	焼
縄文後～晩期	S805	316	II	K-2	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S805	117	床直	K-2	サメ類	歯		1	エナメル質のみ残存。大型の斜行歯面が特徴的→イタナザメ?
縄文後～晩期	S805	117	床直	K-2	サメ類	歯		1	エナメル質のみ残存。三角形・歯面あり→メジロザメ科上顎歯?/ホホシロザメ?
縄文後～晩期	S805	117	床直	K-2	ハヤ科	股骨		1	小 焼
縄文後～晩期	S805	117	床直	K-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S805	117	床直	K-2	ハツセンボン科	鱗		13	焼
縄文後～晩期	S805	117	床直	K-2	真骨類(同定不可)	椎骨		1	焼
縄文後～晩期	S805	401	床直	K-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S805	401	床直	K-2	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S805	958	伊勢	K-2	アネゴイリ属	上顎骨	♂	1	
縄文後～晩期	S805	958	伊勢	K-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S805	958	伊勢	K-2	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S805	958	伊勢	K-2	真骨類(同定不可)	歯		6f	
縄文後～晩期	S806	265	I	K-3	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6a	
縄文後～晩期	S806	265	I	K-3	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S806	265	I	K-3	真骨類(同定不可)	歯		13	
縄文後～晩期	S806	359	I	K-3	サメ類	歯		1	縁歯の三角形・歯面なし→メジロザメ科下顎歯?
縄文後～晩期	S806	359	I	K-3	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6a	
縄文後～晩期	S806	359	I	K-3	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S807	202	I	K-3	タイ型	臼歯		13	
縄文後～晩期	S807	202	I	K-3	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6a	
縄文後～晩期	S807	202	I	K-3	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S807	212	II	K-3	タイ型	臼歯		13	
縄文後～晩期	S807	212	II	K-3	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S807	212	II	K-3	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S808	494	I	L-3	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6a	
縄文後～晩期	S808	439	I	L-3	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S808	439	I	L-3	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S809	565	I	L-3	ウツギ科	歯骨	♂	1	焼
縄文後～晩期	S809	565	I	L-3	タイ型	臼歯		13	
縄文後～晩期	S809	565	I	L-3	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6a	
縄文後～晩期	S809	565	I	L-3	フダイ科	前上顎/歯骨	♂	2	焼1
縄文後～晩期	S809	565	I	L-3	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S809	565	I	L-3	真骨類(同定不可)	歯		6f	
縄文後～晩期	S809	901	I	L-3	サメ類	歯		1	エナメル質のみ残存。縁歯が三角形・歯面なし→メジロザメ科下顎歯?
縄文後～晩期	S809	901	I	L-3	タイ型	臼歯		6f	
縄文後～晩期	S809	901	I	L-3	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6a	
縄文後～晩期	S809	901	I	L-3	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S809	901	I	L-3	真骨類(同定不可)	歯		6f	
縄文後～晩期	S809	901	I	L-3	真骨類(同定不可)	椎骨		1	焼
縄文後～晩期	S809	937	I	L-3	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6a	
縄文後～晩期	S809	937	I	L-3	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S809	937	I	L-3	真骨類(同定不可)	歯		6f	
縄文後～晩期	S810	397	I	J-1-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S810	397	I	J-1-2	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S810	397	I	J-1-2	モンガラカワハギ科	鱗		13	焼
縄文後～晩期	S810	397	I	J-1-2	真骨類(同定不可)	歯		13	
縄文後～晩期	S810	383	I	J-1-2	サメ類	歯		1	エナメル質のみ残存。三角形・歯面なし?
縄文後～晩期	S810	383	I	J-1-2	タイ型	臼歯		13	
縄文後～晩期	S810	383	I	J-1-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S810	383	I	J-1-2	フダイ科	前上顎/歯骨	♂	1	焼
縄文後～晩期	S810	814	I	J-1-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S811	3	I	J-2	ウツギ科	椎骨		1	小 焼
縄文後～晩期	S811	3	I	J-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6a	
縄文後～晩期	S811	3	I	J-2	フダイ科	顎歯(遊離歯)		6f	
縄文後～晩期	S811	3	I	J-2	フダイ科	股骨		1	小 焼
縄文後～晩期	S811	3	I	J-2	ニザダイ科	尾椎		1	小 焼
縄文後～晩期	S811	553	床直	J-2	フダイ科	喉頭歯(遊離歯)		6f	

第182表 前リ遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(3)

時期	遺体番号	種名	性別	種	種別	部位	残存		計数	採出	備考
							位相#1	左右			
縄文後～晩期	SH11	961	床底	J-2	ウツボ科	椎骨					焼
縄文後～晩期	SH11	961	床底	J-2	アオブダイ属	前上脛骨	L	1			焼
縄文後～晩期	SH11	961	床底	J-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(a)	
縄文後～晩期	SH11	961	床底	J-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH11	961	床底	J-2	真骨類(同定不可)	椎骨					1
縄文後～晩期	SH12	247	I	J-K-2	ペッコ科	第1腰椎			1		小
縄文後～晩期	SH12	247	I	J-K-2	アオブダイ属	下顎骨	右		1		小
縄文後～晩期	SH12	247	I	J-K-2	アオブダイ属	前上脛/膚骨	?	1			小
縄文後～晩期	SH12	247	I	J-K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(a)	
縄文後～晩期	SH12	247	I	J-K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(a)	
縄文後～晩期	SH12	247	I	J-K-2	ブダイ科	腰椎					1
縄文後～晩期	SH12	247	I	J-K-2	真骨類(同定不可)	椎骨					1
縄文後～晩期	SH12	385	I	J-K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH12	385	I	J-K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH12	385	I	J-K-2	真骨類(同定不可)	椎				(1)	
縄文後～晩期	SH12	1018	II	J-K-2	ニシダ科	第1腰椎					1
縄文後～晩期	SH12	1018	II	J-K-2	真骨類(同定不可)	椎骨					2
縄文後～晩期	SH12	374	床底	J-K-2	アオブダイ属	前上脛/膚骨			1		小
縄文後～晩期	SH12	374	床底	J-K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(a)	
縄文後～晩期	SH12	376	床底	J-K-2	タイ管	臼歯				(2)	
縄文後～晩期	SH12	376	床底	J-K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(a)	
縄文後～晩期	SH12	376	床底	J-K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH12	381	床底	J-K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH12	381	床底	J-K-2	真骨類(同定不可)	椎骨					1
縄文後～晩期	SH12	381	床底	J-K-2	ヘビ類	椎骨					1
縄文後～晩期	SH12	507	床底	J-K-2	ヤメ類	歯					1
縄文後～晩期	SH12	507	床底	J-K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH12	507	床底	J-K-2	ブダイ科	前上脛/膚骨	右				1
縄文後～晩期	SH12	507	床底	J-K-2	ニシダ科	第1腰椎					1
縄文後～晩期	SH12	507	床底	J-K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH12	507	床底	J-K-2	真骨類(保留)	椎骨					1
縄文後～晩期	SH12	507	床底	J-K-2	真骨類(同定不可)	椎骨					1
縄文後～晩期	SH12	507	床底	J-K-2	ネズミ亜科	臼歯					1
縄文後～晩期	SH12	507	床底	J-K-2	イリスン	臼歯	右				1
縄文後～晩期	SH12	507	床底	J-K-2	小型哺乳類	本歯骨					1
縄文後～晩期	SH12	754	床底	J-K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH12	754	床底	J-K-2	ブダイ科	前上脛/膚骨	右				1
縄文後～晩期	SH12	754	床底	J-K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH12	754	床底	J-K-2	ネズミ亜科	臼歯					1
縄文後～晩期	SH12	773	床底	J-K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH12	773	床底	J-K-2	真骨類(同定不可)	椎骨					2
縄文後～晩期	SH13	277	I	K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(a)	
縄文後～晩期	SH13	277	I	K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(3)	
縄文後～晩期	SH13	277	I	K-2	真骨類(同定不可)	椎				(3)	
縄文後～晩期	SH13	337	II	K-2	真骨類(未同定)	第1腰椎					1
縄文後～晩期	SH13	375	III	K-2	タイ管	臼歯					(1)
縄文後～晩期	SH13	375	III	K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH13	466	III	K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH13	466	III	K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(1)	
縄文後～晩期	SH14	544	I	K-2	アオブダイ属	前上脛/膚骨					1
縄文後～晩期	SH14	544	I	K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(a)	
縄文後～晩期	SH14	544	I	K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH14	413	II	K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH14	457	II	K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH14	457	II	K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH14	312	III	K-2	ブダイ科	下顎骨	右				1
縄文後～晩期	SH14	312	III	K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(2)	
縄文後～晩期	SH14	559	III	K-2	アオブダイ属	前上脛/膚骨	右				2
縄文後～晩期	SH14	559	III	K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(a)	
縄文後～晩期	SH14	559	III	K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH15	98	L-1		ウツボ科	椎骨					L
縄文後～晩期	SH15	98	L-1		アオブダイ属	下顎骨	右				2
縄文後～晩期	SH15	98	L-1		ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(a)	
縄文後～晩期	SH15	98	L-1		ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH15	98	L-1		ニシダ科	第1腰椎					1
縄文後～晩期	SH15	98	L-1		真骨類(同定不可)	椎骨					2
縄文後～晩期	SH15	297	L-1		ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(2)	焼1
縄文後～晩期	SH17	443	I-a+b	K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(1)	
縄文後～晩期	SH17	443	I-a+b	K-2	真骨類(同定不可)	椎				(1)	
縄文後～晩期	SH17	799	I-a+b	K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH17	799	I-a+b	K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH17	925	I	K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH17	925	I	K-2	ブダイ科	椎骨(遊離骨)				(c)	
縄文後～晩期	SH17	718	砂鉢	K-2	ブダイ科	下顎骨	右				1
縄文後～晩期	SH17	718	砂鉢	K-2	ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(a)	
縄文後～晩期	SH17	718	砂鉢	K-2	真骨類(同定不可)	椎骨					1
縄文後～晩期	SH17	398	K-2		アオブダイ属	前上脛/膚骨	右				1
縄文後～晩期	SH17	398	K-2		ブダイ科	下顎骨	右				1
縄文後～晩期	SH17	398	K-2		ブダイ科	椎頭骨(遊離骨)				(a)	

第183表 崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(4)

時期	遺体名	資料番号	層	区	種属	部位	保存位置*	左右	個数	備考	備考
縄文後～晩期	S417	398		K-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S417	398		K-2	ニギザシ科	第1椎骨			1		焼
縄文後～晩期	S418	934	II	K-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S418	934	II	K-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			1		
縄文後～晩期	S418	934	II	K-2	ニギザシ科	腰椎			1		焼
縄文後～晩期	S418	934	II	K-2	ニギザシ科	尾椎			1		
縄文後～晩期	S418	934	II	K-2	ハコブダ科?	鱗板			1		焼
縄文後～晩期	S418	934	II	K-2	高骨類(保属)	椎骨			1		焼
縄文後～晩期	S418	934	II	K-2	真骨類(同定不可)	歯			6		
縄文後～晩期	S418	812	床直	K-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S418	812	床直	K-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S418	812	床直	K-2	真骨類(同定不可)	歯			1		
縄文後～晩期	S418	818	床直	K-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S418	900	床直	K-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S418	949	床直	K-2	マハダ型	歯骨		R	1		小 焼
縄文後～晩期	S418	949	床直	K-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S418	949	床直	K-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S418	949	床直	K-2	高骨類(保属)	椎骨			2		
縄文後～晩期	S420	416	床直	L-2	マハダ型	歯骨		L	1		ごく小
縄文後～晩期	S420	416	床直	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S420	416	床直	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			1		
縄文後～晩期	S420	444	L-2	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S420	444	L-2	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S421	762	II	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S421	762	II	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S421	489	L-2	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S421	489	L-2	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S421	489	L-2	L-2	高骨類(保属)	椎骨			1		
縄文後～晩期	S422	1012	II	K-1	タイ型	臼歯			1		
縄文後～晩期	S422	1012	II	K-1	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S422	1012	II	K-1	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S422	1012	II	K-1	ニギザシ科	尾椎			2		焼
縄文後～晩期	S422	1012	II	K-1	高骨類(保属)	椎骨			2		焼
縄文後～晩期	S422	1012	II	K-1	真骨類(同定不可)	椎骨			1		焼
縄文後～晩期	S422	286	I	K-1	タイ型	臼歯			6		
縄文後～晩期	S422	286	I	K-1	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S422	286	I	K-1	ブダイ科	前上顎/歯骨			1		
縄文後～晩期	S422	286	I	K-1	高骨類(保属)	椎骨			1		
縄文後～晩期	S422	286	I	K-1	高骨類(保属)	椎骨			1		焼 ブダイ科?
縄文後～晩期	S422-23	371	床直	K-1	ウツボ科	歯骨		L	1		
縄文後～晩期	S422-23	371	床直	K-1	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S422-23	371	床直	K-1	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S422-23	371	床直	K-1	高骨類(保属)	椎骨			1		焼
縄文後～晩期	S422-23	371	床直	K-1	真骨類(同定不可)	椎骨			1		焼
縄文後～晩期	S423	108	床直	K-1	サメ類	歯			1		エナメル質のみ残存 前刀状・歯蓋なし→ アオゾメ/メジロコ
縄文後～晩期	S423	300	床直	K-1	ブダイ科	顎歯(近離歯)			1		
縄文後～晩期	S423	201	床直	K-1	ウツボ科	歯骨		R	1		小
縄文後～晩期	S423	201	床直	K-1	マハダ型	歯骨		R	1		小
縄文後～晩期	S423	201	床直	K-1	ブダイ科	顎歯(近離歯)			1		焼
縄文後～晩期	S423	201	床直	K-1	モンガラウツボ科?	骨髄線?			1		焼
縄文後～晩期	S423	201	床直	K-1	小型鳥類	指骨			1		
縄文後～晩期	S424	406	I・B	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S424	406	I・B	L-2	真骨類(同定不可)	歯			1		
縄文後～晩期	S424	389	I・B	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S424	280	床直	L-2	ウツボ科	椎骨			1		焼
縄文後～晩期	S424	280	床直	L-2	ウツボ科	方骨		R	1		
縄文後～晩期	S424	280	床直	L-2	真骨類(保属)	椎骨			1		ハタゲツウツボ科?
縄文後～晩期	S424	280	床直	L-2	真骨類(同定不可)	椎骨			1		焼
縄文後～晩期	S425	570	I・B	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S425	570	I・B	L-2	ブダイ科	前上顎/歯骨			1		
縄文後～晩期	S425	570	I・B	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S425	282	床直	L-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			2		
縄文後～晩期	S425	282	床直	L-2	真骨類(同定不可)	歯			1		
縄文後～晩期	S426	28	床直	K-1	サメ類	歯			1		焼 エナメル質のみ残存 三角形・歯蓋あり→ メジロゾメ科上顎骨?/ホホシロゾメ?
縄文後～晩期	S426	28	床直	K-1	アオゾメ属	上顎歯骨			1		
縄文後～晩期	S426	28	床直	K-1	真骨類(同定不可)	椎骨			1		
縄文後～晩期	S427	187	床直	K-2	サメ類	歯			1		エナメル質のみ残存 三角形(1辺や全歯 歯)・歯蓋あり→おそくメジロゾメ科上顎 骨
縄文後～晩期	S427	187	床直	K-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			1		
縄文後～晩期	S427	720	I	K-2	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S427	720	I	K-2	真骨類(同定不可)	歯			6		
縄文後～晩期	S427	720	I	L-3	サメ類	歯			1		
縄文後～晩期	S427	360	I	L-3	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S427	360	I	L-3	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S427	763	I	L-3	サメ類	歯			1		焼 エナメル質のみ残存 三角形・歯蓋あり→ メジロゾメ科上顎骨?/ホホシロゾメ?
縄文後～晩期	S427	763	I	L-3	ハダ型	腹椎			1		
縄文後～晩期	S427	763	I	L-3	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		
縄文後～晩期	S427	763	I	L-3	ブダイ科	顎歯(近離歯)			6		

第184表 崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(5)

時期	遺体名	試料 番号	層 区	種類	部位	保存 状態		計測	画像	備考
						左	右			
縄文後～晩期	SN01	763	I L-3	真骨類(保留)	椎骨					
縄文後～晩期	SN01	763	I L-3	真骨類(固定不可)	前上顎/歯骨	☆	1		○	
縄文後～晩期	SN02	772	I L-3	骨			1			エナメル質のみ残存。歯骨の三角部・歯冠なし。メソゾイコ科に類属?
縄文後～晩期	SN02	772	I L-3	ハタ科	前上顎/歯骨	☆	1		○	
縄文後～晩期	SN02	772	I L-3	ブダイ科	喉頭骨(遊離歯)		○a			
縄文後～晩期	SN02	772	I L-3	ブダイ科	顎歯(遊離歯)		○b			
縄文後～晩期	SN02	772	I L-3	真骨類(保留)	椎骨		1			
縄文後～晩期	SN02	772	I L-3	真骨類(固定不可)	骨		○b			
縄文後～晩期	SN02	772	I L-3	真骨類(固定不可)	尾節棘状骨		1		○	
縄文後～晩期	SN02	772	I L-3	イリソコ	臼歯	☆	○c			一つの歯が割れたものか
縄文後～晩期	SN02	377	I L-3	タイ管	臼歯		○d			
縄文後～晩期	SN02	377	I L-3	ブダイ科	喉頭骨(遊離歯)		○a			
縄文後～晩期	SN02	377	I L-3	ブダイ科	顎歯(遊離歯)		○b			
縄文後～晩期	SN02	377	I L-3	真骨類(保留)	椎骨		1			
縄文後～晩期	SN02	377	I L-3	真骨類(固定不可)	骨		○b			
縄文後～晩期	SN02	377	I L-3	イリソコ	臼歯	☆				
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	マハク型	歯骨	R	1	小		
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	ハタ科	骨	L	1	小		
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	フネキダ科	第1椎骨		1	小		
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	タイ管	臼歯		○b			
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	アオブダイ属	上顎歯骨	☆	1	小		
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	アオブダイ属	前上顎骨	L	1	小		
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	アオブダイ属	前上顎骨	R	1	小		
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	アオブダイ属	歯骨	R	1	やや小		
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	ブダイ科	下顎歯骨	☆	1	大		
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	ブダイ科	喉頭骨(遊離歯)		○a			
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	ブダイ科	前上顎/歯骨	☆	1	小	○	
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	ブダイ科	顎歯(遊離歯)		○b			
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	ブダイ科	尾棘		2	小		
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	ニゾダ科	尾棘		2	小/中		
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	真骨類(保留)	椎骨		4			
縄文後～晩期	SN02	289	床底 L-3	真骨類(固定不可)	椎骨		5		○	
縄文後～晩期	SN03	576	I K-3	ハタ型	腹棘		1			
縄文後～晩期	SN03	576	I K-3	アオブダイ属	歯骨	L	1		○	
縄文後～晩期	SN03	576	I K-3	ブダイ科	喉頭骨(遊離歯)		○a			
縄文後～晩期	SN03	576	I K-3	ブダイ科	前上顎/歯骨		1			
縄文後～晩期	SN03	576	I K-3	ブダイ科	顎歯(遊離歯)		○a			
縄文後～晩期	SN03	576	I K-3	ニゾダ科	尾棘		1		○	
縄文後～晩期	SN03	576	I K-3	真骨類(未同定)	第1椎骨		1		○	
縄文後～晩期	SN03	576	I K-3	真骨類(固定不可)	骨		○b			
縄文後～晩期	SN03	576	I K-3	真骨類(固定不可)	椎骨		2			
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	ウツボ科	歯骨	☆	1		○	
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	ハタ科	第1椎骨		1			
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	アオブダイ属	下顎歯骨	☆	2	小		
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	アオブダイ属	前上顎/歯骨		2			
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	ブダイ科	下顎歯骨	☆	2	大		
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	ニゾダ科	第1椎骨		1			
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	ニゾダ科	尾棘		1			
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	ニゾダ科	尾棘		2			
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	ニゾダ科	骨		○d			
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	真骨類(保留)	椎骨		2			
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	真骨類(固定不可)	椎骨		6			
縄文後～晩期	SN03	447	I K-3	小型哺乳類	末節骨					
縄文後～晩期	SN03	380	I K-3	ウツボ科	歯骨	R	1		○	
縄文後～晩期	SN03	380	I K-3	タイ管	臼歯		○d			
縄文後～晩期	SN03	380	I K-3	アオブダイ属	前上顎骨	R	1		○	
縄文後～晩期	SN03	380	I K-3	アオブダイ属	前上顎/歯骨	☆	1			
縄文後～晩期	SN03	380	I K-3	ブダイ科	喉頭骨(遊離歯)		○a			
縄文後～晩期	SN03	380	I K-3	真骨類(固定不可)	椎骨		1			
縄文後～晩期	SN03	380	I K-3	ヘビ類	椎骨		1		○	
縄文後～晩期	SN03	488	I K-3	ウツボ科	椎骨		1			
縄文後～晩期	SN03	488	I K-3	マハク型	前上顎/歯骨		1			
縄文後～晩期	SN03	488	I K-3	アオブダイ属	上顎歯骨	☆	5	大/小		
縄文後～晩期	SN03	488	I K-3	アオブダイ属	前上顎骨	L	2	小		
縄文後～晩期	SN03	488	I K-3	アオブダイ属	前上顎骨	R	1	小		
縄文後～晩期	SN03	488	I K-3	アオブダイ属	前上顎/歯骨		2			
縄文後～晩期	SN03	488	I K-3	ブダイ科	下顎歯骨	☆	1			
縄文後～晩期	SN03	488	I K-3	真骨類(保留)	椎骨		5			
縄文後～晩期	SN03	488	I K-3	真骨類(固定不可)	椎骨		7			
縄文後～晩期	SN03	488	I K-3	ネズミ科	臼歯		1			
縄文後～晩期	SN03	294	I K-3	ウツボ科	腹棘		1			
縄文後～晩期	SN03	294	I K-3	アオブダイ属	骨		1			
縄文後～晩期	SN03	294	I K-3	ウツボ科	歯骨	R	1		○	
縄文後～晩期	SN03	294	I K-3	ウツボ科	歯骨	☆	1		○	
縄文後～晩期	SN03	294	I K-3	ウツボ科	椎骨		6			
縄文後～晩期	SN03	294	I K-3	マハク型	前上顎骨	R	1			
縄文後～晩期	SN03	294	I K-3	マハク型	歯骨	L	2			
縄文後～晩期	SN03	294	I K-3	マハク型	歯骨	R	3			

第185表 崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(6)

*1 種別番号(凡例)については第183表を参照 *2 くを付したものはNISPの算定対象外 (a)多く多量 (b)少量 (c)少量

時期	遺構名	試料番号	層	区	種別	部位	保存位置*	左右	数	計測	備考
									#2		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ハタ科	角骨		L	1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ハタ科?	方骨		R	2		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ハタ科	趾節骨		R	1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ハタ科	第1椎骨		R	2		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	クワダ目類?	前上顎骨	♂		1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	タイ目	臼歯		G?			
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ベツ科	前上顎骨		R	1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	アオブダイ属	下咽頭骨	♂	-	3		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	アオブダイ属	前上顎骨		L	5		検1
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	アオブダイ属	前上顎骨		R	4		検1
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	アオブダイ属	歯骨		L	3		検1
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	アオブダイ属	歯骨		R	4		検1
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	アオブダイ属	歯骨		R	1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ブダイ科	下咽頭骨	♂	-	3		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ブダイ科	下咽頭骨	♂	-	1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ブダイ科	角骨		R	1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ブダイ科	方骨		R	1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ブダイ科	腕椎			3		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	アイロ属?	方骨		R	1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	アイロ属	尾椎			1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ニギザイ科	趾節骨	m	L	1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ニギザイ科	第1椎骨			1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ニギザイ科	尾椎			1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ニギザイ科	尾椎			6		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ニギザイ科	尾椎			1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	モンガラウハギ科	鱗		C?			
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	真骨類(未同定)	第1椎骨			1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	真骨類(未同定)	椎骨			1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	真骨類(保備)	第1椎骨			1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	真骨類(保備)	椎骨			25		検6
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	真骨類(同定不可)	椎骨			46		検2
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	真骨類(同定不可)	椎骨			10		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	真骨類(同定不可)	尾節棘状骨			2		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ヘビ類	椎骨			1		検
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	鳥類(同定不可)	肋骨			1		
縄文後～晩期	SK03	294	I	K-3	ネズミ目科	臼歯			1		
縄文後～晩期	SK04	795	L-2		サメ類	歯			2		エナメル質のみ残存。三角形・縦溝あり→メジロザメ科上顎歯?/ホホシロザメ?
縄文後～晩期	SK04	795	L-2		ウツコ型	歯骨		R	1		
縄文後～晩期	SK04	795	L-2		アオブダイ属	前上顎/歯骨			1		
縄文後～晩期	SK04	795	L-2		ブダイ科	咽頭歯(遊離歯)		G?			
縄文後～晩期	SK04	795	L-2		ブダイ科	顎歯(遊離歯)		G?			
縄文後～晩期	SK04	795	L-2		真骨類(同定不可)	椎骨			4		検3
縄文後～晩期	SK06	566	I・II	K-2	ブダイ科	咽頭歯(遊離歯)		G?			
縄文後～晩期	SK06	566	I・II	K-2	ブダイ科	顎歯(遊離歯)		G?			
縄文後～晩期	SK06	566	I・II	K-2	真骨類(同定不可)	歯		G?			
縄文後～晩期	SK06	825	II	K-2	ブダイ科	咽頭歯(遊離歯)		G?			
縄文後～晩期	SK06	825	II	K-2	ブダイ科	前上顎/歯骨	♂		1		
縄文後～晩期	SK06	825	II	K-2	真骨類(同定不可)	歯		G?			
縄文後～晩期	SK06	131		K-2	ブダイ科	咽頭歯(遊離歯)		C?			
縄文後～晩期	SK07	348	I	K-3-4	メジロザメ科?	歯	ほぼw(一部欠)		1		検?
縄文後～晩期	SK07	348	I	K-3-4	ウツコ科	歯骨	♂		1		検
縄文後～晩期	SK07	348	I	K-3-4	ハタ科	第1椎骨			1		小
縄文後～晩期	SK07	348	I	K-3-4	タイ目	臼歯		C?			
縄文後～晩期	SK07	348	I	K-3-4	アオブダイ属	前上顎/歯骨	♂		2		
縄文後～晩期	SK07	348	I	K-3-4	ブダイ科	下咽頭骨	♂		2		
縄文後～晩期	SK07	348	I	K-3-4	ブダイ科	咽頭歯(遊離歯)		G?			
縄文後～晩期	SK07	348	I	K-3-4	ブダイ科	顎歯(遊離歯)		G?			
縄文後～晩期	SK07	348	I	K-3-4	真骨類(保備)	第1椎骨			1		
縄文後～晩期	SK07	348	I	K-3-4	真骨類(保備)	椎骨			4		検1
縄文後～晩期	SK07	348	I	K-3-4	真骨類(同定不可)	椎骨			4		
縄文後～晩期	SK08	721	I	K-1	ブダイ科	咽頭歯(遊離歯)		G?			
縄文後～晩期	SK08	721	I	K-1	真骨類(同定不可)	椎骨			1		検
縄文後～晩期	SK09	345	I	L-3	ブダイ科	咽頭歯(遊離歯)		G(a)			
縄文後～晩期	SK09	345	I	L-3	ブダイ科	顎歯(遊離歯)		G(a)			
縄文後～晩期	SK09	524	II	L-3	サメ類	歯			1		エナメル質のみ残存。三角形・縦溝あり→メジロザメ科上顎歯?/ホホシロザメ?
縄文後～晩期	SK09	524	II	L-3	タイ目	臼歯		G?			
縄文後～晩期	SK09	524	II	L-3	ウツコ型	咽頭歯(遊離歯)		G?			
縄文後～晩期	SK09	524	II	L-3	ブダイ科	顎歯(遊離歯)		G?			
縄文後～晩期	SK09	524	II	L-3	真骨類(同定不可)	歯		G?			
縄文?	SD01	860		P-18-19	骨なし						
縄文後～晩期	SD03	509		O-P-16	骨なし						
縄文後～晩期	SD04	875		O-14	骨なし						
縄文後～晩期	SD06	906	III	O-15	骨なし						
縄文後～晩期	SD06	837		O-15	骨なし						
縄文後～晩期	一區	407	VI-b	K-1-2	ウツコ科	角骨		R	1		検
縄文後～晩期	一區	407	VI-b	K-1-2	タイ目	臼歯		G?			
縄文後～晩期	一區	407	VI-b	K-1-2	ブダイ科	咽頭歯(遊離歯)		G(a)			
縄文後～晩期	一區	407	VI-b	K-1-2	ウツコ科	顎歯(遊離歯)		G?			
縄文後～晩期	一區	407	VI-b	K-1-2	真骨類(同定不可)	歯		G?			

第186表 前リ遺跡平成23~24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(7)

*1 保存位置番号列については186表を参照。*2 *3を付したものはMNIの算定対象外。*4 *5 *6 *7 *8 *9 *10 *11 *12 *13 *14 *15 *16 *17 *18 *19 *20 *21 *22 *23 *24 *25 *26 *27 *28 *29 *30 *31 *32 *33 *34 *35 *36 *37 *38 *39 *40 *41 *42 *43 *44 *45 *46 *47 *48 *49 *50 *51 *52 *53 *54 *55 *56 *57 *58 *59 *60 *61 *62 *63 *64 *65 *66 *67 *68 *69 *70 *71 *72 *73 *74 *75 *76 *77 *78 *79 *80 *81 *82 *83 *84 *85 *86 *87 *88 *89 *90 *91 *92 *93 *94 *95 *96 *97 *98 *99 *100 *101 *102 *103 *104 *105 *106 *107 *108 *109 *110 *111 *112 *113 *114 *115 *116 *117 *118 *119 *120 *121 *122 *123 *124 *125 *126 *127 *128 *129 *130 *131 *132 *133 *134 *135 *136 *137 *138 *139 *140 *141 *142 *143 *144 *145 *146 *147 *148 *149 *150 *151 *152 *153 *154 *155 *156 *157 *158 *159 *160 *161 *162 *163 *164 *165 *166 *167 *168 *169 *170 *171 *172 *173 *174 *175 *176 *177 *178 *179 *180 *181 *182 *183 *184 *185 *186 *187 *188 *189 *190 *191 *192 *193 *194 *195 *196 *197 *198 *199 *200 *201 *202 *203 *204 *205 *206 *207 *208 *209 *210 *211 *212 *213 *214 *215 *216 *217 *218 *219 *220 *221 *222 *223 *224 *225 *226 *227 *228 *229 *230 *231 *232 *233 *234 *235 *236 *237 *238 *239 *240 *241 *242 *243 *244 *245 *246 *247 *248 *249 *250 *251 *252 *253 *254 *255 *256 *257 *258 *259 *260 *261 *262 *263 *264 *265 *266 *267 *268 *269 *270 *271 *272 *273 *274 *275 *276 *277 *278 *279 *280 *281 *282 *283 *284 *285 *286 *287 *288 *289 *290 *291 *292 *293 *294 *295 *296 *297 *298 *299 *300 *301 *302 *303 *304 *305 *306 *307 *308 *309 *310 *311 *312 *313 *314 *315 *316 *317 *318 *319 *320 *321 *322 *323 *324 *325 *326 *327 *328 *329 *330 *331 *332 *333 *334 *335 *336 *337 *338 *339 *340 *341 *342 *343 *344 *345 *346 *347 *348 *349 *350 *351 *352 *353 *354 *355 *356 *357 *358 *359 *360 *361 *362 *363 *364 *365 *366 *367 *368 *369 *370 *371 *372 *373 *374 *375 *376 *377 *378 *379 *380 *381 *382 *383 *384 *385 *386 *387 *388 *389 *390 *391 *392 *393 *394 *395 *396 *397 *398 *399 *400 *401 *402 *403 *404 *405 *406 *407 *408 *409 *410 *411 *412 *413 *414 *415 *416 *417 *418 *419 *420 *421 *422 *423 *424 *425 *426 *427 *428 *429 *430 *431 *432 *433 *434 *435 *436 *437 *438 *439 *440 *441 *442 *443 *444 *445 *446 *447 *448 *449 *450 *451 *452 *453 *454 *455 *456 *457 *458 *459 *460 *461 *462 *463 *464 *465 *466 *467 *468 *469 *470 *471 *472 *473 *474 *475 *476 *477 *478 *479 *480 *481 *482 *483 *484 *485 *486 *487 *488 *489 *490 *491 *492 *493 *494 *495 *496 *497 *498 *499 *500 *501 *502 *503 *504 *505 *506 *507 *508 *509 *510 *511 *512 *513 *514 *515 *516 *517 *518 *519 *520 *521 *522 *523 *524 *525 *526 *527 *528 *529 *530 *531 *532 *533 *534 *535 *536 *537 *538 *539 *540 *541 *542 *543 *544 *545 *546 *547 *548 *549 *550 *551 *552 *553 *554 *555 *556 *557 *558 *559 *560 *561 *562 *563 *564 *565 *566 *567 *568 *569 *570 *571 *572 *573 *574 *575 *576 *577 *578 *579 *580 *581 *582 *583 *584 *585 *586 *587 *588 *589 *590 *591 *592 *593 *594 *595 *596 *597 *598 *599 *600 *601 *602 *603 *604 *605 *606 *607 *608 *609 *610 *611 *612 *613 *614 *615 *616 *617 *618 *619 *620 *621 *622 *623 *624 *625 *626 *627 *628 *629 *630 *631 *632 *633 *634 *635 *636 *637 *638 *639 *640 *641 *642 *643 *644 *645 *646 *647 *648 *649 *650 *651 *652 *653 *654 *655 *656 *657 *658 *659 *660 *661 *662 *663 *664 *665 *666 *667 *668 *669 *670 *671 *672 *673 *674 *675 *676 *677 *678 *679 *680 *681 *682 *683 *684 *685 *686 *687 *688 *689 *690 *691 *692 *693 *694 *695 *696 *697 *698 *699 *700 *701 *702 *703 *704 *705 *706 *707 *708 *709 *710 *711 *712 *713 *714 *715 *716 *717 *718 *719 *720 *721 *722 *723 *724 *725 *726 *727 *728 *729 *730 *731 *732 *733 *734 *735 *736 *737 *738 *739 *740 *741 *742 *743 *744 *745 *746 *747 *748 *749 *750 *751 *752 *753 *754 *755 *756 *757 *758 *759 *760 *761 *762 *763 *764 *765 *766 *767 *768 *769 *770 *771 *772 *773 *774 *775 *776 *777 *778 *779 *780 *781 *782 *783 *784 *785 *786 *787 *788 *789 *790 *791 *792 *793 *794 *795 *796 *797 *798 *799 *800 *801 *802 *803 *804 *805 *806 *807 *808 *809 *810 *811 *812 *813 *814 *815 *816 *817 *818 *819 *820 *821 *822 *823 *824 *825 *826 *827 *828 *829 *830 *831 *832 *833 *834 *835 *836 *837 *838 *839 *840 *841 *842 *843 *844 *845 *846 *847 *848 *849 *850 *851 *852 *853 *854 *855 *856 *857 *858 *859 *860 *861 *862 *863 *864 *865 *866 *867 *868 *869 *870 *871 *872 *873 *874 *875 *876 *877 *878 *879 *880 *881 *882 *883 *884 *885 *886 *887 *888 *889 *890 *891 *892 *893 *894 *895 *896 *897 *898 *899 *900 *901 *902 *903 *904 *905 *906 *907 *908 *909 *910 *911 *912 *913 *914 *915 *916 *917 *918 *919 *920 *921 *922 *923 *924 *925 *926 *927 *928 *929 *930 *931 *932 *933 *934 *935 *936 *937 *938 *939 *940 *941 *942 *943 *944 *945 *946 *947 *948 *949 *950 *951 *952 *953 *954 *955 *956 *957 *958 *959 *960 *961 *962 *963 *964 *965 *966 *967 *968 *969 *970 *971 *972 *973 *974 *975 *976 *977 *978 *979 *980 *981 *982 *983 *984 *985 *986 *987 *988 *989 *990 *991 *992 *993 *994 *995 *996 *997 *998 *999 *1000

時期	遺体番号	種別	種名	種別	部位	保存位置番号	左右	数	計数	備考
種別	種名	種別	部位	保存位置番号	左右	数	計数	備考		
縄文後～晩期	一括 474	VI-b	L-3-2	タイ管	臼歯			47		
縄文後～晩期	一括 474	VI-b	L-3-2	ブダイ科	顎頭蓋(遊離歯)			6a		
縄文後～晩期	一括 474	VI-b	L-3-2	ブダイ科	顎頭蓋(遊離歯)			6b		
縄文後～晩期	一括 822	VI-b	J-K-2	ウツボ科	歯骨		R	1		
縄文後～晩期	一括 822	VI-b	J-K-2	アオブダイ属	前上顎骨		L	1		
縄文後～晩期	一括 822	VI-b	J-K-2	ブダイ科	第1椎骨			2		
縄文後～晩期	一括 822	VI-b	J-K-2	真骨類(同定不可)	歯骨			1		検
縄文後～晩期	一括 558	VI-b	K-1-2	ウツボ科	歯骨			1		
縄文後～晩期	一括 558	VI-b	K-1-2	ブダイ科	顎頭蓋(遊離歯)			6c		
縄文後～晩期	一括 558	VI-b	K-1-2	ブダイ科	顎歯(遊離歯)			1c		
中世か?	F0318	948		骨なし						
中世	F0393	404	K-12	真骨類(保留)	椎骨			1		
中世	F0556	304	J-4	ブダイ科	顎頭蓋(遊離歯)			6d		
中世	F0556	304	J-4	ブダイ科	顎歯(遊離歯)			1c		
中世	F0718	935	N-15	ハリセンボ科	鱗			1c		
中世	F0731	481	O-16	同定対象資料なし						
中世	F0732	919	O-16	ウツボ科	歯骨		L	1		
中世	F0732	919	O-16	ハタ型	腕骨			1		
中世	F0732	919	O-16	タイ管	大歯			2		
中世	F0732	919	O-16	タイ管	尾椎			2		
中世	F0732	919	O-16	モンガラカワハギ科	腕骨			1		
中世	F0732	919	O-16	モンガラカワハギ科	鱗			3b		
中世	F0732	919	O-16	真骨類(未同定)	歯骨			1		
中世	F0732	919	O-16	真骨類(未同定)	腕骨			1		
中世	F0732	919	O-16	真骨類(保留)	椎骨			4		
中世	F0732	919	O-16	真骨類(保留)	鱗			1c		
中世	F0732	919	O-16	真骨類(同定不可)	椎骨			3		
中世	F0759	895	O-15	骨なし						
中世	F0962	487	V-27	ウツボ科	椎骨			2		
中世	F0962	487	V-27	マハタ型	前額歯骨		R	1	小	
中世	F0962	487	V-27	ブダイ科	尾椎			2	中や小	
中世	F0962	487	V-27	ニギザダイ科	尾椎			1		
中世	F0962	487	V-27	真骨類(同定不可)	尾節棘状骨			1		
中世	F0980	296	V-28	タイ管	尾椎			1		
中世	F0980	296	V-28	モンガラカワハギ科	骨結核			1	検	
中世	F0980	296	V-28	真骨類(保留)	椎骨			2	検1	
中世	F1074	716	U-27	ダツ科	腕骨			2		
中世	F1074	716	U-27	ダツ科	尾椎			1		
中世	F1074	716	U-27	ハタ型	腕骨			1		
中世	F1074	716	U-27	タイ管	大歯			3b		
中世	F1074	716	U-27	タイ管	臼歯			1c		
中世	F1074	716	U-27	タイ管	腕骨			1		
中世	F1074	716	U-27	タイ管	尾椎			2		
中世	F1074	716	U-27	アゴノ属	尾椎			1		
中世	F1074	716	U-27	ニギザダイ科	腕骨			1		
中世	F1074	716	U-27	ニギザダイ科	尾椎			1		
中世	F1074	716	U-27	モンガラカワハギ科	腕骨			1	検	
中世	F1074	716	U-27	モンガラカワハギ科	鱗			1c		
中世	F1074	716	U-27	真骨類(保留)	椎骨			2	検1	
中世	F1074	716	U-27	真骨類(保留)	鱗			1	検2	
中世	F1074	716	U-27	真骨類(同定不可)	椎骨			1		
中世	F1074	716	U-27	真骨類(同定不可)	尾節棘状骨			2		
中世	F1074	716	U-27	鳥類(同定不可)	肋骨			1	検	
中世	F1141	450	U-25	同定対象資料なし						
中世	F1192	105								
中世	F1200	120	下層	V-27	骨なし					
中世	F1201	110	中層	V-28	同定対象資料なし					ほとんど骨なし
中世	F1251	804	MI-E	骨なし						
中世	F1251	929	MI-I	骨なし						
中世	SX23	7	P-19	同定対象資料なし						
中世	一括 19	Ⅲ	Q-19	同定対象資料なし						
中世か?	一括 943	Ⅲ	P-14	同定対象資料なし						
中世か?	一括 914	Ⅲ	P-14	同定対象資料なし						
中世	一括 334	Ⅲ	K-3	ハタ科	第1椎骨			1	小	
中世	一括 334	Ⅲ	K-3	タイ管	臼歯			1c		おそらくフェキダコ
中世	一括 334	Ⅲ	K-3	アオブダイ属	前上顎骨		R	1	小	
中世	一括 334	Ⅲ	K-3	ブダイ科	下顎歯骨			3	大	検1
中世	一括 334	Ⅲ	K-3	ニギザダイ科	尾椎			2	小/中	検
中世	一括 334	Ⅲ	K-3	真骨類(保留)	椎骨			1		
中世	一括 334	Ⅲ	K-3	真骨類(同定不可)	椎骨			4		検2
中世	一括 334	Ⅲ	K-3	真骨類(同定不可)	尾節棘状骨			1		
中世	一括 954	Ⅲ	H-13	骨なし						
中世	一括 586	Ⅲ	M-N-12	ブダイ科	顎頭蓋(遊離歯)			1c		
中世	一括 453	Ⅲ	L-3	ブダイ科	顎頭蓋(遊離歯)			6e		
中世	一括 107	IV-a	N-13	同定対象資料なし						
中世か?	検01	293	I	K-3	タイ管	臼歯		1c		
中世か?	検01	293	I	K-3	ブダイ科	顎頭蓋(遊離歯)		6f		
中世か?	検01	293	I	K-3	ブダイ科	顎歯(遊離歯)		1c		
中世	検02	283	I	K-3	ウツボ科	椎骨		1	検	
中世	検02	283	I	K-3	ブダイ科	顎頭蓋(遊離歯)		6d		

第187表 崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の同定結果(6)

時期	遺体名	試料番号	層	区	種別	部位	保存位置*		計測	備考	備考
							左右	数			
中世	焼02	283	I	K-3	ハコブダ科?	鱗板			(1)	焼	
中世	焼02	283	I	K-3	真骨類(同定不可)	歯			(1)		
中世	焼02	295	II	K-3	同定対象資料なし						
中世か?	焼03	109-a		T-20	同定対象資料なし						ほとんど骨なし
中世か?	焼03	109-b		T-20	同定対象資料なし						ほとんど骨なし
中世か?	焼04	483	I	V-30	ニザダイ科	履種			1		
中世か?	焼04	483	I	V-30	真骨類(未同定)	歯骨		R	1		
中世か?	焼04	483	I	V-30	小型哺乳類	基節骨			1		
中世か?	焼04	423		V-30	マハタ型	前上顎/歯骨			1		焼
中世か?	焼04	423		V-30	フダイ科	顎歯(遊離歯)			(2)		
中世か?	焼05	124	I	V-30	同定対象資料なし						ほとんど骨なし
中世か?	焼05	119	II	V-30	同定対象資料なし						ほとんど骨なし
中世か?	焼06	568		M-11	骨なし						
中世か?	焼01	766		M-12	フダイ科	顎歯歯(遊離歯)			(1)		
中世か?	焼02	845		N-12	骨なし						
中世	焼05	751		M-12	骨なし						
中世か?	焼06	333		L-12	骨なし						
中世	焼07	738		M-11	フダイ科	顎歯歯(遊離歯)			(1)		
中世	焼11	750		M-11	フダイ科	顎歯歯(遊離歯)			(1)		
中世か?	焼12	523		L-3	骨なし						
中世か?	焼16	880		M-11	骨なし						
中世か?	焼17	513		L-2-3	骨なし						
中世か?	焼17	580		L-2-3	骨なし						
中世か?	焼17	855		L-2-3	骨なし						
中世か?	焼20	882		M-14	骨なし						
中世か?	焼24	500		M-13	骨なし						
中世か?	焼28	511		O-13	骨なし						
中世か?	焼29	584		O-13	骨なし						
中世か?	焼30	869		O-13	骨なし						
中世か?	焼32	866		N-14	骨なし						
中世	土坑墓1号	96		O-15							
中世	土坑墓1号	100		O-15	ダツ科	履種			1		
中世	土坑墓1号	100		O-15	イノシシ?	肋骨?		p?	1		
中世	土坑墓1号	101		O-15	ダツ科	履種			2		
中世	土坑墓1号	101		O-15	ニザダイ科	履種			7		
中世	土坑墓1号	101		O-15	ニザダイ科	尾椎			10		
中世	土坑墓1号	101		O-15	真骨類(同定不可)	椎骨			3		
中世	土坑墓1号	101		O-15	真骨類(同定不可)	尾節棘状骨			2		
中世	土坑墓1号	101		O-15	へび類	椎骨			1		
中世	土坑墓1号	306		O-15	真骨類(同定不可)	尾節棘状骨			1		
中世	土坑墓2号	103	I	O-15	真骨類(同定不可)	椎骨			1		
中世	土坑墓2号	114	I	O-15	同定対象資料なし						ほとんど骨なし
中世	土坑墓2号	106	床直	O-15	ウツ科	前上顎/歯骨			1		
中世	土坑墓2号	106	床直	O-15	真骨類(未同定)	第1種骨			1		
中世	土坑墓2号	106	床直	O-15	真骨類(同定不可)	歯			(3)		タイプ2
中世	土坑墓2号	89		O-15	アオブダイ属	下咽頭骨			1		
中世	土坑墓2号	89		O-15	フダイ科	顎歯(遊離歯)			(1)		
中世	土坑墓2号	111		O-15	同定対象資料なし						ほとんど骨なし
中世	土坑墓2号	130		O-15	真骨類(同定不可)	歯			(1)		
中世	土坑墓2号	130		O-15	水虫科	下顎		R	1		小型
中世	土坑墓2号	551		O-15	フダイ科	顎歯(遊離歯)			(1)		
中世	土坑墓2号	811		O-15	骨なし						

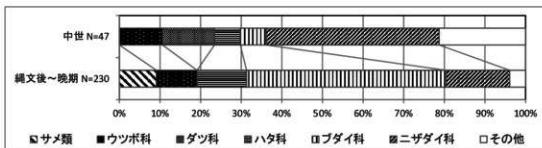
第189表 前年度調査において水域選別によって採集された着稚動物連体の集計結果(2)

種類	部位	集計 結果	調査年度														V101	V102	V103	V104	V105	V106	V107	V108	V109	V110	V111	V112	V113	V114	V115	V116	V117	V118	V119	V120	V121	V122	V123	V124	V125	V126	V127	V128	V129	V130	V131	V132	V133	V134	V135	V136	V137	V138	V139	V140	V141	V142	V143	V144	V145	V146	V147	V148	V149	V150	V151	V152	V153	V154	V155	V156	V157	V158	V159	V160	V161	V162	V163	V164	V165	V166	V167	V168	V169	V170	V171	V172	V173	V174	V175	V176	V177	V178	V179	V180	V181	V182	V183	V184	V185	V186	V187	V188	V189	V190	V191	V192	V193	V194	V195	V196	V197	V198	V199	V200	V201	V202	V203	V204	V205	V206	V207	V208	V209	V210	V211	V212	V213	V214	V215	V216	V217	V218	V219	V220	V221	V222	V223	V224	V225	V226	V227	V228	V229	V230	V231	V232	V233	V234	V235	V236	V237	V238	V239	V240	V241	V242	V243	V244	V245	V246	V247	V248	V249	V250	V251	V252	V253	V254	V255	V256	V257	V258	V259	V260	V261	V262	V263	V264	V265	V266	V267	V268	V269	V270	V271	V272	V273	V274	V275	V276	V277	V278	V279	V280	V281	V282	V283	V284	V285	V286	V287	V288	V289	V290	V291	V292	V293	V294	V295	V296	V297	V298	V299	V300	V301	V302	V303	V304	V305	V306	V307	V308	V309	V310	V311	V312	V313	V314	V315	V316	V317	V318	V319	V320	V321	V322	V323	V324	V325	V326	V327	V328	V329	V330	V331	V332	V333	V334	V335	V336	V337	V338	V339	V340	V341	V342	V343	V344	V345	V346	V347	V348	V349	V350	V351	V352	V353	V354	V355	V356	V357	V358	V359	V360	V361	V362	V363	V364	V365	V366	V367	V368	V369	V370	V371	V372	V373	V374	V375	V376	V377	V378	V379	V380	V381	V382	V383	V384	V385	V386	V387	V388	V389	V390	V391	V392	V393	V394	V395	V396	V397	V398	V399	V400	V401	V402	V403	V404	V405	V406	V407	V408	V409	V410	V411	V412	V413	V414	V415	V416	V417	V418	V419	V420	V421	V422	V423	V424	V425	V426	V427	V428	V429	V430	V431	V432	V433	V434	V435	V436	V437	V438	V439	V440	V441	V442	V443	V444	V445	V446	V447	V448	V449	V450	V451	V452	V453	V454	V455	V456	V457	V458	V459	V460	V461	V462	V463	V464	V465	V466	V467	V468	V469	V470	V471	V472	V473	V474	V475	V476	V477	V478	V479	V480	V481	V482	V483	V484	V485	V486	V487	V488	V489	V490	V491	V492	V493	V494	V495	V496	V497	V498	V499	V500	V501	V502	V503	V504	V505	V506	V507	V508	V509	V510	V511	V512	V513	V514	V515	V516	V517	V518	V519	V520	V521	V522	V523	V524	V525	V526	V527	V528	V529	V530	V531	V532	V533	V534	V535	V536	V537	V538	V539	V540	V541	V542	V543	V544	V545	V546	V547	V548	V549	V550	V551	V552	V553	V554	V555	V556	V557	V558	V559	V560	V561	V562	V563	V564	V565	V566	V567	V568	V569	V570	V571	V572	V573	V574	V575	V576	V577	V578	V579	V580	V581	V582	V583	V584	V585	V586	V587	V588	V589	V590	V591	V592	V593	V594	V595	V596	V597	V598	V599	V600	V601	V602	V603	V604	V605	V606	V607	V608	V609	V610	V611	V612	V613	V614	V615	V616	V617	V618	V619	V620	V621	V622	V623	V624	V625	V626	V627	V628	V629	V630	V631	V632	V633	V634	V635	V636	V637	V638	V639	V640	V641	V642	V643	V644	V645	V646	V647	V648	V649	V650	V651	V652	V653	V654	V655	V656	V657	V658	V659	V660	V661	V662	V663	V664	V665	V666	V667	V668	V669	V670	V671	V672	V673	V674	V675	V676	V677	V678	V679	V680	V681	V682	V683	V684	V685	V686	V687	V688	V689	V690	V691	V692	V693	V694	V695	V696	V697	V698	V699	V700	V701	V702	V703	V704	V705	V706	V707	V708	V709	V710	V711	V712	V713	V714	V715	V716	V717	V718	V719	V720	V721	V722	V723	V724	V725	V726	V727	V728	V729	V730	V731	V732	V733	V734	V735	V736	V737	V738	V739	V740	V741	V742	V743	V744	V745	V746	V747	V748	V749	V750	V751	V752	V753	V754	V755	V756	V757	V758	V759	V760	V761	V762	V763	V764	V765	V766	V767	V768	V769	V770	V771	V772	V773	V774	V775	V776	V777	V778	V779	V780	V781	V782	V783	V784	V785	V786	V787	V788	V789	V790	V791	V792	V793	V794	V795	V796	V797	V798	V799	V800	V801	V802	V803	V804	V805	V806	V807	V808	V809	V810	V811	V812	V813	V814	V815	V816	V817	V818	V819	V820	V821	V822	V823	V824	V825	V826	V827	V828	V829	V830	V831	V832	V833	V834	V835	V836	V837	V838	V839	V840	V841	V842	V843	V844	V845	V846	V847	V848	V849	V850	V851	V852	V853	V854	V855	V856	V857	V858	V859	V860	V861	V862	V863	V864	V865	V866	V867	V868	V869	V870	V871	V872	V873	V874	V875	V876	V877	V878	V879	V880	V881	V882	V883	V884	V885	V886	V887	V888	V889	V890	V891	V892	V893	V894	V895	V896	V897	V898	V899	V900	V901	V902	V903	V904	V905	V906	V907	V908	V909	V910	V911	V912	V913	V914	V915	V916	V917	V918	V919	V920	V921	V922	V923	V924	V925	V926	V927	V928	V929	V930	V931	V932	V933	V934	V935	V936	V937	V938	V939	V940	V941	V942	V943	V944	V945	V946	V947	V948	V949	V950	V951	V952	V953	V954	V955	V956	V957	V958	V959	V960	V961	V962	V963	V964	V965	V966	V967	V968	V969	V970	V971	V972	V973	V974	V975	V976	V977	V978	V979	V980	V981	V982	V983	V984	V985	V986	V987	V988	V989	V990	V991	V992	V993	V994	V995	V996	V997	V998	V999	V1000	V1001	V1002	V1003	V1004	V1005	V1006	V1007	V1008	V1009	V1010	V1011	V1012	V1013	V1014	V1015	V1016	V1017	V1018	V1019	V1020	V1021	V1022	V1023	V1024	V1025	V1026	V1027	V1028	V1029	V1030	V1031	V1032	V1033	V1034	V1035	V1036	V1037	V1038
----	----	----------	------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

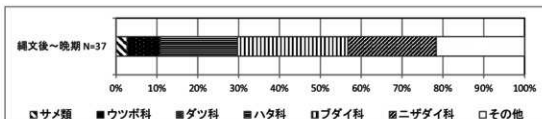
第192表 崩り遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された脊椎動物遺体の組成

* NISPの*は算定対象外の資料のみが検出されたことを示す

種別	519* (同定標準数)*		891 (最小個体数)	
	縄文後～晩期	中世	縄文後～晩期	中世
メジロザメ科?	1	0	0	0
サメ類	20	0	1	0
アナゴ科	2	0	1	0
ウツボ科	23	5	3	1
ダツ科	0	0	0	1
マハタ型	12	1	7	1
ハタ科	13	0	-	-
ハタ型	3	2	-	-
クロダイ属?	1	0	1	0
フエフキダイ科	1	0	1	0
タイ型	0	6	-	-
ベラ科	2	0	1	0
アオブダイ属	65	1	10	1
ブダイ科	48	2	-	-
アイゴ属	2	1	1	1
ニギブダイ科	36	20	8	1
モンガラカワハギ科	1	3	1	1
ハコブダイ科?	*	*	1	1
ハリセンボン科	*	*	1	1
真骨類 (未同定)	5	3	-	-
真骨類 (保証)	61	9	-	-
真骨類 (同定不可)	123	14	-	-
ヒビ類	3	1	1	1
鳥類 (同定不可)	3	1	1	1
ネズミ感科	4	0	1	-
ネズミ科	0	1	-	1
イノシシ	3	0	1	-
イノシシウ	0	1	-	1
小型哺乳類	2	0	-	-
合計	434	77	41	13

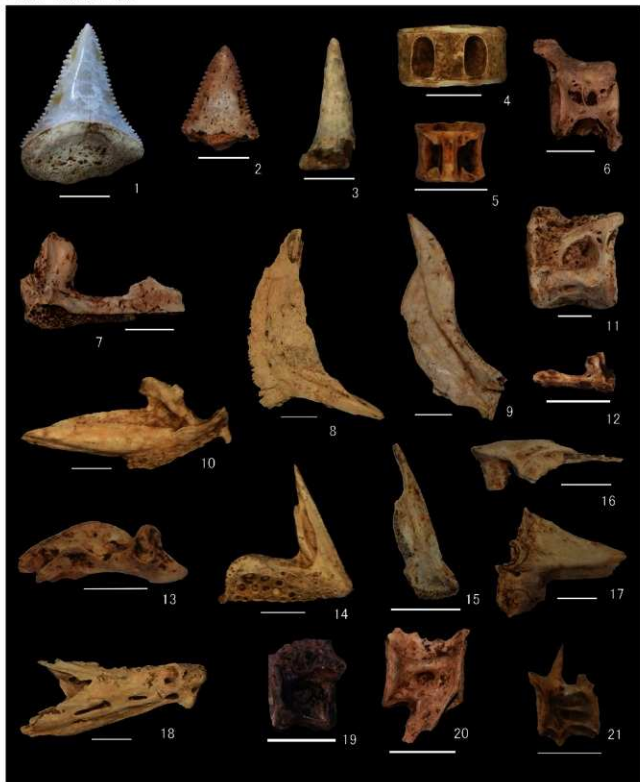


第280図 魚類遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された魚類遺体の組成 (NISP比)。



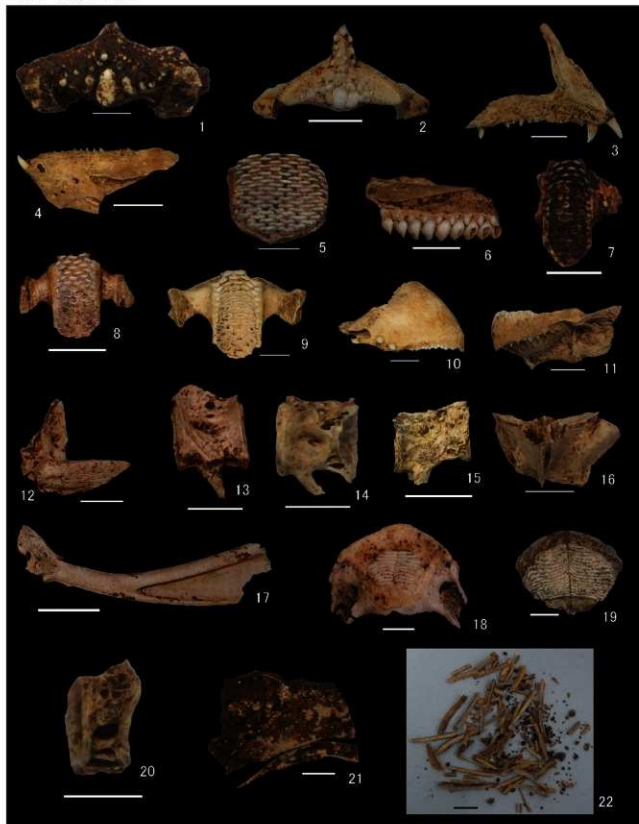
第281図 魚類遺跡平成23～24年度調査において水洗選別によって採集された魚類遺体の組成 (MNI比)。
中世はMNI総数が少ないため表示していない。

図版1 魚類遺体(1)



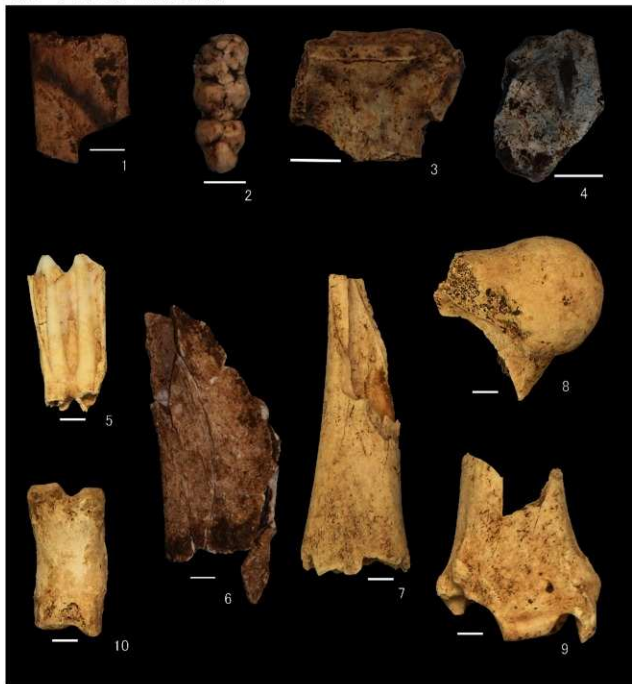
1 ホホジロザメ属歯(32), 2 サメ類歯(138), 3 サメ類歯(295), 4 メジロザメ科椎骨(275), 5 サメ類椎骨(229), 6 ウツボ科椎骨(61), 7~8 ハタ科(マハタ型) [7 前上顎骨 R(66), 8 前鰓蓋骨 R(234)], 9~10 ハタ科 [9 擬鎖骨 L(227), 10 角骨 L(235)], 11 ハタ型腹椎(25), 12 フェダイ科前上顎骨 L(35), 13~14 クロダイ属 [13 主上顎骨 L(226), 14 前上顎骨 L(288)], 15 メイチダイ属前上顎骨 L(224), 16 フェブキダイ属口蓋骨 R(227), 17~19 フェブキダイ科 [17 角骨 R(233), 18 歯骨 R(241), 19 腹椎(焼)(37)], 20 フェブキダイ科?腹椎(44), 21 タイ型尾椎(226). () 内の数字は資料番号. スケールバーは1cm.

図版 2 魚類遺体 (2)



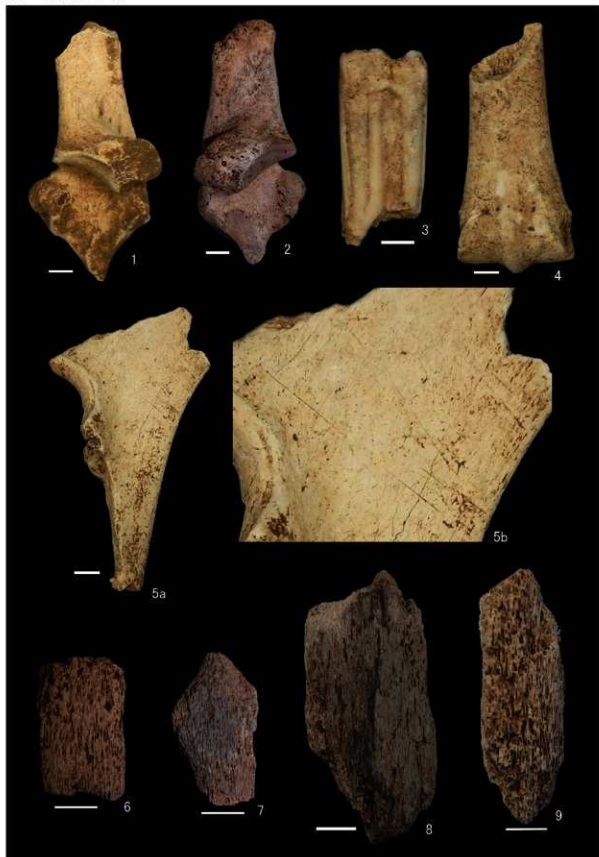
1 ベラ科 (タキベラ型) 下咽頭骨 (153), 2 ベラ科 B 下咽頭骨 (233), 3~4 ベラ科 [3 前上顎骨 L (233), 4 歯骨 L (288), 5 イロブダイ属 下咽頭骨 (187), 6~11 アオブダイ属 上咽頭骨 L (51), 7 下咽頭骨 (205), 8 下咽頭骨 (51), 9 下咽頭骨 (234), 10 前上顎骨 R (234), 11 歯骨 L (152)], 12~14 ブダイ科 [12 方骨 L (51), 13 腹椎 (18), 14 尾椎 (152)], 15 ニザダイ科 尾椎 (323), 16~17 モンガラカワハギ科 [16 吻端部 (157), 17 腰帯 (64)], 18~19 ハリセンボン科 [18 歯骨 (27), 19 前上顎骨/歯骨 (182)], 20 真骨類 (保留) 腹椎 (152), 21~22 フダ科 [21 前上顎骨/歯骨 (148), 22 前上顎骨/歯骨 (分解した針状破片 (60))]. () 内の数字は資料番号, スケールバーは 1cm.

図版3 ウミガメ類・哺乳類遺体(1)



1 ウミガメ類縁骨板(51), 2~4 イノシシ[2 下顎 M3 R(52), 3 仙椎(203), 4 脛骨 L(210)], 5~10 ウシ[5 下顎 M1/2 L(240), 6 肩甲骨 R(42), 7 脛骨 L(304), 8 大腿骨 R(304), 9 脛骨 R(279), 10 基節骨(247)]. () 内の数字は資料番号. スケールバーは 1cm.

図版4 哺乳類遺体(2)



1～2 ウシ [1 踵骨 R (292), 2 踵骨 L (31)], 3～5 ウマ [3 下顎臼歯 L (326), 4 中足骨 (258), 5a 尺骨 R (259), 5b 同カットマーク拡大], 6～9 クジラ類 [6 部位不明(加工品の可能性, やや焼) (4), 7 部位不明(おそらく加工品, 焼) (16), 8 部位不明(焼) (161), 9 部位不明(151)]. () 内の数字は資料番号. スケールバーは1cm.

第4節 崩り遺跡出土の植物遺体

高宮広士 (鹿児島大学国際島嶼教育研究センター)

1) はじめに

崩り遺跡は喜界町手久津久崩りに所在する主に縄文時代後期～晩期(4000年前～3000年前)および中世(11世紀～15世紀)に属する遺跡である。縄文時代後期～晩期の遺構としては堅穴状遺構が40基ほど確認され、その約半数が堅穴住居であったと解釈されている。これらの遺構からは面縄陶器や嘉徳式土器、石皿・磨石・叢石などが出土しており、加えてブダイ・フェフキダイ科・ウミガメ類およびイノシシなどの動物遺体も検出されている。中世の遺構では、柱穴が1150基程、41棟の掘立柱建物跡、2基の土坑墓などが確認され、これらの遺構や包含層からはカムイヤキ、白磁、鉄滓やヤコウガイなどが検出されている。

今回フローテーション処理され、回収された浮遊物の分類および同定のために計207の浮遊物サンプルが送付された。そのうち、123サンプルが縄文時代後期から晩期にかけてであり、42サンプルが中世(11世紀～12世紀および11世～12世紀?)、9サンプルが中世(13世紀～15世紀?)、4サンプルが15世紀末～17世紀初、および29サンプルが古代～中世のものであった。以下では崩り遺跡より回収された炭化植物遺体についてまず縄文時代について報告し、次に中世を含むその他のサンプルについて述べる。

2) 縄文時代(主に縄文時代後期)

サンプルは堅穴状遺構と土坑より回収された土壌サンプルであった。第193～207表に植物遺体の検出された住居跡、第208～212表に植物遺体の回収された土坑および第214表に植物遺体を含んでいなかったサンプルを示した。また、第215表は縄文時代遺構より検出された植物遺体をまとめたものである。

計476(片)の植物遺体が検出された。そのうち、465(片)は同定可能であった。

堅果類子葉?

堅果類の子葉と思われるが保存状態が良好ではなく、堅果類子葉?としたカテゴリーである。10片回収された(第215表)。写真1は其中でも保存状態の良いものである。残存部のサイズは(長さx幅x厚さ)2.7x2.0x1.9mmである。

堅果皮

堅果皮が8片検出されている。小破片のものが多く、写真2はその中でも大きな方で、そのサイズは最大長x最大幅で2.6x1.6mmである。

堅果皮?

堅果皮と思われるが上記よりさらに小破片あるいは保存状態の良くない破片を堅果皮?とした。188片をこのカテゴリーに含めた。

タブノキ *Machilus thunbergii* Siebold et Zucc.

タブノキは双子葉植物で子葉は左右に分かれるが、その片方が1点回収されている(写真3)。写真3のサイズ(長さx幅x厚さ)は6.0x7.2x3.4mmである。

タブノキ?

上記のタブノキ子葉の破片とも思えるが、小破片であるので、タブノキ?とした。2片をこのカテゴリーに含めた。なお、そのうちの1片(ID or LF No.376)を炭素14年代測定法による年代測定を実施した結果、3650calBP-3574calBP(2σ)という年代を得た。

堅果類タブノキ子葉

堅果類あるいはタブノキの子葉と思えるが、小破片のためそのどちらかにも含めることができなかった子葉を堅果類/タブノキ子葉とした。計3片得られている。

シマサルナンシ *Actinidia rubra* (Siebold et Zucc.) Planch. ex Miq.

シマサルナンシの種子が29(粒)回収された。シマサルナンシは液果で生食でき、これほど炭化種子が回収されたということは、崩り遺跡の縄文人に好まれた果実と思われる(写真4)。写真4のサイズ(長さx幅x厚さ)は1.8x1.0x0.6mmである。

不明

今回最も多く回収されたのがこの分類に含まれた破片である。上記の堅果皮と比較すると倍ほどの厚さがあり、また外側は細かい網目模様で覆われている(写真5)。筆者がこれまでに分析した中で初めて検出されたものである。計224片得られた。写真5のサイズは最大長x最大幅で2.0x1.5mmである。

同定不可

保存状態が悪く、分類および同定のできなかった11片を同定不可とした。

3) 中世を含むその他のサンプル

ここでは中世(11～12世紀、11～12世紀?)、13世紀～15

世紀?), 古代~中世?, 15世紀末~17世紀初およびのサンプルを取り扱う。そのうち, 11世紀~12世紀および11世紀~12世紀?の焼土など(第220表), 中世(11世紀~12世紀?)ピット(第221表)および15世紀末~17世紀初の焼土(第224表)には炭化植物遺体は含まれていなかった。その他のサンプルから計187(粒片)の植物遺体が回収されたが, 中世(13世紀~15世紀?)土坑および古代~中世の畝・溝からはそれぞれ同定不可が1片(第223表)および3片(第225表)含まれていたのみであった。それゆえ, 以下での報告は主に中世11~12世紀(216~218表), 中世11世紀~12世紀?(第219表)および中世(13~15世紀?)より回収された植物遺体について述べる。また, 第226表はこのセクションで対象となるサンプルをまとめたものである。

イネ *Oryza sativa* L.

イネ穎果が計5(粒片)確認できた。写真6のサイズ(長さx幅x厚さ)は4.8x2.8x2.1mmである。

オオムギ *Hordeum vulgare* L.

オオムギ穎果が計73(粒片)得られた。そのうち計8粒が計測可能で, その平均のサイズは4.9x2.5x1.8mmであった(第227表)。写真7のサイズ(長さx幅x厚さ)は6.5x3.0x2.2mmである。11世紀~12世紀と推測された土坑墓2号より回収されたオオムギ(DI or LE111)の炭素14年代法による測定結果は770calBP-686calBP(2σ)であった。また, 13~15世紀?と推測されたP1201(DI or LE110), P0980(DI or LE296)およびP1074(DI or LE1074)より検出されたオオムギの炭素14年代測定法による年代はそれぞれ, 654calBP-551calBP(2σ), 651calBP-581calBP(2σ)および637calBP-593calBP(2σ)であった。

コムギ *Triticum aestivum* L.

計7粒コムギ穎果が回収された。そのうち計4粒が計測可能で, その平均のサイズは3.1x2.2x2.0mmであった(第228表)。写真8のサイズ(長さx幅x厚さ)は3.0x1.8x1.8mmである。小型のコムギに属すると思われる。また, コムギと思われる小破片をコムギ?とし, 1粒回収されている。

ムギ類

オオムギがコムギの穎果とおもわれるが, 保存状態が悪く, そのどちらにも分類できなかったものをムギ類とした。計32片をムギ類とした。11世紀~12世紀と推測された土坑墓1号(DI or LE101)および土坑墓2号(DI or LE103)より検出されたムギ類の炭素14年代による年代は, それぞれ785calBP-695calBP(2σ)および795calBP-698calBP(2σ)であった。

アワ *Setaria italica* P.Beauv.

アワ穎果が計4(粒片)検出された。そのうち写真9の1粒のみが計測可能で, そのサイズ(長さx幅x厚さ)は1.0x0.9x0.6mmである。

堅果皮?

堅果皮と思われる小破片が2片11~12世紀のサンプルより回収された。

不明

縄文時代サンプルで不明とした小破片が1片13~15世紀?のサンプルより得られている。

同定不可

保存状態が悪く, 同定できなかった植物遺体をこのカテゴリ一に含めた。計62片である。

4) まとめ

まずは断りさせていただくが, 時間的および所数の都合上, 植物遺体の分布密度や遺構間あるいはサンプル地点間の比較などは, 今回は不可能であり, 将来的に実施することができればと考えている。ここでは, 簡単なまとめと若干のコメントを述べたい。

まず, 縄文時代における喜界島での植物食利用に関してはほとんど知られていなかった。しかしながら, 今回掘穴住居跡などから土壌をサンプリングし, フローテーションを実施した結果, 堅果類あるいは堅果類の破片と思われるものやタブノキおよびシマサルナシなどのように他の縄文時代(貝塚時代前期)の遺跡から報告されている植物遺体が検出された(例 高宮 2006, 高宮 2017)。崩り遺跡においては他の遺跡では未検出の不明種実の破片が多数検出されたが, この点に関しては今後の検証が必要である。また, 堅果皮および堅果皮と思われるものがかなり小破片で回収され, また堅果類子葉と思われるものも小破片であった。筆者の分析中の印象であるが崩り遺跡においては, 他の同時代の人々と比較して, 堅果類等を節約して利用しているように感じられた。

次に, 中世などのサンプルについてであるが, イネと比較して雑穀が多く得られている。喜界島においては時代が新しくなるにつれ, オオムギが重要になってくるような印象を抱いていたが, 今回11~12世紀のサンプルより, 13~15世紀?のサンプルにオオムギが多く含まれていたことは, この考え(印象)を支持するものではないであろうか。この点も, 今後の検証が必要である。

また, 炭素14年代測定結果の報告にあるように, 縄文時代後期, 11~12世紀および13~15世紀?と考えられたタブノ

キ?マオムギなどの年代は発掘担当者の子御通りであったことも記しておきたい。

謝辞

このような機会を与えてくださった喜野町教育委員会澄田直敏・野崎祐司・松原信之さんに心より感謝申し上げます。

参考文献

高宮広士 (2006) 『住吉貝塚出土の植物遺体』『住吉貝塚』知名町教育委員会 (編) pp.100-107. 知名町教育委員会: 知名町

高宮広士 (2017) 『塔原遺跡出土の植物遺体』『塔原遺跡』天城町教育委員会 (編) 天城町教育委員会: 天城町

第193表 SH04出土の植物遺体

10	新遺体名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	発芽種子数? (片)	発芽皮? (片)	発芽皮? (片)	タフノキ(皮)	タフノキ? (片)	発芽穀タフノキ子葉(片)	シマサルナシ(粒)	不明(片)	同定不可(粒/片)	計(粒/片)
234	SH04	K-2	I	縄文後期	11	2.17										
379	SH04	K-2	I	縄文後期	10	9.03										
231	SH04	K-2	I	縄文後期	12	0.21										
200	SH04	K-2	I	縄文後期	10	0.52										
208	SH04	K-2	I	縄文後期	12	0.65										
116	SH04	K-2	I	縄文後期	1	0.41										
1150	SH04	K-2	I-a	縄文後期	1	0.71										
224	SH04	K-2	II	縄文後期	6	0.08										
198	SH04	K-2	II	縄文後期	8	2.17	1						16		1	18
213	SH04	K-2	II	縄文後期	13	2.92			1					9		10
1151	SH04	K-2	II	縄文後期	1	0.71										
1149	SH04	K-2	III	縄文後期	0.5	0.01										
317	SH04	K-2	IV	縄文後期	4	0.67										
321	SH04	K-2	IV	縄文後期	6	0.21			1					1		2
322	SH04	K-2	IV	縄文後期	10	5.12			8					5		13
1019	SH04	K-2	IV	縄文後期	0.5	0.37										
計					112	25.96	1		10					31	1	43

第194表 SH05出土の植物遺体

10	新遺体名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	発芽種子数? (片)	発芽皮? (片)	発芽皮? (片)	タフノキ(皮)	タフノキ? (片)	発芽穀タフノキ子葉(片)	シマサルナシ(粒)	不明(片)	同定不可(粒/片)	計(粒/片)
316	SH05	K-2	II	縄文後期	7.5	14.6										
317	SH05	K-2	III	縄文後期	7	1.75							2		1	3
388	SH05	K-2	III	縄文後期	7	0.53										
401	SH05	K-2	III	縄文後期	8	6.55			2						23	25
366	SH05	K-2	一區	縄文後期	7	1.15										
417	SH05	K-2	一區(上層)	縄文後期	8	1.58			1					7		8
326	SH05	K-2	一區(中層)	縄文後期	13	3.1			21				1	1	4	27
計					57.5	29.26			24				3	1	34	63

第195表 SH09出土の植物遺体

10	新遺体名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	発芽種子数? (片)	発芽皮? (片)	発芽皮? (片)	タフノキ(皮)	タフノキ? (片)	発芽穀タフノキ子葉(片)	シマサルナシ(粒)	不明(片)	同定不可(粒/片)	計(粒/片)
365	SH09	L-3	I	縄文後期	8.5	1.4										
301	SH09	L-3	I	縄文後期	10	2.94			1						1	2
307	SH09	L-3	I	縄文後期	8	1.23										
計					26.5	5.57			1						1	2

第196表 SH10出土の植物遺体

10	新遺体名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	発芽種子数? (片)	発芽皮? (片)	発芽皮? (片)	タフノキ(皮)	タフノキ? (片)	発芽穀タフノキ子葉(片)	シマサルナシ(粒)	不明(片)	同定不可(粒/片)	計(粒/片)
397	SH10	J-K-1-2	I	縄文後期	10	2.45									11	11
383	SH10	J-K-1-2	I	縄文後期	9	3.05			2						12	14
314	SH10	J-K-1-2	一區	縄文後期	12	1.3			2				1		9	12
計					31	6.8			2	2			1		32	37

第197表 SH11出土の植物遺体

ID	新遺体名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブ ノキ (点)	タブ ノキ? (片)	堅果類/ タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種) (片)	不明 (片)	特定不可 (種/片)	計 (種/片)
3	SH11	J-2	I	縄文後期	8	1.04			1				2		3	5
961	SH11	J-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	9	2.40			3							3
553	SH11	J-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	7	0.13										7
計					24	3.59			4				2		3	9

第198表 SH12出土の植物遺体

ID	新遺体名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブ ノキ (点)	タブ ノキ? (片)	堅果類/ タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種) (片)	不明 (片)	特定不可 (種/片)	計 (種/片)	
247	SH12	J-K-2	I	縄文後期	10	2.84	4		33				1		39	77	
385	SH12	J-K-2	I	縄文後期	5.5	0.8								3		3	
244	SH12	J-K-2	Ⅱ	縄文後期	9	0.4										9	
1018	SH12	J-K-2	Ⅱ	縄文後期	0.3	0.02										0.3	
754	SH12	J-K-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	13	0.44										13	
374	SH12	J-K-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	10	2.17	1	1								3	
376	SH12	J-K-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	9.5	1.75					2			7		7	
381	SH12	J-K-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	10	0.57								7		7	
507	SH12	J-K-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	10	0.28										10	
773	SH12	J-K-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	11	9.06			5						9	1	15
計					88.3	18.33	5	6	33		2		1		66	1	113

第199表 SH13出土の植物遺体

ID	新遺体名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブ ノキ (点)	タブ ノキ? (片)	堅果類/ タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種) (片)	不明 (片)	特定不可 (種/片)	計 (種/片)
277	SH13	K-2	Ⅱ	縄文後期	6.5	2.05					1				10	11
337	SH13	K-2	Ⅲ	縄文後期	3	0.26										3
計					9.5	2.31					1				10	11

第200表 SH14出土の植物遺体

ID	新遺体名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブ ノキ (点)	タブ ノキ? (片)	堅果類/ タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種) (片)	不明 (片)	特定不可 (種/片)	計 (種/片)
544	SH14	K-2	I	縄文後期	11	0.85			3						7	10
457	SH14	K-2	Ⅱ	縄文後期	4.5	1.53				2					2	4
413	SH14	K-2	Ⅱ	縄文後期	5.5	0.62										5.5
559	SH14	K-2	Ⅲ	縄文後期	10	0.69			5						5	10
312	SH14	K-2	Ⅲ	縄文後期	10	0.63										10
計					41	4.32			10						14	24

第201表 SH15出土の植物遺体

ID	新遺体名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブ ノキ (点)	タブ ノキ? (片)	堅果類/ タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種) (片)	不明 (片)	特定不可 (種/片)	計 (種/片)
297	SH15	L-1-2	第一層	縄文後期	9	1.19										9
98	SH15	L-1-2	一拵	縄文後期	6.5	1.69			16						6	22
計					15.5	2.88			16						6	27

第202表 SH17出土の植物遺体

ID	新遺体名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブ ノキ (点)	タブ ノキ? (片)	堅果類/ タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種) (片)	不明 (片)	特定不可 (種/片)	計 (種/片)
925	SH17	K-2	I	縄文後期	10	1.13			11						2	13
718	SH17	K-2	一拵	縄文後期	10	0.51										10
398	SH17	K-2	一拵	縄文後期	5	2.91										5
計					25	4.55			11						2	15

第203表 SH18出土の植物遺体

ID	新遺体名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブ ノキ (点)	タブ ノキ? (片)	堅果類/ タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種) (片)	不明 (片)	特定不可 (種/片)	計 (種/片)
934	SH18	K-2	Ⅱ	縄文後期	10	1.11			8				18	2	3	31
812	SH18	K-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	11	0.95			3				3		1	7
900	SH18	K-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	10	0.16										10
818	SH18	K-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	9	1.16										9
949	SH18	K-2	床面(Ⅱ)	縄文後期	7	1.24			5						2	7
計					47	4.62			16				21	2	5	45

第204表 SH21出土の植物遺体

10	新遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブノ キ(皮)	タブノ キ? (片)	堅果類 タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種)	不明 (片)	同定不可 (種/片)	計 (種/片)
443	SH21	L-2	I	縄文後期	10	1.4										
462	SH21	L-2	II	縄文後期	8	0.48										
799	SH21	L-2	III	縄文後期	9.5	5.03										
469	SH21	L-2	一括	縄文後期	9	0.72			3					8		11
計					17.5	5.51			3					8		11

第205表 SH22出土の植物遺体

10	新遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブノ キ(皮)	タブノ キ? (片)	堅果類 タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種)	不明 (片)	同定不可 (種/片)	計 (種/片)
286	SH22	K-1-2	I	縄文後期	8	0.9										
1012	SH22	K-1-2	II	縄文後期	10	2.81			5				1			6
計					18	3.71			5				1			6

第206表 SH24出土の植物遺体

10	新遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブノ キ(皮)	タブノ キ? (片)	堅果類 タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種)	不明 (片)	同定不可 (種/片)	計 (種/片)
280	SH24	L-2	成層(II)	縄文後期	7	13.59										
406	SH24	L-2	I(上)	縄文後期	6.5	1.21									2	2
389	SH24	L-2	I(下)	縄文後期	11	4.64										
計					24.5	19.44									2	2

第207表 SH27出土の植物遺体

10	新遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブノ キ(皮)	タブノ キ? (片)	堅果類 タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種)	不明 (片)	同定不可 (種/片)	計 (種/片)
720	SH27	K-2	床遺(1)	縄文後期	5.5	1.49										
132	SH27	K-2	床遺(1)	縄文後期	5	1.96	1		1							2
187	SH27	K-2	床遺(1)	縄文後期	5	1.7									1	1
計					15.5	5.15	1		1						1	3

第208表 SK01出土の植物遺体

10	新遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブノ キ(皮)	タブノ キ? (片)	堅果類 タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種)	不明 (片)	同定不可 (種/片)	計 (種/片)
763	SK01	L-2	I	縄文後期	10	6.41			1						3	4
360	SK01	L-2	I	縄文後期	4.5	1.16										
計					14.5	7.57			1						3	4

第209表 SK03出土の植物遺体

10	新遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブノ キ(皮)	タブノ キ? (片)	堅果類 タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種)	不明 (片)	同定不可 (種/片)	計 (種/片)
294	SK03	K-3	I	縄文後期	12	7.01										
576	SK03	K-3	1.0~3.0a	縄文後期	5.5	2.1										
488	SK03	K-3	1.0~3.0a	縄文後期	6	0.26										
447	SK03	K-3	1.0a~3.0a	縄文後期	2.5	1.29			2						1	3
380	SK03	K-3	1.0a~3.0a	縄文後期	4.5	2.08										
計					30.5	12.74			2						1	3

第210表 SK04出土の植物遺体

10	新遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブノ キ(皮)	タブノ キ? (片)	堅果類 タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種)	不明 (片)	同定不可 (種/片)	計 (種/片)	
795	SK04	L-2	I	縄文後期	11	6.04	2		44						6	1	53
計					11	6.04	2		44						6	1	53

第211表 SK06出土の植物遺体

10	新遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類 子葉? (片)	堅果皮 (片)	堅果 皮? (片)	タブノ キ(皮)	タブノ キ? (片)	堅果類 タブノキ 子葉(片)	シマサルナシ (種)	不明 (片)	同定不可 (種/片)	計 (種/片)
566	SK06	K-2	1.0~3.0a	縄文後期	9.5	0.27										
825	SK06	K-2	II	縄文後期	5	0.82										
131	SK06	K-2	一括	縄文後期	10	8.03			3						1	4
計					24.5	9.12			3						1	4

第212表 SK09出土の植物遺体

10	新通称名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類子実? (片)	堅果皮 (片)	堅果皮? (片)	タフノキ (点)	タフノキ? (片)	堅果類/タフノキ子実 (片)	シマサルナシ (粒)	シマサルナシ (片)	不明 (片)	指定不可 (粒/片)	計 (粒/片)
524	SK09	L-2-3	I	縄文後期	9	0.92			3						2		5
345	SK09	L-2-3	I	縄文後期	1.5	0.22											
	計				10.5	1.15			3						2		5

第213表 その他包含層出土の植物遺体

10	新通称名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類子実? (片)	堅果皮 (片)	堅果皮? (片)	タフノキ (点)	タフノキ? (片)	堅果類/タフノキ子実 (片)	シマサルナシ (粒)	シマサルナシ (片)	不明 (片)	指定不可 (粒/片)	計 (粒/片)
407	包含層	K-1-2	IV-b	縄文後期	13	0.77	1								1	2	4
	計				13	0.77	1								1	2	4

第214表 植物遺体の検出されなかったサンプル

10	通称名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	10	通称名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)
521	SH01	J-2	床底 (V)	縄文後期	7	0.29	28	SK26	K-L-1	床底 (I)	縄文後期	10	1.6
373	SH01	J-2	床底 (V)	縄文後期	10	0.41	772	SK02	K-3	I (上層)	縄文後期	9.5	5.3
561	SH01	J-2	床底 (V)	縄文後期	8	0.74	377	SK02	K-3	I (中層)	縄文後期	8	8.99
749	SH03	J-3	Ⅱ	縄文後期	2	1.11	289	SK02	K-3	I (下層)	縄文後期	10	2.63
425	SH05	K-2	Ⅱ	縄文後期	10	0.97	348	SK07	K-3-4	I	縄文後期	10	1.22
265	SH06	K-3	I	縄文後期	16.5	16.52	721	SK08	K-1	I	縄文後期	10	1.48
359	SH06	K-3	I	縄文後期	10.5	2.31	6	SK10	P-18	Ⅱ	縄文後期～晩期	6	0.66
202	SH07	K-3	I	縄文後期	6	0.13	24	SK10	P-18	Ⅰ	縄文後期～晩期	7	0.13
212	SH07	K-3	Ⅱ	縄文後期	4	0.27	13	SK10	P-18	Ⅰ	縄文後期～晩期	0.09	0.0
439	SH08	L-3	I	縄文後期	5	10.38	952	SK04	Q-R-13	I	縄文後期～晩期	8.5	1.29
484	SH08	L-3	I	縄文後期	3	0.52	875	SK04	D-14	I	縄文後期～晩期	11	1.75
416	SH20	L-2	Ⅱ	縄文後期	7	0.38	837	SD06	D-15	I	縄文後期～晩期	10	0.76
444	SH20	L-2	床底 (IV)	縄文後期	9	1.34	509	SD03	O-P-15	I	縄文後期～晩期	7	0.24
300	SH23	K-L-1-2	床底	縄文後期	7.5	1.01	860	SD01	P-Q-18-19	I	縄文後期～晩期	8	0.05
106	SH23	K-L-1-2	床底	縄文後期	6	2.95	16	SD01	P-Q-18-19	I	縄文後期～晩期	13	0.34
201	SH23	K-L-1-2	床底	縄文後期	8	1.13	566	徳020	M-11	I	縄文後期～晩期	4	0.31
371	SH27-23	K-L-1-2	床底	縄文後期	7.5	3.24	223	徳004	K-2-3	中(地上部土層)	時期不明	3	0.89
282	SH25	L-2	遺構床底 (I)	縄文後期	5.5	2.88	474	SH-002	L-3-2	包含層内	縄文後期	8	2.61
570	SH25	L-2	I	縄文後期	9.5	0.39	822	SH-002	J-K-2	包含層内	縄文後期	10	1.27
	小計①				142	46.82		小計②				153.09	29.52
								合計 (①+②)				295.09	76.14

第215表 縄文後期 (まとめ)

通称名等	重量 (g)	浮遊物量 (g)	堅果類子実? (片)	堅果皮 (片)	堅果皮? (片)	タフノキ (点)	タフノキ? (片)	シマサルナシ		不明 (片)	指定不可 (片)	計 (粒/片)	
								(粒)	(片)				
SH04	112	25.90	1		10					31	1	43	
SH05	57.5	29.26			24			3	1	34	1	63	
SH09	26.5	5.57			1					1		2	
SH10	31	6.8		2	2					32		37	
SH11	24	3.59			4				2		3	8	
SH12	88.3	18.33	5	4	33		2	1		85	1	113	
SH13	9.5	2.31				1				16		11	
SH14	41	4.32			10					14		24	
SH15	15.5	2.88			15					6		21	
SH17	25	4.55			11					2		13	
SH18	47	4.62			16			21	2	5	1	45	
SH21	17.5	5.51			3					8		11	
SH22	18	3.71			5				1			6	
SH24	24.5	19.44								2	2	2	
SH27	15.5	5.15	1		1						1	3	
SK01	14.5	7.57			1					3		4	
SK03	30.5	12.74			2					1		3	
SK04	11	6.04	2		44					6	1	53	
SK06	24.5	9.12			3					1		4	
SK09	10.5	1.15			3					2		5	
その他包含層出土の植物遺体	13	0.77	1								1	2	4
植物遺体の検出されなかったサンプル	291.09	76.14											
計	947.89	255.53	10	8	188	1	2	3	27	2	224	11	476

第216表 ビット出土の植物遺体

ID	遺体名	グリッド	層位	時期	重量(g)	浮遊物量(g)	イネ (粒)	オオムギ (粒)	コムギ (粒)	コム 47(粒)	ムギ類 (粒)	アワ (粒)	穀類皮? (粒)	特定不可 (粒)	計(粒) (粒)
309	P0393	K-12	I	中世(11~12C)	2.9	2.9	1								1
404	P0393	K-12	I	中世(11~12C)	11	8.17									
935	P0718	N-15	I	中世(11~12C)	1.5	1.83									
481	P0721	O-16	I	中世(11~12C)	2	0									
919	P0732	O-16	I	中世(11~12C)	10.5	9.60			1						4
23	P0744	K-5	I	中世(11~12C)	2.5	0.2									
304	P0556	J-4	I	中世(11~12C)	2.5	0.19			1						
895	P0759	O-15	I	中世(11~12C)	9	0.1									
929	P1251	M-11	I	中世(11~12C)?	12.5	0.25									
105	P1192	Q-20	I	中世(11~12C)	5	0.51									
948	P0318	L-13	I	中世(11~12C)	4	1.6									
計					63.4	25.63		1	1	1					5

第217表 土坑墓1号出土の植物遺体

ID	遺体名	グリッド	層位	時期	重量(g)	浮遊物量(g)	イネ (粒)	オオムギ (粒)	コムギ (粒)	コム 47(粒)	ムギ類 (粒)	アワ (粒)	穀類皮? (粒)	特定不可 (粒)	計(粒) (粒)
96	土坑墓1号	O-15	I	中世(11~12C)	1	0.95									
100	土坑墓1号	O-15	I	中世(11~12C)	6.5	2.35		1							1
101	土坑墓1号	O-15	I	中世(11~12C)	6	2.51					5				5
306	土坑墓1号	O-15	I	中世(11~12C)	6.5	4.94		1							1
計					20	10.75		1	1		5				1

第218表 土坑墓2号出土の植物遺体

ID	遺体名	グリッド	層位	時期	重量(g)	浮遊物量(g)	イネ (粒)	オオムギ (粒)	コムギ (粒)	コム 47(粒)	ムギ類 (粒)	アワ (粒)	穀類皮? (粒)	特定不可 (粒)	計(粒) (粒)
89	土坑墓2号	O-15	I	中世(11~12C)	4.5	2.53					1				1
106	土坑墓2号	O-15	I	中世(11~12C)	10	2.12									
111	土坑墓2号	O-15	I	中世(11~12C)	8	7.06		1							
841	土坑墓2号	O-15	I	中世(11~12C)	7.5	0.15									
130	土坑墓2号	O-15	I	中世(11~12C)?	7	4.1									
551	土坑墓2号	O-15	I	中世(11~12C)	9	0.13									
103	土坑墓2号	O-15	I (7~9cm)	中世(11~12C)	5.5	2.56		2	1		1		2	1	7
114	土坑墓2号	O-15	I (9cm~底)	中世(11~12C)	5.5	2.76									
計					57	21.4		3	2	1	1		2	2	11

第219表 土坑出土の植物遺体

ID	遺体名	グリッド	層位	時期	重量(g)	浮遊物量(g)	イネ (粒)	オオムギ (粒)	コムギ (粒)	コム 47(粒)	ムギ類 (粒)	アワ (粒)	穀類皮? (粒)	特定不可 (粒)	計(粒) (粒)
7	SK23	P-18	I	中世(11~12C)?	3	0.64									
22	SK24	P-18	I	中世(11~12C)?	13	8.44									
19	SK24	Q-19	I	中世(11~12C)?	10.5	11.01			1		1				3
943	SK26	P-14	I	中世(11~12C)?	4.5	0.9									
914	SK26	P-14	II	中世(11~12C)?	5.5	0.52									
計					36.5	21.41			1		1				3

第220表 僦士など(11~12C)分析結果

ID	遺体名	グリッド	層位	時期	重量(g)	浮遊物量(g)
293	僦士跡01	K-3	I	中世(11~12C)	6.5	4.19
283	僦士跡02	K-3	I	中世(11~12C)	3	7.51
287	僦士跡01	K-3	II	中世(11~12C)	4	30.63
296	僦士跡02	K-3	II	中世(11~12C)	1	13.16
107	新井山	N-13	新井山	中世(11~12C)	1.5	0.45
702	僦士跡09	M-13	I	中世(11~12C)?	2	0.06
118	僦士跡07	R-20	II	中世(11~12C)?	1	1.59
109-a	僦士跡03	T-20	I	中世(11~12C)?	0.1	0.04
109-b	僦士跡03	T-20	II	中世(11~12C)?	0.08	2.78
109-c	僦士跡03	T-20	III	中世(11~12C)?	0.08	0.18
計					19.26	60.61

第221表 中世(11C~12C)?ビット・包含層分析結果

ID	遺体名	グリッド	層位	時期	重量(g)	浮遊物量(g)
375	SH3	K-2	新井山	中世(11~12C)?	9.5	0.77
466	SH3	K-2	新井山	中世(11~12C)?	8.5	0.38
964		H-13	包含層	中世(11~12C)?	11	1.65
334		K-3	I	中世(11~12C)?	4	0.03
計					33	3.27

第222表 ビット (13~15C?) 出土の植物遺体

ID	遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	イネ		オオムギ		コムギ		コムギ?		ムギ類		アワ		懸果皮?	不明	固定不可	計 (粒/片)	
							(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)					
487	P0962	V-27	I	中世 (13~15C?)	6	2.87			1														
99	P1200	V-27	I (中層)	中世 (13~15C?)	6.5	0.41																	
120	P1200	V-27	I (下層)	中世 (13~15C?)	6	0.41																	
296	P0980	V-28	I	中世 (13~15C?)	10	4.47			28	4	2			21	1						21	77	
110	P1201	V-28	I (中層)	中世 (13~15C?)	7	2.18			3						1					1	2	7	
112	P1201	V-28	I (下層)	中世 (13~15C?)	8	1.04																	
450	P1141	0-25	I	中世 (13~15C?)	3.5	5.41																2	2
716	P1074	0-27	I	中世 (13~15C?)	9	14.8	1	2	27	4	2			4		1					25	66	
計					56	31.59	1	2	59	8	4			25	2	1					50	153	

第223表 土坑出土の植物遺体

ID	遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	イネ		オオムギ		コムギ		コムギ?		ムギ類		アワ		懸果皮?	固定不可	計 (粒/片)	
							(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)						
67	5A-051	V-26	Ⅱ (中層)	中世 (13~15C?)	3.5	1.36															1	1
計					3.5	1.36															1	1

第224表 焼土 (15C末~17C初) 分析結果

ID	遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)
483	焼02	V-30	I	15C末~17C初	7	4.42
124	焼03	V-30	I	15C末~17C初	3.5	2.31
423	焼02	V-30	Ⅱ	15C末~17C初	5.5	35.21
119	焼03	V-30	Ⅱ	15C末~17C初	3	7.43
計					19	49.37

第225表 畝・溝出土の植物遺体

ID	遺構名	グリッド	層位	時期	重量 (g)	浮遊物量 (g)	イネ		オオムギ		コムギ		コムギ?		ムギ類		アワ		懸果皮?	固定不可	計 (粒/片)		
							(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)					
766	畝-001	N-12	I	古代~中世?	13.5	3.74																	
845	畝-002	N-12	I	古代~中世?	7	1.27																	
308	畝-003	N-12	I	古代~中世?	18	0.59																	
769	畝-004	N-12	I	古代~中世?	8	0.35																	
751	畝-005	N-12	I	古代~中世?	10	1																	
333	畝-006	L-12	I	古代~中世?	8	0.04																	
738	畝-007	N-11	I	古代~中世?	10	0.32																	
301	畝-008	N-12	I	古代~中世?	3.5	0.02																	
288	畝-009	L-11	I	古代~中世?	10	1.16																	
307	畝-010	L-11	I	古代~中世?	9	0.21																	
750	畝-011	N-11	I	古代~中世?	12	0.3																	
523	畝-012	N-11	I	古代~中世?	3.5	0.44																	
953	畝-013	N-11	I	古代~中世?	6	0.58																	
880	畝-016	N-11	I	古代~中世?	4	0.06																	
513	畝-017	N-11	I	古代~中世?	5	0.42																	
580	畝-017	N-11	I	古代~中世?	13	0.36																	
855	畝-017	N-11	I	古代~中世?	12	3.75																3	3
882	畝-020	N-14	I	古代~中世?	4.5	0.01																	
815	畝-023	N-13	I	古代~中世?	7.5	0.09																	
500	畝-024	N-13	I	古代~中世?	7	0.03																	
346	畝-026	N-12	I	古代~中世?	11.5	1.04																	
511	畝-028	0-13	I	古代~中世?	8.5	0.16																	
584	畝-029	0-13	I	古代~中世?	12	0.94																	
869	畝-030	0-13	I	古代~中世?	9.5	0.22																	
926	畝-033	0-13	I	古代~中世?	11	1.28																	
894	畝-034	N-14	I	古代~中世?	4	0.13																	
866	畝-035	N-14	I	古代~中世?	5	0.11																	
586	畝7507	N-N-12	I	古代~中世?	7.5	0.08																	
775	畝19-1	0-13	I	古代~中世?	10	0.13																	
計					248.5	18.83															3	3	

第226表 中世などその他のサンプルのまとめ

遺構名	重量(g)	浮遊物量 (g)	イネ		オオムギ		コムギ		コムギ? (粒)	ムギ類 (片)	アワ		堅果皮? (片)	不明 (片)	同定不可 (片)	計(粒/ 片)		
			(粒)	(片)	(粒)	(片)	(粒)	(片)			(粒)	(片)						
中世ビット (11~12C)	63.4	25.63	1		1	1										5	8	
土坑墓1号	26	10.75	1	1						5							1	8
土坑墓2号	57	21.4		3		2			1	1			2			2	11	
中世土坑 (11~12C)?	36.5	21.41			1					1	1							3
中世墳など (11~12C)	19.26	60.61																
中世ビット (11~12C?)・ 包舎層など	33	3.21																
中世ビット (13~15C?)	56	31.59	1	2	59	8	4			25	2	1			1	50	153	
中世土坑 (13~15C?)	3.5	1.36															1	1
墳土 (15C末~17C初)	3.5	1.36																
総・SD	248.5	18.83															3	3
	540.64	196.15	1	4	62	10	7			1	32	3	1	2	1	62	187	

第227表 オオムギのサイズ

長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
4.9	2.6	2
4.3	2.2	1.4
6.5	3	2.2
4.1	2	1.3
4.7	2.4	1.8
5.7	3	2.3
4.9	2.5	2.1
4.2	2.1	1.6
平均	4.9	2.5

第228表 コムギのサイズ

長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)
2.1	2	2
3	1.8	1.8
3.8	2.5	2.2
3.4	2.5	2.1
平均	3.1	2.2

崩り遺跡出土の植物遺体 (貝塚時代後4期/縄文時代後期)



写真1 ブナ科子葉

外側



内側



写真2 ブナ科 堅果皮

外側



内側



外側



内側

写真3 タブノキ 子葉



写真4 シマサルナシ



外側



内側

写真5 不明

崩り遺跡出土の植物遺体（グスク時代）



写真6 イネ



背面



腹面

写真7 オオムギ



背面



腹面

写真8 コムギ



写真9

アワ

第5節 (1) 崩り遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定) (土坑墓 1号)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

崩り遺跡は、鹿児島県大島郡喜界町大字手久字崩りに所在する。測定対象試料は、土坑墓 1号 (4号人骨焼骨堆中) に含まれていた木炭 (No. 1: IAAA-111017) 1点である (第 229 表)。

2 測定の意義

土坑墓が造られた年代を探る一つの材料とする。

3 化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

(2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時点には「AAA」、1M 未満の場合は「AA」と表 1 に記載する。

(3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。

(4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。

(5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。

(6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹²C 濃度 (¹²C/¹³C) の測定を行う。測定では、米国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (D₂O II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

(1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (第 229 表)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2) ¹⁴C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大气中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第 229 表に、補正していない値を参考値として第 230 表

に示した。¹⁴C 年代と誤差は、下 1桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

(3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ¹⁴C 濃度の割合である。pMC が小さい (¹⁴C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (¹⁴C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第 229 表に、補正していない値を参考値として第 230 表に示した。

(4) 暦年校正年代とは、年代が既知の試料の ¹⁴C 濃度を元に描かれた校正曲線と照らし合わせ、過去の ¹⁴C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年校正年代は、¹⁴C 年代に対応する校正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ¹⁴C 年代、横軸が暦年校正年代を表す。暦年校正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1桁を丸めない ¹⁴C 年代値である。なお、校正曲線および校正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年校正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCal v4.1 校正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年校正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 230 表に示した。暦年校正年代は、¹⁴C 年代に基づいて校正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

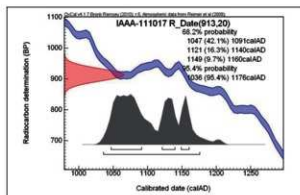
6 測定結果

土坑墓 1号 (4号人骨焼骨堆中) に含まれていた木炭 No. 1 の ¹⁴C 年代は $910 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年校正年代 (1σ) は 1047 ~ 1160cal AD の間に 3つの範囲で示される。

試料の炭素含有率は 40% を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
Reimer, P. J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50, 000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150



[参考] 暦年較正年代グラフ

第 229 表 放射性炭素年代測定結果 (土坑墓 1 号)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-111017	No. 1	土坑墓 1 号 (4 号人骨焼骨塊中)	木炭	AaA	-27.89 ± 0.48	910 ± 20	89.25 ± 0.23

[#4567]

第 230 表 暦年較正結果 (土坑墓 1 号)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-111017	960 ± 20	88.72 ± 0.21	913 ± 20	1047calAD - 1091calAD (42.1%) 1121calAD - 1140calAD (16.3%) 1149calAD - 1160calAD (9.7%)	1036calAD - 1176calAD (95.4%)

[参考値]

崩り遺跡出土炭化材の樹種（土坑墓1号）

（株）加速器分析研究所

はじめに

崩り遺跡の土坑墓1号では、地表下15cmから4号人骨（焼骨塊）が出土している。本報告では、4号人骨の焼骨塊中の炭化物を対象として樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、0-15区土坑墓1号の4号人骨（焼骨塊）から出土した炭化材1点である。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・柀目(放射線断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を複製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にす。また、日本産木材の組織記列は、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にす。

3. 結果

樹種同定の結果、炭化材は、スイカズラ科スイカズラ属(*Lonicera*)に同定された。スイカズラ属は散孔材で、小径の道管が単独または2-3個が複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔および環紋穿孔を有する。放射線組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

4. 考察

土坑墓1号の4号人骨（焼骨塊）中から出土した炭化材は、長さ約5mm、幅・厚みが約1mmの微細片であり、素葛属に同定された。スイカズラ属は、山野に生育する、つる植物あるいは低木である。焼骨と一緒に出土するとされていることから燃料材などとして用いられた可能性もあり、周辺に生育している樹木を利用したと推定される。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集, 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ, 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ, 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ, 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ, 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ, 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

※ 本分析は、バリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

図版1 炭化材



1. スイカズラ属(O-15区土坑墓1号・4号人骨焼骨塊中)
a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μ m: a
200 μ m: b, c

第5節 (2) 崩り遺跡出土炭化物の年代測定及び樹種同定 (焼土跡05号・掘立柱建物跡6号P16 (P0606))

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

崩り遺跡は、喜界島南西部に位置する手久津久集落付近の標高約23mの海岸段丘上に位置する。調査は平成23~24年度に実施し、縄文時代後期~晩期と中世と考えられる遺構や遺物が確認されている。

縄文時代の遺構は、遺跡南側に広がり、堅穴状遺構が27基ほどみつがっている。これらの堅穴状遺構からは、面縄束刺式・嘉徳式などの土器や、石皿・磨石・砥石などの石器、さらに、ブダイやフエフキダイ科の魚骨・ウミガメ類・イノシシなど獣骨が出土している。

一方、中世の遺構は北側に展開しており、柱穴約1150基や掘立柱建物跡41棟、土坑墓2基、製鉄部遺構が見つがっている。包含層や遺構からはカムイヤキ、白磁、鉄滓、陶壁片、石器やヤコウガイなどの貝類などが出土している。土坑墓は、喜界町城久遺跡でみられた焼骨再葬墓で、うち1基は、年代測定の結果910±20BPの値を得ている。

本業務では、遺跡から出土した炭化材2点の放射性炭素年代測定と樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、焼土跡05号 (V-30区) 出土炭化材と掘立柱建物跡6号P16 (P0606) (Q-19区) I層出土炭化材である。

焼土跡05号 (V-30区) 出土炭化材は遺跡底部直上より採取された。遺跡北側に広がる遺構群の年代確認のための放射性炭素年代測定と木材利用検討のため樹種同定を実施する。炭化材は、微細片が10片以上ある。予備的に実体顕微鏡で観察したところ、2~3種類の破片が混じっていたことから、最も破片数・重量が得られる種類を選択し、年代測定と樹種同定に供した。

掘立柱建物跡6号P16 (P0606) (Q-19区) I層出土炭化材は、掘立柱建物跡を構成するビットから採取されたものである。炭化材は板目板状の小破片で、樹皮は認められない。樹種同定用の破片を採取した残りを全量、年代測定に供した。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HC1により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC1によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銅箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 950H-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国立標準局(NIST)から提供されるシェウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同様に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma/68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV.7.1.0(Copyright 1986-2015 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い(14Cの半減期5730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検定に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正は、測定誤差 σ 、2 σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68.3%の確率で存在する範囲、2 σ は真の値が95.4%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、2 σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(2) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口(樹梢面)・板目(放射線面)・板目(放射線面)の3断面の断面面を複製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Whooler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産樹木

の木材組織については、林(1991)や伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定結果を第 231 表および暦年較正結果を第 232 表、第 282 図に示す。同位体効果の補正を行った補正年代は、焼土跡 05 号 (V-30 区) が 340 ± 20 BP、掘立柱建物跡 6 号 P16 (P606) (Q-19 区) I 層が 990 ± 30 BP を示す。測定誤差を σ で計算した暦年較正結果は、前者が calAD1, 493-1, 632、後者が calAD1, 016-1, 146 である。

(2) 樹種同定

樹種同定結果は、年代測定結果と共に第 231 表に示した。炭化材は、掘立柱建物跡 6 号 P16 (P606) (Q-19 区) I 層が針葉樹のマン属複維管束亜属に同定された。焼土跡 05 号 (V-30 区) は広葉樹の破片であるが、微細片で観察範囲が狭いため、種類は不明である。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・マン属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diptoxyloides*)

マン科

軸方向組織は仮道管と垂直樹形道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急〜やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹形道は晩材部に認められる。放射線組織は、仮

道管、柔細胞、水平樹脂道、エビセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射線組織は単列、1-10 細胞高。

・広葉樹

散孔材の道管管列を有し、道管は単列または 2-3 個が複合して散在する。道管は単穿孔を有する。壁孔は保存が強く観察できない。放射線組織は、同性、1-4 細胞幅、1-30 細胞高。

4. 考察

焼土跡 05 号 (V-30 区) 出土の炭化材は、補正年代が 340 ± 20 BP であり、暦年較正結果 (σ) は calAD1, 493-1, 632 を示す。この結果から、15 世紀末〜17 世紀前半頃の可能性が考えられる。本試料の出土地点は、前述したように遺跡の北側で中世の遺構が展開する場所である。そのことを考慮すると、今回得られた年代は中世後半から近世前半で、なおよそ調和する年代と考える。また、次回発行予定である崩り遺跡風葬墓出土土骨で実施している年代と測定の値と近い値であり、関連性が示唆される。なお、炭化材は微細片であり、全体の大きさや年輪の位置関係等は不明であるため、得られた年代値と暦年較正結果は、多少の幅を持って見る必要がある。

炭化材は、広葉樹であるが、種類は不明である。同遺構から出土した炭化材は、他にも 2 種類の微細片があった。いずれも広葉樹の破片であるが、種類は不明である。この結果

第231表 放射性炭素年代測定および樹種同定結果(焼土跡05号・掘立柱建物跡6号P16(P606))

地点・層位・遺構など	材質(種類)	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code No.
焼土跡05号 (V-30区) 遺構底部直上	炭化材(広葉樹)	340 ± 20	-25.43 ± 0.49	350 ± 20	IAAA-150143
掘立柱建物跡6号 P16 (P606) (Q-19区) I層	炭化材(マン属複維管束亜属)	990 ± 30	-25.64 ± 0.63	$1,000 \pm 20$	IAAA-150144

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

第232表 暦年較正結果(焼土跡05号・掘立柱建物跡6号P16(P606))

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)						相対比	Code No.
		σ	cal AD	- cal AD	cal BP	- cal BP	cal BP		
焼土跡05号 (V-30区) 遺構底部直上	338 ± 23	σ	cal AD 1,493	- cal AD 1,525	cal BP 457	- 425	0.319	IAAA-150143	
			cal AD 1,557	- cal AD 1,602	cal BP 393	- 348	0.485		
		2σ	cal AD 1,614	- cal AD 1,632	cal BP 336	- 318	0.196		
掘立柱建物跡 6号P16 (P606) Q-19区 I層	986 ± 25	σ	cal AD 1,016	- cal AD 1,044	cal BP 934	- 906	0.711	IAAA-150144	
			cal AD 1,099	- cal AD 1,119	cal BP 851	- 831	0.269		
			cal AD 1,143	- cal AD 1,146	cal BP 807	- 804	0.020		
		2σ	cal AD 993	- cal AD 1,051	cal BP 957	- 899	0.608		
			cal AD 1,082	- cal AD 1,129	cal BP 868	- 821	0.308		
			cal AD 1,134	- cal AD 1,151	cal BP 816	- 799	0.084		

- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、 2σ は95%である。
- 5) 相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

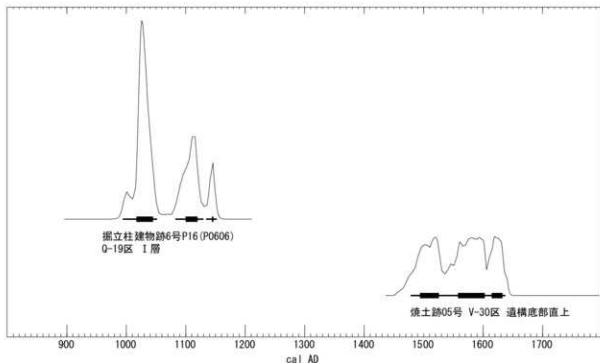
から、焼土跡05号では少なくとも3種類の広葉樹材が採用されたことが推定される。

一方、掘立柱建物跡6号P16 (P606) (Q-19区) I層出土の炭化材は、板目板状の小破片である。補正年代は990±30BP、暦年較正結果(1σ)はcalAD1,016-1,146を示す。この結果から、焼土跡05号よりも古い11世紀前半～12世紀前半頃と考えられる。本試片は掘立柱建物跡のピットから採取されたとする調査所見から、今回得られた年代が古代終末から中世初期であり、なおよそ調和的と考える。この炭化材についても、樹皮が確認できず、全体の大きさや年輪の位置関係が不明なことから、多少の幅を持って見る必要がある。

炭化材は、針葉樹のマツ属複雑管束亜属に同定された。マツ属複雑管束亜属には、アカマツ、クロマツ、リュウキュウマツの3種が日本にある。アカマツは屋久島以北、クロマツがトカラ列島以北、リュウキュウマツがトカラ列島以南に分布するとされており、この記述に従えば、今回の複雑管束亜属はリュウキュウマツの可能性が高い。リュウキュウマツの木材は、シロアリに弱いという欠点があるが、水湿には強いとされる。また、油脂を多く含むため、可燃性が高い。今回の試片は、炭化していることから、何らかの事情で火を受けていることが推定される。

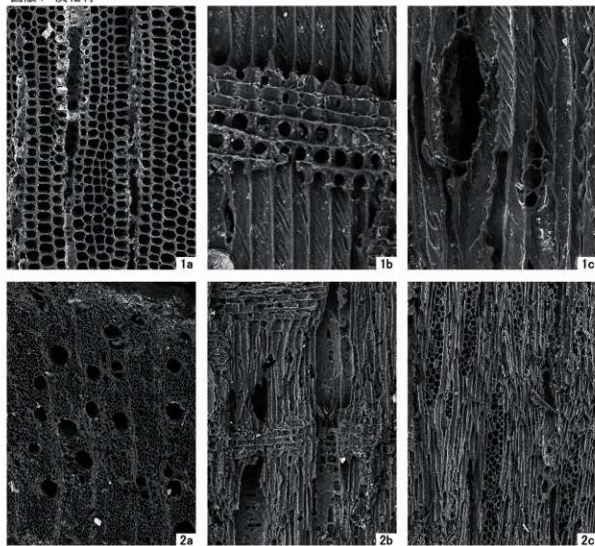
引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 I. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 II. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 III. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載 V. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].



第282図 暦年較正結果

図版1 炭化材



1. マツ属複維管束亜属(掘立柱建物跡6号P16(P0606)(Q-19区))

2. 広葉樹(焼53 V-30区最下層)

a:木口.b:柱目.c:板目

100 μ m:2a

100 μ m:1a,2b,c

100 μ m:1b,c

第5節 (3) 崩り遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定) (フローテーション出土炭化物)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

崩り遺跡は、鹿児島県大島郡喜界町手久津字崩りに所在する。測定対象試料は、住居跡や土坑墓から出土した炭化物等7点である(第233表)。

試料の年代は、住居跡出土のLF376・崩り1(SH2)が3000～4000年前、土坑墓出土のLF111・崩り2(土坑墓2号)、LF101・崩り3(土坑墓1号)、LF103・崩り4(土坑墓2号)が11～12世紀、ピット出土のLF110・崩り5(P1201)、LF296・崩り6(P980)、LF716・崩り7(P1074)が13～15世紀と推定されている。

2 測定の意義

試料や、試料が出土した遺構の年代を明らかにする。特に喜界島における最古の植物食及び栽培植物の証拠となる可能性のある試料を含む。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/L(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時は「AAA」、1M未満の場合は「AA」と第233表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラフアイト(C)を生成させる。
- (6) グラフアイトを内径1mmのコールドハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹⁴C濃度(‰)、¹³C濃度(‰)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(H₂O₂)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

(1) δ¹⁴Cは、試料炭素の¹⁴C濃度(‰)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(第233表)。AMS装置による測定値を用い、表中に[FMS]と注記する。

(2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代はδ¹⁴Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第233表に、補正していない値を参考値として第234・235表に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差(±1σ)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(‰が少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(‰の量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値もδ¹⁴Cによって補正する必要があるため、補正した値を第233表に、補正していない値を参考値として第234・235表に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年年代範囲であり、1標準偏差(1σ=68.2%)あるいは2標準偏差(2σ=95.4%)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ¹⁴C補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第234・235表、図版1、2に示した。なお、暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表され、ここでは前者を第234表、図版1に、後者を第235表、図版2に示した。

6 測定結果

測定結果を第233～235表、図版1、2に示す。較正年代は、cal BP(第234表、図版1)とcal BC/AD(第235表、図版2)の両方を用いて記述する。

住居跡出土試料LF376・崩り1(SH2)の¹⁴C年代は3380±20yrBP、暦年較正年代(1σ)は3680～3591cal BPの間に2

つの範囲で示され、推定される年代の範囲内に含まれる。

土坑墓出土試料の¹⁴C年代は、土坑墓2号のLF111・崩り2が820±20yrBP、LF103・崩り4が850±20yrBP、土坑墓1号のLF101・崩り3が830±20yrBPである。暦年較正年代(1σ)は、土坑墓2号のLF111・崩り2が1216~1256cal ADの範囲、LF103・崩り4が1169~1215cal ADの範囲、土坑墓1号のLF101・崩り3が1184~1245cal ADの範囲で示される。同じ土坑墓2号から出土した2点の値はわずかに重ならないが、確率の低い範囲まで含めて2σ暦年較正範囲で見ると、重なる範囲が多い。また、推定される11~12世紀に対して、LF101・崩り3とLF103・崩り4は確率の高1σの年代値で重なる範囲を持つ。これら2点よりやや新しいLF111・崩り2は、2σに広げて見ると暦年較正年代が12世紀までさかのぼり、推定に重なる。

ピット出土試料の¹⁴C年代は、P1201のLF110・崩り5が610±20yrBP、P0980のLF296・崩り6が600±20yrBP、P1074のLF716・崩り7が560±20yrBPである。暦年較正年代(1σ)

は、LF110・崩り5が1302~1394cal AD、LF296・崩り6が1311~1399cal AD、LF716・崩り7が1325~1412cal ADの間に各々複数の範囲で示され、いずれも推定される13~15世紀に含まれる値となっている。

試料の炭素含有率がすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Brook Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- Reimer, P. J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

第233表 放射性炭素年代測定結果(δ¹³C補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	δ ¹³ C(‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-162483	LF376・崩り1	SH12 床直	タブノキ子葉?	AAA	-22.78 ± 0.34	3,380 ± 20	65.62 ± 0.20
IAAA-162484	LF111・崩り2	土坑墓2号	オオムギ	AaA	-25.55 ± 0.48	820 ± 20	90.34 ± 0.25
IAAA-162485	LF101・崩り3	土坑墓1号	ムギ類	AaA	-19.86 ± 0.36	830 ± 20	90.14 ± 0.25
IAAA-162486	LF103・崩り4	土坑墓2号	ムギ類	AaA	-22.64 ± 0.40	850 ± 20	89.91 ± 0.25
IAAA-162487	LF110・崩り5	P1201	オオムギ	AaA	-25.06 ± 0.46	610 ± 20	92.63 ± 0.26
IAAA-162488	LF296・崩り6	P0980	オオムギ	AAA	-23.94 ± 0.49	600 ± 20	92.84 ± 0.26
IAAA-162489	LF716・崩り7	P1074	オオムギ	AAA	-25.79 ± 0.27	560 ± 20	93.22 ± 0.27

[#8438]

第 234 表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代 cal BP)

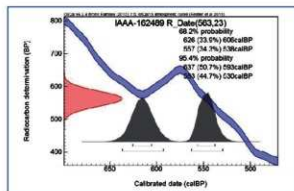
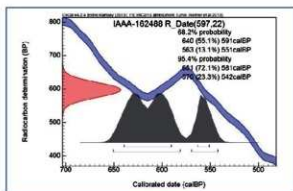
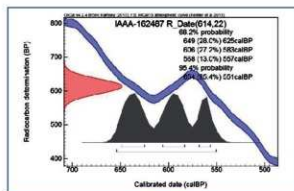
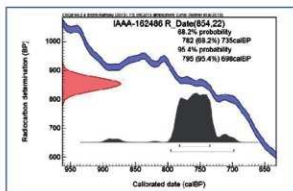
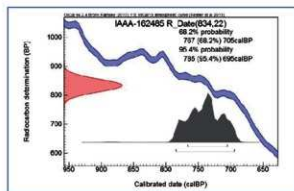
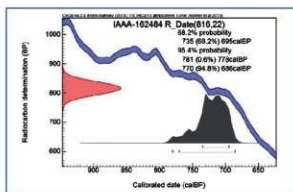
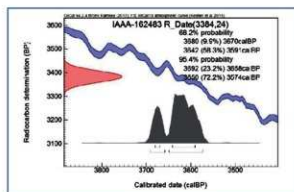
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-162483	3,350 \pm 20	65.92 \pm 0.20	3,384 \pm 24	3680calBP - 3670calBP (9.9%) 3642calBP - 3591calBP (58.3%)	3692calBP - 3658calBP (23.2%) 3650calBP - 3574calBP (72.2%)
IAAA-162484	830 \pm 20	90.23 \pm 0.23	816 \pm 22	735calBP - 695calBP (68.2%)	781calBP - 778calBP (0.6%) 770calBP - 686calBP (94.8%)
IAAA-162485	750 \pm 20	91.09 \pm 0.25	834 \pm 22	767calBP - 705calBP (68.2%)	785calBP - 695calBP (95.4%)
IAAA-162486	820 \pm 20	90.34 \pm 0.24	854 \pm 22	782calBP - 735calBP (68.2%)	795calBP - 698calBP (95.4%)
IAAA-162487	620 \pm 20	92.62 \pm 0.24	614 \pm 22	649calBP - 625calBP (28.0%) 606calBP - 583calBP (27.2%) 568calBP - 557calBP (13.0%)	654calBP - 551calBP (95.4%)
IAAA-162488	580 \pm 20	93.04 \pm 0.24	597 \pm 22	640calBP - 591calBP (55.1%) 563calBP - 551calBP (13.1%)	651calBP - 581calBP (72.1%) 570calBP - 542calBP (23.3%)
IAAA-162489	580 \pm 20	93.07 \pm 0.26	563 \pm 23	626calBP - 606calBP (33.9%) 557calBP - 538calBP (34.3%)	637calBP - 593calBP (50.7%) 563calBP - 530calBP (44.7%)

[参考値]

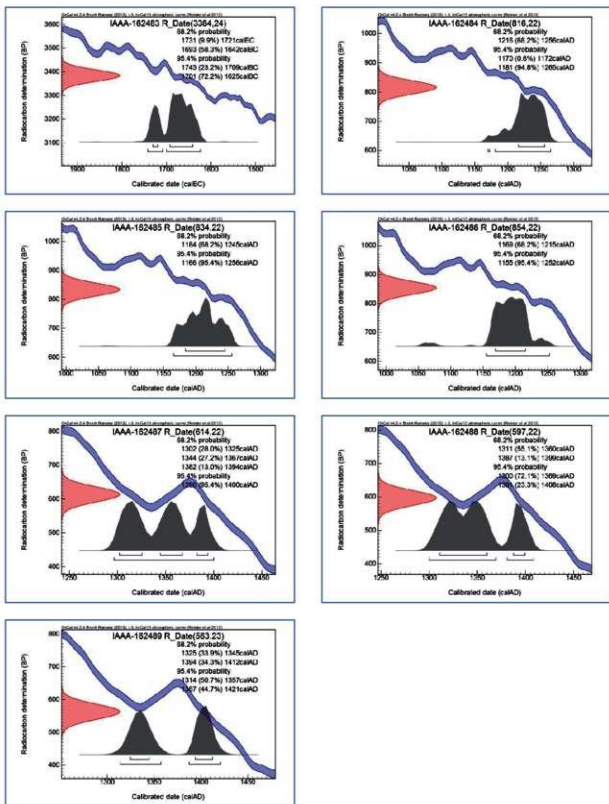
第 235 表 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代 cal BC/AD)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-162483	3,350 \pm 20	65.92 \pm 0.20	3,384 \pm 24	1731calBC - 1721calBC (9.9%) 1693calBC - 1642calBC (58.3%)	1743calBC - 1709calBC (23.2%) 1701calBC - 1625calBC (72.2%)
IAAA-162484	830 \pm 20	90.23 \pm 0.23	816 \pm 22	1216calAD - 1256calAD (68.2%)	1170calAD - 1172calAD (0.6%) 1181calAD - 1265calAD (94.8%)
IAAA-162485	750 \pm 20	91.09 \pm 0.25	834 \pm 22	1184calAD - 1245calAD (68.2%)	1166calAD - 1256calAD (95.4%)
IAAA-162486	820 \pm 20	90.34 \pm 0.24	854 \pm 22	1169calAD - 1215calAD (68.2%)	1155calAD - 1252calAD (95.4%)
IAAA-162487	620 \pm 20	92.62 \pm 0.24	614 \pm 22	1302calAD - 1325calAD (28.0%) 1344calAD - 1367calAD (27.2%) 1382calAD - 1394calAD (13.0%)	1296calAD - 1400calAD (95.4%)
IAAA-162488	580 \pm 20	93.04 \pm 0.24	597 \pm 22	1311calAD - 1360calAD (55.1%) 1387calAD - 1399calAD (13.1%)	1300calAD - 1369calAD (72.1%) 1381calAD - 1408calAD (23.3%)
IAAA-162489	580 \pm 20	93.07 \pm 0.26	563 \pm 23	1325calAD - 1345calAD (33.9%) 1394calAD - 1412calAD (34.3%)	1314calAD - 1357calAD (50.7%) 1387calAD - 1421calAD (44.7%)

[参考値]



[図版 1] 暦年較正年代グラフ (cal BP、参考)



【図版2】暦年較正年代グラフ (cal BC/AD、参考)

第V章 基礎資料

本遺跡出土の遺物は小片が多かったが、可能な限り分類を行った。堅穴状遺構や掘立柱建物跡、土坑墓、土坑、焼土跡、溝状遺構、竪穴遺構、石列、製鉄関連遺構の分類については、それぞれの遺構ごとの集計表や観察表を参照されたい。ここでは、ピット内出土遺物の一覧を第236～244表にまとめる

第236表 ピット内出土遺物(1)

ピット番号	区	出土遺物	SB番号	掲載遺物
P0011	M-11	滑石混入土器(1)、礫(3)、巻貝(1)	SB23 (P6)	
P0016	H-15	礫(1)	SB21 (P9)	
P0018	N-15	滑石二次加工品(1)、礫(1)	SB22 (P3)	817
P0021	H-15	滑石製石鎮(1)、磨砕石(1)、有溝底石(1)、礫(2)	SB21 (P28)	814
P0029	N-15	石皿(1)	SB21 (P27)	815
P0033	Q-14	土器(1)		
P0040	O-15	粘土塊(1)、ヤコウガイ(1)		
P0041	O-16	土器(2)		
P0042	O-16	土器(1)、ヤコウガイ(1)		
P0053	P-17	土器(1)、礫(2)	SB10 (P2)	
P0058	Q-17	土器(1)	SB11 (P9)	
P0061	K-12	ヤコウガイ(1)、滑石製石鎮(1)		
P0067	K-12	白磁類V類(1)、カムイヤキA群(1)、土器(1)、土師器(1)、滑石製石鎮(1)、礫(1)		891
P0068	L-12	カムイヤキ(1)、滑石製石鎮(1)、礫(2)		899
P0070	H-13	粘土塊(3)、礫(1)		
P0077	P-17	土器(1)、礫(1)、魚骨(1)	SB11 (P2)	
P0080	P-17	土器(5)、滑石混入土器(1)、粘土塊(1)、礫(3)、貝類(6)		897
		(貝類内訳: タカラガイ(2)、ホズジナミガイ(3)、リュウキュウマスオ(1))		
P0081	P-17	土器(1)、礫(1)	SB11 (P1)	
P0083	P-18	滑石製石鎮(1)、礫(1)		
P0085	P-18	龍泉窯系青磁類V類(1)、土器(1)、礫(2)、貝類(3)		884
		(貝類内訳: カシハナ類(1)、キスカツギイモ? (1)、ニシキアオブネ(1))		
P0086	P-18	カムイヤキ(1)、滑石混入土器(1)、土器(1)、タカラガイ(1)		
P0093	Q-17	カムイヤキ(1)、粘土塊(1)、礫(6)、貝類(3)	SB08 (P3)	
		(貝類内訳: ウミナ(1)、シラクモガイ(1)、チョウセンサザエ(1))		
P0094	Q-17	土器(12)、粘土塊(2)、礫(3)、貝類(11)	SB11 (P6)	
		(貝類内訳: タカラガイ(2)、マルダレガイ科(1)、同定不可(8))		
P0102	P-18	カムイヤキ(1)、ヤコウガイ(2)、礫(2)		
P0104	Q-17	土器(2)、礫(1)、貝類(3)	SB09 (P4)	
		(貝類内訳: タカラガイ(1)、チョウセンサザエ(1)、ヤコウガイ(1))		
P0105	Q-17	土器(1)、鉄滓(1)、礫(4)、貝類(7)	SB08 (P7)	
		(貝類内訳: イモガイ科(1)、タカラガイ(2)、マルダレガイ科(1)、同定不可(3))		
P0106	Q-17	滑石二次加工品(1)、礫(2)	SB10 (P4)	805
P0109	Q-7	土器(1)、礫(1)		
		土器(2)、貝類(10)		
		(貝類内訳: オキナワウスカワマイマイ(1)、サメザラ(1)、ザルガイ科(1)、ツムイモ(1)、ハナピラタカラ(1)、ハナマルユキ(1)、マダライモ(1)、リュウキュウマスオ(1))		

こととする。また、包含層出土遺物を第235～238表にまとめることとする。なお、表にある魚骨や獣骨、炭化種子の詳細については、第4章第3・4節を参照されたい。

詳細遺物配置図(第283～292図)はS=1:200で作成している。

第237表 ピット内出土遺物(2)

ピット番号	区	出土遺物	SB番号	掲載遺物
P0120	Q-16	土器(1)、滑石製石鎮(1)、チョウセンサザエ(1)、礫(1)		
		土器(1)、粘土塊(2)、礫(3)、貝類(23)		
		(貝類内訳: アカイレイシ(1)、アツキガイ科(2)、イモガイ科(1)、オキナワウスカワマイマイ(1)、サヤガタイモ(1)、シマイボウ(2)、タカラガイ(2)、ハナピラタカラ(3)、ヒメウミカニモリ(2)、マダライモ(2)、ヤコウガイ(1)、同定不可(5))		
P0124	Q-16			
P0130	Q-16	チョウセンサザエ(1)		
P0131	Q-17	土器(2)	SB16 (P3)	
P0140	Q-36	タカラガイ(2)、リュウテン属(1)		
P0142	P-16	礫(2)		
P0148	J-3	土器(3)、滑石製石鎮(1)、粘土塊(2)、礫(1)	SB39 (P4)	833
P0149	J-3	土器(5)、堀の羽口(1)、礫(2)	SB39 (P3)	
P0155	J-3	土器(2)		
P0156	J-3	土器(2)、堀の羽口(1)、粘土塊(4)	SB40 (P17)	835
P0157	J-3	土器(3)、粘土塊(1)	SB40 (P18)	
P0161	K-3	土器(1)、粘土塊(2)、礫(2)	SB40 (P9)	
P0162	K-3	土器(8)、鉄滓(2)、礫(6)	SB40 (P1)	
P0163	J-4	土器(9)、礫(4)		
P0164	J-4	土器(6)		
P0165	J-3	土器(6)、礫(1)		
P0169	K-4	土器(1)	SB40 (P14)	
P0174	J-2	土器(4)、土師器(2)、不明貝類(1)		
P0175	J-K-2	土器(3)、礫(2)	SB08 (P9)	
P0180	P-18	礫(1)		
P0183	P-19	土器(2)	SB06 (P21)	
P0189	N-15	礫(1)		
P0197	N-6	鉄滓(6)、魚骨(1)、チョウセンサザエ(1)、マダライモ(1)		
P0199	N-16	リュウキュウマスオ(1)		
P0202	N-16	粘土塊(2)		
P0204	O-16	ホズジナミガイ(1)、粘土塊(3)		
		土器(1)、礫(2)、貝類(2)		
		(貝類内訳: シロイガイシ(1)、ハナピラタカラ(1))		
P0205	O-18	鉄滓(6)、粘土塊(5)、礫(10)、キヌボウ(1)、魚骨(2)	SB18 (P8)	
P0206	O-18	貝類(6)	SB19 (P6)	
		(貝類内訳: スヤシガイ科(1)、タカラガイ(1)、ムラサキウス(1)、ヤコウガイ(2)、巻貝(1))		
P0210	-			
P0213	O-15	白磁Ⅲ類(1)、土器(3)、礫(3)、ヤコウガイ(1)	SB19 (P6)	808
P0214	O-15	チョウセンサザエ(1)、ヤコウガイ(1)		

第238表 ビット内出土遺物(3)

ビット番号	区	出土遺物	SB番号	掲載遺物
P0221	N-15	礫(1)		
P0223	N-15	土器(1), 鉄滓(2), 粘土塊(5), 礫(1), ヤコウガイ(1)	SB19 (P3)	
P0226	N-14	滑石混入土器(1), 布目瓦土器(1), 粘土塊(14), 礫(3), 魚骨(1)		
P0227	P-15	鉄滓(2), 粘土塊(3), 魚骨(1)	SB26 (P4)	
P0228	P-15	土器(1), 礫(1)		
P0255	Q-13	土器(1), 滑石(1), 礫(1)		
P0256	Q-13	粘土塊(3), 礫(1)		
P0259	Q-13	粘土塊(1), 礫(1)		
P0260	Q-13	土器(1), 粘土塊(2), 礫(1), ヤコウガイ(1)		
P0261	Q-13	滑石混入土器(1)		
P0271	Q-13	土器(1)		
P0277	Q-19	白磁碗IV類, 鉄塊(1)	SB06 (P3)	888
P0280	Q-19	礫(1), チョウセンサザエ(1), ヤコウガイ(1)	SB06 (P18)	
P0284	Q-19	滑石製石鍋(1), 粘土塊(1), 礫(2), ショウガイ(1)	SB06 (P13)	
P0287	Q-19	土器(1), 礫(1)	SB06 (P7)	
P0289	Q-19	土器(1), 滑石製石鍋(1)		902
P0291	Q-19	土器(2), 礫(1)	SB06 (P28)	
P0306	R-19	礫(1), ヤコウガイ(1)		
P0307	N-15	ヤコウガイ(1)		
P0308	P-15	土器(1), 滑石混入土器(3), 礫(3), 魚骨(1), 貝類(4) (貝類内訳: ベニエガイ(1), ヤコウガイ(2), リュウキュウマスオ(1))	SB20 (P4)	
P0309	L-12	白磁(1)	SB31 (P6)	
P0331	Q-19	土器(1), 滑石製石鍋(1), 鉄製品(2), 粘土塊(1), 礫(1)		888-907-908
P0332	Q-19	土器(1), 粘土塊(1), 礫(5), シャコガイ(1)	SB06 (P25)	
P0333	Q-19	礫(2)		
P0334	Q-18	礫(1)		
P0336	Q-18	滑石製石鍋(1), 礫(1)	SB07 (P12)	
P0337	Q-18		SB06 (P6)	
P0339	Q-19	礫(1)	SB06 (P10)	
P0340	Q-19	ピロースクタイプ白磁(1), 土器(5), 滑石混入土器(4), 滑石二次加工品(3), 滑石(2), 礫(16), 貝類(2) (貝類内訳: タカラガイ(1), ヤコウガイ(1))		904
P0343	Q-19	粘土塊(3), 礫(2), ヤコウガイ(1)	SB05 (P4)	
P0346	Q-19	カマイヤキ(1), 滑石二次加工品(1), 礫(2)	SB07 (P14)	
P0347	P-19	滑石混入土器(1), 滑石(1), 礫(3)		896
P0349	Q-18	土器(2), 粘土塊(1), 礫(4)		
P0352	Q-18	礫(4), ヤコウガイ(1)		
P0356	Q-15	粘土塊(1)		
P0357	N-15	ヤコウガイ(1), 魚骨(1)	SB21 (P24)	
P0359	N-15	礫(2)		
P0377	R-14	滑石混入土器(2)	SB30 (P2)	
P0383	R-14	土器(1), ホソズジナミガイ(1)	SB30 (P6)	
P0386	N-16	土器(4), 滑石製石鍋(1), 礫(1), 魚骨(2)		
P0387	N-16	礫(5)	SB18 (P1)	
P0388	N-16	鉄滓(2), 土器(2)		
P0389	N-16	礫(1), タカラガイ(1), チョウセンサザエ(1)		

第239表 ビット内出土遺物(4)

ビット番号	区	出土遺物	SB番号	掲載遺物
P0393	K-12	白磁碗V類(1)		889
P0399	O-15	土器(1), 鉄製品(4)		
P0400	Q-18	土器(3)		SB09 (P5)
P0401	Q-18	結石(1), 貝類(4) (貝類内訳: タカラガイ(1), トウカムリ科(1), ヤコウガイ(1), リュウキュウマスオ(1))		
P0402	Q-15	土器(1), 礫(6), 貝類(4) (貝類内訳: ホソズジナミガイ(2), リュウキュウマスオ(1), 巻貝(1))		
P0406	R-17	礫(1), 貝類(4) (貝類内訳: サガタイモ(1), マダライモ(1), ヤコウガイ(1), レイシダマシ(1))	SB18 (P6)	
P0409	O-15	礫(3)		SB21 (P19)
P0410	O-15	カマイヤキA群(1), カマイヤキ(2), 土器(1), 礫(2), 鉄滓(1)		894
P0411	O-15	土器(4), 礫(15), 不明貝類(2)		SB26 (P2)
P0416	L-5	魚骨(1)		SB34 (P7)
P0417	K-3	土器(2), 礫(1)		SB40 (P21)
P0423	L-5	土器(3), 礫(4)		
P0427	K-3	土器(6), 滑石二次加工品(2), 滑石(1)		SB40 (P20), 836-837
P0428	J-3	土器(7)		SB40 (P3)
P0430	P-15	礫(2), ウシ(1)		SB26 (P6)
P0431	O-15	土器(5), 滑石二次加工品(1), 滑石(1)粘土塊(3), 礫(14), イモガイ科(1)		SB27 (P5)
P0435	K-5	礫(2)		
P0437	L-5	土器(8), 礫(1)		SB34 (P3), SB35 (P4)
P0438	L-5	土器(2), 礫(1)		SB40 (P5)
P0439	L-5	粘土塊(10), 礫(6)		
P0440	K-3	土器(5), 滑石製石鍋(1), 滑石(2), 礫(1)		SB39 (P10)
P0441	K-3	土器(4), 滑石(2), 礫(2)		
P0443	O-15	土器群(1), 滑石製石鍋(1), 礫(9), 魚骨(1), 貝類(2) (貝類内訳: イモガイ科(1), チョウセンサザエ(1))		SB25 (P4), 818
P0444	O-15	カマイヤキ(1), 土器(2), 鉄滓(1), 礫(5)		SB29 (P4), 821-822
P0445	O-15	白磁(1), カマイヤキA群(1)		SB28 (P2), 827
P0446	O-15	礫(1)		SB27 (P2)
P0450	P-15	土器(1), 滑石(2), 鉄滓(1), 礫(3), 貝類(2) (貝類内訳: チョウセンサザエ(1), 同定不明(1))		SB26 (P7), 826
P0452	O-15	土器(1)		SB26 (P2), 827
P0454	O-15	礫(1)		SB29 (P5), 828
P0455	O-15	白磁(1), 滑石(2)鉄滓(1), 礫(10)		SB28 (P4), 829
P0458	M-14	土器(1), 鉄滓(1), 魚骨(1)		SB24 (P2), 830
P0459	N-14	土器(4), 礫(1)		SB25 (P5), 831
P0460	P-15	土器(1), 礫(3)		SB25 (P5), 832
P0461	O-15	土器(2), 礫(11)		SB31 (P12), 833
P0462	L-11	滑石製石鍋(1), 礫(1)		SB31 (P8), 834
P0465	L-11	滑石製石鍋(1), 礫(3)		SB31 (P11), 835
P0466	L-11	土器(2), 礫(1)		SB31 (P12), 836
P0468	L-12	土器(1)		SB31 (P13), 837

第240表 ビット内出土遺物(5)

ビット番号	区	出土遺物	SB番号	掲載遺物
P0470	-	滑石製石鏡(1)	SB31 (P1)	
P0473	L-12	鏢(6)		
P0474	L-12	滑石製石鏡(3)、滑石(1)、鏢(1)		
P0475	L-12	白磁碗IV類(1)、土器(1)		
P0476	L-12	土器(1)、鉄滓(2)、石弁(1)		911
P0478	K-11	鏢(1)		
P0481	L-11	土器(1)	SB31 (P5)	
P0482	L-12	鉄滓(2)	SB31 (P4)	
P0484	L-12	土器(1)	SB31 (P2)	
P0485	L-12	魚骨(1)	SB31 (P18)	
P0487	J-3	鏢(3)	SB40 (P24)	
P0490	K-3	土器(7)、土師器(2)、鏢(4)	SB36 (P1)	
P0491	K-3	土器(30)、土師器(1)、鉄滓(1)、粘土塊(1)、鏢(2)	SB37 (P1)	
P0492	K-3	白磁碗V類(1)、カムイヤキA群(1)、土器(20)、有溝磁石(1)、鏢(6)	SB38 (P1)	824-830
P0494	K-3	土器(13)、土師器(1)、磁石(1)、鏢(4)	SB37 (P2)	
P0495	K-3	カムイヤキ(1)、土器(9)、鏢(1)	SB38 (P2)	
P0496	K-3	白磁碗V類(1)、土師(5)、土師器(3)、滑石製石鏡(2)、鏢(9)	SB38 (P3)	823-829
P0497	K-3	土器(10)、土師器(1)、鏢(9)	SB37 (P3)	
P0498	K-3	カムイヤキ(1)、土器(26)、土師器(1)、鏢(8)	SB38 (P4)	826~828
P0499	K-13	土器(13)、粘土塊(2)、鏢(7)	SB37 (P4)	
P0500	K-3	土器(17)、鏢(3)	SB36 (P3)	
P0501	K-3	土器(4)、鏢(2)		
P0502	K-2	土器(6)、鏢(3)		
P0503	M-13	滑石製石鏡(1)		
P0505	Q-19	土器(1)、滑石混入土器(2)、鏢(3)		
P0507	L-12	鏢(1)		
P0511	N-14	土器(23)、石枝(1)、磨石(1)、鏢(4)	SB23 (P4)	
P0513	O-15	土器(1)、鏢(2)、鉄製品(2)、ヤコウガイ(1)	SB21 (P17)	813
P0515	N-15	土器(1)、鏢(2)、魚骨(1)	SB21 (P13)	
P0517	O-15	鏢(4)、チョウセンサザエ(1)、魚骨(1)	SB21 (P18)	
P0521	N-15	土器(1)、鉄製品(1)、鉄滓(1)、鏢(3)、ヤコウガイ(1)	SB23 (P1)	
P0523	N-15	磁石(1)	SB22 (P4)	
P0525	N-14	鏢(1)	SB24 (P4)	
P0527	O-15	土器(4)、鑷の羽口(1)、鏢(3)、ヤコウガイ(1)	SB21 (P20)	812
P0528	O-15	土器(2)、鉄滓(1)、鏢(1)、魚骨(1)	SB20 (P3)	
P0529	Q-13	滑石(1)、石弁(1)		912
P0530	N-15	カムイヤキA群(1)	SB21 (P11)	811
P0531	N-15	土器(1)、鏢(1)		
P0532	N-15	土器(1)、チョウセンサザエ(1)		
P0534	L-8	鏢(1)		
P0541	Q-15	カムイヤキA群(1)、鑷の羽口(6)、鉄滓(4)、鏢(27)		
P0542	O-15	鏢(2)		
P0543	O-15	土器(2)、鏢(3)		
P0544	O-15	鑷の羽口(2)、滑石(1)、鉄製品(1)、鏢(7)、ネズミ糞(1)、魚骨(1)	SB26 (P3)	

第241表 ビット内出土遺物(6)

ビット番号	区	出土遺物	SB番号	掲載遺物
P0545	O-15	滑石製石鏡(1)、鏢(1)		SB27 (P4) 820
P0547	O-15	土器(1)、鏢(4)、魚骨(1)		SB25 (P5)
P0548	O-15	鏢(5)		SB28 (P5)
P0550	P-15	滑石混入土器(1)、粘土塊(2)、鏢(1)		SB28 (P6)
P0551	P-15	土器(1)、滑石混入土器(1)、鏢(2)、魚骨(1)、ウミクワ科(1)		SB29 (P8)
P0552	P-15	白磁(1)、土器(1)、鏢(1)		
P0553	P-15	土器(2)		
P0556	P-15	滑石二次加工品(1)、滑石(1)、鉄滓(6)、鏢(3)、魚骨(3)、貝類(2) (貝類内訳:チョウセンサザエ(1)、ヤコウガイ(1))		SB26 (P1)
P0558	P-15	土器(1)		
P0560	N-15	鑷の羽口(1)、粘土塊(2)、鏢(3)、貝類(4) (貝類内訳:タカラガイ(1)、ムラサキウズ(2)、ヤコウガイ(1))		SB20 (P1)
P0561	N-15	粘土塊(1)、鏢(1)、貝類(4) (貝類内訳:イモガイ科(1)、ハナマルユキ(1)、ホスジイナミガイ(1)、ヤコウガイ(1))		
P0563	J-4	土器(1)、磨磁石(1)、鏢(2)		
P0566	J-4	カムイヤキA群(1)、土器(7)、鏢(1)		895
P0568	J-3	土器(5)、滑石製石鏡(1)、鏢(4)		
P0572	K-3	土器(6)、鏢(2)		
P0573	K-3	土器(7)		SB40 (P13)
P0574	K-3	土器(2)、布目庄産土器(1)、磨磁石(1)、鏢(3)		SB40 (P23)
P0575	K-3	土器(9)、鏢(2)		SB40 (P12)
P0576	K-3	土器(2)、鏢(1)		SB39 (P13) 832
P0577	K-3	カムイヤキA群(2)、土器(18)、鏢(4)		
P0578	K-3	カムイヤキA群(1)、磨磁石(1)		SB38 (P12) 831-834
P0580	K-3	滑石(1)		SB39 (P11)
P0581	K-3	磁石(1)		SB40 (P10)
P0583	J-3	土器(3)		SB39 (P2)
P0584	K-3	土器(2)、鏢(4)		SB40 (P22)
P0587	Q-18	白磁碗IV-Ia類、土器(5)、鏢(10)		890
P0588	N-14	滑石混入土器(1)、滑石(1)		SB23 (P2)
P0592	N-14	鉄滓(1)、鏢(2)		SB24 (P1)
P0597	O-15	鏢(2)		
P0598	O-15	土器(1)、石製品(1)、石器(3)、鏢(2)、ヤナギンボリ(1) (石器内訳:谷石(1)、磨石(1)、磁石(1))		SB19 (P4) 809-810
P0602	P-18	土器(1)、粘土塊(2)、鏢(1)、イガラシ(1)		SB13 (P5)
P0603	Q-19	土器(1)、土師器(1)		SB06 (P26)
P0604	Q-19	土器(1)、滑石製石鏡(1)		SB06 (P17)
P0606	Q-19	鏢(2)、炭(年代測定990±30BP・マツ属種 種名未定)		SB06 (P16)
P0607	Q-19	ヤコウガイ(4)		
P0609	Q-19	鏢(3)		SB06 (P12)
P0610	Q-19	磨磁石(1)、鏢(7)、ヤコウガイ(11)		SB06 (P14)
P0612	Q-18	鏢(1)		SB07 (P11)
P0613	P-19	土器(1)、磁石(1)、鏢(2)		
P0614	Q-19	滑石製石鏡(1)、鏢(1)、ヤコウガイ(3)		SB06 (P16) 803

第242表 ビット内出土遺物(7)

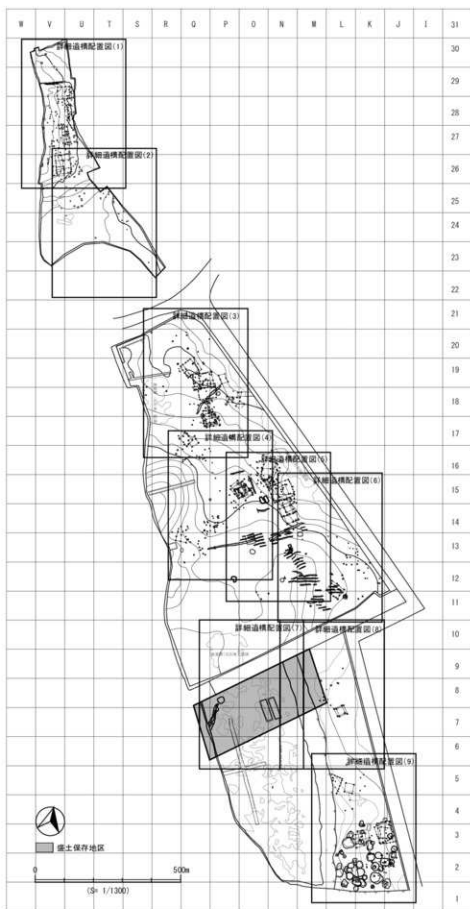
ビット番号	区	出土遺物	SB番号	掲載遺物
P0617	Q-19	土器(1), 滑石製石鏡(2), 鉄製品(1), 粘土塊(1), 礫(2), 巻貝(1)		900
P0619	Q-19	滑石製石鏡(1), 台石(1), 礫(6), 貝類(4) (貝類内訳: マダギガイ(1), 巻貝(1), 同定不可(2))		
P0620	P-18	磨砕石(1)	SB13 (P1)	806
P0625	P-15	礫(9)	SB25 (P6)	
P0628	Q-19	礫(1)		
P0634	N-15	礫(1)		
P0637	N-15	粘土塊(1), 魚骨(2)	SB19 (P1)	
P0638	N-15	魚骨(3)		
P0639	N-15	魚骨(1)		
P0642	N-15	土器(1), 竈の羽口(1), 礫(1), 魚骨(1)	SB22 (P13)	905
P0643	N-15	礫(1)	SB22 (P6)	
P0646	O-15	土器(14), チョウセンサザエ(1)	SB21 (P12)	
P0648	O-15	滑石(1)		
P0649	O-15	土器(1), 礫(1), 巻貝(1)		
P0651	N-15	鉄滓(1), 礫(4)	SB18 (P6)	
P0656	-	土器(1)		
P0659	Q-19	土器(3), 粘土塊(1), 礫(1), 魚骨(1)	SB05 (P5)	
P0662	Q-18	イモガイ科(1)	SB07 (P6)	
P0664	P-18	土器(1), 兼久式土器(1), 巻貝(1)	SB07 (P4)	804
P0666	-	礫(1), アラスノメ(1)		
P0668	Q-17	土器(5), 礫(3)	SB11 (P7)	
P0669	N-15	礫(1)	SB21 (P29)	
P0700	R-13	礫(2), 貝類(9) (貝類内訳: イモガイ科(1), オオスミウスカワマイマイ(3), カシパン類(1), シマイホボラ(1), スノメカウナ(1), マダライモ(1), 同定不可(1))	SB30 (P5)	
P0701	O-15	礫(4), 巻貝(1)	SB29 (P2)	
P0702	O-15	土器(1), 鉄滓(1), 礫(1)		
P0705	Q-18	滑石二次加工品(1)		903
P0709	Q-17	土器(2), 礫(1)		
P0712	Q-17	礫(2), ヤコウガイ(1), 二枚貝(1)	SB11 (P5)	
P0715	N-15	魚骨(1)	SB20 (P2)	
P0717	N-15	土器(1), 礫(2), 魚骨(2), ヤコウガイ(1)	SB21 (P30)	
P0718	N-15	魚骨(1)	SB22 (P10)	
P0720	P-18	土器(1)		
P0721	P-18	土器(2), 礫(7), 貝類(2) (貝類内訳: チョウセンサザエ(1), ナガニシ類(1))	SB09 (P1)	
P0723	P-18	土器(3), 礫(1)	SB10 (P1)	
P0727	N-15	磨砕石(1), 魚骨(1)	SB22 (P5)	816
P0728	Q-17	土器(1)	SB11 (P4)	
P0730	Q-17	礫(1)		
P0732	O-16	土器(3), 布目直土器(1), 礫(3), 魚骨(2), 貝類(7) (貝類内訳: タカラガイ(3), チョウセンサザエ(1), ビノスモドキ(2), ヤコウガイ(1))	SB18 (P10)	807
P0733	N-16	竈の羽口(1)		
P0740	K-6	カムイヤキA群, 礫(9)		893
P0742	L-6	白磁(1), 礫(16)		
P0744	K-5	滑石製石鏡(1), 礫(5)		901

第243表 ビット内出土遺物(8)

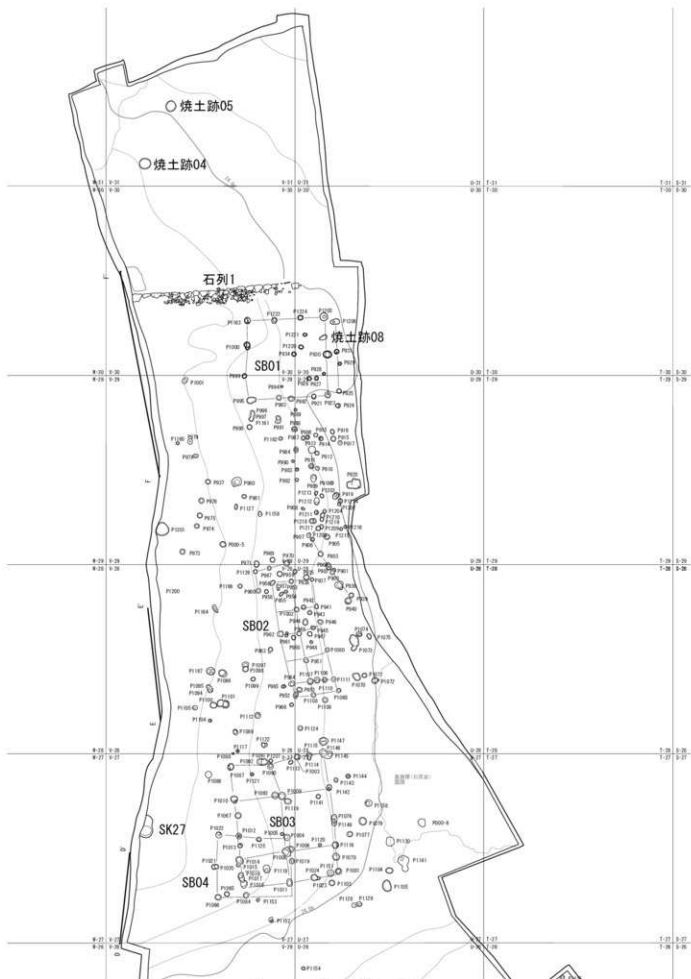
ビット番号	区	出土遺物	SB番号	掲載遺物
P0746	L-4	土器(17), 礫(2)		
P0747	L-4	土器(2), 礫(6)		
P0753	K-5	礫(1)		
P0764	O-15	滑石製石鏡(1), 石皿(1), 礫(6)	SB29 (P1)	
P0765	O-12	滑石混入土器(1), 礫(1), 貝(1)		
P0770	J-2	土器(1), 礫(4)		
P0779	C-2	礫(1)		
P0796	N-12	礫(1)		
P0799	L-5	滑石(1), 礫(1)	SB37 (P2)	
P0900	U-28	魚骨(1), マダライモ(1)		
P0909	U-28	礫(3), 魚骨(4), 貝類(4) (貝類内訳: アツキガイ科(1), アラスノメ(1), ビノスモドキ(1), ヤコウガイ(1))		
P0910	U-28	チョウセンサザエ(1)		
P0911	U-28	有溝磁石(1), 滑石(1), 礫(1), ヤコウガイ(1)		918
P0913	U-28	サメザラ(1), ヤコウガイ(1)		
P0914	U-29	魚骨(4)		
P0919	U-28	イモガイ科(2), 魚骨(11)		
P0938	U-27	銅製品(1), 二枚貝(1)		910
P0949	U-27	礫(1), マダギガイ(1)	SB02 (P14)	
P0952	V-27	龍泉窯系青磁碗IV類(1)		883
P0957	V-29	ヤコウガイ(1)		
P0962	V-27	鉄製品(1), 魚骨(6), 炭化種子(1), 二枚貝(2)		
P0964	V-27	龍泉窯系青磁碗IV類(1)		882
P0973	V-28	タカラガイ(1)		
P0980	V-29	貝製品(1), 魚骨(2), 炭化種子(77) (炭化種子放射性年代測定600±20BP)		920
P0982	V-28	タカラガイ(1)		
P0984	V-29	ヤコウガイ(1)		
P0988	U-28	ホラガイ(1)		
P0991	V-28	礫(1), 魚骨(1), 貝類(3) (貝類内訳: キスボラ(1), タカラガイ(1), ムシロガイ科(1))		
P0993	V-28	磁石(1), 礫(1)	SB01 (P5)	
P0994	V-27	アラスノメ(1), タカラガイ(2)		
P1000	V-30	ウシ(1)	SB01 (P8)	
P1002	V-27	礫(2), チョウセンサザエ(1), ヤコウガイ(2)	SB02 (P13)	
P1003	U-27	魚骨(1)	SB03 (P17)	
P1008	V-26	マダギガイ(1), ヤコウガイ(1), 二枚貝(1)	SB03 (P15)	
P1010	V-26	台石(1)	SB03 (P12)	802
P1011	V-26	礫(6), 魚骨(1)	SB03 (P7)	
P1021	V-26	巻貝(1)		
P1022	V-26	ヤコウガイ(1)	SB04 (P6)	
P1056	T-24	白磁碗IV類(1), 鉄製品(1), 土器(1), 礫(1)		887-909
P1066	V-26	粘土塊(1), 貝類(5) (貝類内訳: マイマイ(4), ヤコウガイ(1), 巻貝(1))	SB04 (P4)	
P1067	V-26	磁石(1), 磨砕石(1), 貝類(3) (貝類内訳: タカラガイ(2), ホソシヤニミガイ(1))	SB03 (P11)	
P1069	U-27	土器(1)		
P1073	U-28	魚骨(1)		
P1074	U-28	魚骨(16), 磁石(1), 炭化種子(66) (炭化種子放射性年代測定560±20BP)		

第244表 ビット内出土遺物(9)

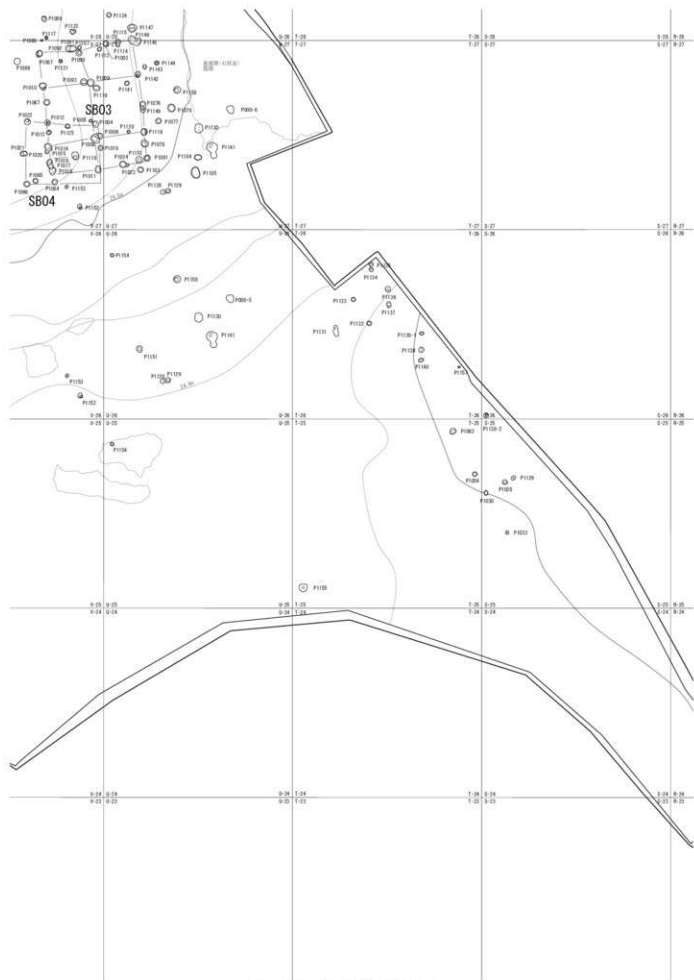
ビット 番号	区	出土遺物	SB 番号	掲載 遺物
P1077	U-27	魚骨(1)		
P1079	U-26	土器(1)		
P1084	V-27	ウシ(1)	SB04 (P3)	
P1086	V-26	ヤコウガイ(1), 二枚貝(2)		
P1087	V-27	タカラガイ(1), 巻貝(1), 二枚貝(4)	SB03 (P13)	
P1089	V-27	粘土塊(4), ヤコウガイ(1)		
P1090	V-26	巻貝(3), ウシ/ウマ(2), 二枚貝(2)	SB03 (P14)	
P1092	V-27	魚骨(1)		
P1093	V-26	礫(1), 二枚貝(1), 不明貝類(4)		
P1096	V-27	二枚貝(1)		
P1097	V-27	礫(1), 巻貝(3), 二枚貝(2)		
P1098	V-27	石皿(1)		
P1099	V-26	アキガイ科(1), タカラガイ(2), ヤコウガイ (1), 二枚貝(2)		
P1100	V-27	龍泉窯系青磁椀IV類(1), 龍泉窯系青磁 (1), 巻貝(1)		886
P1102	V-27	粘土塊(1), ヤコウガイ(1)		
P1103	V-26	粘土塊(9)		
P1105	U-26	ヤコウガイ(1), 巻貝(1)		
P1108	U-28	魚骨(1)	SB02 (P7)	
P1116	U-26	ヤコウガイ(2)	SB03 (P4)	
P1117	V-27	二枚貝(1)		
P1119	V-26	土器(1)		
P1121	V-26	巻貝(10)		
P1122	V-27	巻貝(16)		
P1130	U-24	龍泉窯系青磁椀IV類(1), 龍泉窯系青磁椀 (1)		885
P1132	T-25	土器(2), 粘土塊(4)		
P1140	T-25	礫(1)		
P1141	U-27	炭化種子(2)		
P1142	U-26	巻貝(2)	SB03 (P2)	
P1145	V-27	滑石混入土器(1)		
P1146	U-27	魚骨(2)	SB03 (P1)	
P1149	V-26	滑石混入土器(1), 礫(3), 貝類(4) (貝類内訳:ソデボラ科(1), タカラガイ(1), 二枚貝(2))	SB03 (P3)	
P1155	U-25	土器(1), 磨石(1), 礫(1)		
P1166	V-27	礫(1)		
P1167	V-27	鉄製品(1)		
P1175	S-19	礫(1)		
P1178	R-19	粘土塊(3)		
P1194	R-20	粘土塊(1), 礫(1), 巻貝(1)		
P1196	S-20	白磁皿(1), 土器(3), 粘土塊(1), 礫(3)	SB05 (P16)	
P1201	V-29	炭化種子(7)(炭化種子放射性年代測定 610±20BP)		
P1203	U-29	ウシ/ウマ(1)		
P1205	U-29	礫(1)	SB01 (P1)	
P1206	U-29	礫(2), ヤコウガイ(2)	SB01 (P12)	
P1208	U-28	ヤコウガイ(2)		
P1212	U-28	礫(1), ヤコウガイ(2)		
P1223	U-28	土器(1)		
P1251	M-11	粘土塊(1)		



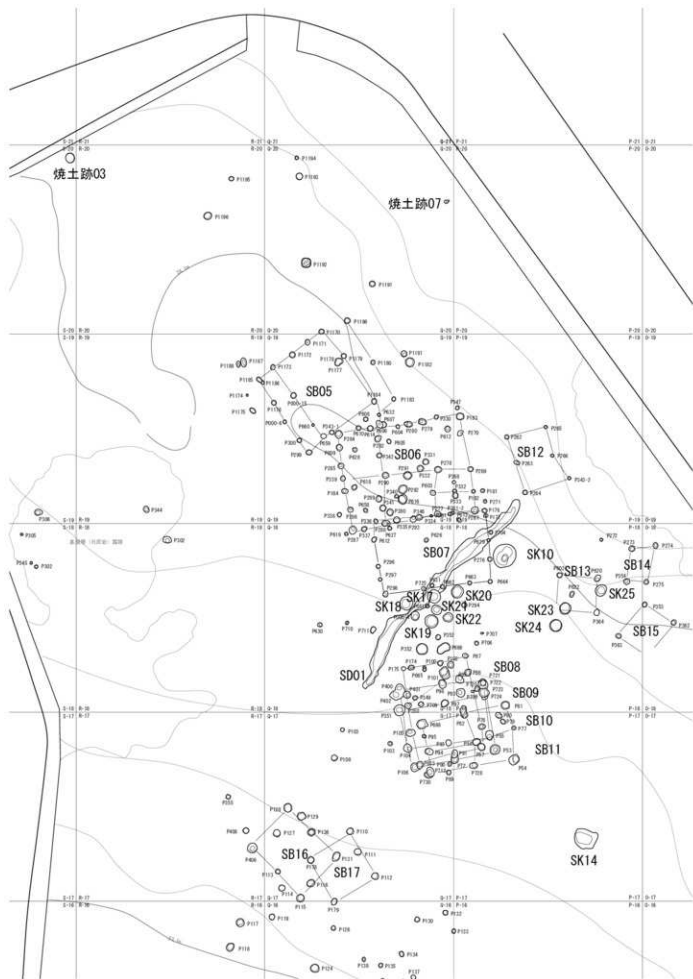
第283図 詳細遺構配置図全体図



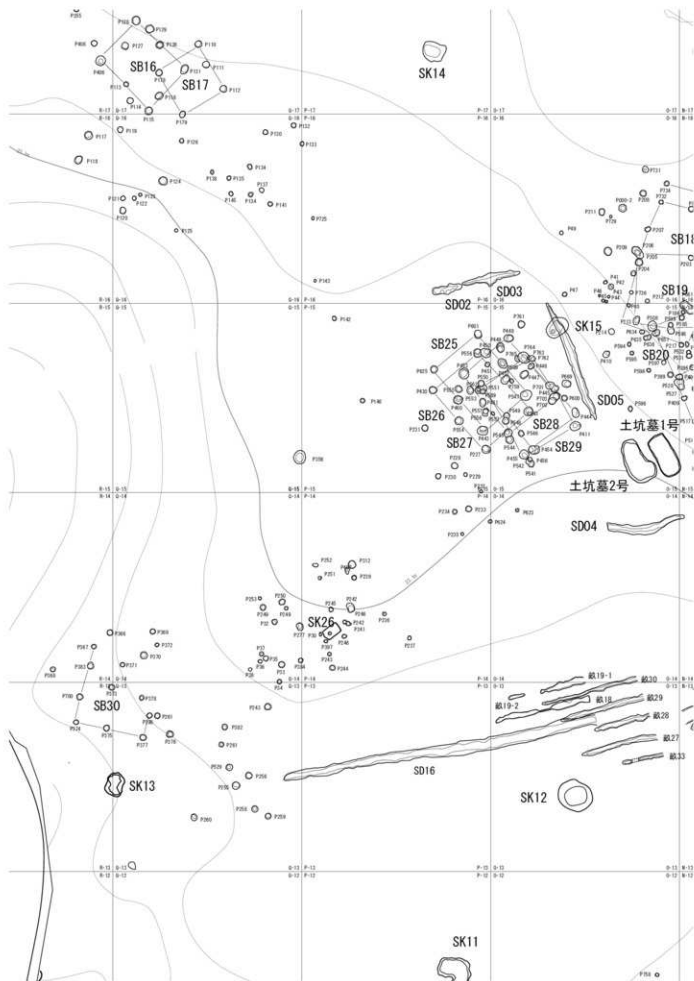
第284図 詳細遺構配置図(1)



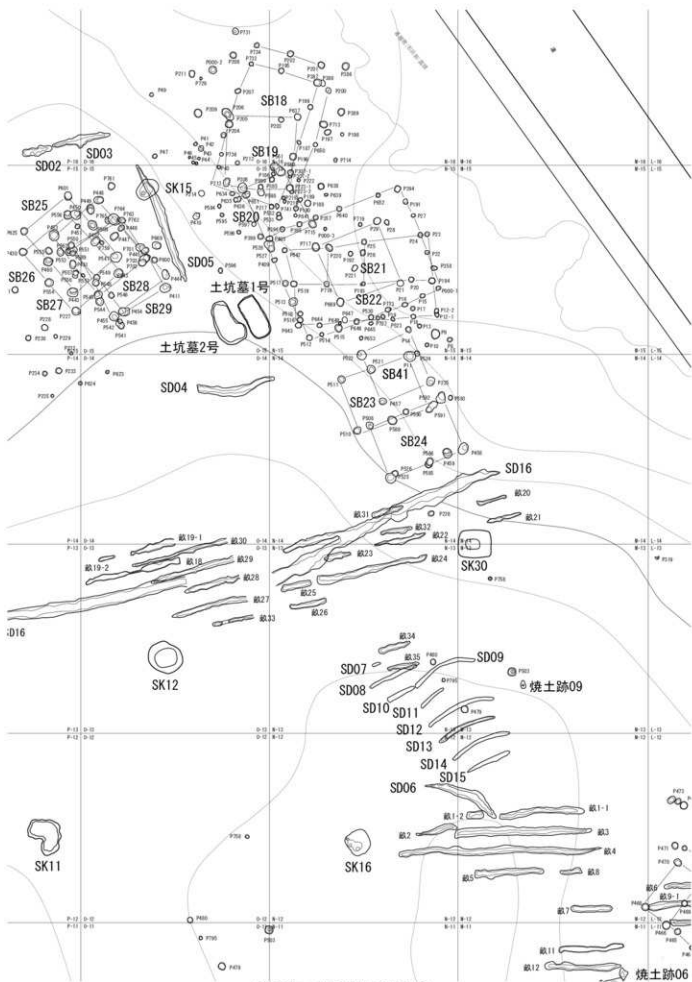
第285図 詳細遺構配置図(2)



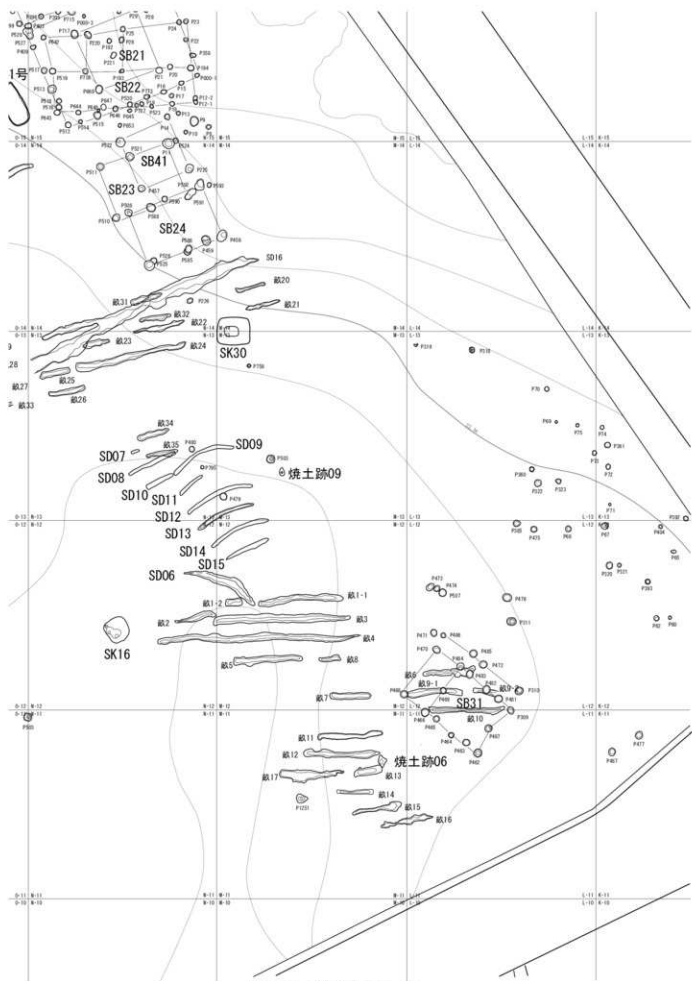
第286図 詳細遺構配置図(3)



第287図 詳細遺構配置図(4)



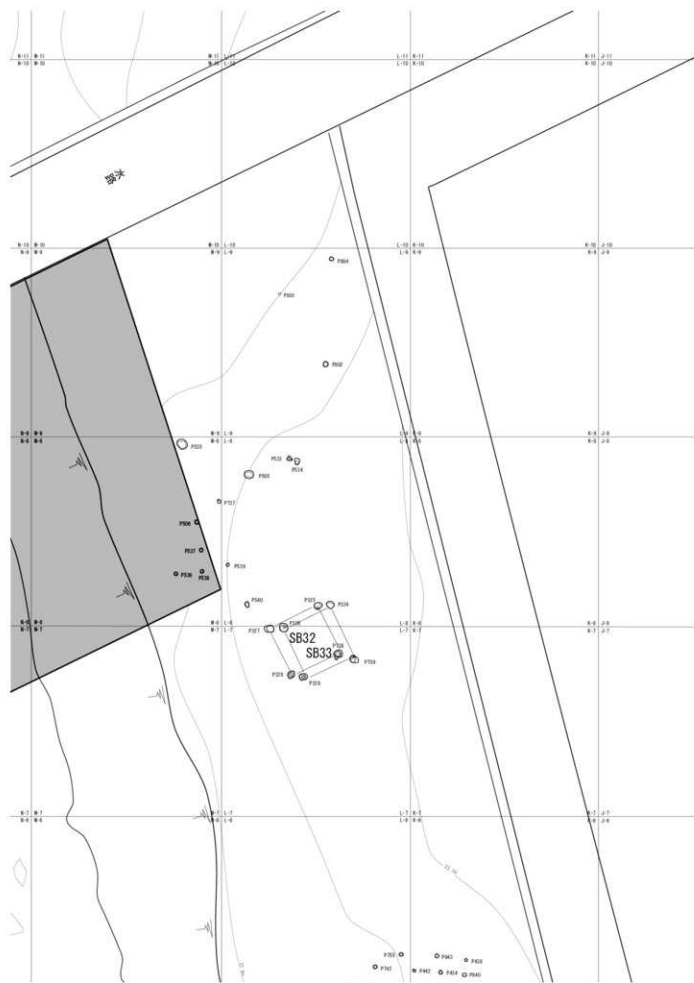
第288図 詳細遺構配置図(5)



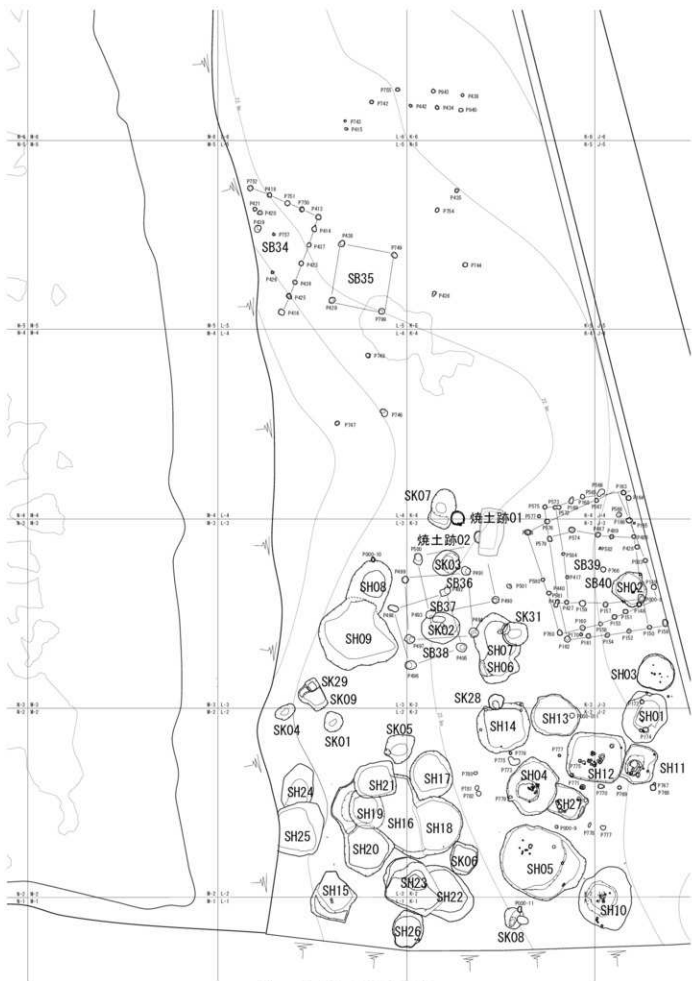
第289図 詳細遺構配置図(6)



第290図 詳細遺構配置図(7)



第291図 詳細遺構配置図(8)



第292図 詳細遺構配置図(9)

第VI章 まとめ

崩り遺跡は、如地帯総合整備事業に伴い平成23年度から24年度まで本調査を行った。本調査では13,806㎡を発掘し、遺跡南側からは縄文時代後期～晩期と考えられる堅穴状遺構が、また、北側と中央部からは中世の掘立柱建物跡や土坑墓などが検出された。

縄文時代の遺構は、堅穴状遺構27基、土坑16基、溝状遺構15条が検出された。遺構内からは主に、面縄東河式や嘉徳ⅠA式、嘉徳Ⅱ式土器などの土器や磨製石、有溝砥石などの石器が出土した。堅穴状遺構の調査に関しては、昭和61年に行われた熊本大学と本町教育委員会の合同調査であったハンタ遺跡発掘調査以来となった。これまで喜野町では、縄文時代の人々の生活をうかがい知ることのできる堅穴状遺構の調査は数に限りがあり、比較検討などを進めるための資料の増加が待たれているところであった。

中世の遺構に関しては、掘立柱建物跡41基、土坑墓2基、土坑15基、溝状遺構1基、竇状遺構35条、石列1基、製鉄関連遺構（土坑1基、溝状遺構1条）が検出された。遺構内からは白磁や青磁、滑石製品などが出土した。

製鉄関連遺構に関しては、出土遺物から12世紀頃の遺構と想定され、南西諸島での製鉄関連遺構の初見となった。また、その重要性からその周囲を含めた879㎡を町保有地として保存することとなった。この保有地は、遺跡の保護と活用両立を図るために公園化する計画であり、人々が歴史や文化に思いをはせ、語らい、また、活動する場として提供する予定である。

本遺跡の調査成果については、前章までに詳細を述べたが、本章では遺構・遺物について若干の考察を加えまとめた。

第1節 縄文時代の遺構・遺物

1 遺物について

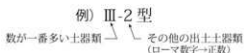
(1) 土器

土器は、遺構内（SH・SK・SD）と包含層（VI層・VII層）を合わせて24,709点見つかった。出土した土器は第三章2節②で説明したとおり、口縁・口唇形状と文様形態により、Ⅰ～Ⅷ型に分類した。口縁・口唇形状がわからない胴部片についてはこの分類にあてはめず、胴部の文様から押引文系/凹線文系/細文線文系の3種類に分けた。

これら土器類の相伴状況については、第249表にまとめた。なお、表は一括遺物を含めず、遺構内の層ごとの相伴状況である。

また、遺構の土器出土全体傾向や石器との相伴関係を見るために出土傾向を確認したものが第250表である。表にある

出土傾向型の表記については、一番数が多く出土している土器分類を頭文字に入れ（Ⅰ～Ⅶ）、のち、その他に出土している土器の分類を正数にしたもの（例：Ⅱ型-2）、という方法で表記している。なお、Ⅵ型とⅦ型土器は遺構から出土していない為、表には含めていない。また、分類可能な土器の出土のないものはNとし、押引文などの土器の出土パターンで0～4を設定した。



ただし、この傾向表は遺構内出土の総数でカウントしていることに注意したい。本遺跡の堅穴状遺構については床面直上などの下層からはほとんど遺物が出土しなかったこと、また、分類可能な文様を持つ口縁部の数に限りがあることから遺構内の層ごとではなく出土総数で傾向をみることにした。

I 類土器

I類は、面縄筒底式土器である。口縁部やその下部に細かな刻み目や連点を施した貼付突帯を有する物が多かった。中には、突帯と突帯の間や胴部に細文線を施しているものもあった。胎土は、雲母や石英などの鉱物の混入が目視で確認できる砂質の土器である。出土したものはほとんどが壺形と考えられる。

本遺跡では、SK10のⅢ層のみでI類だけが出土しているが（第249表）、しかし、遺構に関してはI類が単独で出土する遺構は無く、Ⅱ型やⅢ型土器と共に出土した（第250表）。ただし、遺構内からの出土総数はわずか5点で、他の土器に比べ少量であった。

II 類土器

II類は、松山式系の土器である。口縁部を反外させた深鉢形土器で、口縁部を衝面三角形に肥厚させた独特の形状を持つ。三角形に肥厚させた口唇部分を文様帯とし、凹線や刻み目などで文様を施している。胎土は砂質である。II類はその施文方法でa-cに細分した。

II-a類は、一俵松山遺跡などで報告されているいわゆる「松山式土器」である。胴部に貝殻条痕などが見られるものもあるが基本的には口唇部文様帯以外に文様を持たないものとした。

II-b及びII-cは、口唇部の外側に胴部にも凹線による文様などが見られるもので、奄美の在地的要素を示す可能性があると考えていることから細分した。特にII-cは施文方法を押し引きとし、面縄東河式などの押し引き文系土器に関連する可能性が考えられる。

遺構内からは合わせて60点のII類土器が出土し、その出土比率は、下表のとおりである。

II-a	II-b	II-c
48%	27%	25%

II-a類が約半数を占め、II-b類やII-c類は概ね同量が出土している。

II類間の共存関係は、遺構内でII-a・b・c類がそれぞれ単独で出土する層があるが、混在して出土する層も見られる状況であった(第249図)。また、遺構としては、II類のみが単独で出土する遺構は少なく、ほとんどがIII類やIV類と共に出土している(第250図)。II類が単独で出土する遺構はSH08・

SH09・SH26があるが、SH09・SH26はIV-c類に属する可能性のある沈線文系土器胴部がわずかであるが出土していることに注意したい。

III類土器

III類は、その施工方法によって現行編年では市来式や河瀬東河式、嘉徳式に該当する土器類である。胎土は全て砂質で、わずかに歪形の土器が見られたが、ほとんどが深鉢形土器であった。これらIII類に共通する口縁・口唇形内は、口縁部を幅広く肥厚させて断面形状を「間延びした三角形」状にし、口唇部の断面が舌状となっている点である。間延びした部分を文様帯としており、連続爪型文や仰線文、押引文といった

第249表 遺構内出土土器の共存状況一覧(遺構内層別) ※一括取り上げ遺物を除く。「●」は出土、「-」は未出土を示す。

I類	II類			III類					IV類					V類		VII	VIII'	該当遺構・層名
	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'			
I類系	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SK10(III層)
II類系	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SH08(I層), SH09(I層), SK06(I層)
	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SH17(床直)
III類系	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SH17(I・II層)
	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SH04(II層)
	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SK02(I層)
	-	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SH01(I層)
	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SH01(V層)
	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SH01(III層), SH02(P2-2), SH03(III層), SH14(II・III層), SK05(I層)
	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SH10(I層)
	-	●	●	●	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SK03(I層)
	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SH12(II層)
	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	SK07(I層)
IV類系	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	SK01(I層)
	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	SH05(III層)
	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	SH01(I層)
	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	SH18(I層)
	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	SH 20(IV層)
	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	SH14(I層)
	-	●	●	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SH05(I層)
	-	-	●	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	SH04(I層)
	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	SH05(II層)
	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	SK04(I層)
	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SH03(II層), SH11(I層)
	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	SH04(I-a層)
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	SK06(II層)
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	SH13(II層)
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	SH02(I層), SH13(床直), SH21(I層), SH18(床直)
	-	●	-	-	-	-	-	-	●	●	●	-	-	-	-	-	-	SH12(I層)
-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	SH15(I層)	
-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	SH14(II層)	
-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	SH07(I層)	
-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	SH24(I層)	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	SH18(I層)	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	SH23(I層)	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	SH07(II層), SH20(III層), SH22(I層), SH23(II層), SH25(I層), SK09(I層)	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	SH20(I層)	
V類系	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	SK12(I層), SK13(I層)	
VII類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	SH14(III層), SH20(II層)
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	SK16(I層)

施文方法により a~e に細分した。

III-a は凹線文や連続爪型文によって施文するもので、いわゆる「市来式土器」として星原遺跡などの鹿児島本土をはじめ、松原遺跡などの種子島や屋久島の縄文時代後期の遺跡で広く報告されている土器である。本遺跡で出土したものは、胎土に金色の雲母が混入するなど、他の土器と胎土が異なるものが多く、これらは輸入品である可能性が高い。

III-b は前述の III-a に似るが、凹線文と押し文を組み合わせたものである。市来式土器と面縄東河式の間タイプと考えられ、「市来式+東河式」とも呼称されることもある土器群である（笠利町教育委員会 1979、伊藤 2000）。

III-c と III-d は面縄東河式である。いずれも押し文で施文しているもので、III-c は直線的、または幾何学的な文様を施し、市来式的な文様要素を持つ。III-d は、籠を編んだような文様（籠目文）を施し、空間的な隙間がほとんどなく文様で埋められている。

III-e は現行編年では嘉徳Ⅱ式に入る土器群である。文様は III-d と同じ籠目文を凹線で施した土器群である。

市来式と面縄東河式の間関係については、面縄東河式が市来式との接触あるいは強い影響を受けて発展したものと広く認識されており（河口 1974、伊藤 2008 など）、市来式の器形と文様形態が奄美の在地の強い土器と合わさって面縄東河式が展開してゆくと考えられている。III類は器形的に市来式の様相を残している可能性があると考えていることから、同様の文様を持つものでも口唇部の断面形状が角型のもの（後述

の IV-a 類や IV-b 類土器）とは類を異にした。

遺構内からは、59 点の III類土器が出土し、その出土比率は下表のとおりである。

III-a	III-b	III-c	III-d	III-e
25%	2%	58%	5%	10%

比率としては III-c 類が半数以上を占め、次いで III-a 類が多い。

III類土器間の共存関係については、III-a・c・d 類がそれぞれ単独で出土する層があるが、III-a・c・e 類の組み合わせや、III-b・c 類の組み合わせ、III-c・d 類の組み合わせなどが見られる層がある。しかし、III-a と III-b 類の組み合わせは見られなかった（第 245 表）。

遺構としては、III類が単独で出土する遺構はなく、常に II 類や IV 類と共に出土する傾向が見られた（第 250 表）。

IV類土器

IV類は、文様により面縄東河式や嘉徳式に該当する。器形は深鉢形で、口縁部がやや外反する。胎土は砂質である。口縁から胴部にかけわずかに肥厚させて文様帯を構成するものや肥厚せずに沈線や刺突文で文様帯を区画するものがある。口唇部の断面形状は角型で、口唇部に連点文や刻み目文を施すものが多い。施文方法から a~e に細分した。

IV-a 類は、面縄東河式に該当する。III-c・d 類と同様の文様を持つもので押しきによる施文を有する。口唇部に連点文など施文されているものが 7 割程度みられた。

IV-b は、IV-a 類の文様を凹線で施したものである。現行編

第250表 遺構内共存土器から見る土器出土傾向

※一括取り上げ遺物を含む(ただしSH04-05-11-12-24-25を除く)。

出土傾向	出土土器	出土土器(本報告土器分類による)					該当SH					該当SK		
		I類	II類	III類	IV類	V類								
I	5	I類が多く、V類も出土。												10
	2	II類のみ出土。					08	09	26					
II	1・3	II類が多く、I類・III類も出土												01 03
	3	II類が多く、III類も出土。							17					2
	4	II類が多く、III類も出土。							05-1					
III	2	III類が多く、II類も出土。												
	2・4	III類が多く、II・IV類も出土。												
	4	III類が多く、IV類も出土。												05
IV	1	IV類が多く、I類も出土。												07
	2	IV類が多く、II類も出土。												
	1・2・3	IV類が多く、I・II・III類も出土。												
	2・3	IV類が多く、II・III類も出土。												06
	3	IV類が多く、III類も出土。												04
	4	IV類のみ出土。												09
V	5	V類のみ出土。												12 13 16
N	0	土器出土無し												
	1	分類可能土器無し。主体無し。												
	2	分類可能土器無し。沈線文主体。												14 15
	3	分類可能土器無し。凹線文主体。												
	4	分類可能土器無し。細沈線文主体。												08 11

■ 出土土器

■ 出土土器のうち一番数量の多い土器類

※遺構番号の枝番は、遺構の1次・2次利用を示す。

年では嘉徳Ⅱ式に該当する。口唇部に連点などを施文するものが4割程度みられた。

IVcは、細沈線によって施文するもので、嘉徳Ⅱ式に該当する。口唇部に連点などを施文するものが、5割程度みられた。

IVdは、嘉徳ⅠA式である。平行に引かれた沈線で区画を作りその間を押引きや連点で施文するものである。口唇部に連点文などを施文するものが4割程度みられた。

IVeは、嘉徳ⅠB式である。平行に引かれた沈線で区画を作りその間を連続爪型文で施文するものである。文様的にはIVd類に似ているが、器蓋はIVdに比べ覆して厚い。

IV類土器は遺構からは221点出土した。その比較は、下表のとおりである。

IV-a	IV-b	IV-c	IV-d	IV-e
16%	24%	18.5%	41%	0.5%

IV-d類が多く出土し、IVe類はほとんど出土していない。

IV類土器間の共伴関係については、IV-a・b・c・d類がそれぞれ単独で出土する層があるが、IV-a・b類の組み合わせや、IV-a・c類の組み合わせ、IV-a・d類の組み合わせなどがあり、IV-a・d類が併存する。IVe類に関しては、SH20の1層でIV-b・d類との共伴があるが、わずかに1点のみの出土であり様相がつかぬかった(第249表)。

遺構としては、IV類土器のみが出土する遺構が6基(SH18・21~23・25、SK09)あるが、それ以外はI類~V類と共伴して出土する傾向がみられた(第250表)。

V類土器

V類は、連点や刻み目などを施した貼付突帯を有する土器群である。施文方法によりa・bに細分した。

Vaは、一条の横位の貼付突帯のみ有するもので、特に形式設定はされていない土器である。突帯の幅を一定の間隔で強弱をつけて文様とするものや、文様を有しない突帯つけたものも出土した。帯形や浅鉢形が出土した。遺構から出土したものはわずかに3点で(SK02・SK03)、すべて胎土の粒子が細かい泥質の土器であった。

Vbは、面湖西溝式である。横位の突帯を口縁部及びその下部に貼り付け、その間を沈線で縦直文を施すものが多く、また、縦位の突帯を張り付けているものもあった。器形は帯形と深鉢形が出土しているが、前者はまれである。胎土は砂質のもの(V-b)と泥質のもの(V-b')があり、本調査で出土した総点数219点中で砂質が12点(5%)、泥質が207点(95%)と、ほとんどが泥質土器であった。出土状況としては、壑穴状遺構(SH12)から砂質のものが1点、土坑(SK10・11・13・16)から泥質のものが計7点出土したのみで、その他はすべて包含層からの出土であった。

V類全体としては、遺構と包含層から出土したものを合わせて227点あり、その出土状況は下表のとおりである(数字

は出土点数)。

V類出土状況	出土遺構	V-a'類	V-b類	V-b'類
	SH12	-	1	-
	SK10	-	-	1
	SK12	1	-	-
	SK13	2	-	4
	SK16	-	-	2
	包含層V層	2	6	57
包含層VI層	7	5	139	

V類間の共伴関係についてはSK13でV-a'とV-b'共伴が見られるが、遺構内一括取り上げ資料である。

遺構としては、V-b類がII類とIV類と共に出土している遺構(SH12)やV-b'がI類と出土している遺構(SK10)があるが、その他はV類が単独で出土する傾向がみられた(第250表)。

VI類土器

VI類は、大田布式である。口縁を肥厚させ、その下部に横位の貼付突帯や沈線文で施文する。出土したもので器形がわかるものは、全て深鉢形であった。胎土は、砂質のもの(VI-a)と泥質のもの(VI-b')があり、本調査で出土した総数122点のうち、砂質のものが15点(12%)、泥質のものが107点(88%)であり、大多数が泥質のものであった。

VI類土器は、遺構からの出土はすべて包含層からの出土であった。縄文時代の包含層からの出土状況は、次に記述するVII類の出土状況の表にまとめて記載している。

VII類土器

VII類は、柳原式である。口縁部から胴部にかけて肥厚させ、頸部を有段にする一群で、胎土が砂質のもの(VII-a)と泥質のもの(VII-a')が見られた。本調査では、砂質のものが2点と泥質のもの4点のみが出土している。遺構からの出土はなく、すべて包含層からの出土であった。出土状況は下表にまとめた(数字は出土点数)。

	VII-a類	VII-a'類	VII-b類	VII-b'類
包含層V層	12	46	2	3
包含層VI層	2	61	-	1

VIII類土器

VIII類は、まとまりで出土せず、また、上記の分類に当てはまらない土器をすべてこの類とした。胎土によって、砂質のものをVIII類、泥質のものをVIII'と大分しているが、個別での検出に必要な土器類である。

これらの土器類は、胎土の違いや器形・施文方法などから推入の可能性が低いもの(171や512など)や、III類の形状を持ちながら細沈線文を施すIII類とIV類の中間タイプのもの(311や494など)、IV類的な施文があるが部位や全体像が不明のもの(641や755など)、無文で時期などが特定できな

いもの(791や792など)があり、今後資料の増加を待ち、共存関係などを含め検討をしてゆく必要がある。

底部

底部については、平底底部と尖底の2種類が出土した。遺構内からは482点出土し、平底が99%、尖底が1%であった。本調査では土器の完形品は出土しなかったが、Ⅱ類・Ⅲ類・Ⅳ類に相当する松山式や市来式、面縄東河式や嘉徳式系の深鉢形土器は平底土器であり、また、Ⅰ類に相当する面縄前庭式が尖底の成形品であることから、本調査出土のものこれらの土器に対応する底部と考えられる。

泥質土器

壑穴状遺構からⅡ類やⅢ類、Ⅳ類土器に混じって無文の泥質土器が出土している。泥質土器は、喜界島ではハンタ遺跡などで面縄西河式といった縄文時代の前期相当の土器として出土していることから、当初は同様に面縄西河式など(V類～Ⅶ類)の流れ込みと想定していた。しかし、V類～Ⅶ類などに見られる文様のある部分が1点も出土していないこと、また、床面付近の下層から出土するものもあること、器形のわかるものは壑形が多いこと、などの傾向がみられた。流れ込みである可能性も当然残るが、面縄東河式や嘉徳ⅠA式、嘉徳Ⅱ式時期の特定の器種に用いられた土器である可能性も示唆され、今後の事例の増加を待ち検討を重ねてゆく必要がある。

出土土器まとめ

遺構内から出土した土器の出土傾向やその状況からは、Ⅱ類やⅣ類などが単独で出土する遺構もみられるが、Ⅱ類～Ⅳ類が共存するものやⅢ類・Ⅳ類が共存する遺構の数が多い状況が見られた。中でも、Ⅲc類とⅣd類などの共存する遺構が多い。つまり、現行土器形式では、松山式や市来式、面縄東河式、嘉徳ⅠA式、嘉徳Ⅱ式が様々な組み合わせで出土している状況であった。

奄美の土器編年については、河口貞徳氏(河口1974)によって面縄東河式→嘉徳Ⅰ式→嘉徳Ⅱ式という編年順が示されているが、本遺跡ではその編年順が層位的には明確には見られず、むしろ、これらの土器と九州本土系の土器とが様々な組み合わせで出土している。本遺跡の出土状況は、Ⅱ類やⅢ類、Ⅳ類土器がそれぞれ独立して使用されていた期間が存在していたというよりは、これらの土器が同時期にも使用されていた期間があることを示している可能性が高い。

(2) 石器

石器は、遺構内と包含層を合わせて1,133点(324kg)見つかっている。また、礎9,634点(216kg)や剥片945点(7kg)も出土した(以下、石器・礫・剥片を合わせたものを「石器類」と呼称する)。石材については、安山岩や花崗岩といった火成岩、砂岩や頁岩、チャートといった堆積岩、緑色岩やホ

ルンフェルスなどの変成岩等の様々な石材の利用が見られる。器種ごとの石材利用状況を第251表にまとめた。

まず、本遺跡で見つかった石器類の石材についてであるが、第Ⅱ章でみるように喜界島は、島尻層(未編年の砂層と泥岩の互層)の上に琉球石灰岩が覆っているという地質からなる島である。本遺跡で見つかった石器類の石材は島内では産出しない。石材はすべて島外からの持ち込みであることが考えられ、この点から、本報告書では未加工の礫であっても人の手によって島内に持ち込まれた「遺物」として扱い集計を行った。遺跡からは、かなりの量の石器類が出土しており、海を介した人々の頻繁な交流がうかがえる。

石器類が一番多く見ついている石材は、中粒砂岩3,796点(288kg)、次いで粗粒砂岩2,178点(155kg)であり、堆積岩の利用が目立つ。ただし、安山岩457点(26kg)や緑色岩771点(20kg)などの火成岩や変成岩の利用も多い。また、器種によっては、例えば貝印石や中粒砂岩、円形状石器は緑色岩といった単一の石材を選んで使用している器種がある。琥珀を除いたこれらの石材は、奄美大島や奄美群島内で採取できるものである¹⁾。

石器の器種については、磨石や礫石、磨礫石などが多く、本遺跡の特徴の一つとして有溝砥石が多く出土していることがあげられる。また、先に述べた、石材が緑色岩に限定されて出土した円形状石器、用途不明の棒状石製品や有孔石製品、琥珀が出土していることも特徴的である。これらの石器類について簡単にまとめてみたい。

有溝砥石

有溝砥石は、遺構と包含層出土のものを合わせて197点出土した。断面がU字型をした直線的な溝を1条から複数条持つ石器で、本遺跡では最大で34条の溝を持つものがみつかっている。溝の数は平均すると3～4条で、溝の幅はほぼおよそ0.5～0.6cmで深さ0.2cm前後のものが多いが、その幅や深さはそれぞれである。複数の溝を持つものは、溝が平行に走っているもの(185や520など)や十字(440や601など)、斜めに交差するもの(29や359など)等その様相もさまざまであった。宮下(宮下1983)は釘型で出土する有溝砥石を形状や溝数で分類を試みているが、溝の数については石材の大きさや形に制約された可能性が高いと述べている。本遺跡出土の有溝砥石も同様の傾向が見られるが、小さな石材にも可能な限り使用しているもの(219・409)なども見られ、限りある資源を最大限に利用していることがうかがえる。

石材は、軽石製が4点、粗粒砂岩のものが1点あるが、その他の192点は全て中粒砂岩を利用している。遺構からの出土は195点で、壑穴状遺構に関しては、出土のない6基(SH06・8・10・21・27)を除き全て出土している状況である。共存する他の石器に関しては、礫石や磨石、磨礫石が多く、また台石系や石皿などもあるが、これらの石器はもとも

と出土点数が多く、またほとんどの遺構で見つかる傾向があり特徴的な偏りは見られなかった(第242表)。また、土器との共存関係については、IV-c類やIV-d類に伴って多く出土する傾向があるが、II-c類、III-a・c類なども出土しII類・III類・IV類全般と共に出土する状況が見られる(第252表)。

奄美諸島周辺では、本町のハンタ遺跡の住居地内から西洞式土器と共に出土しているほか、ケジ遺跡や長浜金久第II遺跡、宇宿貝塚、手広遺跡、住吉貝塚、西原海岸遺跡で数点出土しており、主に奄美大島北東部に位置する笠利半島の東海岸周辺の遺跡に出土する傾向がみられる。

第251表 石器類の利用石材一覧 ※数字は出土点数

	火成岩				火山砕屑岩		堆積岩					変成岩		その他			合計										
	花崗岩	細粒閃緑岩	安山岩	玄武岩	斑状玄武岩	黒曜石	凝灰岩	軽石	粗粒砂岩	中粒砂岩	細粒砂岩	砂岩	泥岩	頁岩	チャート	堆積岩		黒色頁片岩	緑色頁岩	緑色片岩	ホルンフェルス	琥珀	石英	鉄マンガン鉱	不明		
縄文遺構 (SH・SK・SD)	磨石							26	11			1	1				8								47		
	麻石		3					25	50			1	1				5							2	87		
	磨麻石	1	3	1	2			76	29			1	1					27	1						145		
	内加状石磨																	10							10		
	凹石									15														1	16		
	台石			1					11	24																36	
	台石系								2	9	1															13	
	石皿						1		9	36	1	3														50	
	石皿・麻石								2																	2	
	石斧		2							1					2			12	1					1		19	
	砥石									4	1	188														193	
	有溝砥石																									2	
	砥石																									1	
	麻石・砥石																									1	
	磨製石器												1	1	3											5	
	打製石器																									1	
	棒状石製品										1							1								2	
	石製品													2	1											3	
	不明石器							1	7	18	2	2						1	8	2					2	43	
	石核																									4	7
剥片		1						126	13			11	26	34	60			351	1						6	629	
礫																			1							1	
礫	8	32	1	2			1353	1041	2091	5	167	463	795	238	1	7	308	21	1	1	1	1	1	42	6578		
縄文遺構 小計	8	3	40	2	4	2	2	1358	1326	2493	8	184	496	840	300	1	9	730	1	26	1	1	1	1	59	7895	
VI層	磨石																								1		
	麻石									1	1															2	
	磨麻石			55						36	5			3												99	
	石核										1															25	
	石皿									2				20												1	
	石磨						1																			1	
	石斧																									1	
	砥石																									1	
	有溝砥石																									1	
	スクレイパー																									1	
	棒状石製品																									1	
	石製品																									1	
	磨製石器																									2	
	不明石器																									1	
	剥片		6						35	19				4	30	47			2							148	
礫	11	103					6	48	414	593		62	273	43			2	6							4	1565	
VI層 小計	11	164		1	7	1		6	48	490	621		69	310	110		2	11							4	1855	
VII層	磨石																									1	
	麻石			148						72	26			2	2				1							251	
	凹石										1															1	
	台石									1	2															3	
	石皿									1	1															2	
	磨製石磨																									1	
	石斧									1																6	
	有溝砥石																									1	
	棒状石製品																									1	
	石製品																									2	
	磨製石器																									4	
	不明石器																									9	
	石核																									21	
	剥片		13			2			29	37				1	32	48			5							1	168
	礫	5	91			4		4	29	254	613		239	127	96			20						2	7	1491	
VII層 小計	5	253		1	6		4	29	362	682		245	169	165			30	1		1	2		8		1962		
合計	24	3	457	2	6	13	3	2	10	1435	2178	3796	8	184	810	1319	575	1	11	771	1	27	1	3	1	71	11712

その用途については、矢柄や玉頸、骨角器の研磨など（宮下 1983, 本編 1988）、また貝器の研磨（熊本大学文学部考古学研究室 1986, 喜界町教育委員会 1987）などの可能性がこれまで指摘されてきたが、本遺跡では有溝砥石を使用して研いだ可能性のある遺物が出土していないのが問題点と言える。用途や目的の特定が難しい状況ではあるが、遺物として残らない植物性のものを研磨した可能性、あるいは、使用後の結果として溝が残っているのではなく、何かの目的で制作された石製品の可能性も考慮にいれ今後検討しておく必要がある。

円形状石器

円形状石器は、円形または円形に近い形をし、片面は磨面、裏面が敲打により完全に剥離している石器である。磨面側にわずかな敲打痕が残るものもあり、当初は磨面石として取り扱っていた。しかし、石材が緑色岩に限られていることや、307 や 443 などのように剥離面を意図的に作りあげているようなものもあることから磨面石とは別類とした。なお、「円形状石器」の名称はその形状から仮に付与したものである。

遺構からは 10 点出土し、共伴する他の石器については磨面石や台石などがあるが有溝砥石と同様の傾向がうかがえ、土器についてはIV類全般と共伴して出土する傾向がみられた（第 252 表）。

出土事例としては嘉徳遺跡の未報告のもの²²があり、また、類似のものとして嘉徳遺跡報告書で局部磨製石斧と報告されているものも 1 点あるが、その他に報告されている事例は少ない。

用途としてはやはり磨面的な使用方法が考えられるが、この形状の使用による結果なのか、あるいは意図して作られたものなのかの判断が難しい。名称を含め、今後の資料の増加を待ち検討が必要な石器である。

石製品

石製品には、用途不明の棒状の石製品（410・529・1037・1098）や有孔石製品（102・390・535・1095～1097）が出土した。棒状の石製品については、細長く鉛筆のような形状のもの（1098）とある程度の厚みがあり、石棒状のもの（410・529・1037）がある。石棒状のものは、いずれも欠損しておりその形状や用途は不明である。鉛筆のような形状をしている 1098 は、石材は泥岩で、全面が研磨されている。包含層（VII 層）から出土しており、V 類やVI 類などの縄文時代晩期の土器とともに出土した。当初は有溝砥石との関連性も検討をしたが、遺物に縦に入る擦痕が明瞭でないことや有溝砥石が多く出土する堅穴状遺構からは同様の石製品が出土しなかった状況があり、結論付には至っていない。奄美諸島周辺での出土事例を探しているが今のところ見当たらず、用途としては土器などの施文具等の可能性も考えられるが検討を要する石製品である。

有孔石製品については、形状は様々だがいずれも外面に擦

痕が見られるもので、加工したことが明瞭である石製品である。しかし、102 以外は穴をあけた痕跡が明瞭ではなく、石自体の自然の穴を利用した可能性が高い。装飾品などの可能性も考えられるが、紐ずり痕等を確認できず、その用途は不明である。390・535 はIV類土器とともに堅穴状遺構から出土している。類似の石製品は、サメト遺跡の第三層からも面縄西沢式土器と共に出土しており、本遺跡と若干の時期差があると考えられるが、本遺跡においては少なくとも嘉徳 I A 式や嘉徳 II 式の時期に自然の穴を持つ石材を選び、石製品として利用していたことが考えられる。

これらの石製品のほか、比較的扁平で片面を刃部のように形成し、スクレイパー的あるいはナイフ的な形状を持つ磨製石器が 3 点出土している（42・230・608）。いずれも堅穴状遺構からで、磨面石や有溝砥石などと出土している。共伴土器については、42 は III-a・c 類及び IV-b・c 類土器、230 は II a 類土器、680 は IV-a・c・d 類土器と出土した。その形状から「擦り切り」を行うための道具の可能性も考えられるが、石材は頁岩や泥岩を利用しており、その用途に適した石材とは言い難い。形状からはナイフ的な用途も考えられるが、土器の施文具等の可能性もある。

琥珀

琥珀は、SK06 の III 層から出土した。未加工の自然産であったが、喜界島ではこれまで琥珀の出土報告がなかったことからその産地同定を試みた。小片で劣化が進行していたが、結果は瑞浪市、奈義町、高梁市、三次市のものに比較的近い分子構造を持つ可能性がわかった。ただし、これらの産地と同じ地質時代由来植物が同じであれば、同様の分子構造を持つ可能性が高いことが想定されており、瑞浪市などの琥珀を産する地質は日本各地で確認されていることからまだ琥珀が発見されていない産地、あるいは消滅した産地などの可能性も否定できず、その特定はできなかった。

本遺跡にもたらされたルートやその目的・用途など、不明な点ばかりであるが、これらを検討するために産地同定の基礎データの蓄積を待ち、その特定を試み続ける必要がある。

石器類まとめ

第 252 表は、堅穴状遺構ごとに出土石器の構成比率を出したものを、土器の傾向型別記号にてはめたものである。

石器類の出土数が 10 点程度から 800 点を超えるものまであるが、構成比としては縄が 80%前後、剥片が 10%前後、石器が 10%前後の遺構が多い。また、SH09 は剥片と石器がそれぞれ 20%超、SH13・SH25-1 は石器が 20%超、SH02・SH11-2 は剥片が 20%を越えており、比率として若干の偏りが見られる。ただし、これらの遺構からは石核などの加工用の石材や特定の石器の偏り等は特に見られず、空間利用の特定までには至れなかった。また、土器の出土傾向と石器の構成比率の関係についても、特に特徴的な偏りは見られなかった。

この池、堅穴状遺構から出土した磨礫石や石皿などの13点の石器から残存デンプン粒の検出を試み、石器の用途等の検討を試みた。これらの石器のうち、4点から計8点の残存デンプン粒が検出されたが、そのうち6点は分解が能み原型をとどめておらず、残念ながら識別することができなかった。形状をとどめている2点だけでは、石器の用途の判断までは至らず、また検出したデンプン粒の植物種の同定までは至らなかった。しかし、そのうち1点が藨草・根茎類に由来するもの可能性があり、当時の食物利用状況の一端をうかがえる結果を得ることができた。

(3) 自然遺物

自然遺物は、魚骨や哺乳類などの脊椎動物、植物の種子などの植物遺体が出土した。

遺構から出土する脊椎動物については、魚類が70%~80%とその比率が高いが、ウミガメやイノシシなどの骨も10~20%程度出土した。魚類については、フダイ科やハリセンボン科が多く、またバラ科やニザダイ科、ハタ科など、島の沿岸部に生息する魚類の利用が目立つ。その他、サメやクジラの骨も出土しているが、漂着した遺体を利用した可能性も考えられ、漁労活動の目的として取り扱われていたかは不明である。

第252表 土器の出土傾向別に見た堅穴状遺構出土石器の構成比率

土器出土傾向 (型)	該当SH 番号	石器 類出土 総数	礫 (%)	剥片 (%)	石器 (%)	石器類構成比率(%)														骨製 品(点)	(点 状土 製品				
						石器内訳(石器を100%とした時の比率)(%)																			
						磨石	磨礫石	円形状石器	凹石・台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイパー状	棒状石器	石製品	石核	磨製石器	不明石器						
II	2	SH08	38	81%	-	19%	14	29	29	-	-	14	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-		
		SH09	20	60%	20%	20%	-	25	75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	3	SH26	31	71%	3%	26%	-	12	13	-	-	-	-	-	50	-	-	-	-	-	-	25	-	-	
		SH17	201	86%	6%	8%	12	19	13	-	6	6	-	-	19	-	6	-	-	-	-	19	-	-	
III	2-4	SH05-1	157	94%	-	6%	13	13	37	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		SH10	118	83%	7%	10%	-	42	42	-	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		SH01	114	79%	8%	13%	-	20	13	-	-	-	-	27	7	-	13	-	-	-	-	13	7	-	-
		SH03	251	73%	18%	9%	-	18	17	4	-	4	-	4	-	44	-	-	-	-	-	9	-	-	-
IV	1-2-3	SH05-2	655	95%	2%	3%	16	6	27	-	-	6	6	-	-	33	-	-	-	-	6	-	-	-	-
		SH06	45	91%	5%	4%	-	-	-	-	-	-	-	-	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2	SH12-2	357	77%	8%	15%	4	25	22	-	2	14	-	2	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
		SH13	166	67%	7%	26%	7	12	26	-	19	10	2	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		SH20	436	89%	7%	4%	-	4	9	4	4	5	-	5	64	-	5	-	-	-	-	-	-	-	3
		SH04-2	331	77%	12%	11%	6	3	37	-	-	3	20	6	-	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2-3	SH15	238	86%	6%	8%	17	11	5	-	5	-	6	-	-	39	-	-	-	-	6	-	11	-	-
		SH02	79	74%	23%	3%	-	-	-	-	-	34	-	33	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3	SH07	68	79%	10%	11%	-	15	-	-	-	14	-	14	-	43	-	-	-	-	14	-	-	-	-
		SH11-2	57	68%	21%	11%	-	67	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		SH14	226	81%	10%	9%	5	9	14	-	-	19	10	-	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		SH16	66	79%	-	21%	22	-	7	-	7	7	7	-	7	36	-	-	-	-	-	-	7	-	1
		SH24-1	11	73%	18%	9%	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		SH12-1	63	60%	13%	27%	-	12	23	6	-	12	-	-	-	41	-	-	-	-	6	-	-	-	-
	4/4	SH18	213	85%	8%	7%	-	27	13	-	6	-	20	-	27	-	-	-	-	-	-	7	-	4	
		SH21	153	87%	8%	5%	-	37	12	13	-	-	-	-	-	13	13	-	-	-	-	-	1	-	
SH22		125	80%	10%	10%	-	38	-	8	-	-	-	-	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SH23		205	80%	8%	12%	18	9	18	-	4	-	4	-	26	4	-	-	-	-	4	13	-	-		
SH25-1		14	58%	7%	35%	-	40	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SH04		74	82%	10%	8%	17	-	-	-	17	-	33	-	33	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	
遺構内一括	SH05	808	93%	1%	6%	11	11	32	-	5	2	9	5	-	21	-	-	-	2	-	2	-	-		
	SH11	17	76%	-	24%	-	-	-	-	-	-	-	-	25	75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	SH12	131	67%	30%	3%	-	-	-	-	-	25	-	-	75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	SH24	27	77%	15%	8%	-	-	-	-	50	-	-	-	-	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	SH25	70	44%	27%	29%	5	20	40	-	20	5	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	SH04-1	65	73%	18%	9%	20	-	40	-	-	-	-	20	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
N-0	SH11-1	4	75%	25%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	SH24-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	SH25-2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
N-1	SH27	13	69%	15%	16%	-	50	-	-	-	-	-	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
N-4	SH19	88	77%	5%	16%	12	13	19	-	6	6	6	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
集計			5735点	83%	8%	9%	6	16	21	2	1	8	6	4	2	29	0	0	2	0	1	2	1	点	9点

※土器出土傾向(型)については第250表参照。

※「0」は1%に満たないものを示す。また、「-」は未出土を示す。

陸上の脊椎動物については、鳥類などもわずかに出土した
が、イノシシの骨が多い。イノシシについては、骨の部位の
偏りは見られず、また、全身の骨格が見つかると野生の
ものを狩猟していた可能性が高い。しかしながら、石器類の
島外からの持ち込み等の海を介した交流状況を考慮すると、
イノシシが持ち込まれた可能性も完全に否定できず、今後
の検討課題といえる。本町でのイノシシの骨の報告につい
ては先山遺跡で兼次式土器と共に4点、和早地遺跡で中世(14
～15C)と考えられるビットから1点と、わずかな報告しか
ない。また、先山遺跡に関しては、その地形や立地から自然
擾乱の状況が報告されており(宮界町教育委員会 1987)、時
代の特が難しい。なお、喜界島には現在イノシシは生息し
ていない。

植物の種子については、遺構から採取した土壌サンプルを
フローテーションにかき採取したもので、竪穴状遺構や土坑
からシマサルナシとタブノキが見つかった。そのうち、SH12
の底面土壌サンプルから検出したタブノキの子葉を放射性炭
素年代測定にかけ、7C年代 (yrBP) 3,380±20の値を得た。シ
マサルナシとタブノキは、いずれも実が食用であり、食物利
用の一部として利用されていた状況がうかがえる。

貝類については、遺構内からほとんど出土せず、SK07に
集中して出土した。出土数が多いのはマガキガイやタカラガ
イで、その他イガレイシやシヤコガイなどイノイや干潮時の
潮溜まり等に生息する比較的採取しやすい貝類である。また、
ヤコウガイやチョウセンサザエ、サラサノティーなど外海に
面する磯斜面に生息するものも少量であるが出土した。

これらの自然遺物や残存デンプン粒分析からは、縄文時代
後期～晩期にかけての生業が、島の沿岸部での漁業や貝の採
取を中心にしながら、カメやイノシシなどの狩猟、果実や鱈
菜・根菜類の採取といった様々な動植物を利用していること
がうかがえる。

植物遺体については炭化していないものは残りにくい性質
であること、炭化していても形状をととめていないものが少
ないこと、また、獣骨や魚骨に関して溶解などが進み同定
が困難なものが多いことなどが今回の分析で見られた。しか
し、これらの「自然遺物」は人の痕跡の一部であり、その分
析・検討は遺跡の性格や当時の人々の生活を知る上で不可欠
な情報として注意深く総括、データを蓄積してゆく必要があ
る。

2 遺構について

(1) 竪穴状遺構

検出した竪穴状遺構 27 基のうち、9 基 (SH06・08・16・
18～23) は遺構内・外に柱穴や焼土跡が検出できなかったが、
遺構の形状や大きさは柱穴や焼土跡の見つかっているものと
類似していること、また、III章 (3) で記述したとおりビ

トの検出漏れの可能性が高いことなどから、いずれの竪穴状
遺構も住居跡と捉えた。出土する土器から縄文時代後期～晩
期にかけての遺構と考えられる。床面積は、大きいものでは
15.5㎡ (SH16) や 13.2㎡ (SH05) があり、一番小さなも
の 2.5㎡ (SH02) があるが、おおよそ 5.0～6.0㎡のもの
が多く見られた (下表参照)。

遺構名	面積(㎡)	遺構名	面積(㎡)	遺構名	面積(㎡)
SH01	4.97	SH10	7.17	SH19	3.24
SH02	2.53	SH11	3.17	SH20	5.26
SH03	2.99	SH12	7.14	SH21	3.58
SH04	6.03	SH13	4.48	SH22	6.77
SH05	13.20	SH14	6.03	SH23	6.74
SH06	3.01	SH15	4.38	SH24	3.28
SH07	4.63	SH16	15.45	SH25	6.02
SH08	5.38	SH17	4.56	SH26	2.53
SH09	11.36	SH18	6.01	SH27	3.05

これらの竪穴状遺構の平面形状は次の4種類が見られた。

- ①円形
- ②楕円形
- ③隅丸長方形
- ④不定形

また、底面形状は下記の2種類が見られた。

- a) 1段掘り
- b) 2段掘り

平面形状と床面形状を組み合わせた遺構の分類は下表とな
る。

①	平面・床面		数	遺構名(SH番号)					
	a	b		03	13	14	17	18	19
②	a	円形・1段	6基	03	13	14	17	18	19
	b	円形・2段	1基	04					
③	a	楕円形・1段	6基	07	08	09	22	24	26
	b	楕円形・2段	4基	01	05	06	10		
④	a	隅丸長方形・1段	6基	02	12	20	21	25	27
	b	隅丸長方形・2段	2基	11	23				
④	a	不定形・1段	1基	16					
	b	不定形・2段	1基	15					
計			27基						

本遺跡で一番多くみられる形状は3タイプあり、①a型(円
形1段)、②a型(楕円形1段)、③a型(隅丸長方形1段)
である。いずれも6基ずつ検出されている。次いで多いのは
②b型(楕円形2段)で、4基検出している。

形状からみた切り合い関係は、以下の通りである(記号「<」
は、いずれも古く新を表す)。

- ア) 隅丸長方形1段 (③a) < 円形2段 (①b)
(SH27 < SH04)
- イ) 円形1段 (①a) < 隅丸長方形1段 (③a)
(SH19 < SH20, SH19 < 21)
- ウ) 不定形1段 (④a) < 円形1段 (①a)
(SH16 < SH17, SH16 < SH18, SH16 < SH19)

- エ) 円形1段 (①a) < 円形1段 (①a)
(SH17<SH18)
- オ) 隅丸長方形2段 (③b) < 隅丸長方形1段 (③a)
(SH11<SH12)
- カ) 楕円形1段 (②a) < 隅丸長方形2段 (③b)
(SH22<SH23)
- キ) 楕円形1段 (②a) < 隅丸長方形1段 (③a)
(SH24<SH25)
- ク) 不定形1段 (④a) < 隅丸長方形1段 (③a)
(SH16<SH20, SH16<21)

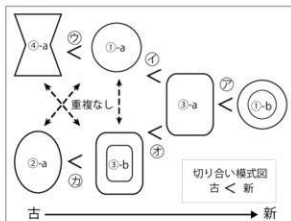
これらをまとめたものが第293図である。①bが一番新しく、次いで③aとなる。次に①aと③bとなるが、①aと③bの切り合いは検出しておらず、新旧関係は不明である。また、④a<①a、②a<③bの関係も確認できる。

これらの形状に時期差があるのか、あるいは用途等の違いを示すものなのかを検討するために、土器の出土傾向と遺構形状の関係をまとめたものが下表になる。また出土傾向からは遺構を下記のA~Eの5つのグループに大きく分けることができる。

土層 出土傾向	遺構形状		①円形		②楕円形		③隅丸長方形		④不定形	
	a	b	1段	2段	a	b	a	b	a	b
Ⅱ Ⅱ Ⅱ	2		SH06, SH09, SH26							
	3	SH17								
	4				SH05-1					
Ⅲ Ⅲ	2				SH10					
	2-4				SH01					
Ⅳ-2 Ⅳ-2	4	SH03								
	2	SH13			SH06	SH20				
Ⅳ-3 Ⅳ-3	2-3									SH15
	3	SH14			SH07, SH24-1		SH02			SH16
Ⅳ-4 Ⅳ-4	4	SH18			SH21, SH25-1, SH12-1		SH23			
					SH22					
N N N	N-0		SH04-1						SH11-1	
	N-1						SH27			
	N-4	SH19								

- A. Ⅱ類が多く出土するグループ (Ⅱ類系) (SH05-1・08・09-17-26)。
- B. Ⅲ類が多く出土するグループ (Ⅲ類系) (SH01-03-10)。
- C. Ⅳ類が多く出土し、Ⅱ類も出土するグループ (Ⅳ-2 類系) (SH04-2-05-2-06-12-2-13-15-20)。
- D. Ⅳ類が多く出土し、Ⅲ類も出土するグループ (Ⅳ-3 類系) (SH02-07-11-2-14-16-24-1)。
- E. Ⅳ類のみが出土するグループ (Ⅳ-4 類系) (SH12-1-18-21-22-23-25-1)。

このグループに基づき遺構を色分けしたものが第294図となる。なお、土層の堆積状況から2次利用の見られる遺構 (SH04-05-11-12-24-25) については、外側に1次利用時の



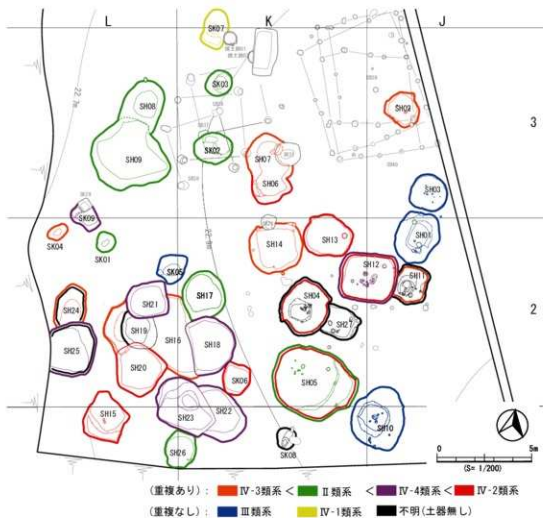
第293図 平面・底面形状の重複状況

出土状況の色、内側に2次利用時の出土状況の色で示している。床面直上などの下層からは遺物がほとんど出土しない状況であったため遺構内出土総数で大きく分けている点については注意を要するが、同じ出土傾向を持つグループ (同色) が少なくとも埋まった時期が同じと仮定した場合、これら5つの廃棄時期が想定できる。

まず、遺構の形状についてであるが、土器出土傾向のⅣ類が多く出土する遺構 (Ⅳ-2 類系、Ⅳ-3 類系、Ⅳ-4 類系) には含まれていない形状が見られるが、Ⅱ類系とⅢ類系については円形と楕円形のみがみられる状況がある。つまり、円形や楕円形は本遺跡の竪穴状遺構の存続期間中に普遍的に作られる形状であるが、隅丸長方形と不定形についてはⅣ類の時期のみ見られる形状と言える。遺構の重複関係から土器出土傾向の新旧を見られる場合、Ⅲ類型系については重複関係が見られないため不明であるが、Ⅳ-3 類型系<Ⅱ類型系<Ⅳ-4 類型系<Ⅳ-2 類型系 (古<新) という状況が確認できる。これに照らし合わせた場合、遺構形状の全体の変遷としては、①Ⅳ-3 類系グループ期間に円形、楕円形、隅丸長方形、不定形と様々な形状で遺構を作り②Ⅱ類系の期間に入り、隅丸長方形と不定形は作らず円形と楕円形のみで遺構を作り③Ⅳ-4 類・Ⅳ-2 類時期には再び円形、楕円形、隅丸長方形や不定形で遺構を作成している、という流れが見受けられる。

それぞれの廃棄時期ごとの遺構配置をみると、例えば「コの字型に遺構を配置する」といった特定の遺構配置形状は見られず、いずれのグループも任意に遺構が広がっている様子が見られた。このことは、本遺跡の人々が空間的配置に特別な意識を持ち合わせていなかったと考えられるが、ただし、これら出土傾向が同じもの (同色) すべてが同時存在していたものか建て替えたのかは不明である。

さて、先に述べた遺構の切り合い状況からは、本遺跡の土器出土傾向が奄美土器編年との若干の齟齬が生じる結果となっている。現行の奄美土器編年から想定される遺構の切り合い関係は、Ⅱ類型系<Ⅲ類型系<Ⅳ-2 類型系<Ⅳ-3 類型



第294図 土器の出土傾向による遺構の色分け (遺跡南側)

系<IV-4 類型系(古<新)となるが、本遺跡ではII類型系とIV-3 類型系の逆転や、IV-4 類型とIV-2 類型の逆転がみられる。この点に関しては、土器のまともな述べた通り、本遺跡の遺構からの土器出土状況はII類やIII類、IV類が様々な組み合わせで出土している状況があり、本遺跡をその過渡期の遺跡として評価した場合、編年順の逆転があっても特に問題がないと考えられる。例えば、II類型系のグループであってもIII類やIV類土器も出土しており、主流となる土器以外に他の土器類も少なからず出土している状況がある。このことを考慮すると、これらのグループの間に大きな時期差はない可能性が高く、さほど時期を置かず建て替え等を行っていたことが考えられる。さらに、床面から遺物がほとんど出土しない状況からは、遺構廃棄前後の清掃、または計画的な建て替えや廃棄といった習慣があった可能性も提示できるのではないのだろうか。

ただし、近年では奄美の土器編年、特に面縄東洞式や嘉徳式系の序列の見直しの必要性(堂達 2004)やこれらの土器がある一定期間併存していた可能性(新里 2014)などの指摘が

あるように、本遺跡でみられるこの編年順の逆転や編年の併行関係が他の遺跡などでもみられる場合は、本遺跡の再評価や土器編年の再検討が必要となる。

遺構の形状や空間利用の状況なども合わせ、このような状況が本遺跡だけで見られるものか、あるいはこの時期の界界島の特徴なのか、奄美群島の他の遺跡でも見られるものなのか等の検討を行うためには、今後の資料の増加を待たねばならない。

(2) 土坑

土坑は、円形や楕円形のものが多く見つかった。竪穴状遺構付近で見ついているSK01~09は、獣骨類の出土も多く、竪穴状遺構に伴う廃棄土坑の可能性が高い。出土土器からその傾向をつかみ(第250表)、竪穴状遺構と同じ出土傾向を持つものを第294図に同色で示した。同色のものは同時期の可能性を示している。SK02・03のように、竪穴状遺構に比較的近い位置に作られるものもあるが、ほとんどのものが少し離れた位置に作られる傾向がみられた。

その他の土坑(SK10~16)は、その用途が不明である。SK10とSK14は同様の断面形状をしており、I層が遺構直上の包含層V層の土である点も同じで、時期や用途が同じ遺構と考えられる。落し穴的な用途の可能性もあるが、SK10については、中層より焼土面も検出し、その用途は依然不明である。なお、SK10・SK12・SK13・SK16については、出土遺物はV層であり、縄文時代晩期の遺構と考えられる。SK10については、III層から出土した炭化物を利用し放射性年代測定をかけた結果、 ${}^{14}\text{C}$ 年代(yrBP)3,215±20の値を得た。

(3) 溝状遺構

検出された溝状遺構は、検出層位から縄文時代後晩期と考えられる。ただし、その用途は判然としない。特に、SD07~15は、自然に出来た溝の可能性も否定できない。この時期の溝状遺構については、今回は事例の報告のみにとどめ、今後の資料の増加を待ち検討をしてゆきたい。

3 小結(縄文時代の遺構・遺物)

崩り遺跡南側で集中して見つかった竪穴状遺構や土坑からは、土器や石器を中心として骨製品や未加工の琥珀、獣骨・魚骨・貝類・炭化種子・石器に付着していた残存デンプン粒など様々な自然遺物も見つかった。また、竪穴状遺構から採取した炭化物4点を放射性年代測定と樹種同定をかけた結果、一番古い値で、 ${}^{14}\text{C}$ 年代(yrBP)3,940±20(SH05 第VIII層・ツツジ属)、一番若い値で3,380±20(SH12 床面サンプル・タブノキの子葉)の値を得たが、その他は概ね3,500年前後の値を得た。

土器は、面縄東洞式や嘉徳式I A式、嘉徳II式などの奄美の在地的要素の強い土器と、松江式や市来式といった九州本土系の土器が様々な組み合わせで共存する傾向が見られた。このことは、少なくともこれらの土器が互並同時期に使用されていたことを示しており、本遺跡がその移り変わりの過渡期の遺跡であるとも評価できるのではないだろうか。

石器に関しては、笠利半島東海岸で出土事例のある有溝砥石が大量に出土したことや、石材に限られて見つかった円形状石器など、特徴ある石器が出土している。石器類については、出土した総点数11,712点(547kg)はすべて島外から持ち込まれたものである。

これらの遺物からは、当時の人々がすでに海を介してかなり頻繁な交流を行っていることをうかがい知ることができる。島と島、人と人とのつながりがすでにこの時代に密であったことが示され、本遺跡の人々が奄美諸島、特に笠利半島と同じ文化圏を共有しつつ、また本土との交わりも持ちながらも独自の文化を形成している様子をうかがうことができる。

竪穴状遺構については、本遺跡の人々が遺構の空間的配置について特別な意識を持っていたという状況は見られなかつ

たが、出土遺物の傾向から遺構を見た場合、大きく5期の廃棄時期を想定することができ、また、重複状況からその新旧も確認することができた。しかし、遺物の出土状況からはこれらの廃棄時期に大きな時期差は考えられず、むしろ、計画的な建て替えや廃棄などをさほど期間を置かずに行っていた可能性もみられる。

一方、本遺跡の調査だけでは結論付けられなかったことや不明なものも多かった。例えば、有溝砥石については砥石「目的物」が不明であることやその用途が砥石ではなく「有溝石器製品」という可能性を考慮する必要があること、円形石器や石器製品の用途の検討、琥珀の産地や経路、またその目的の検討、VIII層土器や泥質土器の取り扱い、デンプン粒などからの植物利用の状況、漁労道具や方法の検討などがあり、今後の課題は多岐にわたる。

本町では、現在でも畑地帯総合整備事業に伴い手久津久地区や荒木中央地区で調査を進めており、縄文時代後期から晩期の遺跡がいくつか見つかった。現在、これらの報告書を作成するために整理作業を進めているところであり、今後事例の増加が見込まれる。土器の編年や遺構の形状、空間利用などを含め、今回の調査で確認できた状況が、本遺跡だけでみられるものなのか、喜界島の遺跡の特徴となるのか、奄美群島あるいは南西諸島の一部となるのかなど、他域を含め今後の調査結果や報告から検討してゆく必要がある。

第2節 中世の遺構・遺物

1 遺構について

(1) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は41棟復元することができた。ここでは、床面積・構造・建物跡の主軸方向などを中心に、報告した地区ごとにその特徴をまとめることとしたい。

なお、建物を多く検出した中央部の建物主軸方向を基に分類を行い、主軸方向①～④を以下のように設定した。

主軸方向① (赤色) : N50°~70°W, N20°~40°E

主軸方向② (青色) : N30°~50°W, N40°~60°E

主軸方向③ (緑色) : N10°~30°W, N60°~80°E

主軸方向④ (紫色) : N 0°~10°W, N0°~10°E

(ア) 北側

北側はV層上面で遺構を検出しており、SB01~SB04が相当する(第296図)。検出できた遺構はIII層に相当する土で構成されていた。III層の包含層からは龍泉系系青磁無文外反碗や無縁連弁文輪・杯、盤、褐釉陶器などが出土しており概ね14世紀後半頃~15世紀前半頃にかけての遺物が出土してい

る。ピット内より採取された炭化物の放射性炭素年代測定値(第IV章第5節(3)試料5~7参照)からも同様の結果が得られていることから、北側は14~15世紀頃に建築された遺構群であることが推定される。

北側で検出したSB01~04は30~40mの範囲内に比較的まとまって検出していることや、類似した建物の主軸方向(主軸方向③)を持つこと(第295図)から、ほぼ同時期に作られたものと考えられる。

SB03とSB04は重複していると想定しているが、SB03の建物の軸線状にSB04の柱が並んでいるところもあり、SB04の西側梁行を壁状に張り出した部分と捉えて1つの建物跡と考えることもできる。



第295図 掘立柱建物跡主軸方向(北側)



第296図 崩り遺跡北側遺構詳細図

(イ) 中央部

中央部はIV層上面で遺構を検出しており、SB05～SB31・41が該当する(第297図)。遺構が集中している範囲が北と中央の2か所に分かれており、それぞれの建物跡がセットになるものと考えられる。北側を範囲1・中央を範囲2と呼称する。

なお、SB31と畝状遺構はそれぞれV層とVI層の検出であり、上記範囲よりも下層から検出していることから遺構が集中する範囲よりも古いことが想定される。

範囲1

範囲1は、SB05～SB17が該当する。建物跡が重複し、前後関係が分かるものはSB06<SB07, SB09<SB10<SB08, SB11<SB08(いずれも古<新)である。

床面積の広さや柱間数などから、A: SB05～07, B: SB08～11・16・17, C: SB12～15の3グループに分けることがで

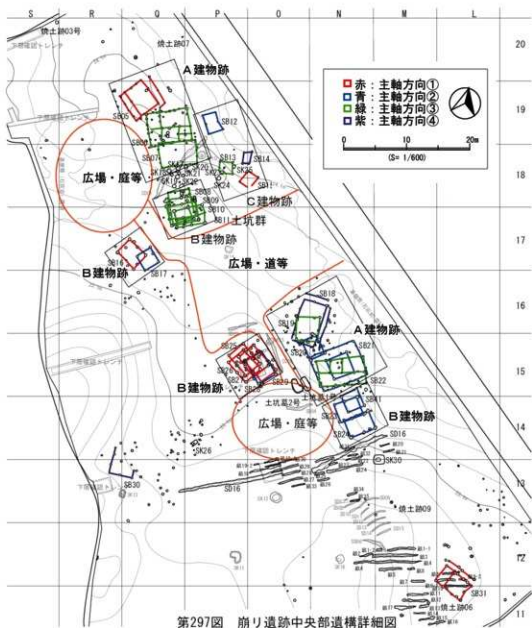
きる(第300図)。

Aは側柱・総柱建物跡が見られ、面積も広いことから母屋と考えられる。

B・Cは付属屋だと考えられる。B建物跡は、1間×2間・1間×1間の建物跡が見られ、奄美・沖縄地方に現存する高倉の形状と類似しており、倉庫的な用途の建物跡と想起させられる。これらは繰り返し同じ場所に建築されており、C建物跡よりも面積が広い。

Cは柱穴径が小さいことや面積が狭い建物群であることから小規模な用途を想定している。

これら建物跡の主軸方向は①SB05・15・16, ②SB12・17, ③SB06～11・13, ④SB14(第298図)に分けることができ、③軸の建物跡が多く見られる。母屋と考えられる建物の主軸方向が2方向あることから(SB05とSB06-07)、大きく分け



ると2時期に展開していたと考えられる。

AとB・Cの間にはSK17～24がつくられている。土坑内からは貝類が多量に出土しているため、廃棄土坑などとして利用されていたことが考えられる。

また、これら建物群の西側は遺構が無い部分を確認することができ、広場や庭などとして空間利用されていた可能性が考えられる。

範囲2

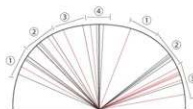
範囲2はSB18～29、41が該当する。建物跡が重複し、前後関係が分かるものはSB29<SB28のみである。

床面積の広さや柱間数などから、A:SB18・21・22、B:SB19・20・23～29・41の2グループに分けられる(第301図)。範囲2の中でSB21に見られる四面庇状の平面形状を持つ建物跡は、本町城久遺跡で出土した四面庇状建物跡と類似点が多く(第297図)、城久遺跡の調査成果を考えると、この施設が本地区の中心的役割を果たした建物跡であったと推定される。

範囲2はいくつかの建物主軸方向が異なって重複しており、主軸方向から見られる組み合わせは①:SB25～27・29、②:SB20・21・23・24・28・41、③:SB19・22、④:SB18である(第298図)。範囲2の主軸方向②は、SB21を中心施設とした一連の建物群である。主軸方向①は1間×2間の建物跡が多く、繰り返し同じ場所で作られ続けている。

範囲2では範囲1で見られた土坑が見られず、SB21に隣接する部分に土坑墓1・2号が作られている。

SB21～24、SB25～29の隣接する範囲1は遺構が無い範囲が15m前後にわたって見られ、範囲1と同様に広場や庭として利用されていた可能性が考えられる。



赤:範囲1、黒:範囲2

第298図 掘立柱建物跡主軸方向(中央部)



第299図 掘立柱建物跡主軸方向(南側)

(ウ) 南側

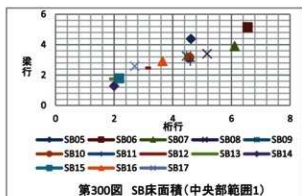
南側は大部分が近世～近現代にかけての地盤造成による掘削を受け消失している。遺構は表土直下の地山面で検出しており、点在した状況で出土している。SB32～40が該当する(第303図)。

床面積の広さや柱間数などから、A:SB34・39・40、B:SB32・33・35～38の2グループに分けられる(第302図)。SB34とSB35、SB39・40とSB36～38が建物の組み合わせになると考えられる。

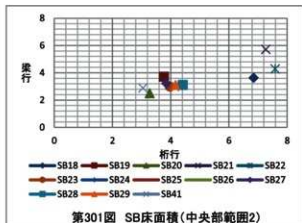
主軸方向からは②:SB32・36・38・39・40、③:SB33・37・40、

④:SB34・35が見られる(第299図)。

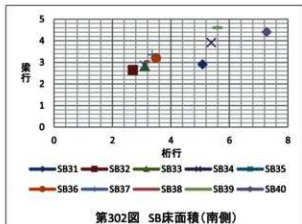
SB36～40の範囲では、SB36+40とSB37・38+39の2時



第300図 SB床面積(中央部範囲1)



第301図 SB床面積(中央部範囲2)



第302図 SB床面積(南側)

期に営まれていたと考えられる。周辺には中央部範囲1と類似するように土坑が建物の間に作られている。

南側全体では、SB32-33、SB34-35、SB36～40のそれぞれの遺構がほとんど見られない部分が10～15m程度見られる。何らかしらの空間的間仕切りだと想定しているが、中央部分のような広場や庭・道などに当たる部分の可能性も考えられる。

(2) 土坑墓

墓はO-15区、SB21の隣接する範囲から2基並んで検出している。いずれも厚さ約1mの大きさで、カムイヤキ壺・焼骨塊を伴っている。

土坑墓1号

土坑墓南側には炭化物層が堆積している上にカムイヤキ壺が2個埋納されていた。いずれも上半部が破損していたが、器壁の厚さ・調整などからカムイヤキA群に相当すると考えられる。壺周辺には掘り込み面は確認できなかった。

カムイヤキbの内部には焼骨と焼けてない骨が出土しているが、

焼骨の表面が白色のものと黒色のものがあることから、火の廻りが悪く、白色の部分だけが高温で焼けたと考えられる。カムイヤキを蔵骨器として使用した例は島内で初めての事例である。

一方、北側には砂混じりの埋土の掘り込み面が見られ、3体分の人骨片が出土している。2号人骨は上頸骨のみ、3号人骨は頸骨へ上頸骨にかけて、4号人骨は焼骨である。2-3号人骨は土葬、4号人骨は焼骨が見られることから、土葬と火葬が同時期に行われていたことが分かる資料である。

なお、南側カムイヤキbの内部の埋土は北側の砂混じり土に類似しており、埋納する際に砂混じりの土を使用した可能性が想定される。

土坑墓2号

土坑西端部に方形に近い不定形状に焼骨が広がっており、カムイヤキ壺・刀子・タカラガイ・ヤコウガイが埋納されていた。土坑墓1号とは異なり、こちらは追葬された痕跡は確認できなかった。

土坑墓内でカムイヤキ壺とともに貝類が埋納されているの



第303図 崩り遺跡南側遺構詳細図

は島内初の事例である。また、焼骨の南側にも魚骨と見られる細い骨が散在しており、埋葬された人が海と密接な関係を持っていたと想起させられる資料である。

土坑墓まとめ

崩り遺跡土坑墓 1・2号はこれまで城久遺跡で見られた焼骨再葬墓と類似する形状・葬法であることから、手久津久地区でも同様の埋葬方法が行われていることが明らかになった。ただし、共通する副葬品はカマイヤキ・鉄製品のみである。白磁や銭貨等は見られないこと、貝類を副葬することや土葬と火葬が併存するという相違点が手久津久地区には認められる。喜界島の中央部（城久遺跡）と南部（手久津久地区周辺の遺跡群）では同じ文化圏ながらも墓に対する意識が異なっていた可能性が考えられる。

(3) 焼土跡

出土した焼土跡は以下の形状に分けることができる。

A: 円形でほぼ垂直の掘り込み面を有し、下層に炭化物が堆積するもの（焼土跡01～05）

B: 不定形で焼土と炭化物が混ざるもの（焼土跡06～08）

C: 焼土のみのももの（焼土跡09）

いずれも遺物がほとんど出土していないため、放射性炭素年代の測定を実施した結果、焼土跡05で 340±20BP の測定値が得られている。焼土跡05周辺は周辺の状況と調和的であるが、他のA類例は11～12世紀頃と推定している範囲にあり、同じ年代であればやや個断が生じる。同様の形状の焼土跡は隣接する川寺遺跡の調査区でも出土しているため、今後測定数を増やし検討していきたい。

(4) 製鉄関係遺構

SD17から出土した鉄炉は製鉄炉の炉内残留滓・炉外流出滓であることが確認され、製鉄操業のすべての工程の鉄滓が溜まっていることや、浸食の進んだ炉壁などから喜界島で製鉄操業を行っていたことが明らかになった。出土した炉壁から、炉の形態は熊本・宮崎・大分等の中世自立炉系系譜を持つと想定されているが、小型であることが指摘されている（第IV章第1節参照）。残念ながら炉本体は確認できなかったが、SD17周辺にあってことが推察される。SD17の遺物出土状況から製鉄関係は概ね11世紀～12世紀頃に操業されていたと考えられ、中世日本最南端の事例になる。

しかしながら、鉄の操業に必要な①鉄砂などの原料②木炭などの燃料③炉壁などに必要な耐火性の強い粘土などは、現在でも十分に手に入るものではなく、当時も同様であったと想定される。今後製鉄に必要とされる資料に関する情報の収集を進め、これらの課題を検討していく必要がある。

(5) 臥状遺構

中央部南端のVI層上面で検出した。いずれも等間隔で並んだ状態で検出したが、非常に堆積が浅かった。サンプル土を持ち帰り、フローテーションを実施したが、植物体は確認できなかった（第IV章第4節参照）。この遺構が塚であったのかは不明であるが、検出できた部分は畝間にあたることとも想定され、今後種別を含め検討していきたい。

2 遺物について

各地区の出土遺物についてグリッドが明らかなものについて集計した（第304図）。また、それぞれの遺物の内部について第305～307図に示している。

崩り遺跡北側では龍泉系青磁が多く出土しているが、滑石がほとんど見られない。反対に中央部・南側では滑石が類似するような比率で出土し、中央部ではカマイヤキ、南側では鉄滓片が多く出土していることが特徴である。

北側

龍泉系青磁はIV類、白磁はピロースクタイプが見られることが特徴である。カマイヤキは少ないが、ややB群が多く出土している。出土物全般から報告書冒頭で記載した通り、北部は14世紀中頃～15世紀前半頃を主体とした時期に展開している想定される。

中央

白磁II・IV・V類、滑石製石鍋、カマイヤキA群を主体とする時期に展開している。カマイヤキが多く消費されている。龍泉系青磁やピロースクタイプ白磁碗、カマイヤキB群なども出土しているが、ほとんどが遺構の集中しないため、Q・R-14・15、R-11・12、L-13区周辺からの一括資料であるため、遺跡が埋没していく過程の中で混在したものと推定される。

南側

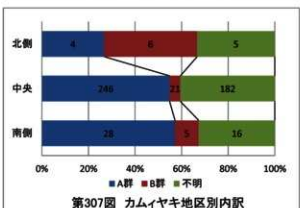
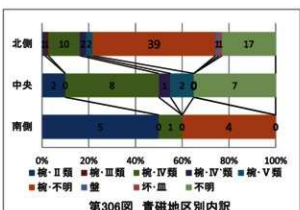
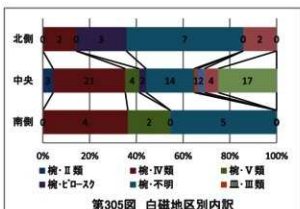
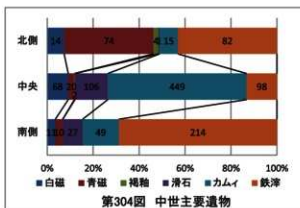
全体的に出土量も少なく、様相が判然としない部分も多いが、中央部と類似するような出土の傾向が見られる。龍泉系青磁II類やカマイヤキB群などはO-6・7、N-3・4、M-4区など遺構が残存していない部分で見られ、中央部と同様に埋没していく過程の中で堆積したものと推定される。

出土物まとめ

出土した陶磁器は碗類がほとんどで杯・皿・盤がわずかに組み合わさる状況であった。煮沸具は城久遺跡とは異なり土師器製土器はわずかにしか確認できないことから、滑石製石鍋や鉄鍋等を使用していたと想定される。カマイヤキは中央区で多用されている。そこで、1間×1間、1間×2間の倉庫状の建物跡が多数つくられていることから、貯蔵容器などとして利用されていたと想定される。

崩り遺跡は中央・南側を中心とした11世紀後半～12世紀前半と北側の14世紀中頃～15世紀前半の2時期に主要な遺物

群が見られる。13世紀代の龍泉窯系青磁等は包含層中に散見されることから、周辺域に展開している可能性が考えられる。



3 小結 (中世の遺構・遺物)

遺構の変遷

出土遺物や年代測定の結果から、11世紀後半～12世紀前半は中央・南側を利用し、やや間を開けて14世紀後半～15世前半半は遺跡北側を利用していたことが考えられる。今回の調査区では屋敷の組み合わせと思われる遺構のまとまりを検出したことが特徴である。

11～12世紀代の遺構は土層の堆積状況から、SB31が最も古い建物跡と推定される。したがって、同一の主軸方向を持つ建物群(主軸方向①)が若干先行する形で形成されていくことが考えられる。一方、範囲2には四面庇状建物跡が形成される。周辺には同一軸方向の建物跡群(主軸方向②)が展開している。四面庇状建物跡+4・6 本柱建物跡の組み合わせは従久遺跡と共通項目が多く、密接な関連性を持った遺構群であると考えられる。

主軸方向②と③は中央部範囲2・南部で建物跡が重複していることから、時間差があることが想定される。SB19からは白磁皿III類(太宰府D期(12世紀中叶)標準識器器)が出土していることから、主軸方向③建物跡が若干後出する形で展開していくと考えられる。主軸方向④はわずかに見られ、具体的な位置づけは難しかった。

中央部の遺構群範囲1は広場+母屋+付属屋+焼土跡+土坑の組み合わせ、範囲2には広場+四面庇+付属屋+墓の組み合わせが見られる。いずれも遺構が無い範囲を中心とした約30m前後の範囲に逆L字状に囲むように展開しており、隣接する範囲に類似する機能を持った建物跡がつけられ続け、屋敷を形成していることがうかがえる。

範囲2は中央部範囲1や南側SB36～40周辺で見られた焼土跡と土坑が見られないことから、四面庇状建物跡周辺は恒常的に生活をする場ではなかった可能性も考えられる。また、墓は四面庇状建物跡群と類似する軸方向を有しており、この建物跡と関連する時期に展開していたと想定される。

南側でも類似する建物跡が作られ、母屋+付属屋+焼土跡+土坑の組み合わせを確認することができる。

母屋に複数の小室建物跡が組み合わせるような状況は、喜界島集落内で見られる屋敷構造と通じる部分も見られ、喜界島屋敷モデルの原型として捉えられる可能性がある(第308図)。

建物の集中範囲からやや外れたP-7・8区では中世日本最南端の製鉄炉が操業される。喜界島の製鉄炉でどれくらい量の鉄塊ができるのか不明であるが、喜界島で作る意義は沖繩諸島を見据えた動きではなかったかと推察される。沖繩本島ではグスク時代に入ると農耕の普及により人口が増加したとされており、その農耕の普及を支えた背景の一つが鉄器の普及と考えられている(沖繩県教育委員会 2003)。その鉄材をどこから入手したかは不明であったが、喜界島で生産され

告書で提示した諸問題や検討課題の更なる検討、また、縄文時代から中世に至るまでの喜界島の歴史的流れや南西諸島における喜界島の位置付けと変遷等を、その可能性を踏まえながら検討を続けなくては必要がある。

註1 今岡照喜氏の複製による。

註2 「C6 くい土包下」出土。資料の複製は釧路市立図書館・郷土館蔵氏のご厚意による。

引用参考文献

伊藤真二

- 2000 『加群縄文文化の基礎的研究』木内成考古学叢書 2
2008 『加群縄文土器（前期）』『総覧 縄文土器』小林澄雄先生古稀記念企画 p.814-829
2011 『先史・原始時代の琉球列島—ヒトと景観—』高宮広土・伊藤真二編 考古学リーダー19 p.43-60

沖縄県教育委員会 2003 『沖縄県史 各論編 2 考古』

鹿児島県教育委員会

- 1984 『長浜金久遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 (31)
1988 『下山田Ⅱ遺跡・和野トフル墓』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 (45)
1988 『長浜金久Ⅱ遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 (46)

鹿児島県立埋蔵文化財センター

- 1993 『星塚遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (7)
2008 『荒木貝塚・和早地遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (19)

笠形町教育委員会 1979 『宇留貝塚』鹿児島県笠形町文化財調査報告書 上屋久教育委員会 1981 『一徳山遺跡』上屋久町埋蔵文化財発掘調査報告

河内貞徳 1974 『奄美における土器文化の編年について』、『琉大史学 第6号』p.25-77

喜界町教育委員会

- 1987 『ハンタ遺跡』喜界町文化財調査報告
1987 『先山遺跡』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書 (1)
2006～2011 『城久遺跡群』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書 (8～14)

北野基重郎・森幸一郎 2011 『和泊町西原海岸遺跡の概要』『奄美考古』第6号 p.59-68

熊本大学文学部考古学研究室

- 1983 『ケン遺跡・コピロ遺跡・辺宿野遺跡』研究活動報告書 15
1986 『手広遺跡（概報）』研究活動報告書 20

梅原一郎 1900 『喜界島風土記』

南戸川山田ほか 2007 『沖縄における貿易品研究』『沖縄埋蔵文化財研究』

新里亮人 2014 『前4期における奄美諸島の土器探出』『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原始時代における環境と文化の変遷にかゝる実証的研究 研究論集 第1集 p.78-83

住用村教育委員会 1984 『サモト遺跡 (2)』住用村文化財調査報告 No.2

大宰府市教育委員会 2000 『大宰府奈木坊 XV 一帯磁器分類編一』

知名町教育委員会 2006 『住吉貝塚』知名町埋蔵文化財発掘調査報告書 (10)

常込秀人 2004 『南九州・奄美・沖縄の旧石器から縄文時代の考古学の課題』『20年の成果と今後の課題』第5回沖縄考古学会・鹿児島県考古学会合同学会発表資料 p.1-18

日本貿易品研究会 2014 『加群列島の貿易品研究』第35回日本貿易品研究会（沖縄大会）発表要旨・資料集

本橋恵美子 1988 『八丈島倉和御所における赤褐色石について』『史学研究集録第13号』国学院大学日本史学専攻大学院会 p.31-58 南種子町教育委員会 1993 『松原遺跡』南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書 (4)

宮下健司 1983 『有溝磁石』『縄文文化の研究 7 道具と技術』p.164-181